始政三十年記念

臺灣時報

六月號

臺灣時報發行所

EAST ASIATIC ECONOMIC INVESTIGATION BUREAU
JUN 28 1925
SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO., LIMITED.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況並に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す。（發行規定第一條）

臺灣時報發行所役員

評議員長　後藤文夫

評議員（以下イロハ順）

石坂荘作　今井周三郎　井村大吉　伊藤兼吉　岩本多助　西川利藤太　醫學博士 堀内次雄　富地近思　陳鴻鳴　陳中和　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧　大竹勝一郎　農學博士 大島金太郎　大越大藏　大賀基作

太田吾一　渡邊金造　川崎軍治　簡朗山　片山三郎　吉岡荒造　楊吉臣　醫學博士 高木友枝　田村武七　田村藤四郎　田賀奈良吉　高山仰　瀧田傳吉　武田英一　津田毅一　津久井誠一郎　鼓包美　妻木栗造　永田隼之輔

内藤正太郎　宇賀四郎　草鹿砥祐吉　倉岡彦助　日下操　久米孝藏　松岡富雄　牧山清砂　松本晃吉　藤野幹　古木章光　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黃欣　吳汝祥　黃春帆　後藤和佐二　枝德二　江口良三郎　鄭神寶　赤石定藏　赤司初太郎　後宮信太郎　阿部滂　麻生誠之　荒卷鐵之助　相原祐彌

淺田知定　近江時五郎　坂本素魯哉　佐々木紀綱　柵瀬軍之佐　皿谷廣次　蔡蓮舫　坂本森一　齋藤透　佐藤得太郎　木村匡　木村久太郎　木村泰治　許廷光　北村吉之助　喜多孝治　木下信　三好德三郎　三浦碌郎　生野團六　白勢黎吉　進藤良英　徐杰夫　遠藤所六　平山寅次郎　森山廣藏　本山文平　鈴木重臣　諏訪禮次郎

編纂委員

豬股松之助　今川淵　生駒高常　服部武彥

林田軍五郎　原口竹次郎　富田松彥　大澤清高

常務員

大竹勇　和田一次　和田博　鎌田正威　横光吉規　田端幸三郎　中瀬拙夫　中田榮次郎　中田秀造　内田隆

深川繁治　古山榮三郎　青木敬一　淺野安吉　佐藤續　水越幸一　下村充郎　城間垣人　平山泰

編輯係　鷹取田一郎　囑託　眞倉民治

同　中野順三郎　同　秋澤次郎

囑託　泉芳德　同　安藤泰夫

同　尾崎保正　同　鈴木重男

同　横尾善夫　庶務

同　栗山新造　會計　伊藤憐之助

大正十四年五月二十九日印刷
大正十四年六月一日發行（毎月一回一日發行）

（定價一册郵稅共金三十錢）
（廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府内　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣二〇七〇番
電話總督府内第八八九番

編輯兼發行人　臺北市東門町百八番地　中野順三郎

印刷者　臺北市本町一丁目十九番地　中村誠道

印刷所　臺北市榮町一丁目二十七二十八番地　松浦屋印刷部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

株式會社

臺灣銀行

（臺北）

支店出張所

臺灣

基隆　新竹　臺中　嘉義　臺南

高雄　宜蘭　淡水　桃園　南投

屏東　臺東　花蓮港　澎湖島

支店出張所

支那　其他　內地

上海　漢口　福州　廈門

汕頭　香港　廣東　新嘉坡

盤谷　スラバヤ　スマラン　バタビヤ

孟買　カルカッタ　倫敦　紐育

神戸　大阪　横濱　東京

＝始政三十年記念＝

臺灣時報大正十四年六月號 目次

口繪＝樺山總督の加筆された臺灣始政式々辭の原案（總督府重要書類）

卷頭言＝劃期的なる始政三十年

時報……………一—五

始政三十年記念展覽會▼銀婚式祭祀、奉拜式及各地祝賀式▼銀婚式御祝儀に付御下賜金品▼秩父宮殿下奉迎委員會▼高雄壽山行啓記念碑除幕式▼伊澤總督退京歸府▼地方長官會議▼招魂祭と伊澤總督の澎湖視察▼總督府の警察會議▼桃園大圳の通水祝賀會

伊澤總督の地方長官會議に於ける訓示……………六

後藤總務長官の地方長官會議に於ける訓示……………一〇

後藤總務長官の警察會議に於ける訓示……………一三

對外折衝の一曲折を物語る帝國領臺史の裏面……………伊能嘉矩 一六

領臺當時の思ひ出……………竹下康之 三三

ラッター氏の「臺灣を素通りして」……………越村生譯 四五

南方發展の要訣……………後藤朝太郎 五四

支那財政の共管問題と之が改造に就て……………木村增太郎 五八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣に於ける地質調査事業と地質調査所設置の急務……市川雄一 七四
理蕃政策として蕎麥を論ず……鷹取田一郎 八三
日本と佛領印度支那……月朶生譯 九九
領臺以來の臺灣貿易大觀……井出季和太 一〇三
驚異に値する臺灣糖業の發展……長曾我部重親 一三八
臺灣四千年史の研究……尾崎秀眞 二〇一
臺灣産米に就て……安藤泰夫 二一五
臺灣とマラリア……眞倉民治 二三〇
征臺軍悪疫に惱まさる＝水野遵氏征蕃私記の一節＝……二五一
歐洲婦人と衣服……小林準一 二五五
島情＝始政三十年記念展覽會産業部計劃▼地方官會議付議事項▼警察會議付議事項◉貿易及金融統計……二六〇
詞苑……二八〇
臺灣日誌◉人事消息◉任命◉寄贈……二八二
南支那南洋其他海外重要記事……總督官房調査課 一－八

大阪市高麗橋

株式會社三十四銀行

資本金五千萬圓

各地支店（東京、京橋（東京）、京都、神戸、兵庫、尼崎、尼崎東、西宮、姫路、廣島、德島、阿波池田、奈良、伊丹、傳法、臺南、高雄、（大阪市內）南天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋

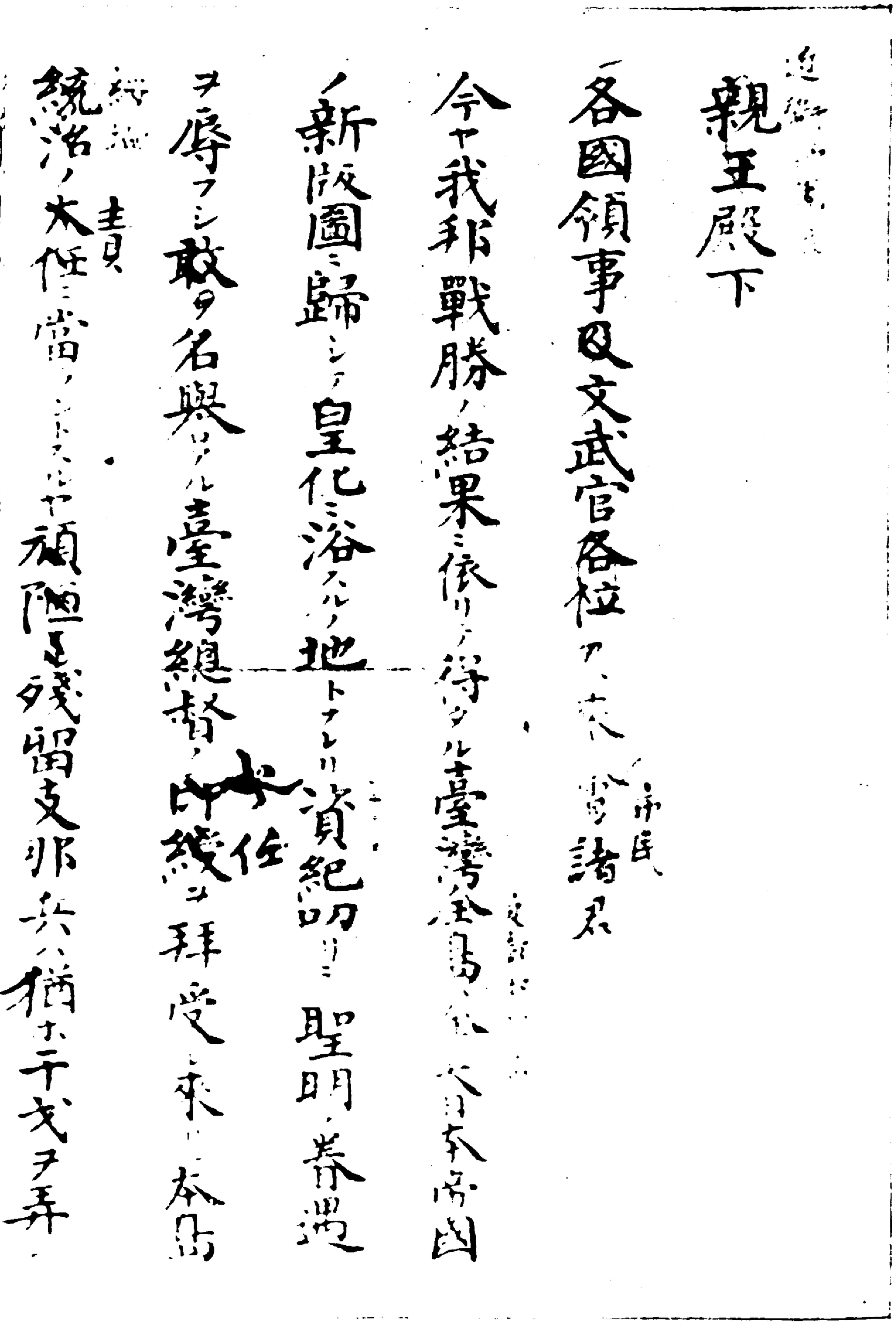
本行之特色（銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す

臺北支店　臺北市本町二丁目

（電話三四、五六、二一九五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

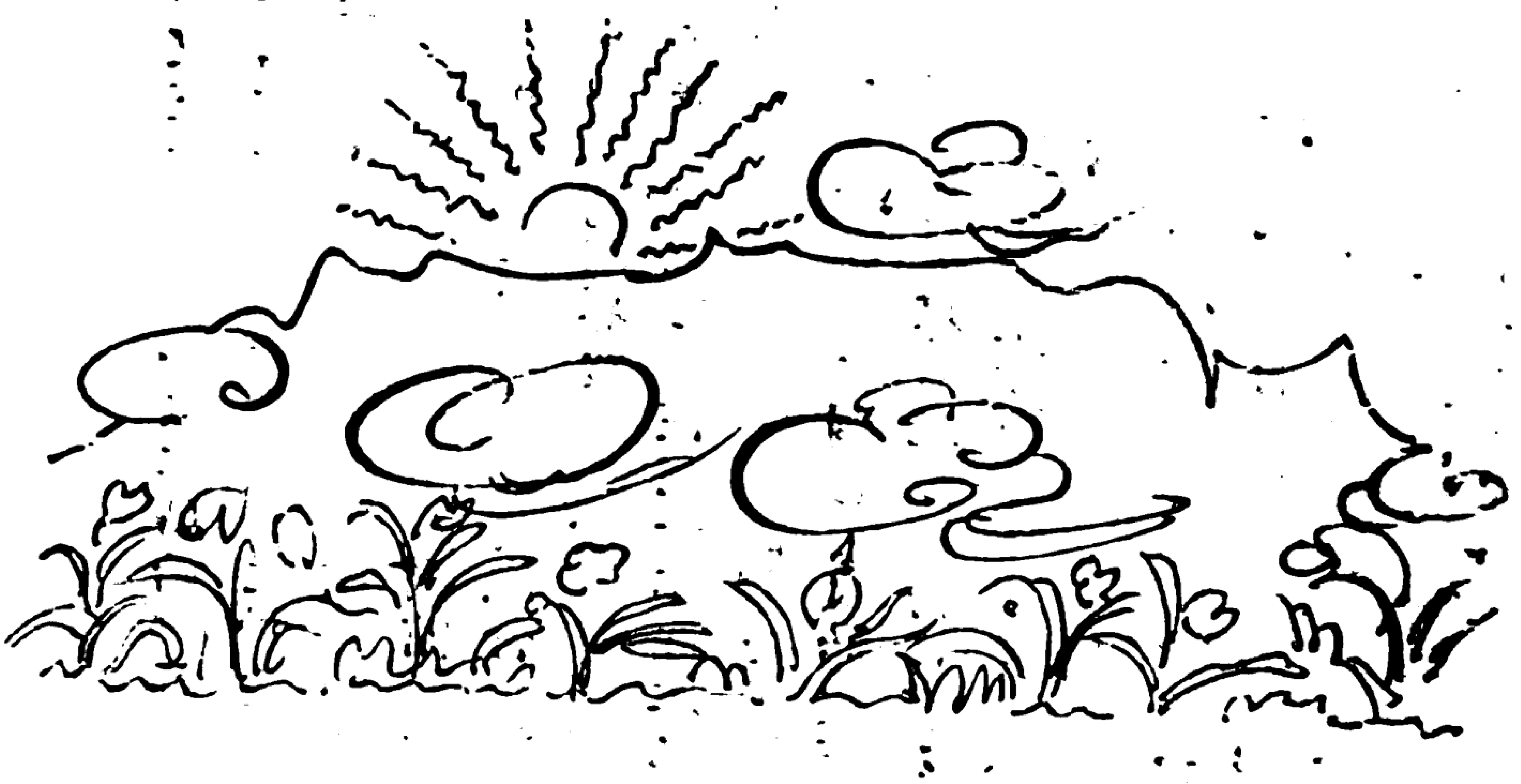

近衛師團長
親王殿下
各國領事及文武官各位並ニ本島在留帝國臣民諸君
今ヤ我邦戰勝ノ結果ニ依リテ得タル臺灣全島ハ大日本帝國
ノ新版圖ニ歸シテ皇化ニ浴スルノ地トナレリ資紀叨リニ聖明ノ眷遇
ヲ辱フシ敢テ名譽アル臺灣總督ノ任ヲ拜受シ來リテ本島
統治ノ大任ニ當ルニ當リ頑陋ナル殘留支那兵ハ猶ホ干戈ヲ弄

樺山總督の加筆されたる始政式

テ我ニ抗拒シタリト雖幸ヒニ之レヲ一撃ノ下ニ電掃シ本月茲ニ臺
灣島始政ノ祝典ヲ舉行スルニ至レリ
資紀今ヨリ夙夜心力ヲ勵磨シテ本島居民ノ安寧ヲ保チ
幸福ヲ進メ以テ聖明ノ殊恩ニ奉對セントス

明治二十八年六月十七日

臺灣總督海軍大將子爵樺山資紀



劃期的なる始政三十年

臺灣我が始政を宣布してより、本年は正さに滿三十年に當る。前淸の荒政が國土民庶を草萊昧蒙に委したるに比して、改隷三十年の、文物の燦然たる、島勢の隆々たる、眞に隔世の感なきを得ない。三十年の歲月は、植民史上敢て長しとせぬ。去れど我が國が、此の僅々の歲月に於て、斯る異常の成績を擧げたことは、亦た史上特筆すべきであらう。吾人は前人の勞を感謝すると同時に、進んで今後の充實を圖り、而して本島をして、精神的にも物質的にも、鞏固なる帝國の一地方として發達せしむべく、愈々其の素質を高むるに力めねばならぬ。始政三十年は、蓋し臺灣統治の一新期を劃するものであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時報

始政三十年記念展覽會

本年は本島始政滿三十年に相當するので總督府に於ては之を記念する爲め(一)博物館を中心として敎育衞生に關するものを(二)商品陳列館を中心として產業に關するものを(三)總督府舊廳舍に於て交通事業に關するものを(四)專賣局に於て專賣事業に關するものを夫々展覽し以て既往三十年間本島文化の進步を回顧し將來の發展に資する計劃で各關係部局は夫々進行中であるが產業に關しては始政三十年記念展覽會協會を組織して專ら之が經營に當るべく其の會場は商品陳列館の階上階下を使用する外、地方館七十坪・臺灣卽賣館七十坪・內地卽賣館三十坪の三棟を假設し尙ほ武德殿を實演場に充て會場たる植物園の三箇所の門に飾門を設けて展覽會の色彩を濃厚ならしめ又た右協會の外總督府に於て林產館を設け更にポスター、模型圖表其他の印刷物等を作製し出品又は頒布し尙ほ會期中は實演の外諸種の餘興を催ほす見込である而して會期は六月十七日の始政記念日から同二十六日迄十日間である。(次號詳報)

銀婚式祭祀奉拜式及び各地祝賀式

五月十日帝都に於ける　聖上　皇后兩陛下銀婚式御祝儀の當日本島に於ては臺灣神社に於て午前八時官民參列して嚴肅なる祭祀の儀を奉行し其他の縣社以下の神社に於ても夫々祭祀を奉行した、當日總督府に於ては午前九時總督代理以下諸官參會して御眞影奉拜式を行ひ軍司令部其他官衙に於ても同樣夫々奉行した、又た全島都鄙國旗を揭揚して祝意を表し臺北に於ても市主催祝賀會が新公園で盛大に擧行せられ各街夫々催し物で賑つた外、夜間は盛んなる提燈行列が行はれ地方各地も同樣到る處殷賑の狀況を呈したことであつた。

銀婚式御祝儀に付御下賜金品

兩陛下銀婚式御祝典に當り五月十日事業資金として政府に御下賜相成りたる中植民地に對する二十五萬圓は朝鮮總督府十七萬圓、臺灣總督府五萬五千圓、樺太廳一萬圓、南洋廳五千圓と分配せられ夫々傳達されたのは誠に感激の至りである、又た當日　兩陛下より善行者蔡文德外十一人の本島人に對し奇特に思召され表彰狀と共に御菓子料として金一封を、又た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高齢者何陳氏腰外五百十五人の本島人及内地人に木盃竝に酒肴料として金一封を、孰れも地方州廳を經て御下賜相成りたるは共に難有い極みである。

秩父宮殿下奉迎委員會

這回　秩父宮殿下には御渡英の途次本島御巡啓あらせらるべき旨御決定相成り其の旨達せられたるにより本島官民は奉迎準備に就き種々計劃中であるが總督府に於ては奉迎委員會規程を設け總務長官委員長となり府内高等官中より委員を、同判任官以下の職員中より書記を夫々選任し奉迎事務を、總務・庶務・警衛・交通・經理の五部に分ち委員以下其の各部の事務を掌理し委員之を統轄する規定で別に事務分掌細則を設けて各部所管の事務を明定し以て奉迎事務の遺漏なきを期し各委員は五月六日付夫々任命又は囑託された。(次號詳報)

高雄壽山行啓記念碑除幕式

高雄壽山の行啓記念碑工事竣功を告げ四月二十二日　皇太子殿下御登山記念日をトして除幕式を擧行した、記念碑建設の場所は壽山の山上遠くは大武の秀峯を始め屏東平野を望み近く高雄市街を一眸に收むべき形勝の地點で碑の高さ腰部を合せて地盤より二十三尺、碑面には菊花御紋章竝に「皇太子殿下御登山記念碑」の文字を鏤ばめ工費六千圓州下官民の寄附に依りて成つたものである、當日午前十一時から建設委員長たる三浦州知事を首め官民二百餘名參列して盛んなる除幕式を行ひ碑は兀として永遠に高雄州の光榮を物語つて居る。

伊澤總督退京歸府

伊澤總督が政治季節に際し上京されたのは二月一日、芝山巖祭典を終つた後のことであつたが滯京六旬餘政務の交渉を了つたので十三日沼津御用邸に伺候して兩陛下の天機竝御機嫌を奉伺したる後十四日神戸より近海郵船の吉野丸に搭じ平山秘書官と共に歸臺の途に就かれ十八日早朝無事基隆に著港即日歸府されたが臺北驛著の際は官民多數の出迎があり總督は一旦歸邸の後臺灣神社に參拜して石燈籠を奉納した尚ほ後藤總務長官は公務の都合上總督より後れて四月二十二日夫人同伴歸任された。

地方長官會議

本島兩政整理後初めての地方長官會議は伊澤總督竝に後藤總務長官の歸府により四月二十七、八の兩日總督府會議室に於て開會された、第一日に於て、吉岡臺

北、古木新竹、本山臺中、喜多臺南、三浦高雄、齋藤臺東、江口花蓮港の各州知事廳長を初め關係諸官會同し劈頭伊澤總督より別項の訓示があり次で後藤總務長官より總督の訓示を敷衍したる別項の訓示があつて後藤總務長官會長席に就き別項の諮問事項に就き各州知事廳長の答申あり第二日も引續き諮問事項、高等警察事項諮問及び別項の指示事項等の審議があり午後五時全部議了して閉會した。

招魂祭と伊澤總督の澎湖視察

苦楝花落ち杜鵑血に泣く四月の三十日臺北新公園に於て松木陸軍少將祭典委員長として濁水溪以北殉職軍人軍屬警官以下七千六百人の招魂祭を執行したるを初め各地に於て夫々招魂祭の催ほしあり澎湖に於ても三十年招魂大祭が伊澤總督臨場の下に藤原要塞司令官、宇山要塞司令官を首め多數官民の參列ありて盛大に擧行された、是より前、伊澤總督には澎湖視察及び招魂祭參列の爲め官民參列者と共に四月二十八日臺北を發し翌日高雄著、驅逐艦「樅」に便乘し同「竹」及「梨」と共に三艦相前後して同午前九時五十分高雄出港、午後三時一同馬公に安著し總督は澎湖の視察を了りて其夜は水交社に催された晩餐會に、翌三十日は澎湖公園に行はれた招魂大祭に臨み夫れより陸軍忠魂碑其他を參拜し同日多數官民見送の裡に再び驅逐艦「樅」にて馬公を發し高雄を經て翌五月一日臺北に歸府されたが澎湖地方及同招魂祭は總督一行の爲め非常の盛況を呈した。

桃園大圳第一取入口（大溪上流石門）

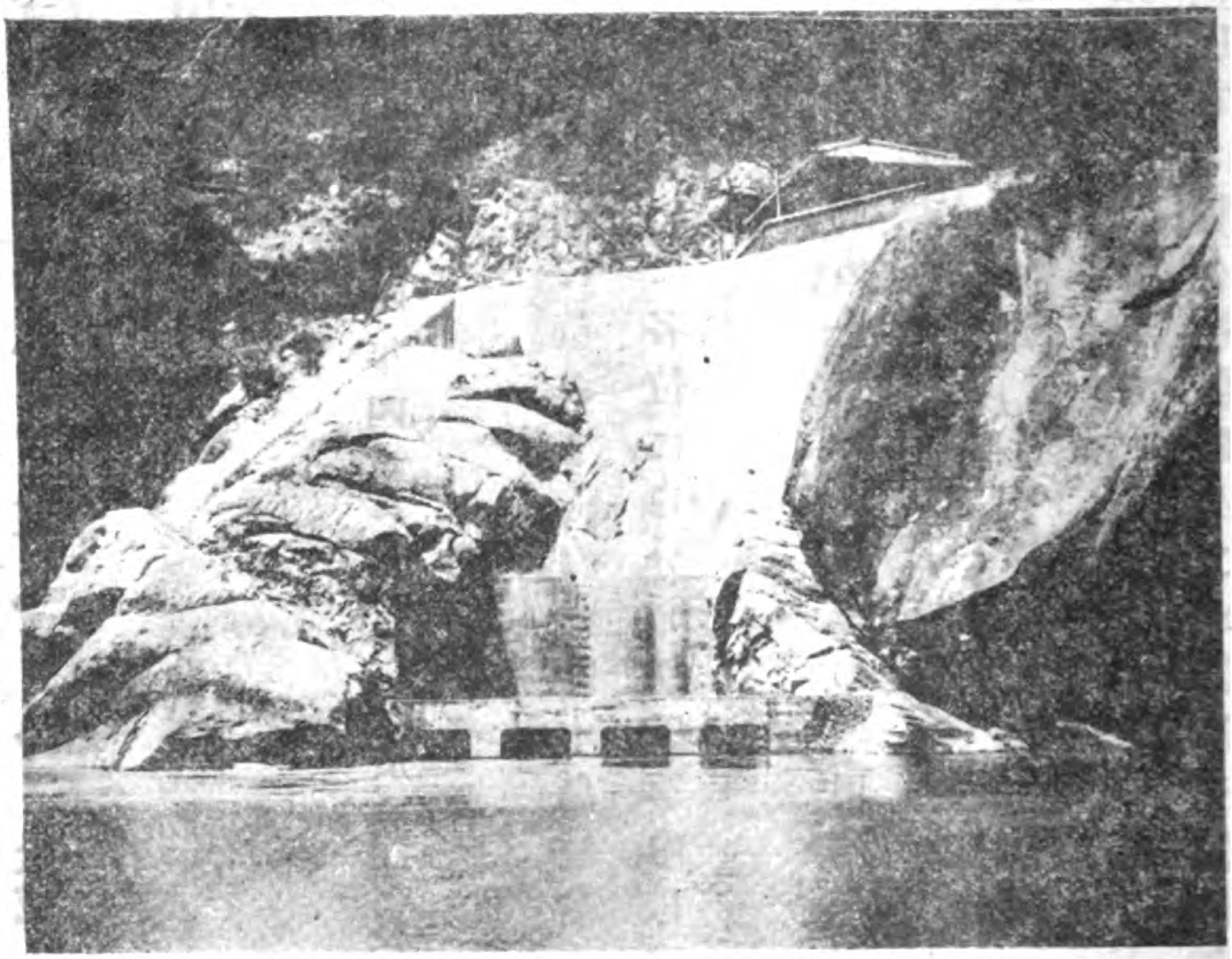
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總督府の警察會議

總督府に於ては五月十二、十三の兩日府内會議室に於て全島警察會議を開いた。會同せるは督府から坂本警務局長を初め同局各課長竝に關係官、各州警務部長、兩廳警務課長等で劈頭後藤總務長官から別項の訓示があり特に　秩父宮殿下奉迎御警衛に就て言及する所があつた次で會議に入りて同殿下奉迎御警衛方法竝に別項の指示。諮問。協議事項等に就き右兩日に亙りて打合及び審議する所があつた。

桃園大圳の通水祝賀會

嘉南大圳と共に本島の二大水利事業たる桃園大圳の通水祝賀會は五月十七日午前十一時半から桃園公學校講堂に於て後藤總務長官を初め關係諸官及官民來賓約一千餘名の來會ありて盛大に擧行された由來桃園高原の地は總面積六萬五千甲歩ありて其の鐵道沿線以南の地は灌漑の便を有するも線路以北の地は海岸に至るに從ひ灌漑の便を缺き其の收穫も極めて尠いので政府は調査の結果淡水河上流の水を引き高原の在來貯水池を改良利用して天水と共に之を貯へ灌漑時季に之を放水するに於ては在來水田竝に荒廢畑地原野等をも開墾し完全なる二期作田となすの可能なるを知り卽ち淡水河の上流大溪郡蕃地石門に於て天然岩盤を穿掘して取入江を設け該取入江には二箇の取入口を設け水門を役備して河水を取入れ夫れより墜道開渠水渠暗渠等五里十丁餘の水路を經て桃園高原に導き更に給水幹線支線及び分線等に依つて二百四十九箇の貯水地に注ぐべき設計で、其の貯水能力は三十億立方尺、之によつて二萬三千甲歩の田園を灌漑せんとするのである、以上は政府に於て施設し其の工費七百七十餘萬圓、大正五年十一月起工同十三年完成、今回その通水祝賀會を催ほしたものである、尙ほ貯水池より耕地に給する小給水路は桃園大圳組合に於て施設し工費六百三十二萬圓、大正八年起工同十五年完成の豫定で目下工事進行中である。斯くて右通水祝賀式は午後零時半を以て終り式後公會堂及び桃園大圳組合樓上の二箇所に於て祝宴を張り各種の餘興も賑やかに頗る盛況を呈し全く散會したるは午後十一時過であつた。



桃園大圳第二取入口（大溪上流石門）

伊澤總督の地方長官會議に於ける訓示

—大正十四年四月二十七日於地方長官會議—

昨年臺灣總督の大命を拜し斯土に莅みました當時本島統治の大綱に關して各位に訓示を致したのでありますが本日更に各位に自分の所感を申し述ぶる機會を得ましたことは余の欣幸とする所であります

這般帝國議會に於ける用務の爲め上京の際沼津の御用邸に伺候し御機嫌を奉伺致しました所　天皇陛下には御不例に在らせらるゝことを拜承して居りましたが特に拜謁を賜ひ殊の外麗はしき龍顏を拜し欣喜に堪へませぬ尙其の砌　皇后陛下にも御拜謁仰せつけられ有難き御言葉を賜はりました

兩陛下におかせられましては斯くも臺灣のことを御軫念あらせられるかと誠に恐懼感激に堪へなつかた次第であります此鴻大なる大御心に深く感銘致しまして將來各位

と共に愈本島統治に衷心の赤誠を致したいと考へます

行政並財政の整理は中央政府の方針に遵ひまして總督府及地方の官制改正を爲し部局の廢合、定員の減員を行ひました乍然國運は日に月に進展し一日も休止するものでありませぬから限りある人員を以て限りなき國務を處理せむとするには容易ならぬ努力を要するのであります各位は十分なる能率を發揮し不斷の努力を以て經費の節約及定員の減員に對應せられむことを望みます大體行政の整理豫算の緊縮は單に行政の組織を革め人員を減ずるのが目的に非ずして是に依つて内は行政の釐革を行ひ外に對しては勤儉力行の範を示し民心の緊張を計り官民相協力して財政經濟の基礎を鞏固にすると云ふのが其の趣旨であります此事は今日の時勢に於て其の緊要なること極めて明かなるにも不拘未だ其の趣旨が充分に徹底して居ない様に思はれますのは甚だ遺憾とする所であります

今や頗る多難なる我國の現況を打開するには實に國民の勤儉力行と云ふことに待つより外はないのであります中央政府が敢然行財整理を斷行したのも實に此故であつたのであります然るに本島に於ける實情を顧みますれば未だ此自覺なく實行なく遺憾なる點が多々あるのであります各位に於ては特に此點に注意して指導誘掖宜しきを制せられんことを望みます

次に官吏の服務に就いては服務規律が儼として存在し又此ことに就いては最近訓示した處がありますから今更事新しく申し述ぶる必要もありませんが二三自分の氣付いた點を述べて諸君の注意を喚起し度いと思ひます

前囘府員に對し訓示した際無聲に聞き無形に見よと述べましたが大體に於て政治の要諦は最大多數の最大幸福を增進すると云ふことにあると考へます然るに國民の多くは默々として語らず物を言ふのは誠に少數であります此少數の叫ぶ聲は自然によく聞えますが多數の無聲の言は容易に耳朶に入らない何か事業をするには必ず運動を伴ふ運動をしなければ何事も成功しないと云ふ事をよく內地で聞きましたが眞の爲政者は無形に見無聲に聽いて縱ひ民衆は默つて居ても何等運動がましい事はしないでも常に最大多數の最大幸福に適つた政が行はるゝものであると云ふ安心を一般に與へなくてはなりませぬ各位は將來一層此の點に留意せられんことを希望致します

更に平素の執務に當つては懇切熱誠至公至平を旨としなくてはなりませぬ此ことに就いて自分は曾て自分部下として使つた人の處置に就いて敬服した話があります其の人が他より或る出願を受けましたが其の要求は容るゝことが出來ないものであつたから斷然斷つたのである然るに其の出願者は却つて深く其のことを感謝したのであります即ち要求者は自己の出願は拒否せられたけれども夫は其の人の懇切愼重なる調査研

究の結果であることをよく諒解し非常に滿足して此ことを自分に話したのであります凡て官吏の事件を處理するには理想として斯くありたいと思ふのであります又官吏が物を許可するとか特許するとか云ふ場合に恰も私有物を與へるが如き態度があるのは甚だ間違つた遺憾なことであると思ふのであります官吏は公器を擁し公職に從ふ者なれば常に愼重細心至公至平民衆の眞の利益を計るに謬なきことを期せなくてはならぬのであります

終りに官吏の私行につき一言せんに人間は神ならぬ身故間違のないことは期し得ないのであるが然し特に本島の如きに於ては官吏の一擧一動は直樣衆目を惹くので其の影響する所は頗る大である卽ち一個人の非行でも其の一般に及ぼす影響は決して尠少ではない然しそれ丈に高潔なる人格の光も亦好感化を與ふるものであるから特に私行に注意して常に民衆の儀表たることを企圖しなくてはなりませぬ

其の他地方自治、教育、勸業、警察等各般の行政事務に就いては他の場合に於て自分の所懐を述ぶる機會もあらうと思ふから此等の點に付ては本日は總務長官の訓示に讓ることゝ致します

後藤總務長官の地方長官會議に於ける訓示

——大正十四年四月二十七日總督府に於て——

只今總督閣下から御懇篤なる御訓示がありましたが私は總督府の所管する行政の各般の事に就て御注意を促したき點に就き項を逐ふて申述べたいと思ひます

一　地方行政に關する件

地方制度實施後既に五年の星霜を經過して居るのでありますが幸ひ地方各位の努力に依りまして自治的訓練も餘程進んで來た樣に考へられるのでありますが未だ今後に俟つべきものが多い、地方公共團體の基礎を鞏固にし時代順應の諸施設を致しますには尙一層是が指導啓發に勉め監督を周密にせられんことを望みます

二　學校敎員の志氣振作に關する件

敎育の改善、振興の根本策の一つとして其の局に當る學校敎員の志氣を振作する事は

最も大切なる事と存じます。然るに近來學校敎員にして動もすれば苟安を貪り退嬰に流れんとする傾向のあるのは特に考慮を要する事であると信じます。之が監督の局に當られる各位は常に學校敎員の勤務狀況を正確に調査し之に對する賞罰を明にし進退を愼重嚴正にし殊に人格技倆優良なる敎員の活動を助長し十分に其の技倆を振はしめ以て一般學校敎員の志氣の振作を促し加ふるに不斷の監督と適宜の指導に依り敎員をして常に修養を怠らず確固たる信念と旺盛なる志氣とを以て積極的に其の職責を全くせしむる樣特に考究せられむことを望む次第であります

三　勤勞敎育に關する件

勤儉力行は人として又國民として最も肝要なる德性である事は申す迄もありません。殊に將來益々本島を開發して國運の進展を期せむが爲めには國民をして愈々勵精恪勤力行を樂しむに到らしむることを要する次第であります。近時本島學校敎育に於て漸次實習を重ずる萠の見へますることは此の精神の涵養上最も喜ぶべき傾向でありますから此の機運を逸せず一層指導と奬勵とに力め農業、商業、水產、手工等各方面に於て益々實習を尙び勤勞を重ずるの氣風を振興せられむことを希望する次第であります

四　本年度の國庫豫算に關する件

督府財政の過去數年に遡りまして其の大勢を顧みまするに大正十年度以降豫算は年

々多額の使用停止又は削減を受けましたが更に本年度豫算編成に於きましても亦約一千二百萬餘圓に達する巨額の整理を行ふの已むを得ざるに至つたのでございますが之れ畢竟戰後俄に襲來しましたる財界の反動と近くは關東地方の大震火災の影響に對し將來督府財政の基礎を堅實ならしめん爲めの手段に外ならぬのであります。而して財政の前途は未だ決して樂觀を許さぬ狀態であります。猶ほ不斷の緊張を以て此の難關を突破する覺悟がなくてはならぬのであります

本年度豫算は總額八千九百七十三萬三千二百六十二圓でありまして前年度施行豫算に比べまして約一千百萬餘圓、實行豫算に比し約百七十餘萬圓の減少でありますが此の縮少されましたる豫算を以て尙ほ敎育費、地方廳、交通局、專賣事業費若は勸業費、補助費等の各款に亙りまして約七百二十餘萬圓の新規計劃既定年割額の增加や其の他の事業の自然增進に伴ひまする所の經費の增加を計上することを得ましたが之には人件費及事務費の整理節約より生せしめたる餘裕が其の重要なる財源となつた譯で、あります。玆に於て事務の分量に比し職員の減少並に事務費の節減は自ら事務の簡捷及能率の增進に關し非常の努力と覺悟とを要する次第で、從て豫算の運用上深甚の注意を拂はれ以て圖運の發展に資せられむことを切望致します

五　地方豫算の執行に關する件

大正十四年度地方豫算は能く督府の方針を恪守し編成せられたるを以て豫算認可に際しては多少の例外を除き州の意見を尊重したる次第なるが之が執行に關しては一層愼重の注意を拂はれ財政緊縮の方針に則り各種事業の如きは緩急取捨の處置を誤らず設備は宏壯華飾の弊に陷ることなく專ら實用を主とし其の他一般に冗費を避け名實倶に既定の方針の實現に勗められ尚地方廳豫算の執行に關しても叙上の點に注意せられ市街庄豫算に在りても常に監督を解らざらむことを望みます

此の機會に於きまして尚ほ一言致したいことは臺灣に於ける一體の施設經營は非常に贅澤であるように一般から考へられて居るのでありますが段々實際を見まするに形骸は頗る贅澤であるが實質は誠に貧弱であることを發見致します尤も設備の贅澤といふことは氣候風土上必要のことでもありませうが臺灣統治上に於て形を備ふるに急にして內容の充實は非常に閑却されて居つたようでありまず故に內容の充實と云ふことに付いては今後非常の努力と多大の經費とを要するものと存じますので之れが實際に關しては充分の研究と工夫とを要することゝ存じます

六　改良糖米栽培普及に關する件

主要農產物たる米に關しましては既に米種の改良に依り在來種米の品種の向上を圖り得たる如くでありますが、今後耕種肥栽培法の改良に依り益々甲當收量の增加に力め

ねばなりませむ殊に最近其の栽培が激增し來つた內地種米は內地市場にて聲價を博しましたが之が栽培に付ては今後注意を要する點尠くないのでありますも地方當局に於ても宜しく之が栽培に付指導を與へ健實なる發達を見るに至らんことを望みます

七　畜產獎勵に關する件

畜產に就ては今日迄順調なる發達を見まして、本邦領土中本島の如く農家一戶當家畜飼養頭數の大なる所を他に見ませぬ程であつて而も本島農民は天性養畜思想に富み將來地方當局の指導獎勵に依り益々增產すべきものであります。畜產加工業に就きましては未だ見るべきもののなきは、遺憾とする所でありますが、將來生產家畜の增加に伴つて、益々其の必要の度を加ふるでありませうし、督府に於ても之が調査を爲しつゝありますから、各位に在りても宜しく家畜の改良增殖と共に加工業の新興に付ても十分考慮を費されんことを望みます

八　水產業獎勵に關する件

本島の水產業は近年漸次發達の趨勢を示して居るやうでありますが、其の年額漸く一千萬圓內外であつて、之を四面海を環らし好漁場に當む本島海面の資源に對照するときは、將來發達の餘地極めて大なるものありと認むるのであります。各位は宜しく地方漁村の實情に鑑み適切なる指導を與へ其の健實なる發展を助長せんことを望みます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九　糖業の奬勵に關する件

近年本島糖業の進展に付ては頗る見るべきものがありまして逐年產糖の增加と生產費の低減を示しつゝあるのでありますす特に本年の如きは生產高に於ても將又甲當蔗莖收量に於ても本島未曾有の狀態であるのは誠に慶賀に堪へない所でありますす然しながら世界的增產に依る外糖の壓迫は甚だ大でありまして容易に樂觀を許しません爲替關係により漸く其の均衡を保つて居る樣な狀態は誠に不安に堪へない所でありますす夫れ故に當業者は益々經營の緊縮と內容の充實とに努力し一方積極的施設により甲當產糖の增加を計り生產費の遞減に努めて國內に安價なる砂糖を供給し外は外糖に拮抗し得る程度に到達せねばなりません各位は宜しく本趣旨の下に適切なる監督と指導に努められむことを望みます

十　茶の品質向上に關する件

茶は本島主要物產の一であつて又海外輸出品の大宗でありますす其の消長は本島經濟界に影響する所が多大でありますすされば今後共一層品質の向上、生產費の節減を計りまして臺灣茶の聲價を發輝し貿易の增進を期することを切に望むのでありますす

十一　商工業の振興に關する件

一般商業は先年の財界の變動と大震災の影響とに依りまして未だ不振の域を脫しま

せぬが今や財界も漸次に整理せられ近く順調に復せんとする兆なきにしもあらずであります が尙一層此の際一時の苦痛を忍んでも堅實なる基礎を築き將來の雄飛を企圖する樣に致したいものであります又本島は其の地理的關係上南支南洋方面とは特殊の關係にありまして其の間の貿易に付ては將來大に努むる所がなくてはなりません之に關しては督府に於ても調査考究して居りますが各位に於ても亦管下の實情に鑑み當業者に對し適切なる指導をせられんことを希望致します

十二　林業の奬勵に關する件

山林の經營に付ては一般國有林に對し其の基本計劃を樹つる趣意を以て本年度より施業案編成の事業を開始しやうとして居るのであります是は本島山林經營の基本を確立する重大事業でありますから總督府に於て主として之に當るは勿論でありますが地方廳に於ても能く其趣旨を體して協力することを望みます又民有林の經營に對する指導監督に付ては新に其の事務の大部を擧げて之を地方に委する方針を執ることにしましした各位は其の實績を擧ぐるやうに十分の努力を拂はれんことを望みます殊に民有林の保護取締に關しては司法警察官吏の職務を行ふ者は一般警察官吏に限られましたる結果其の活動に待つことが一層多くなつたのであります此の點に關し能く一般警察官吏を督勵し被害防止上遺憾なきやうに期せられたいのであります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十三　警察の規律に關する件

規律は警察の生命でありまして上下の階級之に依りて克く統制結合して整然として一體をなすことが出來るものであります思ふに警察處分は特に機關の敏捷なる行動を必要とする場合が多いのでありますから命令一下直に響應し得るやうになつて居なければならないのでありますが若し紀律にして弛緩頽廢し命令透徹せず措置其の時機を誤るやうな事があれば警察の威信遂に地に墜つるに至るやも保し難いのであります故に各位は常に能く紀律の肅正に努め品性を陶冶し質實剛健の風を養ひ以て警察精神の涵養を圖り苟も警察機關の運用上遺憾なきを期せられんことを望む次第であります

十四　警察官の民衆接遇に關する件

警察官は職責上社會民衆に直接して職務執行の任務に膺るものでありますから民衆に對しては親切叮嚀を旨とし公明正大なる態度を持し苟も職權を弄し又は倨傲不遜の所爲があつてはならないのであります然るに警察官吏中動もすれば今尙被疑者其の他に對して往々常規を逸し苛酷の取扱に出づるものゝあるは甚だ遺憾とする所でありますが徒に世に阿り警察權の行使を躊躇し又は狎怩に陷りて寛嚴其の宜しきを得ざるが如きは素より採らない所でありますが警察をして民衆の怨府たらしむるが如き接遇に至つては斷じて許し難い事であります。各位は警察官の民衆接遇に付ては特に深甚なる指

導あらんことを希望致すのであります

十五　理蕃に關する件

最近蕃界極めて靜穩の狀態に在るのは洵に歡ばしき現象であります。然し之を既往の實例に徵しまするに擾亂の後に小康があり數年每に之を繰返し來れる經過を示して居りますから再び前轍を踏まないやうに注意することは最も肝要のことゝ信じます此際嚴に部下職員を戒飭し紀律節制を重じ素行を愼み特に彼等の處遇に注意すると共に常に精深の查察を怠らず蕃地の騷擾を惹起するが如きことなき樣深く戒愼を加へられんことを望みます尙理蕃事業は威力を背景とするものではありますが專ら力を撫育的施設に注ぐべきこと勿論であります而して其の實績を擧ぐるは一に適材を得るにあります。故に蕃社の受持警察官吏は努めて之を同一箇所に永く勤務せしめ以て彼我の意思疎通を圖り相互信賴の裡に十分其の手腕を振はしむるの方針をとると共に蕃語の習熟各種の作業、敎育、醫療事務等智識技能の訓練養成に留意するの要ありと信じます。更に理蕃上未歸蕃の解決を促進することの必要あるは勿論、撫育就中授產の道を授けて生治上の安定を得しむることは目下理蕃の要諦と信じます。故に地勢と蕃情とを斟酌して各地に適合したる授產を選擇して專ら之に向つて指導奬勵する事に努力せられむことを望みます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十六　衛生行政に關する件

領臺以來の衛生當局者の多年の努力は漸く大正の初頭に酬ひられまして衛生方面の成績良好なるものがありましたが其の後の狀況聊か進步の遲々たるものがある樣でありますす近年內地の死亡率二二、三に對する本島の二五、〇の比率を示すが如きは其の例證でありますす。元來衛生の事業は一朝一夕に其の功を收むることは難いものでありますす本島の如き亞熱帶地の衛生は其の功を收むること更に難きを加ふるものがあると存じます。然し前述のやうな近況は當局者が一時の成功に安んじ緊張を缺くが爲めではないかと思いますす各位は宜しく部下を指導激勵して事に當らしむると共に一般民衆の自覺を促し、國民保健の增進に力を致されんことを切望致します

十七　簡易國勢調査に關する件

本年十月一日を期して帝國領土の全般に涉り簡易國勢調査が施行せらるゝ事となりました。我國に於ては大正九年に第一回の國勢調査が行はれ十年每に之を行ふことゝなつて居るのでありますが十年の期間內には人口の異動甚しいものがあるため其の間に簡易國勢調査を行ふ事になつたのでありますす。本島に於きましては前三回の例に依り戶口調査を施行する筈でありますす人口の明確なる調査を整へる事は一國の國情及國勢の消長の尺度となるものでありまして近時洽く文明諸國に行はるゝ事は申すまでもあり

ません。各位に於かれましては部下を督勵して、調査の適確を期せられむことを望む次第であります

私から御話する大要は之れで終りと致します尚ほ細かい點に付きましては指示事項として注意を促すことゝ致しました之を要するに行政各般に亘り爲すべきことは非常に多いのであります眞に國政の目的を達するには其局に當る者の志を樹つることが肝要であります先程總督閣下よりの御懇篤なる御訓示を服膺して最も緊張したる氣分を以て本島統治の爲めに努力しなければならむと考へる次第であります。

後藤總務長官の警察會議に於ける訓示

——大正十四年五月十二日總督府に於て——

本日茲に諸君を召集して警察會議を開催するに當り所懐の一端を述ぶることを得るは洵に欣幸とする所であります

曩きに地方長官會議に於て警察並衞生に關する事項に就き申述べたることは既に諸君も承知せられて居ることゝ思ひます本島の警察は警察本來の使命と併せて督府統治の精神に基き一般民衆の誘掖指導と言ふことをも行つて居る現狀であります警察の任務は從て複雜と爲り又其の實效を收むる上に於て非常な苦心を要する次第であります時運の進步と共に世の中の事情は益々複雜となり警察の活動亦愈々煩難を加ふる譯であります、然し何れの時代何れの所に於きましても警察の任務と言ふものは嚴然として動かすべからざるものが存在して居る卽ち社會の狀態を平和に公正に導て往かうとするには警察が嚴乎として秩序を維持することが出來なければ望まれないことであります若し警察が其の任務を完ふすることが出來なければ平和の確保秩序の維持は望

むことは出來ない從つて社會の圓滑なる發達は到底豫測し難いのであります國家の政務の中に於て警察の活動は最少限度に於て而も最初のものであり而して又最終のものであると言はれるのは蓋し之が爲であります警察官は此の重大なる任務を果たさむとするには適當なる修養訓練と相俟つて義務心、奉公心を旺盛ならしむることは須臾も忽がせにしてはならないと言ふことを特に一言して置きたいのであります而して社會百般の事情は逐年複雜ならんとするに方り警察が之に對應して其の使命を完ふせんとするには警察官の智識の增進を圖り各機關の敏活なる活動を企圖せねばなりませぬ又社會一般の推移に伴つて動もすれば官紀の遲緩あるが如きことなきを恐るゝのである警察は秩序の維持に任ずるを以て職とする以上宜しく上下相統一し最も嚴肅に官紀の維持に努めなければならぬのであります上下十分なる統一あり組織全體を通じ規律嚴然として備つて居る換言すれば神經系統が動くが如く中樞神經活動が直ちに下に及ぼすが如くに全體が何時も統制あり規律ある樣訓練上特に諸君に對して切望する次第であります

警察は平常に於ては何事もなきが如く世間に見える恰も警察は活動せざるか如く見えるが其處に警察の活動は存じ其の最も緊張せるを見るのである此の意味に於て警察に就き彼是世評なり意見を聽くことは結局警察の活動が鈍り緊張を缺けるときである

と思ふのであります諸君竝諸君の部下の仕事と言ふものは實に目に見えざる所に多大の苦心のあることは諒解して居るのでありますどうか全體の緊張と言ふことを絶えず心懸けられて警察の仕事を音もなく完全に遂行する樣に希望するのであります

而て一度び警察官が其の職務を執行するに當つては斷乎として躊躇することなく警察當然の任務を遂行せねばなりませぬが警察個々の仕事に於ては常に嚴正にして公平なる見地から愼重なる注意を以て事に臨み聊かも輕擧することなく他の輕侮を招き或は世人の信頼を失ふ樣な間違つたことの斷じて無い樣に充分なる注意を望む次第であります

理蕃の仕事は専ら警察官に於て取扱て居りますが警備、撫育併せ行ふて居るのでありますから殊に其の責任の重大なることを思はなければならぬ近來蕃界一般に靜穩の狀態にあるのは洵に結構なことであります蕃人智識の啓發は年と共に進み同時に經濟觀念の次第に發達すると言ふことは其の主なる原因であると思はれる然乍ら既往の實例に徴しまするど擾亂の後に小康あり數年每に之を繰り返して居ると云ふ有樣で今蕃情平穩にあると言ふことを以て全く安心し切つて居ると云ふことは他日如何なる悔を生じないとも限らない此の際どうか部下職員を十分に戒飭し規律節制を重んじ素行を愼しみ特に彼等の所遇に注意して再び擾亂を起すことの機會を斷じて生じない樣に注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

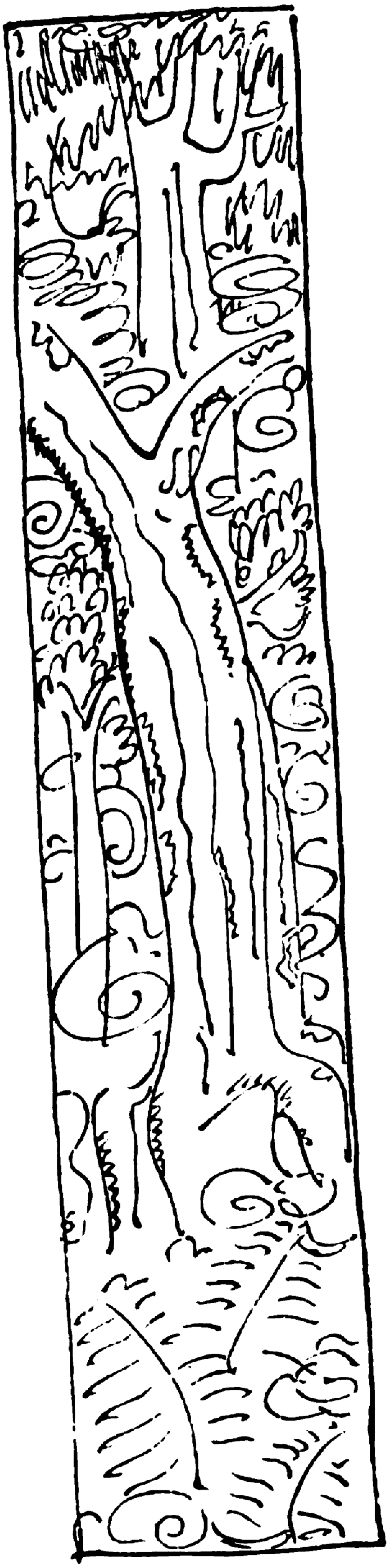
を願ひ度いと思ふのであります尙ほ此際授産の仕事其の他の施設に向ては十分に指導奬勵を加へ一面には精神上の教化に努力し熱誠同情而して嚴格を以て彼等の覺醒を促されると云ふ樣に努め所謂恩威竝行ふて以て理蕃の效果を擧げると云ふことに十分御盡力を願ひたいと思ふのであります

次に衞生上のことであります從來當局者の熱誠なる努力に依つて衞生諸般の施設は其の效果を奏して居る曾て瘴癘の地であると言はれた本島が却つて天惠の樂土であると云ふ樣な觀を呈して來たのであります然るに近來マラリアの防遏の成績チフス患者の狀況を見ますと甚だ遺憾ではあるが聊か衞生のことが逆轉とは行かなくても進歩が停滯して居る樣に見えないでもないのであります本島に於ては衞生の事柄は何より先の急務であることは申す迄も無い此の點に就ては深く注意されて十分に部下を督勵し衞生上の成績を擧げる樣に御注意あらんことを希望する次第であります

先年本島に於きましては鶴駕を迎へ奉るの光榮を感荷し本島民齊しく有難く感じたことでありましたが今又遠からざる中に秩父宮殿下御渡歐の途中本島に御成遊ばさる御內儀あるやに拜聞致して居ります洵に本島に於きましては幸はせ此の上もないことでありまして本島民齊しく雨露に浴するの感が致すのであります御警衞竝衞生上の施設に當られる諸君に於かれましてはどうか十分に御注意ありて宮殿下本島御台臨のこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に就て何等遺漏のない樣に致したいと考へるのであります本件に就て詳細のことは別に警務局長から示されることゝ存じまするが此の機會に於て此の點に就て十分なる御協議を願ひ度ひと考へる次第であります



對外折衝の一曲折を物語る
帝國領臺史の裏面

伊能嘉矩

回顧すれば、日清戰爭の終局に伴へる戰事的報酬の一として、我が帝國政府の手に、土地割讓の問題を提案せられたことに就きては、當時實に中外の尤も注目したりし焼點であつたのは、周知の事實であつた、そして諸外國の之に對する意向を忖度すれば、支那大陸の割地に關しては、多少の難色を帶ぶる形跡あるを窺はれしも、大陸以外なる島地の占領に於ては、全然異議なき姿で、現に後の遼東還附の干渉に、牛耳を握り

し露國政府すら、其態度頗る好意の發顯を認めらるゝものあり、初め明治二十七年十二月の頃、會ま露都駐剳の日本公使より、陸奥外務大臣に宛、

此頃、日本に對して熱心に同情を懷き居る、本使の朋友たる露國人某々の意見を聞くに、日本のために謀るに、一日も早く戰爭を終局して、多額の償金を得るを以て得策とす、蓋し割地を要求するときは、恐らく他國の干涉を誘導して、事態頗る困難に陷るべしと言へり、本使は我が國の利益を謀る上に於て、速に淸國と和を結び、及ぶべくんば、軍事報酬中に、臺灣の割讓を加ふるの機を作り置くこと、得策なるべしと思考す、

との內信を齎らしたと傳へられたが、偶然にも、我が國にて、前文部大臣井上梧陰先生が、臺灣占有の意見を以て、伊藤內閣總理大臣に致されしと略ぼ同時に係かるのである。

次で明治二十八年二月中旬、日本駐剳の露國公使ヒトロヴォー氏は、陸奥外務大臣を外務省に訪ひ、談次私話の體を以て、

臺灣の割地は、露國に於て固より異存なし、然れども日本が島國の位置を棄てゝ、大陸に版圖を擴張する如きは、決して得策に非ざるべし。

と注意したといはるゝ機密に徵するも、其間の消息をトするに難くないやう思はれる、果然日本に在りて、別に編制せられし陸軍混成支隊は、二月十五日を以て、南進を開始し、遠く臺灣海峽に向ひしもの、戰局の後件たる、外交の折衝上、優越なる一權力を把捉せんがための豫備として、新たに戰捷を加ふべき政略に疎謬なかりし、制先の機敏なるを認めらるゝやうである、由來軍事專問家の所說に據れば、凡そ戰略に加味するに政略を以てするもの、概ね失敗を伴ふを免がれぬ、そして近世の歷史に於て、彼の歐洲一代の英傑ナポ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

レオン一世の剡手、能く此兩者の調節に成功し得たのみと謂はれる、さて日清戰爭に在りて、此澎湖の攻略は、正さしく戰略と政略との混同に出で、而かも有終の全勝を收むるを得たりしもの、蓋し戰史上那翁以來の記錄を破るに幾いとも見られやうか、

既にして其講和條約案の大綱が、漸く歐洲の外交社會に漏洩するに及び、諸外國の注目は、擧げて之が成否の一點に集中し、淸國自身にも、亦割地の到底免がるべからざる運命なるを察知するや、寧ろ外國の干涉に憑みて、日本の希望を水泡に歸せしめやうと企圖したのも事實であるらしく、曩に李鴻章が天津總稅務司の獨國人デットリングに秘電を發し、

倭は、奉天の南、既に據れる各處、並に營口を求め、又臺灣全島を讓ることを求む、期を限りて議を成さんとす、各國は應に然りと謂はざるべし、何ぞ速に起ちて爭論するなきや、遲ければ則ち及ぶなし。

といへるに見ても、自ら形勢が明かである、然れども其臺灣の占有に向つて、列國孰れも緘默の態度を持するの狀況であつたので、嘗て露國駐劄の淸國公使王之春が、『其日本に失はんよりは、西人に償ふに如かず』と、ヤケクソ的の建策をなしたるに奇貨措くべしとし、乃ち之を英國に讓與し、兼て他日の後援を藉るに便せんとの權謀を運らした、是に於て、英國駐劄の淸國公使龔照瑗に電命を與へ、其內意を英國外務卿キムバレー氏に通告せしめたが、英國政府は、之を認めて殆ど理由なきの讓與なりとし、再度の辭退に依りて、事はアハレ空しく止んだ、中東戰記本末に載する讓臺記中の左の一節は、此秘密の交涉を語りて詳かなるものである。曰く、

政府は、旨を承け、傳電して英に至り、倫敦の龔仰遽星使（照瑗）をして、往いて外務大臣金不里に謁し、臺灣を以て來り贈らんことを願ひ、而して英廷が和約を主持し、以て日使方張の餤を遏め、且日師が戰に

藉りて以て挾制を爲すの階を杜がんと請はしむ、金不里辭して受けず、甫め越えて數日、驩星使又た鴻を命じて外務に至り、但だ言ふ、朝命を欽奉し、實に全臺を以て相贈るを願ふと、務めて版圖に隸入せんことを祈り、日本の事に至りては、則ち竟に一字も提せず、金不里大臣更に以て異と爲し、慨然惠贈の故を叩問す、星使實に之れに告げて曰く、英國の海島は、中國と隣を爲す、(蓋し香港を指して言ふ)五十年來毫も窒礙なき一なり、日本必らず臺灣を索めて以つて和約に署せん、中國は高く自ら期許するの國に任かすを願はず、動を好み靜を好まざるの人、實に此れに逼處す二なり、臺灣は中國南省の外蔽と爲す、若し日本の佔むる所に遭ひ、倘し漸く楊子口の口を塞ぎ、而して蘇閩兩省の心を抉る、其險思議すべからざる三なり、夫れ是を以て貴國に贈らんことを願ふと、金大臣仍ほ之を力辭し、且曰く、此れ本大臣の情を貴國に忘るゝがために非ず。亦敝國の地を郤けて以て廉を示すがために非ず、貴國悃悃として之を贈り、敝國昧昧として之を受く、英に於て利なく、華に於て害あらん、是を以て辭するなり。

言ひ得て其消息の經過を表白するに遺憾なしと評すべきである、因みに云ふが、故友田原天南君に據るに、件の發議の張本は、張之洞と李提摩太(廣學會督辦)とで、先づ總稅務司を介して、之を上海の英國總領事に吹き込み、總領事から、時の英國首相ローズベリー侯へ上申して貰つたが、體能く斷はられたのだとも謂はれ、尙ほ時日は不明だが、李提摩太は、南北洋大臣に建議し、英華相助の要件四條を擬して、臺灣を日本へ割讓せぬやうな策を献じたのであつたとの事である、捉風捕影のうはさのくさ〲、孰れか鴉の雌雄を判たぬ所に、一道の支那的眞相が潛在するであらう。

一二の有力なる外字新聞紙上に、日本の臺灣を占有するに先だちて、英國は之を占領するの野心ありとの風說を載せられたのは、斯種の消息を洩されし訛傳に外ならざるべきで、當時日本駐剳の英國公使館書記官

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ラウサー氏が、代理公使の資格を以て、外務省を訪ひ、外務次官林董氏に面會し、本國政府よりの訓令なりとて陳述するやう、

近頃、英國は臺灣を占領するとの風説あれども、全く虚説なり、英國は決して彼島を占領するの意なきことを宣言す。

と、是れ實に明治二十八年五月十一日、即ち臺灣受授の使命を帶びたる臺灣總督として、樺山將軍を簡派せらるべき、辭令の發表せられたる翌日の事に係かる。

會ま陸奥外務大臣は、宿痾を養ひて須磨に在り、外務次官は、直ちに之を同大臣に通報し、陸奥外相の名を以て、英國駐劄の日本公使即ち現在の首相加藤高明氏に宛、

閣下は、英國外務大臣に面會し、右の友誼ある證言に對しては勿論、先般來の紛紜中、英國政府が、終始我れに對して表したる、友誼の意向に對し、我が政府は深厚なる感謝の意を表する旨、口頭を以て同大臣へ傳へらるべし。

との意味の電訓を發したりきと聞説する。

飜つて他の一面には、露國駐劄の清國公使王之春の、密旨を帶びて佛國に赴ける際、亦臺灣處置の案件を以て、同國外務卿に面籌する所あつたと傳へらるるが、初め日本が未だ澎湖の攻略だに手を染めざる時、佛國巡洋艦ビユウテンプス及びビユウブレの二號、媽宮港に入り、澎湖通判陳步梯及び鎭副將林福善に會見を求め、告ぐるに日本の不日艦隊を發して、來攻せんとするの內情を以てし、清國のために謀るに、一時臺灣を以て、佛國に讓與し、侵占を被るを避くるに如かじ、佛國は素と清國に友誼を有するがため起見する故に、事局の終結せる後は、即ち清國に還附するであらうと勸めた、澎官頗る意動き、之を臺灣防務幇辦として、

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺南府に駐轅せる劉永福に報じたところ、彼れは嘗て清佛の役、黑旗軍の統領として、越南に據守し、屢々佛兵と矢石の間に相見えし經歷あり、佛人に對して印象せし敵愾心は、深く骨髓に刻みて、銷除し盡さゞるのみならず、人と爲り、剛毅木訥、眼中に戰略あれども些の政略がない、そこで憤然直ちに命を下だすやう、『斯の如きの甘言には、宜しく砲火を以て報ゆべし』と、斷乎拒斥して顧みなかつた、乃ち當時事終に成らずして止みしと雖も、清國は、尙ほも此佛國の慫慂に、一縷の執著を持ち、再び覆水を盆に返さんと望みしもの丶如くであるが、會ま佛國は、其保護領土なるマダガスカル島に在りて、新統監ミール・ド・ビーレルの强硬政策に賴り、干戈を動がさねばならぬ事情切迫し、到底臺灣を兼顧するの餘裕なきため、亦書餅に歸したのであつた。

若し夫れ露國に至りては、專ら野心を滿鮮の一方に傾けたるがため、利害の關係極めて薄き臺灣に向つては、彼の王之春の遊說を以てするも、初めより他山の助力だも假すの考慮を有せなかつたこと、疑惑の餘地なき所である、又獨逸の態度に至りては、甚だ朦朧模糊の觀あつたけれども、史家ルードウキヒ・リース氏の臺灣島史に、『フォルモサが、日本帝國の版圖に歸すると同時に、現代の文化に直接なる聯絡を有するに至つた、將來本島に一新時期を畫せらるべきは、疑ひを容れぬのであらう』との結論を與ふべく吝まなかつたのに一顧するとき、以て從上同國の有せし意向の代表とも見らるるやに思はれる。

又明治三十一年の頃、自ら臺灣民主國義民總統と名乘り、支那の天津北京間に出沒し、會ま天津に流寓せる無籍の外人マイヤースと結托し、書を露國領事其他の外人に送り臺灣を日人の手より奪回するために、戰械兵餉の供給を得んとの事を求め、竟に露國公使より、軍資の借款を、道勝銀行(露淸銀行)に得るの保障を與へられんと請ひ、之に對して、『願將臺灣。永隸版圖。稱臣入貢。歸爲屬國』等の條件を提供し、且諳語を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

弄し、

　臺灣は、二百餘年咸く清國の盛治に沾ひ、睦恤相安んせしに、日本の寇亂より、始終四年、虐政頻に與り、
　四民職を廢す云々、

と放言して憚らざりしが如き、是れ畢竟尾を搖かして憐みを乞ふ底の失態、固より言ふに足らざるものあれども、亦其波瀾の餘響として、記憶するを忘るべからざる一節である。

今や世界大戰の終局として、國際聯盟の成立に因り、戰時占領の南太平洋諸島の赤道以北が、日本帝國委任統治の下に置かるゝことゝなりし結果、所謂東洋の外輪牆壁たる、此等地方に對する連鎖の咽喉としての臺灣が、益々關係緊要の地歩を有するに及びつゝあるの際、偶ま想ひを叙上對外折衝の曲折に馳するとき、萬古千秋對洛城の感慨なきを得んやである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

領臺當時の思ひ出

竹下康之

此の一篇は曩に總督官房調査課の主催により竹下氏の講演せるもの、速記錄で、未だ之を公にせざりしものであるが、今日多く聞くを得ざる領臺當時の狀況を窺ふことが出來るので、今回本號に揭げて之を江湖に紹介することゝした。（編者）

一

明治二十八年五月と記憶して居りますが、私は其の頃栃木縣に警部長を奉職して居りました。所が至急官報の電報が參りまして、「何月何日に水野民政局長が新橋を出立するに依つて貴官は同時に新橋より大本營に出頭しろ」と云ふ命があつた。其の時分大本營は京都に在つた。私は卽時に栃木から夜行で宅に歸り、兩親にも事情を話して行李匆々と出發した。實に咄嗟のことで兩親も驚きましたが、私はさう云ふことを心竊に期待して居たので敢て驚きませぬ。所が何を申しても一夜のことで非常に忙しく、殊にもう之が兩親の顏の見納め位に決心しました。扨て滯りなく新橋を立つて水野氏一行と京都に參りましたが、京都大本營で「高等官心得」と云ふ辭令を戴きました。其の時分には隨分亂暴なもので、私は未だ在官中であつたのだが、ナニそれで宜しいと云ふことであつた。夫れから約一週間にして京都を出發し、廣島で約一週間滯在しました。そこで臺灣總督の假官制を拵へたが、其の帷幕には不肖なども其の一人であり、牧朴眞・大久保利武・西鄉菊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次郎・木下新三郎・今商工銀行の頭取である木村匡君、其他樺山資英・さう云ふ連中で臺灣の假官制即ち民政の官制を、吾々が内閣員の積りで廣島で拵へました。さうして臺灣に於て之を施行しなければならぬと云ふことで其の草案を携へて出發した。無論總督も御承知のことである。さうして御用船横濱丸・熊野丸・土曜丸と今一隻で、私は輸送指揮官と云ふ名義で、然し途中で更代して、さうして基隆に著きました。其の際既に北白川宮殿下は三貂角から御上陸で、臺北附近の敵を掃討せられましたが、夫れより前、右の掃討を了る迄は海上で待てと云ふことで、海上に漂ふて居つたのが約三四日で御座います。當時の日記を只今持參せぬが、夫れが何でも六月の始め頃と思ひます。さうして二三日する内に李經芳が辨理委任として臺灣授受の任務を以て參りました。さうして樺山總督一行と船中に於て條約を交換した。それは私も船の中で觀て居りました。何でも陸上で授受する筈であつたのが、臺灣に於ては劉永福其他の連中が既に共和國を組織し、日本軍が來ても決して渡さない、何處迄も吾々は抵抗する、と云ふて居るので自分が行けば殺されるから、どうか海上で授受の手續をしたいと云ふ本願に因つて、樺山總督も承諾されて海上で交渉されました。

二

斯くて一二日を經て、最早や基隆附近の敵を掃討したから上陸しても差支ないとなつた。ソコで總督一行と上陸したのが確か六月六日頃と思ひます。北白川宮殿下は吾々に先立つこと數日、既に三貂角から基隆にお出になり、あそこの稅關に御著きに成つて居られました。吾々一行も取敢へずそこに參りました。一行は中々澤山の人數で、幹部高等官約三十名、判任官百四五十名、憲兵百四五十名、夫れから人夫・大工等種々の人間が大凡百名も居りました。それが一時に上陸し、剩さへ三貂角の兵隊も澤山に來て居つて實に混雜を極

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

め、判任官當りは殆ど露營のやうで、市中到る所の家は釘著けにされ或は夫れが壞はされて居ります。實に慘憺たるもので、隨分田圃の中には屍骸もあつたやうです。うつかりすると狙撃されると云ふので中々落著いても居られない。それで私は高等官待遇で金の徽章を著けて居たが、差當り椅子もなし、稅關の土間に席を布いて其の上に居りました。殿下はお著になりましたが、三貂角から御上陸遊ばして艱難辛苦を遊ばされ、實に後醍醐帝が笠置山の御艱苦を嘗めさせられたことも斯くやといふ事を承りまして、吾々共一同は勿體ないと思ふて居つたのであります。是に於て諸君に一つ申上げて置きたいことは、臺灣の支那兵が逃げるときに、井戸に悉く毒藥を投じたと云ふ噂さがあつた。然るに稅關には獨逸人が居りまして、稅關の井戸を試驗した結果、毒は入れてないと判つた。が何を申しても悲いかな一度に大勢參つたのであるから、之を勝手に飮ませることになると、倐ち井戸の水は無くなる。それで御飯を炊くのと、茶と汁を拵へる外には一切使用はならぬ、と云ふ命令で番兵を附けて居る。或る夜私が俄かに腹痛を感じて如何とも仕方がない。倅が東京出立の時寶丹を私に呉れたのがある。それを飮まうと思つても水も湯も無いので、惡いことゝは知りながら、深夜には井戸の番兵も居るまいと云ふ考を以て、瓶を持つて私は深夜中に井戸端まで拔き足差足で參りました。所が番兵も居ないやうですから水を汲み上げて將さに其の水を瓶に移さんとする刹那、大喝一聲「誰れだ」と云つて誰何するものが出て來ました。さうして著け劍で私に差向けたときは實に驚きました。何で斷りなく水を汲む、誰れだ、と云ふ。私は月明りに番兵に對して事情を語り、併て夜分に起しては御迷惑と存じ、藥を飮むのだから別に差支ないと思つて汲んだ。甚だ面目ないが君どうか飮まして呉れぬかと言ふと、其の兵卒は中々判つた人で、困つたナア隊長から叱られるが默つて居て下さい。それは無論の筈。チヤア好うがす。貴方は藥を飮むと言ふのでしやう、それなら瓶一杯は要るまい、半分で宜しからうといふ譯。其の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時分の水の大切な事、土一升金一升と申しますが、其の時分の基隆の水の貴いこと又た水の乏しいことは之を以ても分かる。さて其の兵卒が藥の水なら瓶に半分で可からう、外の水は元の所に返せと云ふ一言で、私は其の通りに致しました。室に歸つて飮みました所が藥の效か、母のお蔭で兎に角腹痛も止みました。翌日は臺北に入城と云ふ命令を受けて居つた。ア、仕舞つた。今の兵卒の名を聞き損じた。實に彼は恩人である。之を聽くとすれば水を汲ましたことは分るし、明日は早くから臺北に行かなければならぬ。實に殘念なことをしたが兵卒の名も聽かずに臺北へ出發した。夫故に基隆と云ふことを聽きますと直ちに兵卒のことを聯想したので、其の時分には其の水を得て私の苦痛も癒つた、實に私は恩人と思ひます。其の恩人には將來尠くとも年賀狀でも交換すると云ふことは之は人間としての當然の義務と思ひます。これは私の一生の不覺と思つて今以て殘念で堪りませぬ。

三

宮殿下には既に御先發で基隆を御出發あつて臺北に御入城になつた。吾々は基隆から臺北に行くにも步行せねばならぬ。汽車はあるが到る所レールを破壞され、機關車は潰ぶされ、列車は其の儘である。之に應急手當を施してレールを修繕したが、それを人の手で押さなければならぬと云ふので、非常な手配をして出るやうになつた。列車と謂つても小さい幅で長さも短い、それに一行が乘つて人夫に押させて臺北に參りました。話が後に戻りますが、臺灣の總督府假官制を廣島で拵へたときに人の役割を致しました。其の時分私は多年内地で警察に從事して居つたので、「君は警保課長になるが可からう」と云ふ話、それは牧君の話であつたが、私は御免を蒙りたいと言つた。其の時に警視廳の千々岩英一と云ふ人が居て、風采も良し且つ適任で

あらうと思はれたので、私は他の事に使つて貰ひたいと云ふことで、警保課長には此人を推した。それなら何が善いか、私は經驗はないが土木課長にして貰ひたい。臺灣は道路が充分開鑿してないと思ふから一つ三島流で速成道路を拵へたい。それには技術も何も要るまい、何でも氣短かな者にやらせたいといふ事であるから、私はどうか土木課長にして呉れと云ふことで、さう云ふ相談合ひで私は土木課長心得で、然し其の時分は軍政時代であつたから軍の附屬員と成つて居りました。さうして臺北に來て見ましたが、今日から比較して見ると、當時の臺北城内の亂脈さは何とも彼とも形容も出來ず、到底言葉にも盡くせざる狀態であつた。恰も火事と地震と洪水とが一緒に襲つた後のやうな有樣であります。それで內地から伴れて來た人は無く、僅かに先發隊の者が居る計り、家と云ふ家は人は皆な逃げて居らず。物を賣る所もなし。何うすることも出來ず、非常なる努力で、種々な所を宿舍となし、さうして元の舊廳舍の所に總督以下が陣取りました。其の頃の賄方は兵站部が附かなかつたので、約二週間の間と云ふものは殆ど飯の煮へたものを食つたことがない。何時も生煮へ計り、副食物は勿論である。殊に食器も揃はぬので手の掌に飯を摑んで食うと云ふやうな有樣であります。何分私が總ての賄を引受けて居たので苦情が百出して堪らない。所が或る日のこと、其の時分の管理部長なる人が、君方はさう我儘を言ふてはゐかぬ。殿下のことを少しお話しましやう。殿下には毎日〳〵罐詰や何か計り召されて居られるので、如何にも恐れ入るから何か調理して進せると、「もうそれには及ばぬ、宮も皆と同食を取る、今日丈けは折角であるから、然し以來は持つて來ても食はない」と仰せられる。此の事を承ると、食事の不平は起らないぢやないか、と云ふ一言を聽いたときは實に吾々は無量な感に打たれまして、實に宮殿下でさへ斯う云ふ場合には士卒と共に食を同ふされると云ふ難有い思召であるのに、吾々が食物のことを彼此れ不足を云ふことは實に間違つて居ると云ふことを一同に感じました。夫れから以來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふものは決して食事のことに就ては何等不足を申す者もありませんでした。昔から名將などは能く士卒と食を同ふした。夫故に士卒が皆君の馬前に討死しやうと云ふ氣になつた。宮殿下は實に其の邊のことに天稟の御徳を有せられた。實に勿體ない程お氣を附けられました。其の當時、「殿下」と云ふ二字を承はると、皆何も申しませぬ。こゝが日本人の偉い所と其の時分皆涕を流して居りました。其の後のことを申上げると、とう／＼御薨去になりましたが、宮樣がお出になつてこそ臺灣も早く治つたかと思はれる、如何に名望ある將軍でも軍略ある將軍でも、あゝ云ふ譯には參りませぬ。宮殿下の御謙德は實に何ともお話に申上げることは出來ません。

四

私は宮殿下に就きまして成るべく多くを申上げたい。と云ふのは、私は群馬縣の警部長をして居りました時分に、北白川宮殿下には御息所と一緒に屢々群馬縣の湯川の温泉にお出になりました。其の縣廳の所在地に臨光閣と云ふ所があります。倶樂部のやうな、割烹店のやうな所で、そこに御立寄りで、何時も知事や私などは御前に伺つて色々お相手を致しましたこともあります。其の時分は私は禁酒して居りましたときですが、時々御手づから徳利をお取り遊ばして「宮が注ぐから一杯飲め」と云ふ御沙汰もあつた位であります。洵に平民的なお方で、何かと仰せられて「面白い話でもあるならば聞かせて呉れ」との仰せであります。お還りには何時も私は職務としてお見送を申上げて居りました。其の列車中でも御遠慮申して次の室に居りまするると、お附の者から喚びに參ります。殿下がお呼びであるからと申すので御伺ひ致しますと、「淋しいからこちらに這入れ」と仰せられ、何呉れとなく御訪ねを蒙つた次第で、私は宮殿下には以前から御殊恩に預つた譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であります。それでありますから總督府の室の後ろの方に別室がありまして、殿下が其所に在らせられました時分、一夜畏れ多いとは思ひましたが、副官に事情を申して、どうか一度、宮殿下に拜謁を願ひたいと申出た所が、副官が取次いでくれまして、直ちにお許し下さいまして、一度御面謁したこともあります。其の當時「夜は淋しいから來て面白い話を聞かせよ」との仰せでありましたが、私は土木課長の職務であります。其後時々御伺ひしたいと思ひましたが、寔に忙しい身體で迚も御伺が出來ませぬ。其後間もなく、………約五十日位と思ひますが臺北に御滯在で、………夫から南に御進發になりました。其の時分に拜しまするとヽ洵に内地の温泉などにお出のときとは違つて、お瘦せなされて、殊に南の方にお進みのときなどは如何にもお窶れで、何か御不例のやうにお見受けしました。其の時に總督から一度お諫めのやうにも記憶して居ります。けれども「宮は其の爲めに來た身體だから心配して吳れるな」と云ふことも承りました。さう致しまして御承知の如く十月になり、三箇月目に臺南に於て御薨去になりました。其の時分の一般の悲哀愁傷は何と申上げて好いか、寔にひどいもので、と申すのは、東京邊りで斯く〳〵と申しても人が痛切に感じませぬが、皆面のあたり殿下の御言行に就て承知して居るので、一際深く憂へに沈み、悲哀に暮れた次第であります。

五

話變りまして私は土木課長心得として居りましたので、井戸を三つも四つも掘りましたが水の出る所も出ない所もありました。又た家の方は土人の大工などを捜してやりましたが、私の指圖で建てた家は壞はれさうな家なので、同僚などから「土木課長の建てた家は直ぐ壞はれさうだ」などヽ言はれました。中々其の時分のことは非常な亂雜で、私は大きなステッキを提げて朝から晩迄人夫を指揮して居る。中々衛生設備其他の

ことが繁忙であるのに、部下と云つては僅か一人か二人であるから、大工や苦力も中々言ふことを聞きませぬ。それで私のことを雷課長々々々と云ひます。板壁に白墨で「雷は鳴るときばかり跡青空で何事もなし」など、落書をする。中々其の時分は非常な苦心をしたものであります。恰度木村匡君が秘書官で私は同室に居りました。其の時分は大分整頓して來て大工に色々な物を拵へさせ、飯臺のやうなものも拵へさせた。其の時分の蠅の多かつたことは實に驚く計りで、一人食ふ間は一人が追ふ。其後小使のやうなものを一人高等官に附けて夫れに蠅を追はせた。其の蠅の多いことはどうしても仕方がないので、一策を案じて室の中に長い繩を吊つて置く、日が暮れるとそれに蠅が眞つ黑に止まる。それを取るには新聞紙で長い袋を造り、椅子を臺にして下からずつとかぶせ、上の方でぼつと締める。さうすると何千の蠅が一つの袋に這入るのでワーンと云ふそれは恐しい聲を立てる。毎晩〳〵さう云うことをして、軍人は敵の掃討、吾々文官は蠅の掃討と云ふやうな次第であつた。今日來て見ますと臺北は實に結構で、殆ど隔世の感がある。其の時分のことを考へると何とも申上げられない。殆ど言葉にも筆にも盡くされませぬ。其の中、民政も稍や整頓に着くやうになりまして、恰度六月十七日に始政式を擧行しました。今日其の日を紀念日として居ります。それで追々民政を施行して居りました所が、餘り安心し過ぎまして丁度二十八年の大晦日の事です、明日は元日と云ふので心を許して眠つて居ると、深夜に大變だ〳〵と言ふて人夫が走りますから、何事かと聽いて見ますると、今土匪が起つて城の中に這入つて來る、早く仕度しろと云ふので、夫から驚きまして城壁に登つて觀ると、もう殆ど臺北城は重圍の裡に陷つて居るやうな姿で、土匪は松火を振り照らして夫れが追々肉薄する有様は潮の如く、城外はずつと輝いて居ります。それは彼等が豫て吾々を一つ殺してやらうと云ふ計畫の實行されたもので、兵隊が居るときは彼等は遠慮して居つたが、生憎總督府の不覺で、交代兵が基隆に到著しない前に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

守備兵を出帆させた。其の虚に乘じたのと、夫れに元日であるから油斷をして居たので、やつて來た。サア守備兵はなし、僅かに憲兵計りである。夫から總督の所に參つてどう云ふことにしたら善いか折角協議中である。ア、云ふ總督であるから多少御憂色が現はれたが、直ちに備急隊編制を命ぜられた。それは兵器も何もない吾々個人の刀脇差で、人夫は城内の竹を削つて槍を造る。豫備中佐の某が其の隊長になり、私は中隊長、大久保利武氏も中隊長で、刀を兵兒帶で提げ、城を枕に討死すると云ふのである。さう云ふ次第で非常に驚いて最早や死を決して居りました所が、幸ひ二三日を竢たずして交代兵が基隆に上陸し、又た新竹からも援兵が來ると云ふことで、土匪は皆な解散しました。

六

其の時分の吾々の覺悟は如何と云ふと、眞に今度は助からぬと決心すると妙なもので、私のやうな者でもあの場合になると覺悟が決まります。唯々如何にして「斯う云ふ工合にして殺された」と云ふことを内地の父母に之を報告しやうか、又た官邊に此の報告をどう云ふ風にしたら可いか、と云ふことが非常な苦心で考へられた。が誰といふて夫れを告げに行く者がない。どうしたら可からうと云ふので、誰か一人重圍を脱して基隆邊迄行く者は無からうか、さう云ふものは誰も無い。で、遽かに書置をした。實際其の位に決心をしたのであつた。私は數年警察に居りましたので、此の事變に就て、土匪が斯う云ふ交代の機會に乘じ、又た日本人の大晦日元日に襲來したと云ふのは、彼が城内の樣子を知悉せるが爲めで、何れ城内に賊の密偵が居るに相違ないと思ふて居りましたが、恰も私などゝ同感の者が居り、既に憲兵の方でも、どうも玆に居つた大工が甚だ怪しいと睨んだ。大工と謂つても甚だ其の技が拙なかつたが、偖て斯う云ふことになると、其の技

の拙いものは眞の大工に非ずして密偵として總督府に這入つて居つたので、所謂四十七士の義士が敵を取る爲め吉良の邸内に潜み、其他種々の苦心をして内輪の模樣を探つた例もある。乾度その大工は密偵だらうと云ふ議が多くなり、其の大工は城内に住んで居つた確か北門の側と思ひます、そこに行つて家宅捜索をすつかりやりました。所が案の定、發見された盟約書を調べると、土匪が城門に逼つたときは内から城門を開けると云ふ方略で、迚も全體を一時に殺す譯に爲かぬから課長以上重なる高等官を殺戮すると云ふので、其の時分には皆な室々に名前が書いてありましたが、其の時盟約書の中には矢張り木村匡・竹下康之・と云ふやうな風に書いてあります。其の首を取つた者には賞金を遣るのである。私などは今日は斯う云ふ安つぽい人間ですが、其の當時は私の首は懸賞附でありました。幸に免がれて早速其の密偵は銃殺されたのであります。さうして土匪の大捜索を開始して其の場で抵抗したものは斬り、捕へたものは銃殺したことでありまして、此の騷ぎは終りを告げました。

七

其の前に、基隆から此方に參りました時分に、一つの珍談があります。總督から一寸來いと云ふので行きますと「君どうも捕虜が多くて仕方がない」といふ事で、恰度千八百人位と思ひますが、置けば飯を食ふ、此の不便な軍政時代に之を養ふことは容易でなかつた。之は何處かに捨てなければならぬ、との事である。それで總督のお話か面白い「竹下君、君一つ御苦勞だが支那に行つて呉れぬか、捕虜が大分溜つたから何處かに捨てないと困る」といふ譯で、其の方法は八重山艦が來て居る、其他に商船が二三艘來る、憲兵も來る、夫れで「君一つ輸送指揮官と成つて何處でも可いから良さうな所で捨てゝ來い」といふ命である。夫れから私

は淡水に行つて、其の時分にはシベリア單騎旅行で有名な福島さんが中佐位で、淡水の民政支署長であつた。私は福島さんの援助を依頼し、捕虜を淡水に送ることにして一人前米を五合宛與へ、又た支那の役人には總督から捕虜の送還を通じた。偖て淡水で捕虜を汽船に移すにも非常な心配であつた。彼等は海の中で捨てられると思つて居るので、色々と諭すけれども騒いで仕様がない。マアやつと乘せた譯であつた。夫れから陸揚げするには支那沿岸の漁船を徵發しなければならぬ、其の費用として千圓位受取つたのを「ポッケット」にも鞄にも容れて行きました。さうして今の八重山艦に乘つて將さに出發せんとした所が捕虜が大層騒ぎ出して、「どうせ海に投げ込まれて死ぬる位ならば此處で死なう」と云ふので色々諭して出發したか、どうも騒いで仕方が無い。段々相談して福州の手前の砲臺のある島の附近に停船しやうとすると、漁船や何かは恐れて遁げるのが見える。村の者も山を縦横無盡に遁げて行く、夫れから私は士官憲兵四五人と短艇に乘り通譯を連れて行きまして「お前の國の者を捨てに來たから手傳つて呉れ、金は遣るから」と言つて銀貨を斯う見せびらかしました。漸く彼等の援けを得てやつとこさと捕虜を陸揚した。さうして「揚げたらば直ぐ本船に還れ」といふ豫定命令で、支那人を揚ぐるや否や直ぐ本船に還り、無論尻に帆を掛けて軍艦も一令の下に逃げて還りました。それで恙なく還つたと云ふ復命をしまして、非常なお褒めを蒙りました。其の時分のことは色々書いた物もありますが、何よりの證據は、曾て澎湖島の司令官の谷口少將の依頼により一夕偕行社で領臺當時の事を話した事がありましたが、偶然にも同少將は當時八重山艦に乘込んで居て、私が捕虜を支那に捨てに行つた事實を承知して居られ、其の時の人間が即ち私であつた事が分かつた次第であつた。又た軍司令官の柴五郎氏も當時少壯士官で私と共に同船して捕虜を捨てに行つたことも、此の頃柴大將にお目に懸つて初めて分かつた次第であります。箇様に其の當時の少壯士官であつた御兩人に、再びお目に懸ると云ふは實に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奇遇で、此の捕虜の事は竹下が好い加減のことを言ふかと思はれるかも知れませんが、決して虚言ではありませぬ。其の當時の情況は實際さう云ふやうなことであつたが、さう云ふことは今後は誰も知りませぬ。亦聞く人もないかと思ひます。夫故に御依頼によりて御參考の爲めお話をするやうな次第であります。（以下略）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ラッター氏の「臺灣を素通りして」

其の一節——成功せる日本の臺灣統治——

越村生譯

一

翌朝總督府外事課は一日として盛澤山な到底一日に終り切れぬ位の視察日程を私共の爲めに作製して呉れた。卽ち此日は總督府其他の官衙の公式訪問に宛てられたので、私は數時間を眞とに儀禮的な名刺交換と多くの高官訪問に費した。到る所で恒例の御茶攻めに遭遇したが、若し之れがウイスキー・ソーダだつたら私は何んな運命に陷つたことかと考へるとゾッとする。

臺北にある總督府は宏大な建築物の中にありて、惜しげもなく華麗な大理石で飾り立てゝあるが、其費用は三十萬磅だとのこと。建物の前方に屹立した高塔に案内されたので、四周の景色を恣まゝに見ることが出來た。高塔に昇るのに特設の昇降機がある、私共の如き所謂觀光客が四五の階段を昇降するの勞を省く爲めに設けられた外に大した目的もないやふに思はれるが、寧ろ大なる(又代表的な)贅澤品のやうに考へる。塔上で臺北市街の鳥瞰圖や、案内者の熱心な説明で主要の建築物や其他を遺憾なく見た。塔を下つて昇降機を

飛び出したときにフロックコートにシルクハットと云ふ姿に當面して、丁度倫敦のボンド街で「キモノ」を著た人に會つた位に驚かされた。實際スエズ運河以東で始めて見た「煙突帽」なのだ。其冠り主は米國領事で、私は臺灣に來て初めて會ふ白人だつた。

臺灣の白人團隊と云つても極く少數なもので宣教師と英國領事を除いて殆んど臺北に集中してる有様卽ち米國領事を除けば、殘餘は三英國及三米國茶輸出商館、一英、一米一般輸出入商及び一英、一米石油會社の支配人、別に日本人學校に二人の英語教師が居る。臺北には外人倶樂部が有つて部員約二十人だが、冬期茶商も臺灣を離去するので團員は極めて少數となる。

二

私共が臺北に到著した際、總督田男爵は上京不在だつたので、長官を訪問しやうと出掛けたが、軍司令官と同行南部に出張中なので之れも又留守だつた。

總督は親任で、日本の總理大臣の監督を受けて臺灣の政務の統理に當つてゐる。曾つては總督は陸海軍武官から任命されたが、今では文官も選任せられ得ること丶なつて、其權限は著く縮少された。文官總督の場合、臺灣駐屯軍の指揮權が與へられないが、安寧秩序保持の爲め必要と認むるときは軍司令官に援助を求めることが出來る。今では日本に實施せらる丶法律は全部又は一部勅令に依て臺灣に適用せられて居る、而して總督は特殊の場合を除き(此場合にも府令の效力は勅許を得て生ずる)法律の力を有する府令を發することが出來ぬ。

總督官邸は素的に堂々たる邸宅だが、竹越氏は之れが建造に就いて面白い註釋を加へてる。「最初建築費

に對し幾多の批難攻擊が加へられたが自分としては極めて適當なるものと思ふ。卽ち臺灣人は頗る物質主義で、金色燦然たるもの、威風堂々なる軍隊調練、壯重で誇大な儀禮や、堂々たる建物を除いて何を見ても偉大と云ふ感を抱かぬ、唐朝の一支那人詩人が吟じてる「王宮にして壯麗たらざれば何人も帝王の威嚴を認むる能はず」は至言だ。だから臺灣に國威を樹立し、土民の過去に對する追憶憧憬を除かんが爲めには、臺灣官憲が恒久的な宏壯華麗な建築物を設立して以て、日本が臺灣を永久に統治するの確意を示すことは最も適策である。

由來日本人は下級は勿論、所謂上流階級にても質素な生活を愛する人種であるに拘らず、今や統治せんとする臺灣人の心理を良く諒解してる。恐らく日本人は一般人間の心理を諒解してると云つた方が更に適當かも知れぬ。曾て獨乙が其各國派遣官吏の住宅や、華麗なる軍人の服裝や壯重誇大な儀禮等に多額の經費を支出したることは、明かに其外交に成功した一大理由なのだ。然るに我英國の代表特に領事は外國に於て極めて貧弱な生活をしてることを考へるときは、唐朝の支那人詩人の文句を「自國領事に適當な事務所を與へ得ざる場合、外國人は如何にして英帝國の尊嚴を認むることが出來やうか」と言ひ換へない譯にはいかぬ。

他方現在に對する臺灣人統治狀態を改善するの必要がある。日本人は臺灣は母國の延長なりと公言するに拘らず、臺灣人に對して帝國議會に議員を派遣する選擧權を與へないのみでなく、臺灣人が自己の抱負を發表する集會を催さしめない。大正九年臺灣總督府評議會が設立され官民議員が選ばれ、民間から數名の臺灣人が選ばれたけれども夫れは純然たる諮問機關で、其職務は總督の諮問に應じ意見を開陳するのみである。

三

臺灣の開發は大體に於て旣に完成されてる。事實領臺以降二十八年の間に日本人は偉業を果してる。斯る短期間に臺灣と同じ大さの植民地にして斯る發達を示したものは殆んど例がない。實に日本人は巨人の肩に立つ一寸法師のやうな立場でもなく又た他人の築いた基礎の下に臺灣の隆盛を築き上げたのでもない。唯賴みとしたのは臺灣の豊裕なる自然財源だけで、之れも支那の領有當時屢々開發せんとしたことがあつたけれど數世紀間は殆んど未開發の狀態であつた。日本が臺灣を支那から讓受けた當時は殆んど文化的施設がなく、政府は腐敗の極に達し、極めて不安定だつたし、生命財產は絕えず脅かされ勝ちで、地方では土匪跋扈し、隨所に出沒して掠奪を恣にして居た。當時近代式建築物は殆んどなく、都市の衞生狀態は支那人特有の不潔を極めたものであつた。地方病は猖獗を極めた上に、島內には病院の施設なく、所謂漢法醫だけなので、人口の增加は著く阻止された。敎育は幼稚で、當時の鐵道とても不完全なるもの僅に六十二哩、道路は雨天には泥濘脛を沒して通行出來なかつた。港灣とても何ら之れが改善の施されないので貿易は發展せず、農、鑛、林資源に至りては新式機械にて科學的に開發されることなく、豊饒なる土地も未開發の狀態に止まり、東邦山丘地帶に至りては殆んど世に知られず、蕃人が盛んに跳梁を極めたので到底近くことが出來ぬ、況んや之れが征服をや想像もつかなかつたのだ。

之れが卽ち支那人の二世紀間統治した後で、日本人が初めて渡臺した當時の實狀だつた。だから新來の日本人は直ちに幾多の困難な大事業に當面した、實際單に蕃人だけが住居する土地を讓り受けたより以上に困難だつた。と云ふのは各地に於て保守的の支那民族の臺灣移住者から頑强な抵坑、初めは積極的たが、後には消極的となるやふな抵抗を受けたからだ。然し他方から云ふと新來の日本人は二箇の大なる力を持つてた卽ち一は熱心な農夫たる住民で、彼等は一度農業の改善を計つてやるならば、臺灣の發達に極めて有用なも

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のだつた。今一は臺灣は幼羊だと云ふ事實だ。之れより先き日本は多年自國植民地を希つて居た、丁度子供のない女が赤子を欲しがるやうに。即ち一度所有するや如何なる注意をも厭ばざる有樣で、其植民地を養育する上に經費なんか殆んど問題にしてなかつた。臺灣は日本の唯一の子供なので、之が養育上必要なる總ての手段を盡したものだ、若し英帝國のやふな大家族だつたら、無くもがなで、此のやふな充分の手當を加へられなかつたらふ。

四

日本人は最初より臺灣の將來の發達を自覺してた、實際に臺灣が日本に歸する前に既に之れを熟知して居たのだ。最初から彼等は發達に努力し、時間を空費せなかつた。一度臨時共和國が破壞さるゝと共に匪賊は鎭定し、地方は(番人地域を除き)平定したので、日本は民政を布いた。次で裁判所が設立され夫々適當に犯罪は處分せられ一私人とても其不公正の判決に對し告訴し得るに至つた。次で現代式の監獄が設立され、全島に駐在所の分布する警察制度設けられ、官衙の設立と共に、都市の道路及び衛生狀態改善等に對し夫々方法が講せられた。病院設立に五萬磅支出された。水道・堀拔井戸・貯水地が設けられた。虎列拉及び痘瘡の如き地方病の豫防法の講せられた爲めに、今では昔日のやふに燎原の火のやふに島内に猖獗を極むるやふな恐れはない。日本人は明かに人口の增加に好影響を與へたもので、明治二十九年の二百五十萬人から今日の三百二十五萬人に激增した。此增加は勿論移民に因ると同時に死亡率は著く減少したことも大理由だ。今日尚ほマラリヤは流行病だが、都市附近の沼澤地の埋立、排水にして行はるゝに於ては、衛生狀態も著しく改善されるであらふ。

日本が統治するに及んで、生命財產の安全が保持せられ、勞働者階級の經濟狀態も又た比較的良好になつた、卽ち發達に連れ賃金は增加し、遂に今日支那統治時代よりも二倍乃至三倍となり、更に賃金の增加に連れ、農民は其生產高に對し殆んど二倍の收入を得ることを知るに至つた。之れは物價の人工的高騰でなくて、寧ろ各階級を通じて生活狀態の自然の高上である。

五

敎育の問題に對しても充分の注意を拂つた、其結果は既に述べた所だが、そして島民の之に依つて受くる利益は非常のものだ。交通の問題も講究され、電信制度確立され今日電信線路三千哩、電話は都市に施設され其他、基隆と日本との間に無線電信がある。鐵道の敷設又た熱心に講究せられ、更に必要なる道路も開設された。日本人は由來道路築造上傑出せる技能を有せざるものと見做さねばならぬ——余が日本で旅行した道路は大抵粗惡なものか又は、最も良い道路でも可もなし不可もなしだつた——然し可もなし不可もない砂利敷道路でも、土道よりは良く又全然道路なきに勝ることは言を俟たない。臺灣では普通何處でも左樣だが、道路開鑿は早く軍隊が從事した處で、今日道路延長六千哩に上り、其經費は一部は地方稅の形にて人民から支出されて居るが、現在も大都市を離れては道路は良好でない。北から南に貫通する縱貫道路の開設が先般計畫されて、基隆・臺北間にて既に坦々たる大路が完成されたが、今日臺北附近の淡水河横斷架橋が未だに竣工してない。數年前に一橋が架せられたが、流失されてから以降再架設されてない（譯者曰、此の橋は今回再び架設された）。道路開鑿の今日不可能と見做さるゝ山丘地方には輕軌上を走る臺車で以て漸次開發されてる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

船舶航通を容易ならしむる爲めに、現在の海港に大洋航行船舶の出入施設に多額の經費支出された外に、臺灣總督府は日本の二大船舶會社卽ち日本郵船會社及び大阪商船會社に夫々補助金を與へて、臺灣と內地、支那及び東印度諸島間の航通に當らしめてる。此點では今日臺灣は頗る便利で、前記兩會社の巨大な客船が一箇月十二回基隆・神戸間を往復してる外、大阪商船會社の船舶は每月一回基隆及高雄に寄航する神戸・香港・爪哇線を航行し、基隆・上海間に十日每に定期航路あり、又た一週一回基隆・香港間を往復する一船の外高雄・廣東間を二週間に一回航行する線がある。別に沿岸線があつて東海岸各港・澎湖島・琉球列島及び其他の隣接諸島間を往復してる。

六

斯る短時日に斯くまで臺灣が開發されたことは、其赫々たる成果と相俟つて、特に私のやふな四十年間の統治を經たる今日其領域の一パーセントすら開發されない北ボルネオから來たものにとつて特に興味が深い。實に臺灣は健全なる統治及び產業――其最も大切なのが金だが――の方面で爲された點から見て私には實物敎育上の好資料だ。何れの殖民地にしても、健全なる統治が行はれたにしても、而かもそれが民情を改善するにしても、夫れ丈けでは經濟的富を增すものでない。又一方產業とても資金がなくては、丁度牛乳を用ひないで攪拌器でバタを作ると同樣に困難なことだ。

ボルネオ特許會社はボルネオで可成之れが開發上あらゆる努力をしたが、日本人が臺灣で完成したものに比較しては、物の數にも足らぬ。本來ボルネオが臺灣よりも自然の資源に乏しいものとは思はぬ、農業に於ては勿論、木材に於ては更に富裕である然し其鑛物は今日迄の處未だ開發されないが、夫れは未だ大規模に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之を開發せんとするものがないからだ。而かも四十年を經たる今日其地の國道は四十哩に足らないのに、日本人は三十年にも足らない間に六千哩を完成してる。ボルネオには鐵道哩數百哩なるのに臺灣には五百哩、ボルネオには製材所二、カッチ製造所一なるに、臺灣では工業會社は百にも達する、又た會社數二十五に對し、臺灣では殆んど其十倍である。

前述のやうな比較は、私の愛するボルネオを卑下し又はあらゆる逆境、困難を切拔けて勇敢に努力しつゝある特許會社の事業を擯斥する爲めに記したのでもない。唯だ若い未開發の國が必要なる資金を得られる場合如何なる發達を爲し得るかを示す爲めである。特許會社の資本金は二百萬磅であるのに臺灣總督府は背後に日本政府を控えてる。若し假に日本が、小數の英國人の代りに明治四年に北ボルネオを領有したとせんか、全然異なつた現情を示したかも知れぬ。北ボルネオは不幸にして臺灣が有するやうな支那人種農夫てふ大人口を有してないが、日本人は必ずや支那よりの移住民を招致する上に於て極力努力しただらう。土民が如何にして自力で暮したかは別問題だ。

七

若し資金が得られる場合には可及的時間を空費せずして其土地を開發せんとする日本人の方法は正當なるものである。斯る場合政府は荒廢した數室の貸間を所有するアパートメントの家主と同一の立場である。常識ある人なりとせば其家主は其部屋を修理し、電燈を設備し、エレベイターを裝置する。之れが爲め右の部家は直ちに借家人が現れて勢ひ利益が得られる。然し彼れが各借家人の家賃を以て次の室の修繕料を拂ふ考で一回に一室を修理した場合には其收益は實際少額になるだらふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰爭の結果領有した此殖民地を有利に開發する點に於て日本人は何人よりも何ら習得して居らぬ。だから臺灣の今日の成功が日本人自身の頭腦及び資本に依つてなされた所だ然し其勞力は日本人でなかつた事を考ふるときは、其發達は更に一層驚威に値する。ブランド氏が日本人の開發した朝鮮に就いて次のやうに述べてる。

『朝鮮の今日の發達は總て、行政上で、大概の仕事は朝鮮の勞力で完成されてることは明かなる事實だ。之れは日本政府の之れに依つて母國産業を育成せんとの自由政策で其將來を可及的確保して日本製造品の新消費市場たらしめんとするものだ、夫は卽ち銀行及び鐵道の勝利である』。

或る點に於て之は日本が臺灣を發達せしめたる眞髓に類似してる、唯臺灣では砂糖・米及び鹽（世界に供給する樟腦は勿論だが）の如き生産品の將來大輸出あるべきを先見し又た母國生産品の販賣市場たらしむる事を豫想したものだ。同時に茲に記憶せねばならぬのは、日本は大英國が加奈太濠洲及び新西蘭等に殖民したと異なり又は支那人が臺灣に殖民したやうに臺灣に殖民しなかつたことだ。日本人の臺灣に赴くのは勞働に從事するのでなく、丁度英人が錫蘭へ又は米人が比島へ行くやうに、官吏として、商人として又は栽培業者として渡航してる。

南方發展の要訣

文學士　後藤朝太郎

一

南洋馬來の地は、今回自分の遊歷した丈けで見ても、殆ど支那人の南洋卽ち華僑の南洋と斷定しても差支ない位に、支那民族の發展を見せ付けられるのである。此の事實は態々南洋を視察せずとも、現在の臺灣殊に民間に於ける內地人の小賣商人の側を見ても、其の次弟に本島人に依つて取つて代はられんとする一事實を以て觀ても、其の一般を推知することが出來る。夫故に吾人は此の東洋の、寧ろ日本人の發展すべき舞臺に於て、今日其の大勢が殆ど支那民族の勢力の進展に由つて支配されつゝあることを、痛切に見せ付けられて居ると言ふのである。之に對して邦人は宜しく如何にして日本の實力を此の殖民地竝に南洋馬來方面に植

付けなくてはなるぬか、といふ國是を立てることに就て最善の智慧を搾り、之が國策を立てなくてはなるまい。然るに大勢は單に傍觀するのみにして、其の實行期に這入ることは何時其の緒に就くべきか、又た如何にせば之に打勝つ丈けの方法成算があるかを知らない。此點に就て日本內地の識者と云はず、臺灣の內地人と云はず、總て之に全力を罩めなくてはならぬ問題であらう。

此の事實に就て在臺內地人は內地の識者一般に向つて、痛切に今日の事情を陳述し、之に對する具體的の方案を示すと同時に、天下に向つて我が大和民族の取るべき途を、何處迄も國家の立場から高唱する樣にしたいものである。若し此儘にして五年十年と放棄して置くならば、今後は由々敷問題を惹起すに違ひない。吾人は一般に向つて之を希望する外に、總督竝に長官等の有力者に向つても、百年の計を立つることを先づ第一に願ひたいものである。

二

本島人側は被治者としての立場があり、殊に其中でも下級の者は殆ど大した要求箇間敷い聲を、社會の表面に表はして居ないが、事實に於て、魚屋にしても其の他の御用聞きにしても、從來內地人の日常の生業として居つた其のお株を、漸次侵入して取つて代つて居るではないか、事小なるが如く見えて、一葉落ちて卽ち秋を知るの類ではあるまいか。若し今日の民間に於ける本島人對內地人間の小規模の商賣上の事が、此の現狀で進むとすれば、恐らく十年後の內地人は非常な苦境に陷るに違ひない。故に豫め之に對するの方法を當局者の方で立つるか、或は民間で自ら之が方法を立つるに非れば、實力に於て又た其の數に於て、吾人は寧ろ本島人の優勢なるを裏書せざるを得ないのである。若も臺灣が此の意味に於て支那民族對大和民族とつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

優勝劣敗の現象を物語るバロメーターであると見得るならば、馬來南洋に於て日本人が支那人を凌駕して、今日の華僑以上に成功を見るの結果を持來たし得るや否や、之は爰に贅言を須ゐずして明白な事である。箇樣に見ると、日本の發展は南支南洋に在ると云ひ乍ら、事の成否は一に繫つて邦人各箇の努力の如何、又た其の方法の立て方、資本の卸し加減の如何によるであらうが、要は別々に對立的態度を執るよりも、寧ろ共同に出來るならば、此方の資本と彼等の勢力とを一の有機的團體として事に當ることが、南國の天地に飛躍する方法として、日本人側の取るべき途ではあるまいか。無論印度人も馬來人も居るけれども、其數に於て勢力に於て、支那人と合同するの賢明なるに如かないのである。日本人の氣質としては、例の如く小さい乍らも自分一己の瘠腕でやらうとするのであらう。然し夫れは島國的の考である。今日は巳に小さい名譽小さい意地張を楯に、國家の體面などを言つて居る時ではない。事實成算ある事であれば、宜しく支那人の長所を伸ばさせる樣にして、夫れに日本人の長所を適用せしむる樣に、此方から順應すべく努力するより外に仕方はない。

三

人或は言はん、支那流に從ふなんて、怪しからんではないか、雞口となるも牛後となる勿れと。或は又た其の氣持で行かんとするであらう。其の意氣は嘉みすべし、然し夫れで成功者を事實出して居ないから、吾人は餘り其の小さき誇りに對して餘り多くの讃辭を呈する譯には行かぬ。寧ろ如何にして支那の華僑が南洋で成功して居るか、彼等の成功の秘訣、其の成功に伴ふ彼等の堅忍不拔の精神、之を洞察することが必要であり、之を實現せしむるに骨を折らなくてはならぬ。彼等は商業學校を出たのではなし。農學校を卒業した

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

のでもない。何等大學熱に浮かされて居る者は居ない。自分の姓名は發音するも其の文字は知らぬ。斯る低級の如く見える彼等華僑が、著々日本人以上に或は又た英人蘭人以上に立派な成功を遂げて居る。其所にどの位尊い教訓が含まれて居るのではないだらうか。

臺灣に百の大學が出來、千の高等學校が出來ても、彼等の無教育なる而も堅忍不拔なる性行が、百千の大學・高等學校を設け、是等の多大の費用を投ずる事よりも遙かに勝つて、南支南洋に著々成功の現狀を吾人に見せて呉れて居る。爰に總督長官初め官民の眼を注いで呉れなくてはならぬ。大厦高樓の建築が出來る計りが藝ではあるまい。寧ろ進んで綠成す椰子の木陰に自ら渡つて見て、而して赤道直下に倦まず撓まず幾代を重ねて、或は護謨園に或は農園に、或は都市に、其誇りある成功せる事業を示して居ると云ふ事は、如何に臺灣に居る邦人に向つて、何よりも好い視察の對象物ではないか。百人の歐米を視察する官吏はあつても、十人の南洋を視察する官吏は無い。歐米に日本民族が發展して行かれる餘地が何處にあるのか。歐米に見習ふことも可ならん。然し足元の南洋を口先計りで「行けよ南洋へ」と如何に叫んでも「之に渡るのが臆劫である。暑くて仕方が無い。不案内である」と言つて、何時も出不精であると云ふ事は、如何にしても吾人の了解に苦む處である。要之、臺灣に於ける官民が、南洋に經濟的發展を爲し、又た民族的發展を期し得ると否とは、大和民族が南方に向つて伸び得るや否やを判定するに足るべきバロメーターであることを、常に自覺に持ち、少くとも臺灣の今後のモットーは此意味の事を掲げて、在臺諸氏の方針の一つにして戴きたいと思ふのである。旅行中の感想の一端を述べて江湖の敎を仰ぎたいと思ふ。

大正十四年四月二十日臺北を出發して將さに支那に行かんとするに臨みて

支那財政の共管問題と之が改造に就て

木村増太郎

一

凡そ支那國際管理論なるものは、支那が共和政府肇立以來、殊に紛亂寧日なく、中外に向つて到底眞の共和政府支持の能力なきを曝露するに至つてから、一部の外人間より盛に提唱せらるゝに至つたものである。從て其主張は區々であつて、甚しきに至つては支那の內政其ものを管理せんことを力說するものがあり、或は單に鐵道の經營のみを管理せんことを提議するものがあり、又一時的管理を主張し、或は永久的管理を高唱し、一定せないが、結局其所論は財政の窮乏紊亂せるに發足し、焦眉の急は列國の共管を以てするに非ざれば、到底匡救の途がないと云ふことに據るものである。

從來本問題を提唱した主なる論者は、ウッドヘッド、ギルバート、ブランド、ミラード、ベーカー、メーヤスオーヴアラッチ等の諸氏であるが、共管說が支那問題の一解決案として、其價値を認めらるゝことにな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つたのはジエー、オー、ピー、フランド氏が、一九二一年六月倫敦タイムスに於て、支那は支那人の自力のみを以てしては奈何とも出來ない腐敗混亂の極に陷り、而かも支那人自身は此境に安んじて之を脱せんとするの意思はないから、列國の共同干涉に依るの外、支那を混亂の渦中より救濟して、其獨立統一の實を全ふせしむることが出來ないと云ふ議論を力說した以來のことである。同氏の說の要旨は、支那の領土保全とか獨立維持とか云ふことは、現在の狀態では到底永續せらる可くもない。支那をして獨立國たらしめんには、先づ地方より相應なる收入を集め得るに足る有力なる政府を樹立するにある。而して之が爲めには地方の督軍を廢止することが何よりの急務であるが、併し之を一掃して鞏固なる中央政府を樹つることは、支那人に依賴して到底爲し得らるゝ所でない。元來斯る輩を跋扈跳梁せしむることが、適ま支那人に政治的能力の缺如せるを實證するものである。吾人が支那の改革に方つて、外人の干涉の必要なるを高調するは、實に如上の理由に因るものである。併し國際的財團に依つて支那を救ふにしても、財團の組織と其活動方針が明確に規定せられ、且つ關係列國の公平なる共同管理の下に置かるゝに非ざれば、斯のことは竟に不可能となるを免れない。若し國際財團の責任及義務が、明確に協定せらるゝに非ざれば、財團は從來の如く最も抵抗の少ない方向にのみ奔り、其結果たるや支那の損失となるは疑を容れぬ。世上往々民族自決主義なる標語に眩惑せられ、外間から支那に干涉の手を伸ぶるよりも、寧ろ支那の自發自決に放任す可きものであると主張する一種の夢想者がある。併し此儘に推移せんには必らずや支那は破滅の外なく、滅亡より救はんとすればこの問題は起るのであつて、然らざれば何等問題の起るやうはない。而して之が爲めには是非共外國の干涉を必要とするのである。併し外國の干涉と云ふも、實は決して新奇なる事象ではない。卽ち例へば財政の管理にしても、現在の外人の關稅及鹽稅管理をして、更に其範圍を稍擴張せしむるに過ぎないのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上のブランド氏の提唱以來、共管論が一層盛に力說せらるゝに至つたが、其要旨に至つては、同氏の所論では以て十分に盡されて居る。併しフーヴァー氏が國際清算局の設置を提議し、北京リーダー紙が國際的調査機關の設立を唱導した外、鐵道共管に關する問題を除いては、一般の國際管理に付て何れの諸說に於ても、何等之が實行方法を指示する所がない。唯キルバート氏が中央政府承認撤回論を力說し、ウッドヘット氏が實權を有する事務次官に外人を採用すべきを主張せるに過ぎない。

支那の各般の革新、殊に財政の刷新に至つては、何時支那の自力を以て達成し得るや極めて覺束なく、此儘に推移したならば自ら破產するの外ないから、何等かの方法に依つて外國の助力に俟つを得策とするは、最早論を須ゐざる所である。而して列國も亦支那の財政を救濟せんが爲めには、從來の如き一時的姑息の策を採るは、反て益々財政の紊亂を助長し、救ふ可らざる深淵に陷るの結果となるを以て、須らく支那の財政を窮乏に導いた其根本の缺陷を多少たりとも改めしむることに對して助力するを得策とする。之が爲めには一時一種の國際監理を爲すを適當とすとの議論の立たぬことはない。併し對支干涉論が理論上認容さるゝにしても、實行の能不能は一個の大なる疑問である。國際監理は、列國の協調即ち或る程度まで各國の利害を犧牲とすることを前提とすることに由つて、纔に其可能性を認め得るのである。單なる國際清算局若くは調查局の設立は、國際監理の前提たる價値を有するに過ぎない。一種の對支ドース案を設定實行するにしても、之が實績を期待するには、列國の利害關係は獨逸賠償問題に對する如く深刻でない。一體外力に依つて他國の改造を企つること其自身が、合理性に乏しいのであるが、殊に列國協調の下に之を行はんとするが如きは、至難の業たるを失はない、又假令列國の協調が或る程度まで行はるゝとしても、支那の國民間に自國の改造に對して眞摯にして熱烈なる欲求が瀰漫して居なくては、到底有終の效果を全うすることが出來ない。世上

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

動もすれば國際管理も一時的ならば、之を是認せんとするの論者があるが、併し何時果して支那人自らが國際管理に依りて建てられた獨立統一の政府を、全然外國人より離れて支持することが出來るやうになるであらうか、若し之が近き將來に期待せられないならば、一時的なるの故を以てのみ之を是認するを得ない。支那の政治狀態の今日あるは、支那人に政治上の智能や訓練が缺如して居るが爲めのみでない以上は、一時的の國際管理に依つて遠からず自立の域に達し得べしとは惟はれない。現に鐵道の如き外人の手を離れたものは、間もなく非常なる不成績に陷つて居る有樣である。加之支那に於ける傳統的尙古の氣風は、後にも詳述する如く著しく諸般の革新を妨げて居る狀態であるから、一事一物と云へども短日月の間に改善の實を擧ぐることは容易ではない。現に廢督裁兵の實行にしても、今日の如く產業起らず、勞働過剩の狀態であつては、軍隊を解散しても、之をして正業に就かしむることが出來ない。元來正業を有せない土匪や苦力の輩より募集したものであるから、矢張り元の彼徒の群に投ずるの外なきに至り、何時までも平和を回復することが出來なくなるのである。去りとて此種の浮浪の徒を無くすると云ふことは、決して短年月を以て出來得べきことではない。一部の論者が、關稅並に鹽稅が殆ど支那の管理を脫して、外人の手に歸したが爲めに、全然其面目を一新したやうに、其他の收入に於ても進んで外人の管理に委するを得策とすと主張するが、關鹽稅改革の成功は、殆ど他國の容喙を容さぬ獨占的制御の下に置かれた一種の單獨管理の結果であると共に、斯の如くにして若し關鹽稅は英人に、郵政は佛人に、次で更に煙酒稅は米人にと言ふ如くに管理せらるゝに至つたならば、自から各國の行政的割據が示現せられて、遂には勢力範圍の占守と同樣の弊を釀成するに至る惧がある。之を要するに共管は國際上の協調に於て大なる障碍があるのみならず、假令此障礙を除去し得ても、支那の國民間に自國の腐敗混亂を匡救せんとする眞劍なる熱求がない以上は、徒らに支那人の自尊心を傷付

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けて、紛糾を重ねしむるか、然らざれば益々彼等の自發心を抑制することゝなり、全く豫期に反した結果を招來することゝなるに相違ないであらう。之を要するに支那の改造に對して列國が助力を與ふることの必要なるは、多くの識者の認むる所であるが、如何なる方策を以てせば、支那の主權を侵害することなく、其強烈なる自尊心を傷くることなく、且好く各國の協調を保つを得、而かも十全の結果を期し得るかと言ふことが、問題となるのである。而るにブラント氏を首め何れの論者も支那の行政乃至財政に對する一般的管理に關しては、何等其方策に付いて論述する所がないが、上來叙ぶる如く之が實行の根本に於て至大の困難が横はつて居るから、一般的の共管は言ふ可くして行ひ難き懸案たるを免れない。

二

鐵道の共管に付ては、ウッドヘッド、ミラード、メーヤス、ヘーカー等夫々之が實行方法を提唱して居る。而して其論ずる所は、何れも支那の鐵道政策上從來の如き特許主義に依るは、弊害甚しきを以て、此種の宿弊を一掃すると共に、更に鐵道經營上の效果を全からしむるには、全國の鐵道を回收して凡て國有となし、一鐵道體系を形成すると同時に、主なる各國の協力に依て或る種の管理を爲さんとするものである。勿論管理の方法及範圍に至ては、各家の意見必ずしも同一でなく、ウットヘッド氏は、外債を完濟するまで、外人專門家を含む中外鐵道管理局を設けて、全國の鐵道の經營に當り、而かも其關與する外人の地位は、英國に於ける事務次官の如く、部下を指揮監督して大臣の裁定した最高政策を實際に執行するの實權を有するものでなければならぬと主唱するのである。之に對してミラード氏の説は、先づ支那政府をして資金を調へて全國の借款鐵道を回收せしめて、新に敷設せらるべき鐵道と共に、中央鐵道省を設けて其管下に屬せしめ、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中央鐵道省は交通總長の管轄として、日英米佛支より選出せられた委員を以て組織し、支那の鐵道が安全なる投資物として世界の鐵道と徑庭なきに至るまで、之を共同管理せんとするものである。尚交通部顧問ベーカー氏の建言に依れば、萬國鐵路團、國際合資鐵路公司若くは萬國委員會を組織して、既成線路の買收及新線の敷設を爲さんとするもので、之が爲め萬國鐵路團設立の場合には、各國及支那政府より各代表一名を選出せしめて組織し、債票を發行して資金を調達することゝし、國際合資鐵路公司を設立するときは、各國の銀行團を以て組織して、各其出資に依つて事業を遂行することゝし、萬國委員會を設くる場合には、各國及支那の選出委員を以て組織し、資金は支那政府をして調達せしめんとするのである。又中英公司の代表者メーヤース氏の提案では、中央に國際管理局又は國際管理委員會を設けて、鐵道の收支を監理せしむると共に、材料の購入を監掌せしめ、各線路には技師長兼總支配人たる可き外人を配し、且其下に會計主任、保線監督、運輸主任、機關監督及材料監督を置き、各外人を以て之に充てんとするものである。

以上各種の提案に對し、支那政府に於ても、一九一九年一月巴里講和會議に對する提案審議會に於て、鐵路統一案を討議し、結局既成未成の各線を統一して一體系とすると共に、其資本及債務をも合一して一總債となし、外國專門家を任用して交通部の指揮の下に共同經理に當らしめむとの案を立てたが、曹汝霖及陸宗輿を中心とする所謂新交通係の反對の爲めに、遂に具體化するに至らなかつた。

之を要するに支那の鐵道は、之を系統的鐵道網に統一するのみならず、其經營を根本的に改善するを緊要とすると共に、之か爲めには是非外國の助力に俟たねばならぬことは、內外の齊しく認むる所であるが、如何なる方策を以てせば、十全の結果を期し得るかと言ふことが、一般の財政管理同樣最後の問題となるのである。勿論叙上の各說は、何れも其圓滿なる實行をさへ期し得れば、其結果各國の勢力範圍竝に政治的特權

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を排除し、純然たる機會均等主義を樹立し得ると同時に、列國の支那に對する危惧を去り、鐵道の發達を期し得るや疑を容れないが、併し論者の言ふ如くに中央に如何なる種類の管理機關を設定し、地方に幾人の監理官を設けてみても、現時の如くに幹線鐵道が恣に單用に供せられ、營業收入が自由に督軍の爲めに使用せらるゝが如き狀態では、到底此種の機關を以てしては奈何ともすることが出來ず、結局管理の目的を達成するを得ざるは、疑なき所である。於是乎適當なる警察力を組織して、車輛の沒收、線路の盜用及金庫の掠奪から、支那の鐵道を保護するの必要を見るのであつて、ラウンド、テーブル誌（一九二二年十二月）の如きは、鐵道の警備は支那改造の凡てゞはないが、支那の改造に際して最初に必要とする措置たるを失はない、若し根本の鐵道警備だに完全に行はるれば、他の枝葉の問題は自ら解決せらるゝであらう、とまで極論して居る。蓋し至言たるを失はないが、果して同誌の提案の如き、外人の警務總長及一部將校の下に支那人の警備隊を組織することに依て、如上の軍閥の橫暴を防遏するを得るや否や、頗る疑問たるを失はない。要するに鐵道經營に對する共同管理上、縱へ列國の協調が圓滑に保たれたにしても、如上の形式的の組織では、或る程度まで官吏の非行を監督し、土匪の掠奪を防遏する位のことは出來ても、彼の紊亂頽廢せる國情の下に於ける秩序の維持、交通行政の統一を期することは、蓋し至難たるを免れない。若し之を徹底的に行はんとせば、遂には列國の軍隊を全國各地方の要區に配置するの外なきに至るであらう。元來支那百般の政治を閑却して、而かも交通行政の改革のみを行はんとするも、畢竟徒らに空論を戰はすに了るのみで、政治の基本確立し、國內の統一完全するに非ざれば、鐵道行政の改善の如き到底言ふ可くして行ふを得ない。

勿論中央政府の實力を充實するには、財政の改善を先決の急務とし、財政を改善するに當りて、其國情並に財政組織に照して、歲入の多くを一般文明國同樣の財源に求むることは實に至難であり、勢ひ主として關

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

稅收入並に鐵道收入等に賴らねばならぬから、外國との借款關係を離れても、鐵道行政の改革は支那の急務とする所たるを失はないが、各國の行政的割據は弊害多く、純然たる共同管理は到底國際關係上十全を期し難く、而かも支那の自主權を毀損することなくして管理の實を擧げることは至難であるから、或る程度の國際的援助を以て滿足するの外なからう。

三

前號以來叙ぶる所に依つて觀るに、支那財政の今日の危機に瀕するに至つた所以は、元來其財政組織の不統一であつて紛糾錯雜せると共に、財政方針が亦た不徹底であつて、亂雜極まれるに、更に民國以來政治の基礎殆と崩壞し、國家統治の中心なきの態を呈するに至つたが爲めに外ならぬ。世上往々支那の豐富なる經濟資源と人口とを基礎として、其財政の何等悲觀するに足らざるを高調する論者が少なくない。現に前揭財政整理案を提議せし支那政府顧問バッー氏の如きも、各國一人當りの租稅負擔額が、英百七十元、佛九十元、伊二十四元、白三十元、米百二十元(聯邦課稅額のみ)、日十六元であつて、其他東洋諸地方の屬領等ですら、比律賓七元半、佛領印度支那五元半、暹羅九元半、蘭領印度十五元であるに、獨り支那は僅に一元五分の一に當るに過ぎない。公債の如きも近年遽に激增したとは言へ、一人當り負擔額は、英千四百四十元、佛千三百十元、米四百三十三元(聯邦公債のみ)、白百十二元、伊百九十元、日五十元なるに、支那は僅に四元一角五分に過ぎない。從て唯政治上の地位にして適當に改善せらるゝに於ては、財政上の困難の如き毫も意とするに足らないことを強調して居る。勿論支那の國民が幾干の國費を負擔せるやは、到底之を審にするを得ないけれども、其實際に徵して彼等の經濟力に比するも必ずしも過重でないことは瞭かである。併しいかに財

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

源が豐富であつても、政治の基本が樹立せられず、組織の根本に上來叙べた如き至大の缺陷が存在しては、いつまでも今日の窮狀を脫却するを得ない譯である。凡そ國內が麻の如くに紊れ、國家統治の根本確立するなき支那の現狀に於て、政治の基本を看却して、獨り財務行政の刷新をのみ圖らんとするも、到底能はざるは火を睹るよりも瞭である。

然れども彼の尨大なる國土に、數億の民生を包有し、幾千年の歷史を閱したる其實際に就て觀るに、支那の政治上の統一の極めて至難なるを惟はざるを得ないのである。史上漢といひ唐といひ元明淸といひ、全國の統一時代も必ずしも少なくないが、分裂割據の時代爭亂分立の時代も亦決して短くない。而かも其統一時代に於ても、中央の威令が全國に普及し、地方財政を自由に管理し得しは、一王朝の初期長くも百年を出づることがなく、古來集權的國家の出現せしは極めて稀である。唯明淸時代が支那固有政治の最も發達した時代であり、比較的支那の社會に融合せし政治の行はれた時代であつた。併し革命の亂に依つて、從來淸朝が強弩の末勢で辛ふじて維持して居つた形式上の求心力を全く破壞して、數百年來漸次惰力で以て盛になつて來た遠心が出現して來たのであるから、今更世界の大勢に逆行した舊政治が、倘行はる可くもない。

何故に斯の如く支那の統一が困難であり、殊に集權的國家の成立を至難とするかといふに、勿論少なからず各地間事情を異にする廣大なる國土に、劃一的政治を行ふことの殆ど不可能なるにも基因するが、寧ろ根本の原因は、支那上下の國民間に國家思想乃至政治思想の缺如せる點に在る。蓋し支那にては古來國と云ふ文字はあるが、それは諸侯王の國と云ふ程度の意味であつて、全國を包擁した國家的意義を有するものではない。事實又支那は、古來國家としてよりも寧ろ大なる社會的集團として存立の歷史を保有し來つたものである。而かも加ふるに支那の政治は、古來德治主義の政治であつて、直接社會民衆の實際生活に干涉せず、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

治めざるを以て治めるとか、無爲にして化するとか云ふことが、政治の傳統的理想となつて居つたから、勢ひ政治は國內に普及せず、全く讀書人の遊戯となり、一般人民の實生活とは全然沒交渉のものとなつた。其結果自つと人民間に自治制度が發達し、漸次政治上の保護を必要とせざるに至つたものである。而して殊に近代の制度としては、前にも叙べた如く中央地方官廳各相互間直接の隷屬關係なきを特色とし、國家の官吏をして互に相牽制して、以て私に權勢を香ふことなからしめんと企てたが爲め、獨裁政治としては理想的であつたが、其臣僚なるものには何人にも完全なる權力がないと同時に、十分なる責任もないと云ふ有樣であつて、就中地方官の如きは何人も自己の出生地に於て任官するを得なかつたから、勢ひ地方人民の利害休戚を念とすることなく、其重要職務たる徵税權を利用して一意私利を圖るの態であつて、而かも其間官吏に非ざる胥吏なる者があつて實際の政務を執ると云ふ、私慾を恣にするには極めて便宜なる行政組織になつて居るのである。從て其結果遂には人民は政治を害惡視し、之を逃避せんとするに至り、租税を納むるは、宛も土匪群盜に對して貢納金又は贖身銀を支拂ふと同一視するに至つたのである。斯くして地方人民は益々官の保護を受くると云ふ念慮を失ふと同時に、自つと保甲制度や組合制度(ギルドシステム)が發達して、民政上必要なる事業、例へば救貧、育嬰、學校等の事業は勿論、甚しきは警察業務に至るまで、凡て自治團體の力を以て遂行するに至つたものである。されば畢竟近來の支那は、一つの大なる國とは云ふても、實は小なる地方自治團が各區畫を成して居つて、是れのみが生命あり體統ある團體であるので、人民は全然政治を離れて爰に生活の根底を置いて居るものに外ならない。從て支那に戰亂が起り騷亂が生じても、それは政治を遊戯とし若くは職業とする少數の人民間の爭であつて、卽ち社會の極めて表面の一部分の波瀾に過ぎないので、社會の內部實質を構成して居る大多數の人民には直接何等の交渉を有せざるを常とするのである。斯の如く支那の多數の人民

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が消極的に國家乃至政治を否定せるを以て、假令支那の敗政乃至一般行政が國際的の管理を受くることゝなつても、國民の實生活には殆ど沒交涉であるだけ、却て支那の自發を妨げ、有終の效果を全うすることが出來ないのである。夫れよりも寧ろ支那の人民をして國家的政治的に覺醒せしむ可く、各國は彼等の自奮自發を促すやうに助成することが必要である。支那の統一も國民の自覺と愛國の熱情とを基礎にして初めて期待せらるゝのである。併し今日の所では中央集權主義の政治、中央集權主義の財政なるものは到底成功の見込はない。尙清朝と云ふ二百年來の積威を有つた中心のあつた末年の時代に於てすらも、中央集權策に依つて統一力を振起せんとして失敗に了つたのであるから、前に述べた如く形式上の求心力の全く破壞し、遠心力の急激に發達した今日に於ては、到底中央集權策は成功す可くもない。從て統一力としては極めて薄弱であるけれども、一種の變形した聯邦制度を國の基礎として、其に依つて統一するの外ないであらう。元來支那の社會組織では、上述の如く自治團體が特に發達せるを長所として居るから、其利用の方法に依つては自治の基礎を立てることは必ずしも困難でない。而して從來支那の民政の最大弊害とせられた民政請負組織を根底から廢絕せしめて、鄕官制度を採用したならば、地方官も自づから地方の利害休戚を念とするに至り、數千年來の積弊も漸次一掃さるゝであらう。尙支那は列國の均勢上全く國防を廢しても、其侵略される土地には制限があつて、決して其獨立を危ふくするが如きことはないから、軍備を撤して自治團體に地方の警備を任じても決して危險はない。因て今後は從來の如く强ゐて中央集權策を固執するを排し、中央政府の權義は可及的之を制限し、其財政も極力之を縮少し、地方分權を國是の根本と爲すを得策とするのである。而して地方の財政は可及的地方に依つて維持し、其代り地方の獨立は或る程度迄之を認めることを根本方針とすべきである。斯くせば從來中央政府が尨大なる領土に徒らに空文の命令を下し、目的の政策を達成せしむるこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

との困難であつた弊害を除くことが出來ると共に、元來支那人は自治觀念の發達せることや、祖先崇拜の思想の强烈なることとの關係上、特に地方觀念が强く、愛郷心が熾であるから、各地方が自治主義の政府を樹立することになれば、或は案外速に地方の行政財政の基礎を確立するに至りはせないかと惟はれるのである。但し支那に如何なる政治を施行するにしても、結局は國民の政治德義が根本となるものであるから、若し到底自治的行政に依つて成立つことの出來ない程支那の國民の政治德義が敗壞されて居るものであれば、支那は到底共和政治でも立憲政治でも實行するに適應せない國であつて、特別の德義の低い政治に依つて統治するの外なき國であるとせなければならぬ。之を要するに支那の統一は、地方自治制を基礎として進むるの外ないが、それも矢張り支那の自覺自發に基かなくては、到底有終の效果を見ることは出來ない。去りとて沒然此儘に推移したならば、支那は何時果して自力を以て自國の改造を達成し得るや極めて覺束ないから、依然各國の助力に賴らねばならぬ。併し各國が支那の革新を助くるにしても、支那の自發を妨ぐるが如き擧に出づることは、必ずしも支那の爲めに利益であるとは言ふを得ない。各國としては一面寧ろ支那の自覺自奮を促すの擧に出づると共に、他面目的の遂行を助成するに止めなくてはならぬ。但し支那としても何時迄も空漠なる體面論にのみ捉はれないで、多年の積弊を打破し肅清せんとするの大業を達成せしむる爲めには、節を屈して先進國の敎を受け助力を藉るの襟度を持せねばならぬ。頃來支那は徒らに國權の恢復に焦慮しながら、而かも之に伴ふ肝腎の内政の改善に至つては、殆ど之を顧慮せない嫌がある。列國は空虛なる此種の支那の提言に捉はるゝことなく、寧ろ進んで支那の爲めに其内政の改善に眞摯なる助力を與ふ可きである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣に於ける地質調査事業と地質調査所設置の急務

理學士　市川雄一

一　地質調査の目的

地球に生息する以上、吾々の周圍は、直接或は間接、土地に關係を有たないものはない。自己の存在を確認するにしても、また吾々の生活樣式の向上を計るにしても、この土地を研究し、これに就いての智識を深くすることが第一要件である。就中現代文明が物質を基礎とし、一國の繁榮が地下埋藏の富源に因るに於て、この必要を愈々首肯しなければならない。

地質學はこの要求に應じて發達したものであるが、其の起源が比較的新しく、且つ地質學者は從來多く自家の研究に立籠つて、地球内部の狀態とか、大陸、山脈の構造及び生因とか或は又古代生物の化石などに就いてのみ論斷討議し、好んで難解の術語を弄して世と交渉せず、自ら高く持するを快とするが如き傾向に捉はれたゝめに、地質學の應用は未だ決して適切でない。

地質調査の目的は廣汎であるが、その大要を擧ぐれば、地質構造を明かにし、鑛工・農林・土木・等に關する

事業の方針を決定すべき資料を與へるにある。それ故、鑛床・工業用原料・土壤・道路・隧道・築港・水脈・温泉・地變・水害・等苟も土地に關係を有するものは、皆その調査の圏内に屬するのである。

元來、地質調査事業は、一見迂遠にして、應用に資するに足らざる如く、以て往々之を閑却せんとするものがあるが、これ皮相の觀察も亦甚しと言ふべきで、彼の普佛戰爭に依つて壞滅に歸したる佛國の鑛業が今日の盛大を致したるものは地質調査であり、國力充實の本を成したる獨逸鑛業の發達は地質調査の成果である。而己ならず、亦世界油田地に於て激甚を極むる英米石油爭奪戰は、地質調査の左右する所でなければならない。

二　地質調査事業の現状

然れば現今、世界に國を成し、學術の進歩を計り、文化の發達に努むるものは一として地質調査の機關を有せざるはない。就中歐羅巴では疾くより、地質調査に重きを置き、競ふて地質調査所を開き、且つ殖民地には夫々獨立の地質調査所を有して、調査事業の發達を計り、現今益々盛大となつて來たのである。亞米利加合衆國は比較的新しく地質調査事業を開拓したが、其の規模宏大にして著々業績を擧げ、歐洲諸國を凌駕するの勢である。

我國の地質調査事業は歐米のそれに比すれば甚だ遜色あるが、明治七年内務省地理寮、土木課に創り、十一年地理局地質課となり、十五年地質調査所開設せられて、爾來年々事業は擴張され、今日所員八十に達する。この外に尙、朝鮮に於ては總督府殖産局に地質調査所を有し、滿洲では滿鐵株式會社に地質調査所を置いて、夫々數名の地質技師と十數名の助手とを以て地質調査に從事せしめてゐる。最近朝鮮總督府は更に燃料選鑛研究所を設け數名の地質技師をして、專ら炭量調査に當らしめてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯く列國は地質調査事業に大なる努力を盡してゐるに拘らず、わが臺灣のみは僅かに鑛務機關の傍らに微々たる狀態を續け來つたものに過ぎないのである。次にその沿革を述べてみやう。

三　臺灣に於ける地質調査事業の沿革

改隷の當時、產業調査を施行せらるゝに際して、舊臺北縣に於ける鑛物の採掘狀況等の調査を開始されたることを以て嚆矢とする。翌二十九年四月、民政局官制の實施と共に專任技師三名、技手七名を以て、地質調査を速成することになつたが、未だ定員の充實を見ずして、三十年十一月該官制の廢止と同時に調査費は全廢され、爾來地質調査事業は全く閑却された。明治三十八年度に至つて漸く復活し鑛物調査費として年額三千圓の支出を受け、四十二年度より地質調査の一項目を加へて年額一萬二千圓の配布を受け、四十三年度より又土性調査の事業を加へて、約二萬六千圓の配布に達したが土性調査は四十五年度より農事試驗場の主管に移されてからは、鑛物及地質調査費と改め、豫算は漸次削減されて一萬三千圓となり、大正六年に及んだ。本事業は復活の當初から專任技術者なく、鑛務の傍ら之を施行したものであるが、大正八年技師一、技手二の配布を受けて茲に初めて專任技術者を得、豫算も約二萬圓に增額して漸く一事業としての形態を備へたのであるが、十年度末の改革で鑛務機關削減の犧牲となつて專任技術者はその職を去ることゝなり、その後復職したが間もなく十三年度の改革に於て再び大打擊を蒙ることになつたのである。

斯くの如く從來規模の甚だ小なりし上に、幾頓挫を蒙つたため、正當な計畫の遂行を許さず、時宜に應じて、散點的の調査をなせると、專任技師の在任短く、殆ど全く、鑛業技術者が鑛務の傍ら擔當せることのために、本事業の既往の成績は餘り言ふに足るものがない。大體に於て漸く全島の地質豫察調査を略々完了したものと言ふべきもので、今後の精査に對する準備を整へたにすぎない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四　既刊の調査出版物

既刊の調査報文類を擧げてみると、

一、臺灣油田調査報文及同附圖（二萬分の一）
一、三十萬分の一臺灣地形圖
一、同臺灣地形地質鑛産圖及同說明書
一、臺灣鑛物調査報告
一、臺灣亞爾加里土壤調査報告及同附圖
一、大屯火山彙調査報告及同附圖
一、澎湖島地質調査報告及同附圖
一、澎湖群島地質調査報告及同附圖
一、咸菜硼北埔煤田調査報告及同附圖
一、臺灣島地質鑛産圖說明書
一、瑞芳金瓜石鑛山視察報文
一、北投石調査報文
一、臺灣鑛山地質調査報文

五　主要調査事項

調査を必要とする主要事項に就いて概略を左に順次述べる

（一）全島地質精査　（三）工業用原料調査
（二）鑛物調査　（四）南支南洋調査

（一）全島地質精査　臺灣島は日本列島と所謂南洋諸島との中間に位置し、宛も其の連鎖をなすものであるが、日本列島と南洋諸島の地質構成は全然別箇のもので、臺灣がその何れの系統に屬すべきものであるか不明で學術及富源分布追究の上に略黑點を殘すものである。加之熱帶的氣候のために地質現象は他と大いに趣を異にし、普通地質學を直ちに之に適用することが出來ないので臺灣一般産業及土木、建築、衛生等の方面の事業が深き根據を有して居ない。就中架橋・護岸工事・道路・水道・植林等が臺灣獨特の地質構造に依る水蝕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

激甚なことに思ひ及ばず、極めて姑息な手段を繰返しつゝある事實、南部その他の地方に於ても、飲料水の不良のために苦しみつゝあるに徹底的改善の途を講せぬこと、火山脈分布及地質構造により、地變の危險多きに拘らず、晏然として備ふる所なきことなどは著しき例である。故に全島の地質精査を行ひ鑛物賦存を豫察し、地質構造を詳かにし、熱帶的地質現象を研究して學術に貢献すると共に百般の施設及事業の方針に有要な資料を與へなければならない。

商工省地質調査所に於ては先に二十萬分の一地質圖幅を作製し日本内地全部の完成を終つたので、更に七萬五千分の一地質幅圖作製の調査に著手してゐる。朝鮮では五萬分の一の調査に掛り既に第二輯を出した。臺灣に於て今これに著手するとせば五萬分の一地質幅圖の作製を必要とし、全島を十一區に分ち逐次調査完結するを便宜とする。

(二)鑛物調査　精細な調査を要する有要鑛物は臺灣に於て尠くない。然しその中既に調査解決さるべくして、未だ著手されずにあるもので速かに調査を要するものを擧げると次の五である。

(イ)炭層調査　(ロ)油田調査　(ハ)金鑛床調査

(ニ)東部硫化鑛物調査　(ホ)東部海岸山脈鑛物調査

(イ)炭層調査　石炭は鑛産額の約八割餘を占め、臺灣鑛業の消長を支配するのみならず、一國の國防及び工業に重要なる意義を有するものであるが故にその分布、埋藏量を明かにして鑛業の健全な發達を計ると共に濫りに採掘して、臺灣産業の將來及び國防を危くするが如き虞なきことを期すべきである。然るにこれが調査は明治三十二年前後未だ調査の極めて不便なりし頃基隆川附近の炭層露頭を追跡して、之を結び付けた程度のものと、大正二年頃鑛務技師が鑛務の傍らに北埔、咸菜硼(新竹州下)附近の小部分の調査をなせるに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

止まり、島の北東端より新竹州南端に亘る一帶をなす炭田はその大部分が全然未調査のまゝである。この調査せる部分とても當時と事情を異にし、露頭その他調査上便宜大となり、その結果は修正を要し又疑問とする點の多きを知られ、精密な調査の必要に迫まられてゐる。臺灣炭業界が今の窮況とその打開策に苦しみつゝある主なる原因はこゝに在るは明かである。故に速かに全炭層の調査を行ひ、分布及び鑛量を的確にして、世界大戰の財界好況の際膨脹せる鑛區の廢合整理を斷行して刻下の救濟策を樹て、且つ燃料保存の國策を考慮する所なかるべからず。既に基隆炭鑛會社は炭層調査の急切なるを知り、熟練せる地質技師を以て、自鑛區内の炭層調査を開始したがその結果によれば、日本内地に於ける炭田と大いに趣を異にし斷層の如き甚だ頻繁にして中に落差一萬尺に近きものがある。從つて炭量は從來想像されたものより遙かに減少すべき見込である。これは余も既に豫想してゐたことで調査を必要とする一の理由である。

全炭田地の調査に當つて之を十一區に分つことが便宜と思ふ。但しその中二區は油田と重る故に油田調査の際に同時に行ふことが出來る。

地圖がなければ無意味に近いが參考までに、炭田十一區の名稱と面積とを列擧する

瑪鍊	十六平方里	大溪	十四平方里
四脚亭	十八平方里	關西(舊名咸菜硼)	十九平方里
双溪	十六平方里	北埔	十八平方里
石碇	十三平方里	獅潭	二十四平方里(造橋油田と同區域)
山子脚	二平方里半	大湖	二十二平方里(出鑛坑油田と同區域)
海山	十六平方里		

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(ロ)油田調査　石油は石炭と共に燃料として重要であるが殊に近年益々その用途は擴大せられ、國家存立の最大要素となるに至つた。夫れ、世界列國は自國油田の開發外國油田に對する利權獲得に最善を盡してゐる。然るに我が日本は石油の産額乏しく、平時と雖も外國油の供給を仰がなければならない狀態で、一朝有事の際石油供給の途を如何にするかを考へると實に寒心に堪へない。それ故油田を開發して安全なる石油供給の途を計ることは刻下の急務で、國家存亡の岐るゝ所と言はなければならない。商工省地質調査所は國內油田の調査を實行し、專任技師四名をして之に從事せしめてゐるが漸次擴張の見込である。臺灣油田は石油の徵候は處々に著しく、地質學上甚だ有望とせられ、位置又國防上極めて重要である。然るに此の調査は明治四十年前後南部徵候地の踏査を行つて油田豫察調査を果せるのみで今日まで精密な調査に著手せず、世上また之を以て臺灣油田の望みなきを云々するが如き傾向があるのは國策を過るものと言はなければならない。前にも述べたやうに臺灣の地質構造は獨特で內地その他と甚だ趣を異にし、油田も亦彼の狀態を以て之を察し、其の價値を斷ずることは出來ない。加之年々數萬圓の補助金を與へて試掘の奬勵をなしつゝあるが。これも油田開發の一途ではあるが精細な調査を伴はないでは所謂野猫掘に止まり、油田開發は遂に失敗に終るものと斷言するを憚らない。從來臺灣の試掘が成功を見ないのは、こゝに主なる原因があると言ふべきであらう。速かに調査に著手して油田の性質を審かにし、以て試掘の方針を決定して開發の實を擧げ國策の徹底を期すべきである。

先づ從來油田地と呼ばれたる地域の調査を必要とし次いで他に及ぼすを可とする。既知油田地は十區に分つを便宜とする。

油田の區分と面積とを列擧すれば次の如くである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出礦坑	二十二平方里	山上	十八平方里
造橋	二十四平方里	新化	二十四平方里
玉井	二十四平方里	岡山	二十二平方里
六龜	二十七平方里	嘉義	二十八平方里
白河	二十七平方里	恒春	二十二平方里

（ハ）金鑛床調査　臺灣は古くより產金を豫想され大いに望みを置かれてゐたものである。今日知らるゝものは基隆川、基隆三金山地方、大屯山、花蓮港廳下タッキリ溪附近等にして、その他中央山脈に處々含有することを聞くが目下の處將來望みを嘱し或は探鑛の必要あるものは前述の三地方附近のものである。

基隆三金山地方は以前本邦產金額の過半を占め本島鑛業を代表してゐたが其後漸次衰へて既に老境の觀がある。然し乍ら未だ精細な調査を成したことがないので、これを深く研究すれば金瓜石鑛床と瑞芳鑛床の關係が分明し、現在の下底が審かになり鑛床將來の運命も亦更新するに至るであらう。一旦衰へ或は稼行の價値なしと認められたものがその後の精細な調査研究の結果復活して倍舊の盛大に赴くことは鑛山に多く見る例である。

大屯山金鑛床は最近の發見で目下尚問題としてその價値は定まらない。發見の當時概略の調査を行つたのみでその後放任され最後の斷案を下すことが出來ないため鑛業界及び經濟界に禍根を生ずる虞がないといへない。且つこれは世界に類例のないものゝやうで十分の研究を遂げて學術界に貢献し、尚他に金鑛床發見の根據を與へなければならないのである。

花蓮港廳下タッキリ溪、三棧溪、加禮宛附近の一帶は砂金を以て古くより知られてゐるが。其の量稼行に

十分でないので採取するものが少い。然しこれは精密な探鑛をなし、富鑛帯の分布を明かにしない爲めである。元來砂金は下底基盤に近く豐富であることが通例で、その分布の範圍は不定である。暴風雨の際タッキリ溪口の段丘推積層が波浪に洗はれる時にその跡に多量の砂金を採取することが出來るのは明かに砂金量の豐富を證據立てるものである。この砂金の由來は中央山脈帯にあるものゝ如く、タッキリ溪上流二里餘トモワン警官駐在所附近に於て、生蕃が以前砂金を採取したことがある。しかしてその上流には砂金の存在を聞かないことから考へて見ればタッキリ溪筋の砂金はトモワン附近の片麻岩に胚胎してゐるやうである。その他三棧溪、加禮宛一圓の砂金も同じく、中央山脈帯に母體を存するものと思はれる。故に先づ砂金分布の貧富狀態を詳かにし稼行の方針を與へ次にその由來を尋ねて山金の所在を進究しなければならない。

以上の三地方の金鑛床は有望にして精密な調査を必要とするものである。

(二)東部硫化鑛物調査　中央山脈東部は結晶片岩、片麻岩にして、斑糲岩の迸入の爲め著しく變質してゐるものが多い。斯ゝる部分には硫化鑛物の賦存するのを常とし時に多量である。富太銅山、東澳銅山、銅文蘭銅山、等一時試掘或は採掘された個所はこの例で尚この他處々に分布してゐる。大正五年頃民間鑛山會社が探鑛を企てたが啻に露頭の搜索に止まりしが故に、精細な地質調査を本として系統を明かにし賦存の狀態を究め稼行の價値を決し、探鑛の方針を示さなければならない。

硫化鑛物は銅鑛として主要なことは勿論であるが尚銅分の少いものは冶金熔劑として或は工業用原料として極めて重要である。故にこの資源を開發することは獨り東臺灣の發展策たるのみならず又沈滯したる臺灣工業の振興に寄與するところ大である。

調査の方針としては中央山脈東半の全帯は長年月を要するが故に先づ以て、東海岸北半に臨める幅員五里

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の一帯を調査區域とし浪速、大濁水、新城、木瓜、瑞穗の五區に分つ。

(ホ)東部海岸山脈鑛物調査　第三紀以後に於ける噴出岩の發達最も多きを東部海岸山脈とす。此の時代の噴出岩は金屬鑛床を胚胎すること多く、世界に於ける金屬鑛床の中比の種の噴出岩を母岩とするもの少くない。臺灣に於ても秀姑巒溪岸に金銅鑛、新城支廳下キナブカ溪上流及び都巒山等には銅鑛が賦存することは既に知られてゐる。たゞ交通運搬の不便と鑛床の狀態判明しないとにより未だ開發の時期に至らないが財界復活の曉は稼行の價値を十分認めらるゝに至るであらう。

かくの如き海岸山脈の中で主要とする部分を精細に調査し、鑛物賦存の狀態を明かにして以て稼行の方針を示さなければならない。是れ東臺灣開發の根本策であり、鑛業資源開拓の緊急事である。

以上述べたところによつて大體明かになつたと思ふが、臺灣の鑛物賦存狀態は全體として全く未知數で未だ精密なる調査研究を行はれたものは一もないのである。今日の文明に於て斯くの如く放漫な態度にあることは實に恥づべきことで、最善の努力を以て無より有を生ずる意氣がなければならない。

(三)工業用原料調査　產業立國は近時我國外に於て絶叫さるゝところであるが、山地多く土地狹隘を痛感する臺灣に於ては特に工業に據つて將來の發展を期するの外に途がない。幸にして、近く南支南洋の廣大なる市場を控へてゐる故に臺灣工業の發達は洋々たる前途を有するものと考へる。これが爲にはその基礎たる工業用原料の調査を行ひ分布多寡を知らなければならない。

今日知らるゝものとしては硫酸製造、人造肥料及燐寸製造等の諸工業原料としての硫黄、セメント製造の原料たる石灰岩、粘土、硝子及陶器の原料たる硅石、長石、粘土、陶土等にして、また、大理石・スレート・砂岩・安山岩・玄武岩・蛇紋岩・等の良質なる建築石材竝に石綿・雲母・文石・水晶・等の器具材料及び装身具材料

にして最も望み多きものとせられているが。之等については未だ何等具體的に調査されてゐないのは實に遺憾である。

是等の量の多寡、質の良、不良、存在の狀態等を明かにし、事業の方針を與へ、工業發達を促進せしめることは急務である。

而して今後地質精査進み。工業また勃興すれば次第に工業原料となるべき鑛物、岩石類は增加しこの調査は逐次多忙となるべきである。

(四)南支及南洋調査　南支及び南洋の廣大なる天地は豐多なる富源を埋藏して未だ開拓さるゝこと少い、之が調査を行ひ分布を究め利權獲得事業經營の途を講じ且つ國內諸工業の原料を元に於いて產業發達を計ることは帝國發展の基礎をなすもので。臺灣は實にその策源地たるの使命を有するのである。就中日本の最も缺乏を感ずる石油は南洋に包藏され世界有數の產地をなし、また日本に產出少き錫は馬來半島が世界產額の半を占むるのである。この他日本に產出なく外國より供給を仰ぎつゝある金屬類の原料鑛物は南支に多量の埋藏を豫想されてゐる。故に臺灣に於て是等の重要鑛物の調査を計畫し利權獲得の機會を捉へ有無相通ずるの大本を樹立しなければならない。

これが調査は成るべく規模大なるを必要とし機會を逸さず、隨時調査員を遣つて精密な結果を得なければならないのである。

六　地質調査所の必要

前項に述べたるは現在調査の急要に迫らるゝものゝみであるが、その中島內の調査のみを算ふるにしても、在來の鑛物及地質調査事業の規模では、全島地質精査二十五年、鑛物調査三十年、工業用原料調査五年合計

六十年を費さなければならない。これに南支及南洋調査を加へる時は少くとも七八十年の歳月を俟たなければならないのである。

日に月に世界は進轉し列國は競ふて地質調査事業の發展に努むる現狀に於て、獨り臺灣のみは漫然としてこの狀態に安んずることは由々しき問題である。殊に臺灣は南支及南洋を控へて邦家發展の衝に當り、その使命は極めて重要であるに於て常にこれを考慮し、誤らざる大策の樹立と遂行とを努むべきであるに、根本策たる地質調査事業が斯る現狀にあることは、實に寒心に堪へない。從來鑛物及び地質調査事業として鑛務機關の中に抑制せられ、たゞに鑛業方面の一局部の補助にのみ役立つことを以て能事了れりとせるは地質調査事業の健全なる發達を著しく阻害するものであつたが、最近の行政整理に於て大打擊を蒙つたものゝ、一面に於いて、商工課の一係としてそれ自體の健實なる發達の途に就いたことは、世界の大勢に順應するものとして正しく、一進步を劃したものといふべきである。然しその規模は依然甚だ微弱であるが故に之を擴張することを急要とする。卽ち地質精查、鑛物調査に各二名、工業原料調査及び南支南洋調査に一名合計五名の地質技師を置き、これに十名の補助を加へることは最少限度の人員にして、これを以て先づ島內の調査を急ぎ傍ら南支南洋方面の富源調査に著手し、漸次人員の擴張を行つて將來益々海外調査に力を盡さなければならない。

而して地質調査事業本來の性質上、著々不斷の努力を必要とするものであるが故に地質調査所を設立することは地質調査遂行の最大要件である。之によつて確固たる方針の下に著々その效を收めて行くことが出來る。

列國は勿論日本に於ても夙に地質調査所を開設して順潮の發達を遂げて來たのであるが、朝鮮及び滿洲に

於いても夫々獨立の地質調査所を有してゐる。然るにたゞ臺灣のみは地質調査所を有せざるのみか、從來甚だ閑却されて、今日尙阿弗利加の奥地に異らないのである。領臺後三十年諸般の文物制度大いに革り隔世の觀ありと誇るに拘らず、領土開發富源開拓の根本として現代文明に重きをなす地質調査事業のみ微々として振はないことは誠に奇なる現象と言はなければならない。

踏査上危險であつた蕃地の情勢は到るところ殆んど全く安穩となり調査の便は著しく增し、また南支南洋に對する邦家發展上に臺灣の使命益々加りたる今日地質調査所の必要は絶對のものである。

速かに地質調査所を設置して、地質調査事業の擴張と健全なる發達とを計らんことを望んで止まない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理蕃政策として蕎麥を論ず

臺灣總督府囑託　鷹取田一郎

第一章　植物學に於ける蕎麥の研究

第一節　名稱

漢名蕎麥。學名 Fagopyrum esculentum, Moench. と稱する一種の植物あり。邦語に之れを「ソバ」と云ふ。

「余は前掲の蕎麥を以て最も蕃界に適する耕作物なりと信ずるのみならず。之が耕作を奬勵するは彼の蕃人を薫化するの捷徑にして、且つ臺灣の產業を振興するの利益ありと信ず。何となれば、凡そ世界に於けるソバの產地悉く、世界の山岳部にして、その地勢殆んど我が蕃界と撰ぶ所を知らざればなり。

請ふ看よ。我が國に於けるソバの產地は長野縣の信濃地方にして、其地の海拔は臺灣の蕃界と伯仲の間に在るにあらずや、朝鮮に於ては江原道を以て蕎麥の產地と爲し、獨逸に於てはオーデン、ワルドを以て蕎麥の產地と爲す。江原道と謂ひ、オーデン、ワルドと謂ふ。俱に是れ峯巒重疊の地にして、その地勢甚だ我が蕃界に類似せり。信濃、江原道、オーデン、ワルドに於て既に蕎麥を產す。我が蕃界に於て之を耕作する能はざるの理なし。是れ理蕃當務者の著眼せざる可からざる所なり。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蕃麥の耕作法は頗ぶる原始的なり。その簡易なる點に於て、僅かなる勞役を以て多大なる成功を齎らすべき點に於て、處女地を開墾するの先驅たらしむる點に於て、食用方法の輕便なるが爲めに、之を習得せしむること迅速なる點にて、俱に頗ぶる原始的生產物たるは蓋し何人と雖も異論を挿まざる所なるべし。今之れを生蕃の風俗習慣に照合するに、蕃麥農業及び其の食用法が彼等の習性に適應すべきは最も確實なりとす。是れ理蕃當務者の勸誘せざる可からざる所なり。

要するに蕃麥耕作は山岳農業の大宗にして、雲山萬重の間に住居する簡易生活者に向つて、偉大なる福音を傳ふるものなり。單に蕃人に對して農業的知識を授くるのみならず、蕃人を監督し、撫育し、敎養し、薫化するを以て公務とする多數官吏の爲めに、山中生活の寂寞を破つて津々たる趣味を與へ、不知不識の間に蕃地に於ける耕作地面積を增加するの利益あらん。是れ余が蕃界の爲めに、臺灣の爲めに、否な國家の爲めに絮說せざる可からざる所なり。

是を以て余は理蕃當務者の注意を喚起せんが爲めに、苟も蕃麥幷に蕃麥麪に關する余の見聞は悉く之を章句に收め、以て蕃麥に關する余の全知識を披瀝し、最後に山岳農業及び蕃麥奬勵法を說明して識者の垂敎を乞はん。

先づ此の蕃麥なる者が植物學上如何なる位置に在るかを說明するは、蓋し立論の順序なるべし。故に余は古來諸學者の說を參照して、蕃麥の名稱、形狀、性質、種類、產地の五項に分ち、之れを詳論せん。

扨て名稱に就きて余の見る所を述ぶれば、支那に於て此の植物の固有名詞を「蕃麥」の二字に確定せしめたるは、宋の掌禹錫が「嘉祐本草」に記錄したるに始まるもの丶如し。固より其の以前に在つて、絕へて蕃麥の文字を用ひざるに非らずと雖ども、諸家の記述中孰れも其の文字を殊にし、毫も一定せらる丶を見ず。要す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るに筆者の見る所に由つて、各自その適當なりと信ずる文字を用ひ、嘗て學界の普通の名稱は確定せられざりしものなるべし。今其の實例を擧ぐれば、或は莜麥と云ひ、或は蕎麥と云ひ、又た喬麥と書したり。甚しきに至つては元の吳瑞の「日用本草」には烏麥明の李時珍は楊愼の丹鉛錄に烏麥を燕麥なりと謂へる說を駁し吳瑞の日用本草を讀まざるの過ちなりと云へりと云ひ「鄕藥本草」(著者不詳)には木麥と云ひ「南寧府志」には花蕎。「和州府志」には蕎麥。「襄陽縣志」には陪麥。「羅浮山志會編」には蕎麥と記されたり。更に我邦にては仁治二年菅原是善の選述に係る「類聚名義抄」には蕎蕎。又た蕎麥と爲し。天養治承の頃、內膳の職に在りたる橘忠兼の「伊呂波字類抄」にも亦た蕎麥又た蕎蕎とあり。是に由つて考ふるに、當時我國に舶載したる漢魏は六朝及び唐宋諸家の書冊中、此の植物に冠せる支那學者の用語は、區々にして頗ぶる多樣なりしを知るべし。後魏の賈思勰が其の著述「齊民要術」に於て既に正しく蕎麥の字を用ひ居れりと雖ども、未だ多數の學者に此の文字の專用を是認せられたるに非ず。宋の掌禹錫が其の述作「嘉祐本草」に於て始めて蕎麥を穀類に編入し、其の名稱を蕎麥と定めたるに及んで漸く學界に承認せられ。元の王禎も亦た其著「農書」に於て蕎麥の字を用ひ。更に明の李時珍が「本草綱目」を集成するに及び、穀部麻麥稻類十一種中に列擧し、掌禹錫の嘉祐本草を襲用して、蕎麥の文字に從ひたるを以つて、此に始めて學界普通の名稱とは爲りたるなり。

此の如きは。畢竟稱呼若くは用語の沿革に過ぎずと雖ども、此間自から支那の習俗に於ける蕎麥利用の消息を窺知する能はざるに非らず。何となれば、斯く名稱の區々たる所以の者、一は印刷術の發達せざる時代即ち未だ活字の整頓せられざるにも因るなるべしとは謂へ、蕎麥其物に對する性能及利用の研究も亦た其の名稱確定の順序と共に漸次發達し來れるものならんとは、蓋し何人と雖ども之れを想像するに難からざればなり。されば齊民要術、嘉祐本草、農書、本草綱目の四書は蕎麥研究の基礎たらざる可からず。今按ずるに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蕎麥の和訓國書に載せられたるは「和名類聚抄」を以て嚆矢と爲すべし。此書は人皇六十代醍醐天皇の延長年中源順朝臣が、第四の皇女勤子內親王の命を奉じて撰述せる所にして、漢名と和訓とを對照して博物學上に多大の貢献を爲したるもの、恐らく之れより舊き書物は有らざるべし。此書に據れば和名「曾波牟岐」一名「久呂牟岐」とあり。同じく醍醐天皇の勅選にして大醫博士深江輔仁の手に成れる「本草和名」も亦た「曾波牟岐」と記せり。其他菅原是善の「類聚名義抄」は源順に倣ひてソバムギ、クロムギの兩者を用ひ、橘忠兼の「伊呂波字類抄」は深江輔仁を學んでソバムギのみを用ひ居れり。其外幾多の書物ありと雖ども此の兩語の外に出でず。（古今著聞集十八卷道命阿闍梨の和歌に「そまむぎ」と云へることあり別に詳述すべし）されば我邦の上古には普通にソバムギ又はクロムギと呼びたるなるべし。然るに文安元年僧東麓の編述したる「下學集」には單に「ソバ」とのみ稱し。更に慶長十七年林道春の編纂したる「多識篇」には「蕎麥。曾婆牟岐。今按ずるに曾波なり。一名烏麥と云ふ」と記されたり。其後貝原益軒。新井白石。狩谷掖齋。人見元德。寺島良安。宮崎安貞。小野蘭山等の撰述に係かる幾多の書冊中に、殆んど古名の曾波牟岐を載せるは非らずと雖ども、當時既にソバムギの名稱は改竄せられて、單にソバを以て通稱と爲し居たりしこと、直に其の著述中の記事に由つて明瞭なり。是に至つてソバはソバムギの略稱にして、足利時代及び德川時代に在つては普通に此の略稱に從ひたるを知る。然れども果して何時の頃より斯く變化し來れるかは頗ぶる分明ならず。「古今著聞集」十二卷偸盜の篇に「この僧都の坊の隣りなりける家の畠に蕎麥を植へて侍りけるを夜盜人の皆な引き拔きたりけるを聞きて讀める。盜人は長袴をや著たるらんそばをとりてぞ走り去りぬる」とあり。此書は建長六年橘成季の著述なるを以つて見れば、既に鎌倉時代に在つても單にソバと稱したること瞭然たり。彼の吳瑞の「日用本草」に烏麥と稱したるは乃ち和名のクロムギと同意にして、勿論、是には彼我相通ずるの理由あるべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く、而して又た彼國の烏麥の稱の癈絶せられたると同じく、我邦に於ても亦たクロムギの稱の人に忘れられたるは奇と謂ふべし。

更に語源に遡りて邦語の「ソバ」とは果して如何なる意義なるやを考ふるに其の意味には凡そ二義あることを知る。第一義は稜。端「かど」「はし」等にして「宇治拾遺物語」二卷に「くゝりをあげそばをはさみて太刀を佩き杖をわきはさみつゝ」とあるの類。第二義は側。傍。「ほとり」。「かたわら」等にして「源氏物語」若菜の卷に「宮のおはします御几帳のそばより御笛をたてまつる」とあるの類。是也。されば此の植物の名稱に「ソバ」の語を用ゆること此の二義に照して、果して孰れの意義に由りたるかは自から疑問なるべし。寺島良安の「和漢三才圖會」（正德三年刊行本）には「蕎麥は莖、子ともに三稜なり故に曾波牟岐と名く」と謂ひ。新井白石の「東雅」（享保二年板行本）には「ソバとは其の三稜なるをいふなり」と說き、谷川士淸の「倭訓の栞」（文化二年刊行）「實の三稜なるより名とせるにや」と註し。狩谷棭齊の「箋註和名類聚抄」（文政十年著述）には「蓋し蕎麥は其殼、稜角あるを以つて其名を得たり」と論せり。以上四家の說に據れば、孰れも皆な語源の第一義に出てたりと爲すの至當なるを知るべきのみならず、前の古今著聞集の歌にもソバムギのソバを、袴の襞のソバに通はせたるを見ば、無論第一義に淵源せるは確實なるべし。

然るに獨り我國の碩儒貝原益軒は此の植物に冠せるソバの語源を、前段詳述の第一義に取らずして却つて第二義に出でたる名稱なりと論定せり。其は元祿十二年同氏の著述せる「日本釋名」に蕎麥の說明を爲して曰く「曾波牟岐といふ。眞の麥に非らず、麥に次ぎて良き味なりと云ふ意也。民の食として麥に次げり。胡瓜をもソバウリといふ。是も瓜に似たる意なり」と。是に由つて見れば貝原益軒のみ獨り前記の四大家に異れる見解を有せる者にして、聊か奇僻たるを免かれ難しと雖ども、既に支那の「襄城縣志」に陪麥と謂へるあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

即ち是れ麥に陪するの意にして邦語の第二義に當れり。されば此論、强ち貝原益軒の僻說のみに非らざるべし。

此に至つて最も思慮を要するは麥と蕎麥との關係なり。「天工開物に曰く。蕎麥。實非麥類。然以其爲粉療饑。傳名爲麥。則麥之而已と。誠に此說の如く、蕎麥の利用に就きては固より麥に類似せざるに非らずと雖ども、其の實物に於て全く麥に類似する所無きは、何人も之れを知悉する所、唯其の適當なる文字を發見せざるが爲めに、假に麥に從へること、勿論貝原益軒の說の如し。支那に在つては古來之れを麥と區別せんが爲めに、其の相違點を標榜するに適當なる副詞を得んと欲し、歷代の學者常に頗ぶる苦心したるの痕迹を印すること、上來叙說する所に由つて知るべし。幸に我國に於ては、此の植物の特徵を捕へて之れに名づくるに「ソバ」てふ單語を以てし、王朝時代以後一千有餘年に亘つて、終始之れを一貫するを得たりと雖ども、畢竟これ適當なる副詞を得て、其の主語たる「ムギ」の二音を放棄したるに過ぎざるのみ。之れを冒認して麥類に擬するの不備を認容するに至つては、曾て支那の事情と異なるあるを見ず。是に於てか植物分類學の必要は起れるなり。

泰西の植物學者は最初之れを蓼科(Polygonaceæ)に屬する植物と爲せり。是れ即ち蕎麥の利用法如何に拘はらず、直に生態に由つて之を分類したるものにして實に蕎麥その物の眞相を明瞭ならしめたるに庶幾し。然れども普通に英語にては Buckwheat と稱し、獨逸語に之れを Buchweizen と謂ひ、荷蘭語には更に Bockweyt 若くは Bockuiyt と呼ばれたり。今此の言葉を詮索するに Bock 又は Back と云ふは孰れも稜角を意味するものにて、Wheat., Weiven., Weyt——は孰れも小麥を指して云ふなり。されば此の三國に於ける蕎麥の名稱は、孰れも我が國語と同意義なるを奇と爲すと雖ども、麥類に非らざるものを以つて麥と呼ぶの不條理も亦た其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

弊を同ふせり。植物研究に專らなる科學者何とて之れに滿足するを得ん。我が東洋の諸學者に於ても必らずしも此の植物に對する研究を等閑にしたるに非らず。或は荊葵(和名こあをい)に似たりと爲し。李時珍の如きはその葉を烏桕(和名「なんきんはぜ」)に、その實を羊蹄(和名「ぎしぎし」又は「しぶくさ」)に類似せりと爲し。更に又た小野蘭山はその葉を藜(和名あかざ)に似たりと爲し。寺島良安の如きは蕎麥の一種たる苦蕎麥を説明して、世人の杠板歸花(和名いしみかわ)と混同するの誤解を辨じたるが如き、既に植物分類學の範圍に其の一歩を進めたるものなりと雖ども、未だ嘗つて其の類似植物を蓼に擬したるを聞かず。歐洲學者の始めて之れを蓼科に類別したるは、頗ぶる炯眼なりと謂はざる可からず。

最初一般植物學に於ては前述の如くに觀察せられたりと雖ども、熟々此の植物の實態を査覈するに、蓼(和名たで)を擧げて其の種屬に主從關係を有せしむるは、未だ以つて間然する無しと謂ふを得ず。Moench 氏初めて更に Fagopyrum esculentum と稱するに及び諸學者の之れに從ふもの多きを見る。是に於てか殆んど Polygonum の名を脱せんとはするなり。

抑も此 Fagopyrum と云ふは、希臘語の山毛欅(和名ぶな)にして之を此の植物に冠稱せしむるは其の子實の蕎麥に似て三稜なるに由るものなり Esculentum に至つては「食用」を意味する言詞にして要するに食用に供せらるゝ三稜角の菓實なりと云ふの義なるべし。別に此の蕎麥を F. vulgare, Trees と稱する一派の學者ありといふ。是に於て殆んど蕎麥の名稱を詳敍し盡したるに似たりと雖ども、猶ほ玆に逸す可からざるは佛蘭西語に之れを Ble Sarrasin と云ふこと也。此義は要するにサラセン地方より傳播せりと云へる來歷を表示したるものにして、其の意味、蕎麥の形體及性質に關係を有せず。最後に不思議なるは之れを朝鮮に모밀(モーミル)と呼ぶことと是れ也。모밀は漢字の「牟麥」にして普通の大麥なり。今之れを考證するに「廣雅」には大麥麰也と云ひ。

「釋名」には煮麥曰麰と說き。「急就章」に甘麰殊ニ美ナリと記し。「蒼頡解詁」に麰ハ煮麥也と註し。「說文」には麰ハ來牟ナリ麥也と解し。諸書多少の異說ありと雖ども皆な普通の大麥たるに一致せり。然るに朝鮮の俗語に蕎麥を指して牟麥（モーミル）と云ふこと余の怪訝に堪へざる所。今之れを錄して博雅の垂敎を俟つ。

第二節　形　狀

宋の朱弁の「曲洧舊聞」に謂ふ。麥ハ秋種ヘ夏熟ス。備ヘ四時之氣ヲ。蕎麥ハ葉青ク。花ハ白ク。莖ハ赤ク。子ハ黒ク。根ハ黄ナリ。亦具ツ五方之色ヲ。實に之れ一種の觀察法にして、蕎麥の實形を說明するに要を得たるものなりと雖ども、未だ之れを以て滿足する能はざるは、獨り現今の植物學者のみに非らざるべし。李時珍の「本草綱目」に蕎麥の形狀を說きて曰く。苗高一二尺。赤莖綠葉。如烏桕ノ葉。開小白花。繁密シナ粲々然。結實纍々如羊蹄。實有三稜。老則烏黑色。是れ乃ち東洋學術界に於ける蕎麥形狀の模範文にして幾多の書冊、孰れも皆な此文を踏襲せざるは莫し。「重修本草啓蒙」は此の文章を和解して更に多少の意見を加へ、頗ぶる詳細を極めたりと雖ども、余は未だ之れに滿足する能はず。故に試みに之れを實。根。莖。葉。花の五部に區分して詳論せんとす。

（甲）　實

實に三稜あるは蕎麥の特徴なり。「後水尾院當時（後水尾院當時）年中行事」と題する書物の下卷に「まいらざるものは」と云へる一項を置き、種々なる食物を列擧せる內に蕎麥を挿みたり。其の記事の割註に曰く「そばを三角（みかど）といへば帝を美加土と申すに訓、同じければ忌とかや云ひし」云々。如何にも蕎麥實は三角錐形を爲せり　今之れを分解するときは、黑褐色にして心臟形を爲せる三枚の殼皮を得べし。此の三枚の殼皮は頗ぶる脆弱に接合せられた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るを以つて、其の乾燥せられたる場合には、輕微なる壓力を加へて直に之れを脱殼せしむるを得べし。蕎麥仁は卽ち此の殼皮の爲めに包藏せらる。蕎麥仁は最初乳狀を爲し、成熟するに及んでは飯狀を爲す。次ひで乾燥せらるゝに至れば結晶の頗ぶる脆弱なる純白粉塊と爲るなり。而して此の蕎麥仁は又た胎皮に包藏せらる。故に三枚の心臟形殼皮を脱したる蕎麥仁は其形、錐角の錐狀を爲し、最初淡青色にして乾燥するに隨ふて黄褐色に變ずるを常とす。是れ卽ち胎皮の外貌なり。而して其の胎皮は蕎麥仁に較ぶれば堅く、蕎麥殼に比すれば脆き程度の硬力を有し、その主腦たる純白粉塊を保護せりと雖ども、良く乾燥せられたる場合には、頗ぶる粉虀せられ易き性を有するに因り、人若し試みに拇指と食指とを以つて輕く之れを揉むことあれば、直に微細なる粉末と爲すを得む。故に此の蕎麥仁を俵苞に貯藏する時は、磨碎を待たずして其の幾部分の粉化するを見む。此の蕎麥仁を朝鮮に於ては모밀쌀(モーミルサル)といふ쌀(サル)は米といふ義なり。我國にては作業上此の脱殼せる蕎麥仁のみを取扱ふことを聞かずと雖ども、朝鮮に在つては、先づ心臟形の殼皮を脱したる蕎麥仁、卽ち모밀쌀を製し、更に之れを磨礱して蕎麥粉を完成するを常とせり。「寛政武鑑」を按ずるに「松平玄蕃頭忠福(上野小幡)時献上挽抜蕎麥」とあり。是れ或は蕎麥仁にして朝鮮の所謂모밀쌀には有らざる無きか、今姑らく之れに疑を存す。

(乙) 根

蕎麥實の三角錐形を爲せる底部の凹處には微小なる帶坐あることを記臆せざる可からず。蕎麥實の土壤中に播種せられたる時、氣温・水分・土壤中の酸素成分等の爲めに、殼皮に包藏せらるゝ蕎麥仁を醱酵せしめ、上記の帶座より屯然として生氣を起し、既に飯狀に化せる蕎麥仁の間に二條の發芽を見るに至るべし。而して此の發芽の一は上方に成長して空氣中に生育せられ、他の一は下方に發達して毛狀の根を爲す。是れ卽ち

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蕎麥の嫩芽なり。蘖（ひこばへ）と謂ふもの是。

此の蘖は嫩葉を有すること固より論を俟たず。實に相對して淡青色なる二枚の嫩葉は始て地上に現はすと雖ども、單に其の形のみを以つてする時は、胡麻とも、萊菔とも、殆んど區別し難きものなり。然れども蕎麥の特徴として其の莖部は既に淡紅色を呈するを以つて、容易に蕎麥たるを知るを得べしと雖ども、蓼の嫩芽に較ぶれば最も識別し難きものとす。根は芽體の時代に於て廉纖なる牛蒡狀を爲して地中に入り、多數の毛根を發生して土壤中を縫合し、盛に營養作用を爲すに至れば、牛蒡狀の主根は寧ろ其の發育を休止するものゝ如し。

（丙）莖

蕎麥の莖は赤色なるを以つて特徴とす。悉しく謂へば根部を最も濃厚なる赤色と爲し、漸次上方に至るに隨ふて淡紅色と爲る。稍頭に至れば殆んど紅色を見ず。其の形狀は圓筒狀にして二寸若しくは三寸を隔てゝ微なる節を有す。此の節より葉を生じ、其の葉と幹との間より一種の莖を生じ、之れに花を開き實を結ぶこと、殆んど蓼と形式を同ふするを見る。更に又た莖の外觀を檢するに頗ぶる滑かにして光澤を有すること麥の莖に似たり、其の乾燥したるものは、麥稈より稍々短かしと雖ども、其の硬度は却つて麥稈よりも强剛にして且つ麥稈の如く折れ易すからず。「本草綱目」に是れを蕎麥楷と云ふ。楷は稈と同意義なり。蕎麥の莖は赤いといふ事に就き、我邦には昔より面白き童話を有せり。題して「天道様金の綱」といふ今其の梗概を逃ぶれば、左の如し。

昔、太郎といふ小兒があつた。太郎はお婆さんに可愛がられて居た。お婆さんは信心な人で、能く寺詣(てらまいり)をせられた。お寺は太郎の村よりも遙か遠い山の中であるから、お婆さんがお寺詣の時は、太郎は留主守りを爲

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ることが幾度も有つた。太郎は元氣な兒である。其頃山姥といふ鬼が有つて、人を取つて喰ふ。或時お婆さんはお寺詣をせうと考へて、太郎に留主を分付けた。そして謂ふには「戸締を固くして能く留主をしておいでなさい。山姥が來てはイケないから、留主の間に誰が戸を敲ひても開けることは成りませんぞよ………確實と命令ました。扨てお婆さんが家を出て、凡そ一里位は歩行いたと思ふ時に「太郎さん、今歸つたよ」と言つて戸を敲く者がある。其聲はお婆さんと少しも違は無い。實は山姥がお婆さんを喰つて仕舞つて、尙ほ太郎をも喰ふ積りで、太郎のお婆さんに化けて來たのである。太郎はお婆さんの命令を能く守つて、何んと謂つても戸を開ませんでした。けれども餘りお聲が能く似て居るので、遂に戸を開けて山姥を家の中に入れました。太郎の眼で見れば、何う見ても眞のお婆さんである。「お婆さん大變早かつたねエーといひますと。山姥はニコ／＼と笑ひながら「今日は急いで詣つたから、大變草臥ました、お前は能く留守を仕ましたねエ、妾は此から直くに寢ますよ………」と謂つて、奥の室に這入つて蒲團を出して直くに寢みました。「少し變なお婆さんだ」と思ひながら見て居ると、お婆さんは蒲團の中でコリ／＼と何やら嚙んで居る。「お婆さんは何を給て居るの！と太郎が尋ねますると「お寺でおいしい香物を戴いたから夫れを喰つて居る」と謂ひます。太郎は能くお留守を仕て居たから、其の香物を少し頂戴よ………と謂ひます。「イヤ／＼これはお前さんには上けられ無い」と謂つて猶ほコリ／＼と嚙んで居る。太郎は少々でも頂戴よと謂へば、「そんならお上りなさい」と言つて怒つたような聲で擲出した。それを能く見まするとと血のついたお婆さんの片腕で有つた。太郎は驚いた。愈々山姥が化けて來たのであると知つたから、裏の畑の方に逃げて往きました。そして「山姥が來た」と謂つて大きな聲で應援を求めますけれども、村の人は皆な恐ろしくて來て吳れる者は一人もありません。誠に太郎は九死一生の界であります。其時山姥は鬼の正體を現して太郎を追蒐けて參ります。太郎は柿の樹に登

つて「助けて呉れ〳〵」と呼んで居ます。山姥は鋸を持つて來て柿の樹を斫り初めました。太郎は到底も助かることは有りませんから「天道樣、鐵の綱〳〵」と言ますと、ジャラ〳〵と音がして天道樣から鐵の鎖が降りました。太郎は之れに取縋つて天に昇りました。山姥は何でも太郎を取つて喰ふ積りでありますから、太郎の眞似をして「天道樣鐵の綱アー」と云ひますと、今度はジャラジャラと音がして腐つた鐵の鎖が降りました。山姥は之れに取付いて登つて行きまするとボロ〳〵と鎖が切れて、蕎麥畑の中へ落ちて死にました。

それで今でも蕎麥の根が赤いのは、山姥の血に染つて居るのであります。以上の童話は、猿蟹合戰、桃太郎、舌切雀、狸の土船。カチ〳〵山等と共に昔より我が俗間に傳はれる童話にして何時の頃、何人の作といふことを知らず。然れども蕎麥史論には缺く可からざる材料なりと信ずるを以て繁雜を厭はず、此に掲ぐること〻爲せり。此の童話に「蕎麥の根は赤い」といふを常とせりと雖ども、實は「根」に非らずして「莖」なり。

（丁）葉

蕎麥の葉は心臟形又は鏃形にして網狀の纖維を有する綠色の單葉なり。「本草綱目」には烏桕の葉の如しと謂ひ、重修「本草綱目啓蒙」には形、藜葉に似て短薄光滑なりと謂ふ。余未だ「荍の如し」と謂へる説明を孰れの本草書にも發見する能はず、然れども支那に於ては、唐床以前に蕎麥を荍麥と呼びたること、其の葉の荍に似たるを以てに因らずんば有らず。余は今之れを説明するの好機會に到著せり。蕎麥を荍麥とも呼ぶこと、旣に李時珍の「本草綱目」にも明記せらる。而して荍字の載籍に現はれたるは詩經を以て始めとす。「詩經」の陳風に東門之枌といふ三章一篇の詩を掲げたり。其詩に曰く、東門之枌。宛丘之栩。子仲之子。婆娑其下。穀旦于逝。越以鬷邁。視爾如荍。貽我握椒。古來の此の詩中に在る爾を視る。荍の如しといふ一句が問題となつて少からず蕎麥に關係を有せるなり。太田南畝の「玉川砂利」文化六年印本といふ書に「蕎

麥の記」といふを掲ぐ。此の文章は單に蕎麥及び蕎麥切を說明せる戲文なりと雖ども、諸書を考證して面白く叙述したれば、强ちに戲文として排斥すべきに非らず。其の文中に「詩經にも爾を視るに荍のごとしといひ」云々とありて、流石の蜀山人も荍を以つて直に蕎麥なりと爲せるもの丶如し。其他諸大家にして斯の如く解釋し居れるもの往々にして之れ有り。然れども是れ餘りに速斷に過ぎたる見解なりとす。

荍字の解說を考ふるに「毛傳」には荍ハ芘芣也。「鄭箋」も亦た美、芘芣の華の如し云々。朱熹の「集傳」には荍ハ芘芣也。又名ニ荊葵一。紫色。とあり。「郭註」には今荊葵也といひ。唐の陸璣の「詩疏」には荍一名芘芣。一名荊葵。似ニ蕪菁一。華ハ紫綠色。可レ食微苦。「爾雅翼」には一名錦葵花とあり。淵景山の「詩疏圖解」安永七年刊本には「五月花さき、莖の高さ數尺花むくげに似て大なるものを蜀葵と、花小なるを錦葵と云ふ。この詩に荍と云ふは。錦葵なり。こあふひといふ」と說明せり。以上の諸說に據れば「荍」の「葵」たること明瞭なり。故に蕎麥を荍麥と稱すること、其の葉の葵に似たるに由りたるなるべし。然るに荍を以て直に蕎麥と看做すの學者あること、荍字の音が「唐韻」渠遙功。「集韻」祁堯ノ功。又云ふ巨天ノ切にして倶に翹、又た蹻に歸し、結局「蕎」と同音なるを以つて、斯くは誤認し來れるに非らざる無き乎。

「大上臈御名の事」年代著者共に不詳と題する古書を見るに、其の「女房の言葉」といふ所に蕎麥を「あをい」と稱する旨を記せり。既に前にも謂ひたる如く、三角(みかど)の帝と同訓なるが爲めに、宮中にては蕎麥を忌ませ給ふこと奚んぞ翅た後水尾帝のみならんや。或は御歷代に斯の如き御禁物もあることにて、御料に蕎麥を用ゆる時は、殊更に「あをい」と申して宮女達絕へて蕎麥(そば)とは唱へざりしに非らざる無き乎。そは兎も角も宮中において、宮女達の蕎麥を「あをい」と云へるは、蕎麥の葉の葵の葉に似たるに由ること既に疑を挾むの餘地無し。淸の吳其濬の原著に小野職愨の改訂を加へたる「重修植物圖考」明治十六年出版に之れを記して蕎麥、嘉祐本草ニ始テ錄ス。字

或作レ莜。然トモ莜ヲ爲ニス荊葵一ト。非ニ此ノ麥一也と云へるは簡にして要を得たりと謂ふべし。

（戊）花

誰やらの俳句に「やがて見よ捧くらわせん蕎麥の花」（或は西山宗因の句なるか）と謂へるは、山中に於て青・白・紅の三色を點綴して秋の風景を彩れる蕎麥畑に出逢ひ、その瀟洒なる自然美に接觸したるの感興なるべし。

蕎麥の花の形を説明すれば、白色五瓣にして八箇の雄蕋を有し、之れに腺を通じて蜜を貯ふ。蕚は比較的長くして幾多の花柱に簇生し、鈴形に集合して葉と幹との間に開く。元來此の植物は枝を有せず。花梗即ち枝を爲すなり。此の花梗、第一節の右側に生ずれば、第二節は左側に生ず。斯くて約三段に花を開くに似たり。李時珍の「本草綱目」には「小白花を開く、繁密にして粲々然たり」と謂へり。秋日山野の光景を彩とるに此花を以てし、夕陽黄葉の蕭疎閒澹なる風色と倶に古來詩人の感唫に入ること少しとせず。温庭筠か盧岵山居の詩には「日暮鳥飛散。滿山蕎麥花」。王禹偁か村行の詩には「棠梨葉落胭脂色。蕎麥花開白雪香」。蘇東坡か仲秋の詩には「但見古河東。蕎麥如鋪雪」。曹勛か到飛泉といふ詩には「曉入ニ飛泉一帶ニ月華一。山如ニ相識一路如レ家。百蟲不レ響露初下。開盡一川蕎麥花」。張養浩か晨出レ郊といふ詩には 雲駁ニ疎陰一漏ニ日華一。朧々晨色散ニ村鴉一。馬前怪底猶明月。路轉滿川蕎麥花」と云へり。猶ほ蕎麥花を詠せる諸家の佳什あるべしと雖ども、概ね皆な其の白色にして清楚なる眺望を捕へて清奇幽雋の趣を諷誦せざるを莫し。

我國の詩宗梁川星巖は「蕎麥花開ヲ雪滿ツ田ニ」と吟し、國詩の泰斗香川景樹は信濃なるきそばの白き月の色をくだけぬさきの花を見すらむ」と詠し、更に英國近古の詩人ブリアンは其作「泉」と題する詩篇第七節に於てWhite and broad acre, Sweeting with this flower the August wind（秋風は此花（蕎麥）を以つて既に純白化されたる隴畝の間を更に薫香馥郁たらしむ）と咏嘆せり。其他我國の俳人にして蕎麥の花を諷誦するもの少なか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らず。試みに其一斑を示せば、

三日月の地は朧なり蕎麥の花　桃青
横雲やはなれ／＼の蕎麥畠　其角
棚橋や夢路をたどる蕎麥の花　素堂
肌寒き初めに赤し蕎麥の莖　惟然
門の畑夜の枝折れや蕎麥の花　松風
大砲の烟散りけり蕎麥の花　馬貞
狐火の白けてゆくや蕎麥の花　茫雀
大根の隣に青し蕎麥の花　蘆雄
故郷の酒にあしくさ蕎麥の花　蕪村
宮城野の萩更科の蕎麥に執れ　同
柿の葉の遠く散來蕎麥畠　同
大根も葱もそこらや蕎麥の花　丈砥
蕎麥の花畠の秋も後段かな　召波
花蕎麥や立出て見れば眞白なる　凡董
二三升蕎麥粉得まほし我畠　同
馬の背の高きに登り蕎麥の花　移竹
城跡の一段高し蕎麥の花　雄因
此頃の銀河や落ちて蕎麥の花　青羅
木の下にててら乾したり蕎麥の花　道彦
花蕎麥に晝も霧降る山邊かな　長翠

蕎麥は又た花でもてなす山家哉　芭蕉

之を要するに人の蕎麥の花に對する感興は、漢詩的に非らず、和歌式に非らず、寧ろ俳偕趣味に富めるものなるべし。是を以つて古來其の感興の韻文に表現さるゝ形迹を見るに、漢詩に之を吟ずる者少なく、和歌に之を詠ずる者稀なり。獨り俳句に至つては殆んど枚擧に遑あらず、前掲の二十餘章は畢竟崑山の片玉に過ぎざる也。

獨逸の農學者シュリップ氏は、其の著書に於て蕎麥の利用を論じ「花は蜜蜂の倉庫なり」と謂へり。此說苟しくも看過す可からざるを覺ゆ。

日本と佛領印度支那

月朶生譯

John de la Valette 氏は亞細亞公論十月號（一九二四年）に於て産業熱と太平洋— Industrialism and the Pacific —なる題目の下に刻々と增加しつゝある産業的發展の爲、日本が如何に海外市場發見の急に迫られ居るやを明快に說明せられたり。又同氏は此の賢明にして組織的なる人種日本人が地理學者の所謂支那地中海の一部太平洋沿岸に建設されし米國市場との競爭及び歐洲諸强國によりて表示されし反對の爲め其の努力及び經濟的發展の阻止されしを發見するに至りたりと言及せり。

本題の目的とする所は此の問題の一形體卽ち佛蘭西及び印度支那市場と之に關連せる日本との關係を述べんとするにあり。本題に入るに先づ一九一一年以來日本が如何に不斷の目的を爲し且つ不屈の努力を以て其の政策遂行に力を盡せしや及び其に關連し日本が經濟的保護の原理卽ち生きんとする及び生んがために其の利益を死守する者の神聖なる利己主義により其の發展を阻害されしやを論述せんとす。

一九一一年八月十九日日佛兩政府は輸出品に對する最惠國約款を適用する通商協約に署印せり、此の條約は將來佛蘭西植民地の全部或は一部に擴張適用せらるゝものなりとの含意あることを表明せしものなりき。果して同年中に同條約はアルジエリヤに、一九一二年二月二十八日には印度支那を除く他の佛領に適用さるゝに至れり。

要するに印度支那は現在に至る迄佛蘭西の特典市場として残置されしものなり。而して其の面積は七二〇、〇〇〇平方粁にして人口一六、〇〇〇、〇〇〇を越へ道路延長一〇、〇〇〇粁、鐵道延長一、八〇〇粁及び「プランチポート」及び安南人サレバンの航行し得る河川等の交通の便あり。

同植民地は五大洲即ち交趾支那・柬埔寨・安南・老撾及び東京にして是等五大州を以て印度支那連邦を組織す。其の貿易は逐年盛大となり其の西貢及び海防の兩港も運輸に於て目覺しき發展を遂ぐるに至れり。税制の本國法適用の結果佛本國商品は無税にて輸入され一方法の下落は佛領印度弗の購買力を増加せしめたり。故に明かに佛蘭西工業及び商業會社は彼等に適用せらるゝ例外的特惠關税による利益の拋棄を喜ばざるなり。是に於てか最惠國約款日本に許可さるゝとせんか其の結果日本商品は佛本國商品と競爭可能となり印度支那市場に於ける佛國商品を驅逐するに至るは明らかなる事實なり。即ち日本は佛領印度支那を去る事佛本國の其に對する四分の一に過ぎざれば運賃頗る低廉となり、加之に生産の條件も頗る日本に有利なり。此の論議は印度支那商業會議所員を感服せしむるに至らざりしが、棉絲に密接なる關接を有する佛本國商業會議所員によりて特惠關税許可反對の第一聲は揚げられたり。其の結果兎に角佛國商業會議所員は政府をして亞細亞に於ける一大佛蘭西屬領を一九一一年八月十九日及び一九一二年二月二十八日の協商より除外せしむるを得たるなり。

事態は其の儘、安靜を保ちしが一九一五年に至り Stephen Pichon 氏は Petit Journal に、Georges Clemenceau 氏は l'Homme Libre に於て日本の歐洲大戰參加を熱望せり。時の外務大臣 Delcasse 氏及び日本首相大隈氏との間に交渉開始され其結果として悲慘なる聯合國に對し一時的に先に述べたる利益を許與する事に付き交渉開始せられ其時も亦印度支那市場に日本商品の輸入を先に述べたる條件にて許與すべきかの問題再起せしが

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Comité du Commerce de l' Industrie et de l' Agriculture de l' Indochine に依り代表されし佛商業團體による頑强なる反對ありき。

然れども又た日本が英國艦隊と一致して海上警備なる其義務を遂行せる間安靜を見たり。

華府會議は日本をして更に前述の要求をなすの機會を與へしめたるものなり。日本は其に對する市場開放は經濟的利益としての問題ならず國家名譽としての立脚點より論せらるべきものなりと主張す。然れども交渉重ねられしに拘らず前同様なる結果以外何物をも期待する能はざりき。

然るに今や將に從來屢々論議せられ且延引されし本問題は新方面に入らんとするに至れり。此動機は大震災に關聯し極東在住の佛人が日本人に提供せる病院開設及び新佛蘭西大使館の第一石を置くを目的とする印度支那總督メルラン氏の公式東京訪問に釀されたり。

「當時如何なる會話交されしか。又如何なる議事討論されしか。或は日本は如何なる妥協を見出せしか」に對し茲に確答し能はざるは殘念の至りとす。何となれば佛蘭西商業會議所に相違點を指摘せる精細なる報道送達せられざりければなり。然れども在東京 Hero より送付せられし同様簡單なる電信によりて判斷するに、最惠國約款に關する各主張其基礎に達せるも前述の協會が再び妨害をなせる爲め良好なる結末を告ぐる能はざりしものなり。

以前大使にして佛領印度支那總督たりしエム・クロブカウスキー氏は同問題を「印度支那の商業、將來は日本に包圍されんとするや」なる峻嶮なる形式に置き警告を發したる事ありき、卽ち佛蘭西産業は日本の經濟組織の爲め或は又日本が印度支那に接近せるため其脚下に蹂躙せらるべしと力說し、特惠關稅の施行は日本側の利益となるのみなりとし進んで次の如く付言す。「我々佛蘭西人が自身供給し得る總ての物品は特惠關

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を許與するため日本は益々其の優秀さを擴大すべきことに付いては云々せざるも、特關の許與は多大なる人命と費用とを拂ひて我等自身創造せる市場の破壞を來すものにあらざるか。少くとも日本は佛蘭西と同樣なる物品を産出し得るなり。何となれば機械工業は日本の主要都市に於ても佛蘭西の其と同樣なるものを生産し得るものにして、加之に勞働其他の關係よりして而も安價に生産し得るなり。日本・印度支那間の運賃は佛蘭西本國の十分の一に過ぎざれば我が佛、商工業が其現在努力を五倍すると雖も日本と對抗する事態はざるなり。」

恐らく此豫想に對し逆説的なるものあらざるべし。即ち之に對する例證として一九一一年八月十九日に締結せられし佛本國に於ける日本商品特惠約款締結以來日本よりの輸入超過は其の商船の活動の爲め五十萬法を示し一般輸入品中生絲なる項目には四二五、六〇〇、〇〇〇法の金額表され居れり。

即ち日本に特惠國約款を適用するや否やは重大なる問題にして、佛蘭西に於ても種々議論ある所なり。一方或る政治家は──佛蘭西の戰時支那の努力は佛日間に確實なる結帶をなせしものにして其の爲め佛蘭西は犧牲を忍んで後者の經濟的發展に資せざるべからずとの意見を有する者あり。他方佛蘭西の製造業者間には佛領印度支那なる植民地が彼等に提供せる市場の奪略を怖れ、爲替の下落及戰時に蹂躪されし地方の回復を計り、從來獨逸に供給せられし棉花の捌口を他に求るに孜々たる狀態なり。又植民地在住者にては日本との條件不平等なるため佛蘭西は四苦八苦に陷るべしと豫測するものあり。

要するに余の本稿を草せし目的は亞細亞評論讀者諸君に對し兩國の立場の全然反對なるを解明せんとするに在り。太平洋問題は實に紛爭せるものなれば研究者は宜しく公平なる眼と透滲せる頭腦を以て望まれん事を切望して已まず。（終）（一九二五・一─亞細亞公論）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

領臺以來の臺灣貿易大觀

臺灣總督府稅關事務官　井出季和太

●興味ある臺灣內外貿易の發達——每五箇年平均表——（單位千圓）

年次	外國貿易	內地貿易	合計	合計ヲ百トシタル指數 外國貿易	合計ヲ百トシタル指數 內地貿易
自明治二十九年至明治三十三年	千円 二四,九二〇	千円 九,六八五	千円 三四,六〇五	七二	二八
自明治三十四年至明治三十八年	二二,六六七	二〇,二八六	四二,九五三	五三	四七
自明治三十九年至明治四十三年	二五,一九四	五〇,七九一	七五,九八五	三三	六七

自明治四十四年 至大正四年	三〇、四三四	八九、一九四	一一九、六二八	二五	七五
自大正五年 至大正九年	七四、一三八	二〇〇、九六九	二七五、一〇七	二七	七三
自大正十年 至大正十三年	七二、一八一	二四二、五一四	三一四、六九五	二三	七七

（本文目次）＝第一、序說――第二、外國貿易。（一）總說。（二）港別貿易。（三）國別貿易。（四）重要輸出入品。（イ）重要輸出品。（ロ）重要輸入品――第三、內國貿易――（一）總說。（二）港別貿易。（イ）本島港別貿易。（ロ）內地港別貿易。（三）重要移出入品。（イ）重要移出品。（ロ）重要移入品――第四、海運及開港ノ發達。（一）船舶ノ入出港。（イ）外國貿易汽船。（ロ）外國貿易帆船。（ハ）內國貿易船（二）航路ノ擴張（三）開港ノ發達――第五、呑吐貨物ノ噸量――第六、稅額收入。

第一、序說

本島の統治三十年に當り其發達の「バロメーター」たるものを擧げば凡そ人口の增殖、政費の膨脹、預金、納稅額、又は商社、工場の增加等幾多の事項ありと雖ども貿易の進展は最も特掲すべきものゝ一なりとす。

本島の外國貿易は改隷後明治四十三年頃より十五箇年間を通じ時に低昂あり其平均額に於て二千萬圓臺に在りしものが大正五年以降今日迄平均七千二百萬圓臺より七千四百萬圓內外に增進し準外國貿易たる內臺貿易は同上期間例外なく累進し改隷當時數箇年の平均額九百萬圓臺より明治三十九年以降四十三年頃迄に平均五千萬圓に昂進し大正五年以降九年迄に平均二億萬圓を上り十年以降十三年迄は二億四千萬圓に達し而して總貿易高は當初の數箇年平均三千四百餘萬圓が明治三十九年以降四十三年迄に倍加し七千五百餘萬圓となり最近三箇年間平均三億一千四百萬圓を越へ大正九年及昨十三年は約四億圓近くに至れり今貿易の均衡を見るに移輸出に於て九年は約二億二千五百餘萬圓、十三年は二億五千三百餘萬圓にして出超前者約五千萬圓後者

一億二千萬圓を占めたり。

而して本島貿易の分頭率を觀察するに近年外國貿易に於ては二十一、二圓にして內地の五、六十圓に及ばざること遠しと雖ども總貿易高に在りては百圓に近く內地に倍加するものあり朝鮮の內外貿易高の約三十圓臺に對し三倍餘に當り更に土地の面積に於て本島は內地の約十分の一以下朝鮮の六分の一以下にあるの事實に鑑みば貿易の發達程度は同日の談に非るなり。

以下改隸後昨年迄二十九箇年間の貿易の變遷其他に就て概說する所あらんとす。

第二、外國貿易

一、總說

改隸當初は明治二十八年は兵馬倥偬の間庶政未だ緒に就かざりしを以て其額僅かに七百五十六萬圓に過ぎざりしが二十九秩序の恢復と共に頓に旺盛に赴き二千萬圓臺に上り更に三十一年には二千九百六十九萬餘圓に達したりしが三十二年以降は關稅率の引上統一及內臺間交通の發達殊に內國貿易累進の爲に反響ありて一張一弛寧ろ衰勢を呈し其後四十一年より大正元年に至る製糖事業の勃興期に當り之に伴ふ機械建築材料豆油糟等肥料の輸入增加に依り稍進展を示し四十一年には二千六百萬圓を占め四十三年以降漸く三千萬圓臺に上りしが大正三、四年は前年來の暴風被害を主因とし製糖の減產を來したると歐洲大戰勃發に依る經濟界の沈滯とよりして貿易を不振ならしめ再び大正三年に二千五百九十餘萬圓四年には二千八百餘萬圓に下りたり而して大正五、六年は本島糖業の黃金時代たると同時に歐洲戰爭中支那、南洋方面に對する歐米品の供給杜絕せるの機會に當り本島產品の輸出を促進し又內地品の仲繼熾盛を極め且つ輸入糖業の利益大なるものあり加

ふるに島內物價の騰貴と相俟ち貿易の增進を來し五年には四千七百餘萬圓に上り六年以降には物價騰貴を主因とし六年には六千萬圓臺を超え七年には六千六百九十餘萬圓に達し八年には再製白糖事業の發達により輸出を增進したるを以て最高九千九百七十五萬圓餘を示し翌九年には內外經濟界の反動期に入りたれど尙ほ原料糖及米穀の輸入多かりしと豆油糟木材及大豆等の入津相當額に達したりしを以て前年と大差なく九千五百三十九萬餘圓を占めたり。

大正十年に至り一般財界不況の色彩漸く濃厚に至り事業は不振に陷り殊に主產物たる米糖市價の暴落、支那各地の排日貨、南方支那の動亂、銀爲替の變動等幾多の事情に依り貿易を不況ならしめ六千二百萬圓臺に下り十一年には內地經濟界不況の影響を蒙り依然沈衰の域を脫せず主として前年同樣の事由に依り輸出は好況に在りたれど輸入は不振なりしを以て前年に比し僅かに五分强の增進を示し六千七百五十餘萬圓となり十二年には尙財界沈滯を免れず且關東地方大震災の影響を蒙ること少からざりしと雖ども中間景氣の出現ありて不況の中にも稍恢復の曙光を見輸出に於て不振なりしも輸入活躍したりしを以て前年に比して增加し六千八百二十餘萬圓を占むるに至れり。而して昨十三年には前年に比し五千七百二十餘萬圓卽ち約二割四分の增進を示し就中輸出に於ては四割六分輸入に於ては約二割を增加したるが如く最高記錄の大正八、九年と大差なく改隷當時の明治二十九年に對し約四倍半に達したり。同年本島は大震災の痛痍も內地の如く甚しからず自ら之が恢復容易なるものあり米糖石炭等主要產品の增收に加ふるに銀貨の奔騰、爲替相場の崩落「ドース」案の解決等幾多の好事情に依り固より一方支那の政爭動亂、洪水の災害等多少事業上に及ぼす反響ありしと雖ども香港南洋地方產業の發達、商況の活躍あり又歐米方面財界復興の機運に向ひたるを以て前述の如く大正八、九年の壘を摩せんとするの盛旺を呈したり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次に輸出入の均衡を見るに本島は從來米糖等主要產業に對する肥料製糖工業に對する機械、其他建設材料等の大量輸入品多きを占めたる關係上獨り明治二十九年、三十年、三十五年、三十六年及製糖輸出旺盛なりし大正四年以降六年迄三箇年を除けば各年入超に在り例へば既に明治四十一年及四十三四年には其額六、七百萬圓臺となり大正五年には一千六百餘萬圓六年には一千九百餘萬圓、八年には最高二千八百萬圓を突破したり但し最近は減退し十二年の入超額は約一千萬圓に下り十三年には四百萬圓に達せざりしなり而して改隸以來二十九箇年間の入超總額は約一億萬圓に垂んとせり。

今改隸以來二十九年間の輸出入貿易額を揭ぐれば左記の如し。

□本島輸出入品價額累年表　(單位千圓)

年次	輸出	輸入	計	輸出入(△)超過	輸出入計ノ指數
明治二十九年	一一、四〇二	八、六三一	二〇、〇三三	二、七七一	一〇〇
明治三十年	一二、七五九	一二、六五九	二五、四一八	九九	一二七
明治三十一年	一二、八二七	一六、八七五	二九、七〇二	△四、〇四八	一四八
明治三十二年	一一、一一四	一四、二七三	二五、三八八	△三、一五八	一二七
明治三十三年	一〇、五七一	一三、五七〇	二四、一四一	△二、九九九	一二一
明治三十四年	八、二九八	一二、八〇九	二一、一〇八	△四、五一〇	一〇五
明治三十五年	一三、八一六	一〇、一〇〇	二三、九一七	三、七一六	一一九
明治三十六年	一一、〇七八	一一、〇〇九	二二、〇八七	六八	一一〇
明治三十七年	一二、三九一	一二、五九〇	二四、九八一	△一九八	一二五
明治三十八年	一〇、六二九	一〇、九六三	二一、五九三	△三三四	一〇八
明治三十九年	九、七七九	一二、七三七	二二、五一六	△二、九五八	一一二
明治四十年	九、七四一	一一、二二〇	二〇、九六二	△一、四七九	一〇五
明治四十一年	九、二九七	一七、〇七四	二六、三七二	△七、七七六	一三二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年	一一、六八七	一二、五九一	二四、二七九	△九〇三	一二一
明治四十三年	一一、九八六	一九、八五二	三一、八三八	△七、八六六	一五九
明治四十四年	一三、一七五	一九、五五五	三二、七三〇	△六、三七九	一六三
大正元年	一四、九六〇	一九、三〇七	三四、二六七	△四、三四六	一七一
大正二年	一二、九四二	一八、〇二三	三〇、九六六	△五、〇八一	一五五
大正三年	一二、九八二	一三、〇一三	二五、九九六	△三一	一三〇
大正四年	一五、四三〇	一二、七八一	二八、二一二	二、六四八	一四一
大正五年	三一、六五二	一五、四三〇	四七、〇八二	一六、二二二	二三五
大正六年	四〇、二一五	二一、〇九九	六一、三一五	一九、一一六	三〇六
大正七年	三三、三九四	三三、五五四	六六、九四八	△一六〇	三三四
大正八年	三五、六二二	六四、一三二	九九、七五五	△二八、五一〇	四九八
大正九年	三五、一七二	六〇、三六六	九五、五三九	△二五、一九三	四七七
大正十年	二三、五四一	四〇、四三三	六三、九七四	△一六、八九一	三一九
大正十一年	三〇、五六三	三六、九二一	六七、四八五	△六、三五八	三三六
大正十二年	二九、一五二	三九、一一一	六八、二六三	△九、九五八	三四〇
大正十三年	四二、五七五	四六、四二四	八八、九九九	△三、八四八	四四四

二、港別貿易

本島各港の貿易は從來著しき變遷あり殊に安平、淡水の衰頽に反し基隆、高雄の發達著しきものあり明治三十年當時には總計二千五百餘萬圓中淡水の一千五百七十餘萬圓を筆頭とし安平は之に次ぎ四百四十餘萬圓を占め其他鹿港の百六十九萬餘圓梧棲の百餘萬圓を擧ぐべく基隆は僅かに四十一萬八千餘圓にして七位に在り東石に及ばず高雄も漸く五十五萬四千餘圓にして六位に在り東石の次位とす十箇年後の明治四十年には稍面目を改め基隆は五百三十餘萬圓となり淡水の一千餘萬圓に次ぎ二位を占め安平は減退して二百五十餘萬圓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に下り高雄は百二十四萬餘圓に上り第四位を占むるに至り其他特別開港たる鹿港、梧棲、東石等は著しく減退して從前に比し多くは約五分の一に下りたり反之砂糖の輸出入、肥料の輸入、石炭、茶等重要品の輸出を增進したる結果逐年基隆、高雄の發達顯著なるものあり。

大正八、九年には基隆は各四千三百餘萬圓高雄は八年には三千萬圓、九年には三千二百餘萬圓を示し昨十三年には基隆は三千九百二十餘萬圓にして全島貿易額の四十四%を占め第一位に在り高雄は二千八百八十餘萬圓にして三十二%を占め第二位に在り其他臺北の一千三百萬圓餘淡水の三百八十三萬餘圓安平の百七十萬餘圓之に次ぎ特別開港としては東石の八十四萬餘圓を始とし鹿港の三十六萬餘圓舊港の二十五萬餘圓等となす但し一言すべきは臺北の貿易は從來基隆及淡水を經由するものにして大正十年以前の貿易は淡水貿易中に計上し同十年に基隆經由に屬するものは約一千百萬圓を占め淡水經由に屬するものは六十五萬二千圓とす十三年には前者一千二百八十七萬餘圓後者五十七萬餘圓あり又東石の貿易中には高雄經由の砂糖の輸入高を含み安平の貿易中には高雄經由の藥材等の臺南輸入高を含み其額十三年には前者に於て約六十三萬餘圓後者に於て八十萬餘圓を占めり。

今各港別前後四期間の比較を示さば左表の如し

	明治三十年	明治四十年	大正六年（臺北三、一一一ヲ含ム）	大正十三年
基隆	四一八千円	五、三一四千円	二七、〇六六千円	三九、二五七千円
淡水	一五、七一九	一〇、五一八	八、二九五	三、八三一
安平	四、四三五	二、五一三	九一七	一、七四五
高雄	五五四	一、二四三	二三、七五三	二八、八八六
舊港	四〇九	二四〇	二六〇	二五二
後龍	一六四	一九六	三一三	一七四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梧棲	一、〇三一	一九九	一〇四	六七
鹿港	一、六九五	三七五	三四五	三六六
東石	七〇一	一八二	二〇一	八四七
馬公	二一〇	四四	四一	一一六
東港	六八	一二二	六	—
臺北	不明	不明	不明	一、三、四、五、二、
計	二五、四一一	二〇、九〇二	六一、三一五	八八、九九九

更に十三年の基隆及高雄に於ける實際呑吐貨物に對する價額は基隆は五千二百餘萬圓にして全島の約六割を占め高雄は三千餘萬圓にして約三割五分を占むることゝなる。

三、國別貿易

本島の對外貿易國は現在迄約四十箇國に亘り支那を巨擘とし米國、蘭領印度、香港、英國等之に亞ぐ改隷當初には主として對岸、福州、厦門、汕頭及香港等に對し其他南洋地方及歐米諸國との通商未だ發達せず從つて是等支那地方の貿易額は明治三十年には千七百二十萬餘圓にして總額の七割を占め香港及北米合衆國之に亞ぎ各約二百萬圓餘英國百三十餘萬圓を除くの外特筆すべき地方なかりしが十箇年後の四十年頃には內地貿易の影響を受け對支貿易は十箇年に比し約半減し七百三十餘萬圓に下り總額の約二割七分に過ぎず其後好景氣時代の大正六年には對支貿易は二千三百七十九萬餘圓を示し總額の約四割に近くに至り外に關東州の貿易額二百三十五萬餘圓あり香港は八百二十餘萬圓北米合衆國は七百六十餘萬圓とし其他英領亞米利加の五百十九萬餘圓英領印度の四百四十餘萬圓蘭領印度二百六十二萬餘圓等となす。

昨十三年の情況を見るに對支貿易は前に述べたるが如く支那の動亂其他不況原因ありたるにも拘らず銀高に依り輸出を促進し又排貨及內亂の反動として却つて盛況を見たるものあり即ち砂糖、石炭、鹹、乾魚類等

の輸出を增加し又大豆油精、包蓆等の輸入を增進したるを以て其額四千八百四十八萬餘圓に達し大正八、九年に比し尚ほ八百餘萬圓を超過し改隷以來最高記錄を示したるものとす其他米國、蘭領印度、關東州等に對して減退したれど香港、英國、英領印度、爪哇、波斯、濠州等多くの地方に對しては一般に增進を示したるものとす。

今明治二十九年以降五箇年平均一箇年貿易を示さば左表の如く變遷あり。

□明治二十九年以降支那貿易額比率表

年次	支那貿易額（千円）	外國貿易總額	總額ヲ百トシタル指數
自明治二十九年至明治三十三年	一五、九五三	二四、九二〇	六四
自明治三十四年至明治三十八年	一二、三〇〇	二二、六六七	五四
自明治三十九年至明治四十三年	八、四七三	二五、一九四	三四
自明治四十四年至大正四年	一〇、八三三	三〇、四三四	三六
自大正五年至大正九年	三〇、七〇四	七四、一三八	四一
自大正十年至大正十三年	三三、四二二	七二、一八一	四六

次に明治三十年以降前後四期間の重要國別貿易の比例を揭ぐるときは左記の如し。（單位千圓）

	明治三十年	明治四十年	大正六年	大正十三年
支那	一七、二四二	七、四一五	二三、七九七	四八、四八一
關東州	—	—	二、三五九	一、九二四
香港	二、〇六七	二、二八九	八、二〇四	五、八三七
英領印度	—	—	四、四五六	二、七〇六

蘭領印度	—	一二二	二、六二二	六、五七三
暹羅	五一	四三	四四〇	一、八五七
比律賓諸島	三三	七	八五	六一三
英國	一三八	二、二六〇	一、八二七	四、〇五二
佛國	一〇	四	一〇三	八七八
獨逸	三五三	二八二	一一	八九八
北米合衆國	一一八	四、〇五〇	七、六七六	八、七六二
濠州	四一	七〇	一、〇二九	一、二一二
假置場	—	—	三二五	一、六二三
其他	五、二九六	四、四二〇	八、三八一	三、五八三
全計	二五、四一一	二〇、九六二	六一、三一五	八八、九九九

前記假置場の分は主として爪哇糖の輸入を含むものにして之を加算せば蘭領印度の貿易額は一層多額に達すべきなり。

四、重要輸出入品

(イ) 重要輸出品

改隷後數箇年の本島重要輸出品としては製茶、米糖、樟腦等となし製茶は今日同樣大宗貨物たり其額六、七百萬圓に上り主として烏龍茶大部を占め包種茶は約一割に過ぎず米糖之に次ぎ各二百萬圓臺に上りしことあり砂糖は赤糖大部を占む樟腦は又百萬圓乃至二百萬圓臺に達し其他百萬圓臺を越ゆるものなく苧麻の如き三十萬圓內外に在りたり次で四十年以降數年は烏龍茶に於ては稍減退を示したるも包種茶は約倍額に達し百萬圓臺より二百萬圓臺に近き樟腦は增加して二百萬圓臺より三四百萬圓臺に達し米糖は輸出減退せり。

大正五、六年以降製糖業の隆盛時代に入りては著しく面目を改むるものあり即ち大正五年には印度、濠州、

の輸加奈陀及香港方面に砂糖の輸出を增加し其額一億萬斤を越ひ一千一百餘萬圓に上り同六年には更に增進して最高一億四千餘萬斤一千五百餘萬圓を示し輸出貿易を支配すること多大なるものあり而して最近十三年には四千萬斤餘五百九十九萬餘圓に止りたり。

製茶は大正五年に減退したれども同七年以降增加する所あり同品は從前より其一部分を淡水より輸出したるものなるが同年より全部之を基隆より輸出するに至り其後多くは五百萬圓內外に在り包種茶は南洋方面の需要次第に增進したるを以て二、三百萬圓臺より四百萬圓臺に增進せり。

樟腦は大正五、六年には共に四百六十萬圓臺に增加し其後七、八年には稍減退したるとも同十年には「セルロイド」工業の大不況時代にして專賣局は賣止を實行したるが如き情態にして其輸出高僅かに二十八萬圓に過ぎず翌十一年には四百四十餘萬圓に上りたるも最近又稍減退を示せり。

更に輸出貿易上特筆すべきは酒精「セメント」及石炭の輸出を增進したるに存し酒精は大正五年頃より產額を增加し主として支那汕頭又は香港方面に仕出し大正六年には七十五萬圓に上り七年には八十九萬餘圓に達し十三年には最高百六十餘萬圓に達したり「セメント」は大正六年以降淺野「セメント」高雄工場の生產品に係り香港、上海、大連、青島、其他支那沿岸に輸出し大正十一年には最高四千五百萬斤百十餘萬圓に達し其後減退したれども尙ほ十三年には七十九萬餘圓を示せり。

石炭は近年北部炭田の開發と共に其輸出を增加し出炭量約百萬噸輸出額は約四十五萬噸內外にして大正九年には市價騰貴の爲に最高八百五十七萬餘圓を示し其後五、六百萬圓臺に在り。

其他重要輸出品中には內地よりの仲繼品たる綿織物、燐寸、乾魚及鹹魚等ありたれど近年戰後の反動とし船舶の緩和を主因とし是等仲繼品中には稍減退を來したるものあり就中燐寸は支那に於ける該工業の發達に

依り著しく其輸出を減退せり。

左に最近三箇年間に於ける重要品の比較を掲ぐ。（單位千圓）

	大正十一年	大正十二年	大正十三年
石炭	五、七一九	五、六九五	七、三〇五
砂糖	二、七四八	二、二三〇	五、九九四
包種茶	四、六三九	四、六八三	五、四四五
烏龍茶	四、八六七	五、一六〇	四、八六四
鹹魚及乾魚	五九六	五六四	二、八五二
樟腦	四、四一七	三、三〇五	三、六三六
酒精	六五三	一、三〇〇	一、六二一
錫	五四	五三三	一、五八九
綿織物	一、一六七	四五三	一、四八五
セメント	一、一〇七	六五二	七九七
其他	四、五九六	四、五七七	六、九八七
計	三〇、五六三	二九、一五二	四二、五七五

（ロ）重要輸入品

改隷以來數箇年を通じ重要輸入品としては阿片、綿布類を大宗となし其他米、豚、砂糖、索麪、鹹魚、落花生油、小麥粉、石油、唐紙類、木材及板等あり。

阿片は明治二十九年には百十萬圓三十年には百五十餘萬圓なりしが三十一年以降增加し二、三百萬圓臺に達したることあり。

織物類は當時內地製品の移入少かりしを以て主として支那に仰ぎ就中支那綿布は明治三十年には百萬圓同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三十一年には百三十七萬餘圓に達し其他金巾類も四、五十萬圓に達したることありしが其後漸次減退したり、豚は五十萬圓臺より百萬圓臺に達したることあり米は明治二十九年に七十六萬餘圓同三十一年には最高二百五十八萬餘圓を示し小麥粉は三十萬圓臺に上り精糖は明治三十年には二十七萬圓同三十一年四十一萬圓に達し其後數年間は尙ほ相當額を示したり石油は明治三十年前後には七十萬圓內外を占め同三十三年には百十一萬圓に上り其後數年間は尙ほ八十萬圓以上百萬圓臺を越へたることあり禮拜紙は當初は二、三十萬圓臺に在りたれど其他唐紙は三、四十萬圓を占めたり。

明治四十年以降に至りては島內產業の發達、內地移入品の增加に依り前記豚、米、小麥粉、砂糖類、索麵、落花生油、唐紙、綿織物類等は減退したれど葉煙草、包蓆「ガンニー」袋、豆油糟、硫安、茶油糟等肥料類の輸入を增進し又一時機械建築材料等の輸入盛旺を極めたることあり葉煙草は明治三十九年には百萬圓を突破し其後六、七十萬圓臺より百萬圓臺に在り包蓆は三十年當時には四萬八千圓臺なりしものが三十九年には二十三萬八千餘圓四十三年には六十萬圓に上り大正六年には百七十餘萬圓八年には最高二百四十六萬餘圓を示し最近百五十萬圓臺より百八十萬圓臺に在り「ガンニー」袋は大正五年以降輸入を增加し其後增減あり最近十二年には僅かに十九萬圓臺なりしが十三年には最高百七十七萬餘圓を示せり。

豆油糟は大正元年より其輸入を激增し百九十萬圓臺に上り八年には千萬圓臺九年には千二百萬圓臺を突破し硫酸「アムモニユム」は最近調合肥料の需要を喚起したる爲に著しく輸入を盛旺ならしめ大正十二年には九十萬圓に上り十三年には倍加して百八十二萬圓を示したり阿片は明治四十年以來二、三百萬圓臺にして時に一張一弛あり大正八、九年には最高六百萬圓を越へたれど最近頓に減退し百三十萬圓乃至百五、六十萬圓臺に下れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

製糖機械類は製糖工場の建設期たる明治四十一年以降輸入を見即ち同年及四十三、四年頃には年額三、四百萬圓を示したるが其後事業の一般落と内地製品の供給ありたるとに依り漸次減退し最近大正十年新高製糖彰化工場用として三十二萬餘圓の輸入を見たるのみにして其間杜絶したり。

鐵道建設材料も亦明治四十三、四年頃には相當輸入ありたれど其後減退し大正十年には官佃溪工事及新高製糖彰化工場用の爲めに輸入を增加し其額七十九萬圓に達したりしが十一年以降激減せり家屋橋梁船舶等建設材料も十一年には六十四萬圓餘あり十一年には電力會社の使用材料入津したる爲に七十三萬圓に上りたれば十三年には減退して十萬圓臺に下れり其他機械類は最近に至り增進し殊に十年には新高製糖彰化工場用材料の輸入ありたるが爲に五十萬圓を越ひ殊に十二年には電力會社の機械類多くして最高二百三十二萬圓に達したり。

今最近三箇年間に於ける重要輸入品の比較を示さば左記の如し。(單位千圓)

	大正十一年	大正十二年	大正十三年
大豆油糟	七、八二一	七、六五六	一二、六八四
砂糖	六、〇九九	四、四四四	三、八三八
大豆	二、九〇三	二、三五一	二、五七二
木材	二、四一三	二、〇七五	二、〇二八
硫安	一、八二五	九一九	三二九
ガンニー嚢	一、七七〇	一九八	三二九
包蓆	一、五一五	一、六八〇	一、六五九
小麥	一、四三五	九六七	三一八
石油	一、四三三	一、三五九	一、三七四
阿片	一、三六八	一、五二〇	一、六六八

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

葉煙草	九五四	四〇〇	八六一
黃麻	四〇三	七一四	七五四
米（籾共）	六一四	二六五	四五四
綿織物	五三九	五四〇	五九三
禮拜紙	四七四	五三〇	六二八
コンデンスミルク	三〇五	四二四	五四七
家屋橋梁船舶船渠建築材料	六四六	七三一	一〇七
其他	五、四八二	一二、一三八	一五、六八一
計	三六、九二一	三九、一一一	四六、四二四

第三、內國貿易

一 總說

改隷後數年間は經濟竝文化の發達を見ず本島消費貨物は多くは對岸支那より輸入したるもの多く特別開港の貿易今日に比して自ら盛なりしこと前に述べたるが如く殊に因襲的商習慣に基因し內地生產品中海產物燐寸洋傘類は一旦香港市場を經由し本島に再輸入したるの奇現象を呈したりしが經濟產業の發達運輸交通の整備內地人移住の增加生活程度の向上關稅統一等主因をなし益々內國貿易は外國貿易と異り歷年累進する所あり例へば明治三十年には僅かに五百八十餘萬圓に過ぎず其後三十六年迄漸次增加したれど尚二千萬圓臺に在り而して各年入超なりしが四十年前後より頓に增加し四十年には四千五百萬餘圓四十三、四年には七、八千萬圓臺に上り殊に其後糖業の勃興米作の改良發達に依り貿易を激增し大正四年以降一億萬圓を突破し三十年に約十七倍し大正八年以降は二億圓を上り九年には二億九千三百八十餘萬圓を示し三十年に比し四十七倍餘

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に至り其後反動期に入り十一年には減退し二億九百餘萬圓に下りしが十二年には又增加し二億四千萬圓臺となり昨十三には職として米糖の移出盛旺を極めたるを以て前年に比し五千七百餘萬圓を增加し改隷以來最高記錄を示し二億九千七百六十餘萬圓を呈し三十年以來約六十倍に垂んとせり遂に內外總貿易高は三億八千六百餘萬圓とし最高記錄を示したる大正九年と大差なきに至りたるものとす。

貿易上の均衡より見るときは內國貿易は外國貿易と反對にして改隷後數箇年糖業の不況期たりし大正二年を除くの外は殆んど各年出超に在り例へば明治三十二、三年には入超各四百萬圓臺に過ぎざりしが四十二年以降は一千二百萬圓臺より一千八百萬圓臺となり大正五年以降三千萬圓を突破し大正九年には六千八百萬圓同十二年には九千八百萬圓昨十三年には最高一億二千四百餘萬圓に達したるが如くに改隷後二十九箇年間に於ける出超總額は實に六億一千二百餘萬圓を占むるの好況に在り然れども本島は尙栽培殖民地たるの域を脫せず貿易の大宗品たる製糖業の株主又は資本家は內地に居住し其收益は內地に持去らるゝ關係上却て尙借方計算に在り本島自體に霑被する所鮮少なるは移出島の消費稅が各年三、四千萬圓づゝ本國政府の收入に攙入せられつゝあるの事實と共に臺灣の開發上閑却すべからざる問題たり。

左に明治三十年以降各年の內國貿易統計を揭ぐ

□本島內地間移出入品價額累年表 （單位千圓）

年次	移出	移入	計	移出入(△)超過	移出入計ノ指數
明治三十年	二、一〇四	三、七二三	五、八二八	△一、六一九	一〇〇
明治三十一年	四、一四二	四、二六六	八、四〇九	△一二三	一四四
明治三十二年	三、六五〇	八、〇一一	一一、六六二	△四、三六一	二〇〇
明治三十三年	四、四〇二	八、四三九	一二、八四一	△四、〇三六	二二〇
明治三十四年	七、三四五	八、七八二	一六、一二八	△一、四三六	二七七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十五年	七、四〇七	九、二三五	一六、六四二	△一、八二七	二八六
明治三十六年	九、七二九	一一、一九四	二〇、九二四	△一、四六五	三五九
明治三十七年	一〇、四三一	一〇、一五六	二〇、五八七	二七四	三五三
明治三十八年	一三、六六一	一三、四八三	二七、一四五	一七七	四六六
明治三十九年	一八、二五九	一五、六二四	三三、八九三	二、六二五	五八二
明治四十年	一七、六三四	一九、七五〇	三七、三八五	△二、一一五	六四一
明治四十一年	二四、四二三	二〇、九二六	四五、三五〇	三、四九六	七七八
明治四十二年	三六、三〇九	二四、〇〇六	六〇、三一六	一二、三〇二	一、〇三五
明治四十三年	四七、九三七	二九、〇七〇	七七、〇〇七	一八、八六七	一、三三八
明治四十四年	五一、五〇八	三三、七三八	八五、二四七	一七、七六九	一、四六三
大正元年	四七、七三六	四三、三二〇	九一、〇五六	四、四一五	一、五六二
大正二年	四〇、四二五	四二、八二九	八三、二六五	△二、三九四	一、四一八
大正三年	四五、七三八	三九、八七九	八五、六一七	五、八五八	一、四六七
大正四年	六〇、一九二	四〇、五八七	一〇〇、七八〇	一九、六〇五	一、七二九
大正五年	八〇、六一九	四九、五二四	一三〇、一四四	三一、〇九五	二、二三三
大正六年	一〇五、四九六	六七、七四四	一七三、二四一	三七、七五二	二、九七二
大正七年	一〇五、六〇〇	七〇、五九一	一七六、一九一	三五、〇〇九	三、〇二三
大正八年	一四一、八八五	九〇、五二六	二三二、四一二	五一、三五八	三、九八八
大正九年	一八〇、八一六	一一二、〇四〇	二九二、八五六	六八、七七五	四、七三三
大正十年	一二八、八九六	九、三五二	二二二、四一八	三五、三七五	三、八一六
大正十一年	一二七、三〇一	八二、一七三	二〇九、四七四	四五、一二八	三、五九四
大正十二年	一六九、四四二	七一、〇一八	二四〇、四六〇	九八、四二四	四、一二五
大正十三年	二一一、〇九八	八六、六〇二	二九七、七〇〇	一二四、四九六	五、九六六

（註）大正十一年以降には朝鮮貿易を含むも其額十萬圓に達するもの、中には十三年中には朝鮮に對する移出高二百七十餘萬圓を包み就中砂糖約百七十萬圓を占む而して大正十年以前には朝鮮貿易を包ますと雖ども其額多きも三、四十萬圓迄に至らず

し耕作資金の前貸は蔗農の金融を援け私

二　港別貿易

（イ）本島港別貿易

改隷當時數箇年の各港情況を見るに基隆を筆頭とし安平之に亞ぎ高雄は移出に於て百萬圓を越ゑたれど三位に在り製糖期前の三十九年頃迄は基隆の一千五百萬圓以上安平の五百五十萬餘圓に對して五百餘萬圓に過ぎざりしが四十三年頃より急に其位置を轉じ高雄は三千八百餘萬圓に上り第一位を占め基隆は二千七百餘萬圓安平は一千萬圓臺となり四十四、五年は同一順位に在りしが大正二年以降今日迄獨り大正九年に高雄が一億五千九百餘萬圓即ち全島貿易の五十四%を占めたるを一例外となすの外は基隆の次位に在り昨十三年には基隆は一億四千六百餘萬圓高雄は一億四千十三萬餘圓にして殆んど伯仲の間に在りたり。

今三十年以降前後期間に於ける各港別の比較を掲ぐれば左記の如し（單位千圓）

	基隆	淡水	安平	高雄	馬公	東港	其他
明治三十年	四、四三二	二〇二	—	九〇七	—	—	二八七
明治三十五年	一〇、八九三	八六	二、三四八	二、一六四	一五〇	—	一、〇〇〇
明治四十年	一九、二二五	二四一	七、一一五	一〇、五六〇	二四二	—	二
大正元年	四〇、一九六	—	九、一六〇	四〇、八三五	四一八	三六七	八〇
大正五年	六〇、八六四	—	七、五一九	五九、二六四	四二八	一、七八五	二八四
大正十年	一〇七、九六四	九〇	八、六一七	一〇二、八六九	六二〇	—	二、二五八
大正十三年	一四六、五八三	四	八、七九一	一四〇、一三二	四八六	—	一、七〇四

淡水の貿易は改隷後明治三十七年及四十四年以降大正七年迄は絶無となり最近多きも十萬圓に達せず東港は獨り移出のみなりしが四十三年及大正元年以降同六年迄存したるのみにして最高額は大正五年百七十八萬餘圓となす前記其他の中には梧棲・後龍・鹿港等の特別開港の外に鹽を移出したる布袋・北門・木材を移出した

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る花蓮港及鯨を移出したる大板埒等の不開港を含む。

更に内外貿易高に關し各港の比較を附記せむに三十年以降三十九年迄十箇年間は各年基隆を筆頭とし淡水安平及高雄の順位となり四十年以降は四十三、四年及大正九年高雄第一位となり大正九年の高雄總貿易高は一億九千百五十餘萬圓にして全島の四九%を占めたり其後再び基隆一位となり今日に至れり。

(ロ) 内地港別貿易

本島と内地各港間貿易の情形を觀察するに阪神地方及東京方面を主とし殊に門司名古屋等が近年重要なる仕向港たるに至りしは注目に値すべきなり。

明治四十二年頃には横濱は一千七百萬圓にして筆頭に在り大阪及神戸は各一千四百萬圓臺を占め伯仲の間に在り東京の如きは遙かに下り四百萬圓臺なりしが五箇年後の大正三年には大阪を第一位とし二千五百萬圓を示し神戸東京は次位にして各一千六百萬圓臺に在り横濱は激減し六百萬圓臺に下り大正八年には大阪の發達著しく六千百萬圓に上り東京又五千七百萬圓にして次位に在り神戸四千三百萬圓にして之に次ぎ名古屋は四十二年頃には僅かに六十二萬圓臺なりしが次第に増進し八年には横濱と同じく一千六百萬圓を示し神戸之に次ぎ六千八百萬圓臺に上り東京は震災の餘波に依り減退し四千三百萬圓臺に下り横濱も同じく一千百萬圓臺に減退し反之門司は擡頭して三千五百萬圓臺に上り名古屋は増進して二千四百萬圓臺を占めたり。

以上諸港と本島との關係に於て貿易を支配すること大なるものは砂糖の移出に存すれど阪神地方は又本島に對する重要なる供給地たり門司馬關京濱名古屋等と稍趣を異にす。

今各港の四十二年以降四期に於ける貿易統計を示さば左記の如し。

□内地港別價額　(單位千圓)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

	明治四十二年 移出	明治四十二年 移入	明治四十二年 計	大正三年 移出	大正三年 移入	大正三年 計	大正八年 移出	大正八年 移入	大正八年 計	大正十三年 移出	大正十三年 移入	大正十三年 計
大阪	六、一一一	七、八九六	一四、〇〇七	一三、一三三	一二、七八〇	二五、九一三	三〇、一八七	三〇、八六一	六一、〇四八	四四、三九五	三二、〇九三	七六、四八八
神戸	七、八六〇	六、六五三	一四、五一三	七、五二四	九、一八四	一六、七〇八	二三、三一九	二〇、一六六	四三、四八五	四五、二五七	二三、二五六	六八、五一三
東京	一、七六五	二、七二〇	四、四八五	一一、七六一	四、九七五	一六、七三六	四三、三三三	一三、七一八	五七、〇五一	三七、一七四	六、六六九	四三、八四三
門司	一、三八二	二、一六七	三、五四九	一、八六九	四、八四六	六、七一五	五、六一七	一〇、七七六	一六、三九三	二四、二四〇	一一、〇〇九	三五、二四九
名古屋	二三〇	三九五	六二五	三、三二〇	七七八	四、〇九八	一四、五九九	八九四	一五、四九三	二三、三四〇	八四八	二四、一八八
横濱	一六、一三八	一、一四八	一七、二八六	六、〇六六	五九六	六、六六二	一三、五九五	二、三五四	一五、九四九	一〇、八一三	七五七	一一、五七〇
下關	三八六	五一一	八九七	八〇九	八五四	一、六六三	七、四五二	二、四五一	九、九〇三	七、三一〇	二、四九〇	九、八〇〇
函館	二	二四	二六	一三	一、五六五	一、五七八	四九	二、二六四	二、三一三	一、五三七	三、八四二	五、三七九
三池	—	—	—	八〇	三四	一一四	—	—	—	四、一七〇	一一六	四、二八六
小樽	—	—	—	三五	五四	八九	一二三	一二二	二四五	二、八八二	一三七	三、〇一九
其他	二、四三六	二、四八二	四、九一八	一、一八三	四、一六〇	五、三四三	三、六〇二	六、九三一	一〇、五三三	九、九八〇	五、三八五	一五、三六五
計	三六、三一〇	二四、〇〇六	六〇、三一六	四五、七三八	三九、八七九	八五、六一七	一四一、八八六	九〇、五二七	二三二、四一三	二一一、〇九八	八六、六〇二	二九七、七〇〇

三　重要移出入品

（イ）重要移出品

改隷當初數箇年に於て移出重要品として掲ぐるに足るものは米・糖・樟腦及樟腦油に過ぎず例へば米は三十一年及三十四年以降百萬圓を上り其後三十六年には四百八十八萬餘圓を示し三十八年以降一層增加し赤糖は三十年以來百五、六十萬圓を突破し三十四年より數箇年には平均三、四百萬圓臺に在り三十九年には八百五十餘萬圓に上りたり樟腦は當初數年間は三十三年頃より其移出を增加し同年九十四萬餘圓三十四年には百五十萬圓に上り其後稍減退し樟腦油は當初四、五十萬圓臺に在り三十三年には百萬圓を越ゆる其後九十萬圓乃至百三十萬圓臺を示したるものとす明治四十年前後より數箇年は玄米の移出を激增し三十八年より四十年迄は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五、六百萬圓臺に在り其後四十一、二年には八、九百萬圓に上りたることあり又精米も相當移出し四十三年には百五十七萬餘圓を占めたり而して大正元年以降は一層進呈を示し砂糖は四十年頃より新に移出を開始し四十二年には約二千三百萬圓を示し四十三年頃より漸く分蜜糖の移出を增加するに至り四十四年には三千六百八十七萬餘圓にして含蜜糖約九百餘萬圓を包み其後益々增進を來たしたるものとす其他樟腦及樟腦油等は一張一弛あり。

大正元年頃より特に移出を增加したるは玄粳米及糯米等にして元年には前者九百七十五萬餘圓後者は約五十萬圓を示し二年には前者千四百餘萬圓後者百四十萬圓を示し其後一層進展を呈したるものあり切乾藷の如きは大正元年より漸く移出を增加し二年には二十八萬餘圓に上り大正八年には百二十四萬圓臺に達したることあり芭蕉實は明治四十一年頃より漸次增加し四十三年には三十四萬餘圓大正三、四年頃には五、六百萬圓臺に在りしが大正五年以降百萬圓を突破し七、八年には二百萬圓臺に上り今日は一千萬圓臺に進展したるものとす。

烏龍茶は明治三十二、三年頃より相當額を占め三十四年には六十八萬餘圓を示したりしが其後減退し四十三年には又五十六萬圓を越る大正四年以降百萬圓を上り六年には內地仲繼輸出の爲に最高三百三十七萬餘圓に達し包種茶紅茶等は漸く大正五年頃より相當額を占め各二十萬圓を上りたることありしが其後何れも減退せり。

今最近三箇年間重要移出品統計を示さば左記の如し （單位千圓）

	大正十一年	大正十二年	大正十三年
砂糖	八四、四六八	一一一、八〇七	一一九、九一一
米	一三、五八一	二三、六三六	四八、四八六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

芭蕉實	六、八七五	八、二八〇	一一、八一六
樟腦	二、四一二	二、四九八	三、八九〇
酒精	一、七八七	三、〇〇五	三、〇三九
樟腦油	一、六六六	二、七一五	二、一〇五
木材	一、七五二	三、三二六	二、〇六八
石炭	一、七九〇	一、八四一	二、〇六五
セメント	七三六	一、〇二七	一、九八三
鰹節	一、八四四	一、八四二	一、八九〇
食鹽	九五〇	一、〇〇六	一、六六九
切乾薯	三五八	三四二	一、三六七
鳳梨罐詰	八六〇	九二五	一、三五〇
銅	二、〇六六	七一三	一、一六六
其他	六、一五六	六、四七九	八、二九一
計	一二七、三〇一	一六九、四四二	二一一、〇九八

（ロ）重要移入品

改隸當初數年間は人口少く又生活程度向上せずして移入品としては相當額を占むるもの少く例へば米穀類醬油・乾魚及鹽魚類・清酒・藥材・紙類・木材等を擧ぐべきも米は三十年に二十八萬餘圓より三十二年には八十六萬八千餘圓を示し清酒が三十年に十六萬餘圓を示し三十三年に六十二萬餘圓麥酒が同年二十一萬圓煙草が同年五十一萬餘圓を呈したたるの外は特記すべきものなし。

明治四十年前後よりは米の移入相當額を占め大正二年以降百萬圓を突破し七年には三百萬圓を上りたり精糖も漸次移入を增加し四十二年頃より四十萬圓臺を上り其後益々增進したるものあり醬油は四十四年頃より增進し來り四、五十萬圓臺に在り八、九年には七十萬圓臺を越ゑ十二年には八十萬圓臺に上りたり殊に今日

の大宗品たる織物類は四十年前後より又增加し四十四年には四百三十萬圓を越ゑ大正元年以降五百萬圓臺に上り大正六年以降六百萬圓以上一千萬圓に至りたることあり鹹魚・乾魚類等は四十四年より增加し同年二百二十餘萬圓に上り大正九年には七百六十餘萬圓に達し清酒は漸次需要を增加し四十四年頃には百萬圓を上り大正八年に三百萬圓を越ゑたることあり麥酒は四十四年頃より增加し同年三十七萬圓臺より大正六年には倍加し七十二萬餘圓に上り九年には百八十七萬餘圓を示し昨十三年には最高百九十萬圓を突破せり米は同じく四十四年より增加し同年九十二萬餘圓大大六年には百萬圓を上り其後六年には百八十萬圓臺となり七年には二百八十萬圓を越ゑ昨十三年には尙二百四十萬圓を示せり小麥粉は同じく四十四年より激增し同年百二十萬圓臺より大正元年及二年は各百六十萬圓を上り六年には二百八十萬圓を越ゑ其後稍減退し昨十三年には尙二百四十八萬餘圓を呈せり殊に特筆すべきものは肥料にして四十四年頃八十六萬餘圓に過ぎざりしが大正五年には一躍三百九十八萬餘圓に上り大正九年には最高七百九十六萬餘圓を示し昨十三年にも尙六百八十六萬餘圓を呈し織物類に次ぎ移入品中第二位に在り。

今最近三箇年重要移入品統計左記の如し（單位千圓）

	大正十一年	大正十二年	大正十三年
綿及絹織物	六、四二一	六、四七二	七、九一五
肥料	四、四一四	四、〇六五	六、八六〇
鹹魚及乾魚	四、一八二	四、二四五	六、四六九
鐵	四、二六一	四、〇六四	四、八九六
小麥粉	二、一二九	一、五五五	二、四八四
米	五、七一二	一、九七七	二、四〇九
紙	二、一五六	二、一七一	二、三八七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清酒	三、七六八	一、七〇七	一、九四四
錫	六三八	一、四九一	一、九〇八
紙卷煙草	一、四七八	一、四〇九	一、六七八
ガンニー袋及黃蔴袋	二二五	五六二	一、六三六
麥酒	一、四七六	一、六四二	一、五六一
燐寸	一、二二七	一、〇五四	一、三四六
砂糖	五八四	六八七	一、一〇二
其他	四三、五〇二	三七、九一七	四二、〇〇七
計	八二、一七三	七一、〇一八	八六、六〇二

第四、海運及開港の發達

一 船舶の入出港

(イ) 外國貿易汽船

改隷當時に在りては淡水・安平の海運を巨擘とし入港汽船數淡水は平均百二十隻を占め安平は六・七十隻を示したれど基隆・高雄等は十隻内外に過ぎざるの情態なりしが本島産業の發達築港事業の進捗等に從ひ基隆・高雄の海運顯著なる進展を示し最近大正五年には入港汽船基隆は二百七十六隻四十二萬二千餘噸を示し高雄は百十一隻十七萬餘噸となり淡水は下りて五十九隻四萬四千噸安平は五十四隻六萬噸に下り大正八年には基隆は五百八十五隻七十八萬九千餘噸高雄は百七十隻二十二萬四千餘噸を示し淡水は六十四隻二萬九千噸安平は同年より激減し九隻五千九百餘噸に低落し昨十三年には基隆は最高八百十三隻百四十六萬七千餘噸を突破し高雄は二百四隻三十五萬一千餘噸を示し而して全島に於ける比較を見るに二十九年以降數箇年は百六十餘

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

隻十四萬餘噸乃至二百餘隻十八萬餘噸を示したりしが大正元年頃には四百三十五隻八十萬噸を越え八年には七百八十六隻百萬噸を上り昨十三年には千百三十五隻百九十餘萬噸を示したり。

國籍別より見るときは改隷當時數箇年は英國籍汽船最も多く獨逸船之に次ぎ十八隻あり例へば明治二十九年には總入港船百九十六隻中英國船百六十五隻を占め三十二年頃は二百二十三隻中尙百四十五隻を包みたるが如きが翌三十三年以降英國船は次第に減退し反之日本船は二十九年には僅かに一隻を見其後多きも八、九十隻に過ぎざりしが三十九年より地位を轉換し英國船は三、四十隻臺に下り日本船は百二十九隻以上百七十七隻に至り大正元年頃には三百隻を突破し八、九年頃は六百隻を越ゆるに至り昨十三年には日本船九百三十隻にして大部を占め其他諸威船六十隻英國船五十四隻等之に次ぐものとす。

今前後四期に於ける外國貿易汽船の入港數を示さば左記の如し。

	明治二十九年		明治三十八年		大正三年		大正十三年	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
日本籍	一	一七五	八	一五、〇一六	三五八	五五八、八四七	九三〇	一、四八二、〇八六
英國同	一六九	一二四、八六三	四七	一五八、九二三	二〇	六三、六〇三	五四	一九四、八三三
獨逸同	八	一六、一六四	五九	六〇、四一三	一	二、〇一六	二三	一三、九四六
諸威同	三	七、一九一	五五	四八、四八五	—	—	六〇	六三、五〇四
米合衆國同	—	—	四	一五、五七五	五	四〇、六五一	一八	三二、三六一
和蘭同	—	—	四	八、四六九	五	二、八六五	一六	五八、四八七
瑞典同	—	—	—	—	—	—	一三	一八、一八七
支那同	二三	一〇三	—	—	—	—	一二	三〇、五一五
其他	—	—	—	—	四	一一、二三九	九	一三、〇四〇
計	二〇三	一四八、四九六	一七七	三〇六、八八〇	三九三	六七六、二六〇	一、一三六	一、九〇四、八三九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

更に每十箇年の平均數を示さば左記の如し。

年次	入出港隻數	噸數
自明治二十九年 至明治三十八年	三五八	三一九、九二九
自明治三十九年 至大正四年	六五八	一、一三七、〇七九
自大正五年 至大正十三年	一、五四七	二、三一三、九七九

（ロ）外國貿易帆船

外國貿易帆船主として戎克船は改隷當初基隆・高雄等の汽船貿易の發達せざる當時に在りては尙一時旺盛を極め例へば帆船入港數二十九年四千四百五十五隻にして支那形船たる戎克船全部を占め其後三十一年迄は四千隻を上りたりしが三十四年頃より減退し三十九年頃より數年は千隻內外となり更に四十四年以降大正四年迄は九百隻臺に下りたれど大正五年頃より製糖業の副產物たる糖蜜・酒精等の輸出及米の輸入等主因をなし恢復し來り一千隻を上り大正八、九年頃は千九百隻を上り昨十三年には又稍減退し千百餘隻となれり。

今每十箇年間の平均數を示さば左記の如し。

年次	入出港隻數	噸數
自明治二十九年 至明治三十八年	五、二一二	一四五、〇七一
自明治三十九年 至大正四年	二、〇四六	七一、六二二
自大正五年 至大正十三年	三、一七一	一三〇、六六二

（ハ）內國貿易船

內國貿易船の入港は當初より基隆を主とし安平・淡水之に次ぎ高雄は三十年以降三十二年迄不明にして三

十三年以降五、六十隻を占め其後例へば四十年頃より基隆四百隻内外八、九十萬噸臺に上り安平二百隻内外二、三十萬噸を示し高雄は百隻以上百隻十五萬噸臺に上り淡水は激減し大正五年頃には基隆四百隻八十萬噸を上り安平高雄は稍減退し大正八、九年の好景氣時代には基隆は同じく四百隻七百五十萬噸に在り高雄は百七、八十隻二十三、四萬噸臺に在り安平は更に減退し昨十三年は基隆は増進して最高六百十隻百二十六萬噸に達し高雄之に次ぎ二百五十五隻四十五萬餘噸となり淡水二百隻三十八萬餘噸に上るに至りたるものとす而して總體に於て明治三十年に百十四隻十八萬四千噸が三十三年には三百五十隻四十六萬餘噸となり三十九年頃より増進し四十年頃には六、七百隻百萬噸を越え四十三年以降九百隻百六十萬噸に上り大正六年頃より隻數に於て稍減退し八百八十隻餘となりしが噸量に於て増加したるものあり又大正五年以降數箇年間は更に減退を示したりしが十一年以降増進し昨十三年には最高千百九十隻二百三十一萬餘噸に達するを見たり。

今每十箇年平均數を掲げば左記の如し。

□内地往來汽船隻數噸數每十箇年平均表

年次	入出港隻數	噸數
自明治三十年 至明治三十九年	六一九	八九八、一八五
自明治四十年 至大正五年	一、六八八	三、一八九、五〇四
自大正六年 至大正十三年	一、六九七	七、九五六、二五〇

内臺間帆船は極めて少數にして明治三十年以降十箇年の平均は六噸三〇八噸四十年以降平均二隻二五九噸大正六年以降十三年迄平均十二隻一、二六一噸とす。

二　航路の擴張

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

改隷當初淡水安平等航路の中心は近年基隆高雄の兩呑吐港に集中するに至り第一外國航路としては南北支那及南洋線定期命令航路あり多くは大阪商船會社の經營となす。

北支那線は明治四十四年四月高雄上海線として開始せられ大正元年四月北支那線と改稱し高雄を基點として基隆・福州・上海・青島・大連・天津間を往復し貨客共南支那甲線に亞ぐの重要航路たり。

南支那線は甲乙丙三線あり甲線は明治三十一年四月淡水・香港線として開始せられ大正四年四月より基隆迄之を延長し遂に基隆を基點とし淡水を廢し廈門・汕頭・香港間を往復し貨客最も輻輳せる航路たり。

乙線は明治三十三年の創設に係り當初之を安平・香港線と稱し四十一年には高雄・香港線と改稱し四十四年には其航路を廣東に延長し高雄・廣東線とし大正四年に南支那乙線と改稱し從來多年本島と廣東との直接貿易に從事したる唯一の航路にして對支貿易上特記すべきものたり。

丙線は大正九年四月以降之を開始に係り基隆を基點とし福州・淡水間を往復す。

南洋線は又甲乙丙三線あり甲線は大正五年四月の開始に屬し單に南洋線と稱したりしが大正八年四月以降甲、乙二線に分ち共に命令航路とし往航は橫濱を基點としたり名古屋・大阪・神戶・門司・基隆・高雄・マニラ・サンダカン・バタビヤ・スマラン・スラバヤ・マカッサーに至り復航は高雄基隆に寄港し內地に至るものとす。

乙線は大正八年開始せられたるものにして基隆を基點として高雄・香港・西貢・盤谷・デリー間を往復す。

丙線は大正十年四月より開始したるものにして基隆を基點とし廈門・汕頭・香港・廣東・海口・北海・海防間を往復す山下汽船鑛業會社の經營に屬す。

其他外國航路中には自由定期航路及自由準定期航路あり。

第二內臺航路としては基隆・神戶線及高雄・橫濱線あり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

基隆神戸線は明治三十年四月の開始に係りたる命令航路にして日本郵船及大阪商船二社の經營に係り四十年迄は二社共三千噸級三隻の配船なりしが四十一年より六千噸級となし昨大正十三年六月より大阪商船會社は六千噸一隻八、九千噸級二隻（扶桑丸八、三三〇噸、蓬萊丸九、五〇〇噸）又本年三月より日本郵船會社は九千噸級一隻（吉野丸）を配船することゝなりたり。

高雄横濱線は明治三十五年四月よりの開始に屬し大阪商船會社の經營に係り横濱を基點として大阪・神戸・宇品・門司・長崎・基隆・馬公・安平・高雄間を往復す又最近本年四月より開始したる山下汽船鑛業會社の經營に係る高雄横濱線あり。

其他内臺航路中には又自由航路あり高雄横濱線・高雄芝浦線・沖繩線等あり大阪商船日本郵船及山下汽船鑛業の各社經營に屬するものたり又自由準定航路として高雄横濱線あり。

第三沿岸航路として甲乙兩線あり甲線は東沿岸線にして明治三十年四月の開設に屬し當初臺灣東廻沿岸線と稱したりしが大正四年四月より沿岸甲線と改稱し基隆を基點とし東沿岸各港卽ち海口・卑南・花蓮港・蘇澳及往航又は復航に際し各月一回新港・火燒島及紅頭嶼に寄港しつゝあり。

乙線は西沿岸廻線にして同じく明治三十年四月より開始し大正四年四月より沿岸乙線と改稱し基隆を基點とし馬公を終點とし往復するものとし共に大阪商船會社の經營に屬す。

其他沿岸船にも定期航路の外に自由航路あり基隆花蓮港間を廻航す。

三　開港の發達

明治二十八年下關條約の結果日・清兩國全權委員は同年六月基隆沖海上に於て本島の授受式を了し同月十四日我當局は支那稅務司「モース」より淡水及基隆稅關の引繼を受け南方は同年十月劉永福の遁竄に由り安平

及打狗稅關を開始し翌二十九年二月帝國政府は締盟各國に對し通商條約を臺灣に適用する旨宣言する所あり淡水・基隆・安平・打狗（高雄）を開港と定め各國との通商を認め又一面清領時代の舊慣を慮り舊港外數港を支那形船（戎克）に限り出入を認むる特別開港に指定し現在は基隆・淡水・安平・高雄の四開港の外に舊港・後龍・梧棲・鹿港・東石・馬公の五特別輸出港あり就中本島南北の二大呑吐港たる基隆・高雄は改隸以來百般の施設殊に鐵道交通の發達と共に築港事業の進涉見るべきものあり乃ち兩港に就て一言せん。

現在基隆港灣は內外兩港に分たる而して外港は干潮面下三十尺以上の水深面積三十萬六百坪內港は同三十尺以上の水深面積十九萬八千九百五十八坪あり。

基隆築港は夙に明治二十九年より豫備調查に著手し同三十二年の議會に於て同年以降四箇年繼續事業として豫算二百萬圓可決せられ次で同三十五年更に四十四萬圓の追加豫算を得て工事を完了したるものにして之を第一期築港工事とす。

本工事に依り三千噸級の船舶四隻を內港に繫留するを得るに至り更に同三十九年より同四十五年迄七箇年繼續事業として豫算六百二十五萬圓を得て岸壁四百二十間六千噸級船舶四隻其他三千噸級船舶十一隻呑吐貨物二十五萬噸荷役の計畫を立て三十九年の議會に提出し協贊を得工事の進行を見たるものにして之を第二期築港工事となす。

而して更に四十五年より五十二年（大正八年）度に至る八箇年繼續事業として追加豫算五百十七萬圓の計畫を四十五年の議會に提出し其協贊を得たるものにして之を第二期追加工事と稱し事業を繼續することゝせり然るに大正二年財政整理の結果該事業を繰延べ大正十四年に至る十四箇年の繼續事業に變更し更に大正六年に至り高雄外港の防波堤築造を急とするの都合上九年度迄工事を中止し次で九年より十五年に至る繼續事業

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

どして一千六十九萬八千九百四十圓の追加豫算を大正九年の臨時議會に提出し之が協贊を得たり從つて第二期追加工事は中絶したれども結局明治四十五年より大正十五年迄の繼續事業にして其豫算總額は一千五百八十六萬八千九百四十六圓なりとす本工事完成の曉には既成設備を合し岸壁一千四百十七間に延長せられ錨地は一萬噸級以下の船舶二十一隻、呑吐貨物八十萬噸の外に石炭八十萬噸の荷役能力を有するに至るべきなり現在牛稠港に於ては横三百間奥行八十間二萬四千坪の貯炭場は完成し同岸壁には三千噸級の石炭積取船三隻を同時に碇繫し得ることゝなれり。

高雄港灣は內港は港口より東方岸壁方面に至る一帶卽ち東西約千二百間南北約八百間にして十八尺より三十尺以上の深水面積三十一萬坪餘を占め將來三十尺の深水面積五十四萬坪餘に擴張すべき豫定なりとす。

高雄築港計畫は基隆に比して稍遲く明治三十三年漸く其豫備調査を開始し同三十七年停車場の擴張に伴ひ埋立に著手し其他浚渫水面整理等諸般の調査を進め偶日露戰爭後米糖產業の發達に伴ひ同四十一年豫算四百七十三萬三千圓六箇年繼續呑吐貨物四十五萬噸三千噸級以下の船舶十隻標準の築港事業を同年の議會に提出して協贊を得たりしが政府財政の都合に依り其計畫を縮少し呑吐貨物三十五萬噸三千噸以下の船舶七隻標準の計畫に改め一箇年を短縮し大正六年度を以て竣工することゝせり然るに又更に擴張するの必要を認め明治四十四年議會の協贊を經て翌大正六年より同十年迄十箇年繼續事業として追加豫算一千二百七十八萬四千圓を計上し同二年より漸く其事業に著手し次で財政整理の結果其年度を延長し終に明治四十一年度以降大正十四年度迄十八箇年繼續事業とし豫算一千七百五十一萬餘圓を計上し岸壁七百三十間一萬噸級以上の船舶十隻呑吐貨物九十萬噸荷役の計畫を立て現在完成の繫船岸壁は四百八十間にして三千噸級以上の船舶七隻を繫留するに足るものとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

港口は從前二百餘尺に過ぎざりしものが現在は三百五十尺となり將來五百尺に堀開の計畫とす港外防波堤は大正三年度より工事に著手し凝函(ケイハコ)を沈下連結し延長二千六百尺にして現在其大部を完成せり。

第五、呑吐貨物の噸量

呑吐貨物は亦貿易の發達に順應して增加し殊に貿易價格が市價の昂落に依つて著しく異同を生ずるに反し貨物の噸量は實際數を表示するを以て眞に貿易の消長をトするに足るものとす之を近年基隆及高雄兩港の例に徵するに內外貿易共逐年增進し外國貿易に於て基隆は好景氣時代の大正八年には六十九萬餘噸を越ひ其後反動期に入り大正十一年迄三箇年は稍減退に六十一萬噸臺に下りたれど十二年には增加し昨十三年には九十一萬九千餘噸を示し高雄は大正六年及同八年に各十九萬噸を上り翌九年には十一萬噸に激減したれど其後は頓に累進し十三年には三十五萬二千餘噸に達したり內國貿易に在りては基隆は大正七、八年頃は七、八十萬噸を示し其後同九年及十年には各七十萬噸臺を下りたれど十一年には八十萬噸に上り十三年には百萬噸を突破し高雄は大正八年には四十九萬噸を示し十年迄は稍減退し四十六萬噸に下りたれど其後五十萬噸を上り十三年には八十三萬八千噸に達せり。

從つて總貿易に於て基隆は二百萬噸に近く高雄亦百三十萬噸に近く沿岸貿易を加算せば基隆は二百二十萬噸高雄は百五十萬噸に至り何れも築港計の標準噸數を遙かに凌駕するの現象を呈せり貨物の種類に就て觀察するときは基隆は外國貿易に於て輸出品は石炭が輸出總荷の約九割を占め其他製茶乾鹹魚等之に次ぎ輸入品には石炭の如き重量貨物なきが爲に輸出貨物の約四分の一に過ぎず內國貿易に於て移出品は芭蕉實・砂糖・米・木材・銅・鑛石・樟腦・樟腦油・酒精・米・乾鹹魚等海產物・麥酒・紙卷煙草・燐寸・各種織物類・鐵道・家屋・橋梁・

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

建築材料等を主とす。

高雄は砂糖の仕出港と稱し得るが如く砂糖は總出荷の重要部を占め肥料・米・芭蕉實等之に次ぐ近年米糖及肥料豆粕と其他普通貨物との比例を見るに例へば大正九年以降十二年迄平均前者約五十萬噸に對し後者約三十萬噸となり自ら高雄は基隆と異り是等季節貨物が大半を占むる關係上前後兩期に於て著しく差違あり又入貨に比し出貨多額に在り各年十二月より四五月迄は繁忙季にして五月以降十一月頃迄の閑散季に比して數倍の貨物あり而して入貨は出貨の約二分の一内外とす。

左に基隆及高雄兩港の呑吐貨物の數量を掲ぐ。

□基隆高雄輸出入貨物噸量表（單位千噸）

年次	基隆 輸出	基隆 輸入	基隆 計	高雄 輸出	高雄 輸入	高雄 計
大正三年	八二	五四	一三六	四	八一	八五
同 四年	一一一	五七	一六八	八	九六	一〇四
同 五年	一七四	七七	二五一	八三	九九	一八二
同 六年	三四二	七七	四一九	一一一	八〇	一九一
同 七年	三五五	一二六	四八一	七九	九六	一七五
同 八年	五三八	一五九	六九七	三六	一五六	一九二
同 九年	四七三	一四六	六一九	三四	八四	一一八
同 十年	四七九	一三五	六一四	四六	一五九	二〇五
同 十一年	四八〇	一三五	六一五	七六	一八三	二五九
同 十二年	四九九	一三四	六三三	九四	一八九	二八三
同 十三年	七五〇	一六九	九一九	一三六	二一六	三五二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

□基隆高雄移出入貨物噸量調（同上）

年次	基隆 移出	基隆 移入	基隆 計	高雄 移出	高雄 移入	高雄 計
大正七年	三四九	三六八	七一七	二九三	一〇一	三九四
同八年	三九二	四一〇	八〇二	三七九	一二〇	四九九
同九年	二九二	三八七	六七九	二九六	一八〇	四七六
同十年	三〇〇	三四六	六四六	三二七	一三九	四六六
同十一年	五一八	三二八	八四六	三九一	一一二	五〇三
同十二年	六二一	二七六	八九七	四五四	一一九	五七三
同十三年	七六三	二九二	一、〇五五	六八七	一五一	八三八

第六、稅額收入

貿易の發達し比例に輸入稅等收入の增進亦た顯著なるものあり今有稅品と其稅額を對照せば左記の如し。

（單位千圓）

年次	有稅品	稅額	百分率
明治二十九年	七、一九五	四六九	六、五三三
同三十年	九、五〇四	四二〇	四、三三二
同三十一年	一二、〇七三	五一九	四、三〇七
同三十二年	八、五七〇	一、一七八	一三、七五〇
同三十三年	九、五四四	一、一一三	一一、六六一
同三十四年	九、九一五	一、三三五	一三、四六二
同三十五年	七、九一七	一、〇三四	一三、〇七五
同三十六年	八、四四六	一、〇五八	一二、五三九

年次	有稅品	稅額	百分率
明治三十七年	八、五八五	一、〇九四	一二、八四六
同三十八年	七、八九〇	一、三三四	一六、九〇七
同三十九年	七、三二七	一、三五七	一八、五五五
同四十年	七、五〇七	一、四八五	一九、七八六
同四十一年	一三、四五三	二、四六一	一八、二九五
同四十二年	八、四四〇	一、六九六	二〇、一〇〇
同四十三年	一三、七七〇	二、四七八	一七、九九六
同四十四年	一四、八一六	二、六九三	一八、一七九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正元年	三、三六一	二、七〇七	二、九〇六
同二年	一〇、七六六	二、三七六	三、一二四
同三年	七、三四七	一、七〇九	三、三六七
同四年	四〇、七八三	一、三五三	三五、三六七
同五年	五、九九六	一、一八三	二二、一七九
同六年	八、九三三	一、四三三	一六、〇五三
同七年	一六、一四四	二、六三四	一六、三一九
大正八年	三三、二八〇	四、七五四	一四、二八七
同九年	三〇、五三二	四、二〇九	一三、七七七
同十年	一八、二九七	四、八〇〇	一七、一八一
同十一年	三三、六一三	三、七九〇	一六、七七二
同十二年	二二、四八八	二、七七七	一七、五七五
同十三年	二〇、六九六	二、六六九	一二、九四九

前表に依れば輸入税收入は明治三十二年以降明治三十七年迄は百萬圓臺で在り三十八年より增加し四十一年には二百萬圓を上り大正元年には二百七十萬圓を越ひ其後砂糖の不況期に入り減退したれど好景氣時代の八、九年以降四百萬圓を示し十年に最高四百八十萬圓を突破したるは外國原料糖の輸入再製業熾盛なるの結果となす但し再製輸出に際し相當額の拂戻ありしを以て實際收入は遙かに下るものありしなり而して昨十三年に減收したるは一昨年震災に依る免稅品多かりし爲となす。

更に最近三箇年間の各種收入を掲けば左記の如し。

	大正十一年	大正十二年	大正十三年
輸入稅	三、七九三、一四八円	三、七七七、六七七円	二、六六九、五八二円
噸稅	四二、五五二	四五、一一三	五一、七九四
諸收入	三二、二〇一	三〇、八八九	三五、七五五
計	三、八六七、九〇一	三、八五三、六七九	二、七五七、一三一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

驚異に値する臺灣糖業の發展

殖産局特産課 囑託　長曾我部重親

一　帝國治臺當初の概觀

德川幕政以來民族的に交涉淺からざりし高砂の島國は日清の役の結末を告ぐるに當り明治二十八年愈々我が帝國の版圖に歸した、當時海軍中將樺山資紀伯は最初の臺灣總督として幕僚軍兵を率ゐて南下し臺灣及澎島の授受を了へ總督府を臺北に置き同年六月十七日を以て始政を布告した、斯くて愈々我が治下に置かれた當時の臺灣は民情未だ靖からず土匪四方に起り兵馬倥偬の間にも其の豐かな天惠は野にも山にも綠の浪を堆えつゝ我が爲政當局の開拓を待つた、就中甘蔗の生育は濁水溪以南の野を蔽ひ所々に匪群の潜伏に便した程で本島の甘蔗糖業に好適せることは一瞥の間に首肯されたのである、當時統計の徵すべきものなく幾何の面積が蔗作に使用せられ幾何の砂糖が生産されたかは精確に知る由もないが、漢民族の移住と共に傳來して以來數百年些の改良を見ず連作退化した貧弱な竹蔗と粗笨極まる耕作法に依つて一甲當四萬斤內外の原料を舉げ、舟楫其他交通の便ある地方には到る處に散在する饅頭形の原始的糖廍一千數百箇所と糖間（舊式白糖製造所）に依り年額實に七、八十萬擔の青糖及白糖を島外に供給しつゝあつた現狀を目擊し、翻つて我が日本帝國が臺灣糖の主要銷路であつた事實を思ふとき我が爲政當局をして「帝國の砂糖給源地は正に此の新領土

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である」と直覺せしめたことは實に自然の勢であらねばならぬ。當時帝國の砂糖消費量は年額約五百萬擔（五億斤）に上り其の四分の三乃至五分の四は海外の供給に俟たざるべからず、其の價額二千數百萬圓の多きに達して居たので爲政者は國產の獎勵に依り自產自給を圖り國帑の流出を防遏せむことに力めやうとする際であつたので、此の恰好の新領土に於て直ちに斯業獎勵に著手することゝなつた。

●改良の端緒●　農產製造業たる糖業の改良を圖るには先づ斯業の基礎を成す原料の改善を計らねばならぬ、從來本島に栽培されつゝある蔗種は竹蔗・蚋蔗・紅蔗・南貢蔗・青皮蔗の數種で、就中製糖原料としては主として竹蔗であつたが、此等は何れも品質劣惡加ふるに之が栽培法は極めて粗放で灌漑は全く天に委し施肥も亦殆ど行はれず、從つて一甲當收量亦漸く四萬斤內外に過ぎず、更に砂糖製造の方法に就て見るに全島一千有餘の製糖場中新式機械を用うるもの絕えてあることなく、何れも水牛を原動力とし小規模の石製轉子を以て甘蔗を壓搾し、數個の平鍋を以て蔗汁を煮沸し石灰を加用して浮游滓渣を掬ひ取り蔗汁の濃化するを待つて之を攪拌しつゝ冷却凝結せしむるに過ぎず、爲に蔗汁は少からず搾殼中に委棄せられ產糖品質は頗る劣等なる所謂青糖又は赤糖を得るに過ぎず、更に再製白糖の製造は原料糖たる硼栥糖の上に濕潤なる粘土を覆ひ之れより滴下する水分を以て糖蜜を洗ひ、硼底の孔から流出せしめつゝ放置すること約三十日內外にして硼の上部約三分の一に殆ど名ばかりの白糖を得るのである、斯の如き不經濟なる糖業を改善向上せしむるには其の農工何れの方面にも根本的革新を要するのであるが、就中原料卽ち農業方面の改善は小規模ながらも直ちに著手し得べく而かも數年の歲月を要し漸を逐ふて向上發展を期すべき根柢的事業である、乃ち督府殖產局は領臺の翌年民情未だ全く安んせざる明治二十九年に於て早くも之に著手し、在布哇帝國領事に依托して同地の甘蔗優良種たる「ローズバンブー」及「ラハイナ」の苗を取寄せ臺北城外古亭庄及大龍峒基隆河畔の臺北農

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事試驗場に試植繁殖を圖り、次で明治三十三年其の種苗を、臺中・臺南の二縣及宜蘭・臺東の二廳に配付試作せしむることとした是れ實に本島糖業改良の先驅を成すものである、次で明治三十四年三月淡水駐在米國領事の手を經て再び「ローズバンブー」、「ラハイナ」、「ストライプドシンガポール」、「イエローカレドニア」の四品種を布哇から輸入したが、此等兩度の輸入蔗苗は其の數量少なく輸送中の損傷等も免れず到底委託輸入の手段に甘んずべからざるものがあるので、同三十四年殖產局技手今井兼次氏を布哇に派遣し彼地に於て選擇して「ローズバンブー」及「ラハイナ」の兩種を購入し翌三十五年一月乃至三月の間に輸入した其の他明治三十年及三十二年に於て八重山島から從來小笠原島及琉球に栽培されて居た布哇種「ラハイナ」、「ストライプドシンガポール」を購入し、又三十四年七月小笠原島廳から種苗の寄贈を受け更に三十四年三、四、五月の交濠洲產「マウリシアスキンガム」、「ラボー」、「ミーラ」及爪哇產烏蔗、花蔗等を輸入したが是等の種苗は何れも其の數量少なく一般に普及するに至らなかつた。唯「ローズバンブー」だけは各地試作の成績頗る優良從つて之れが繁殖普及に努めた結果最初の輸入後十五年にして遂に全島蔗園の九割五分を占むるに至つたのである。

新式工場設立　前述の如く先づ砂糖農業の改良を圖りつゝある間に明治三十一年二月故兒玉源太郎伯臺灣總督の印綬を帶び民政長官後藤新平子を携へ任に臺灣に蒞み、本島產業の改良を圖らむとするに當り先づ糖業に囑目し東京に於て財界有力者に就き本島糖業に投資せむことを勸說したる結果、毛利・三井・其他有力者間に新式製糖會社設立企畫せられ、故井上馨侯の後援の下に明治三十三年十二月創立總會を東京に開き資本金一百萬圓を以て愈大會社の成立を見るに至つた、是れ卽ち現在の臺灣製糖株式會社である、次で社長鈴木藤三郎氏は當時の支配人山本悌二郎氏と共に親しく實地を踏查し、臺南廳下橋仔頭庄に地を相し此處に一晝夜原料壓搾能力二百噸の製糖工場を建設することゝなり、直ちに工事に着手した、當時交通運輸の不便と困

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

難は機械や工場材料の運搬に少からず障礙を與へたが幸に豫定の通り竣工し、一面工場附近に約一千甲步の土地を買收して農場を設け明治三十五年一月十五日から製糖を開始した、是れ卽ち同社現橋仔頭工場で本島新式製糖場の嚆矢として糖業の組織と製糖工業に一大革命を齎したものである、當時原料甘蔗は改良種未だ普及せず在來の劣等種で農家も亦會社に對する原料供給に慣れず爲めに原料買收及製造に幾多の困難を重ね、一面病魔疫癘其勢を逞ふし社員職工の之に冒さるゝ者少からず殆ど操業不能に陷らむとしたこともあつた、加ふるに土匪猖獗工場を強襲したことも一、二回に止まらず社員職工等は從業の傍ら防禦工事を施すに腐心し工場の周圍は繞らすに土壁を以てし建物全部に防備を施し事務所の屋上に大砲を据付け得るの設備を爲し、屋上並に廻廊に銃眼を穿ち一面陸軍分遣隊の駐屯を乞ひ他面社員中から壯丁團を組織し百有餘名の兵力を常備し劍を帶び銃を執り死生の巷に砂糖製造に從事したと云ふ慘憺たる有樣であつた、現に橋仔頭製糖所の事務所に殘されたる無數の彈跡は當時の慘狀を物語つて有力なるものがある。

補助の開始 臺灣總督府は本島大規模製糖業の先驅としてあらゆる困難障礙と鬪ひつゝある臺灣製糖會社の前途を祝福し併せて一般新興糖業の氣勢を促進すべく同社に對し明治三十三年度に於て一萬二千圓翌三十四年度に於て五萬五千七百八十圓の補助金を交付した、是れ卽ち糖業補助の始めである。

二 糖政の確立と施設の變遷

改良獎勵の具體案 臺灣總督府は上述の如く領臺當時から既に糖業改良獎勵に著手したけれども其の具體的方針と方法に至つては未だ確定しなかつた然るに明治三十四年五月農學博士法學博士新渡戸稻造氏が殖產局長心得として就任するや兒玉總督後藤民政長官の畫籌に參與し周到なる調査研究を遂げ山田熙氏其他の意

見をも參酌し同年九月詳細具體案を立て「糖業改良意見書」として總督に提議した蓋し我が爲政當局は前述の如く明治二十九年以來既に業に糖業の改良に對し相當考慮施設するところあつたに拘らず領臺後四、五年の間本島糖業は漸次衰退の非運に際會し積極的救濟策を樹て獎勵補助を加ふるにあらずんば遂には衰滅に歸するを憂へしむるものがあつた新渡戸博士は改良意見書中に其の原因を述べて曰ふ。

領臺以後四、五年間製糖業の衰運は大略六種の原因に基く卽ち（一）領臺當時及其後に於て本島富商豪族の相率ゐて對岸に去るもの多く細民は資金融通の途を失ひ、（二）所在土匪の蜂起に依り田園荒廢し男子勞働者を減じ、（三）領臺後土木工事道路の開鑿等盛に起り勞力を要すること多く從つて農業勞働者を減じ、（四）匪害防護の必要上道路の兩側七十米突（後に百五十間）以内に甘蔗耕作を禁じ爲に蔗園面積を減縮し、（五）課稅舊時に比し苛重となり糖業發達に障害を及ぼし、（六）更に糖價比年昂騰したるに拘らず其の利潤蔗作者に及ばす一方生產費多額を要するに至り漸次甘蔗耕作を廢するものあるに至つた。

と喝破し糖業改良の方法としては

（第一）甘蔗種類の改良　從來栽培せられつゝある竹蔗、紅蔗、蚋蔗等は收量、含糖分共に貧弱なので斷然之を排し明治二十九年以來試作の成績に鑑み「ローズバンブー」、「ラハイナ」等所謂改良種の普及を圖るに於ては一定面積より約二倍の砂糖を得べく、普及の方法としては先づ改良種の優良なることを農民に會得せしむること、新優良蔗苗を傳播せしむること、蔗苗養成を官業として行ふの必要を論じ。

（第二）培養法改良　に就ては在來種にあつても收量を增加すべきも寧ろ新品種に對し初めより特種の培養を要することを耕作者に敎へ卽ち培養改良は品種改良と相隨伴するを得策とするを說き其の方法としては新種苗の配付と共に改良耕作法を農家に敎え、政府が化學肥料を購入し當初四五年間或る條件の下に新

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

種耕作者に無償配付し又各地に模範蔗園を設置して各種肥料の有效程度を實地に示すべきことを擧げ。

(第三)灌漑設備　を施し蔗園に灌水を行へば三割の增收を得べく先づ蔗園灌漑の利害如何を試驗し、溝渠を掘鑿する者に補助金を交付し、水利組合の組織を奬勵し大規模灌漑工事を起さしめ地方共同の容易に實行し難き大灌漑工事に至つては政府に於て官業的に大水圳の開鑿を行ふの必要を述べ。

(第四)既成田園に蔗園を擴張すること　に就ては水利不充分にして稻作に不利なる地又は看天田には蔗作を有利とするので保護奬勵之れが勸誘に努め集約的栽培を行はしめ、種苗又は肥料を付與し、改良種に灌漑の特に有利なることを知らしむべきを述べ。

(第五)蔗作適地の新墾　を得策とし之が爲には開墾の制限を寬にし或は匪賊蕃害に對する保護を加へ道路を開き又新開墾地蔗作者に特典を與ふべく更に政府に於て低利資金の融通を必要とし具體的方法として先づ開墾に適する土地を人民に知らしめ、律令を以て奬勵法を發布し成墾者には業主權を付與し、蔗苗及肥料を交付し若干甲以上を開墾する者には灌排水工事費又は設立すべき製糖場に保護を加ふべきを論じ轉じて製糖工業方面に於ては。

(第六)製造法改良　に就ては步留りの增進品質の向上を圖らむとすれば結局新式大工場の必要に歸著すべく其の奬勵法としては政府に於て外國製小型機械を購入し之を當業者に貸付又は年賦償還の法に依り賣渡すこと、大規模製糖工場を新設するものには適宜奬勵金を與ふること、蔗作者の團體的共有製糖場を設立せしめ以て蔗作者製糖者の利益一致を圖るべきを唱へ。

(第七)壓搾法の改良　は甘蔗品種の改良と相俟つて同量の原料に依り數割の產糖增加を期し得べく。

上記七項の採擇に依り品種の改良は三〇乃至九〇%、培養改良は一〇乃至一〇〇%、灌漑設備は一〇乃至

五〇%、搾汁法の改良は二〇乃至四〇%、製造方の改良は一〇乃至三〇%、の産糖増加を齎らすべく更に稻作不適の田を甘蔗作に轉換することにより一萬甲、新開地蔗作により三萬甲の蔗園擴張を見るべく當時の産糖を七十萬擔と見積り改良後に於ては少くとも百六十二萬擔乃至三百五十九萬擔に增進せしめ得べきは疑なきところ從つて當時の消費税率を以てして三十六年度七十四萬圓の收税額は四十四年度に於て三倍して二百二十一萬餘圓に達せしむるを得べしと斷じ間接の保護獎勵策としては。

（一）外糖輸入税率の引上げ、（二）戻税法施行、（三）運搬の便を開く、（四）販路の擴張、（五）蔗價の公定、（六）糖業教育、（七）産業組合組織促進、（八）蔗作及製糖改良に資すべき出版物配付、（九）甘蔗保險の施設、（十）牛畜の保護、（十一）「アルコホル」、「ラム」の製造等副産物の利用發達獎勵。

を列擧し最後に之を統轄すべき糖政上の施設及機關として。

（一）糖業獎勵法　を發布し獎勵の方法、特典の付與、監督制裁等を規定して機關發動の根據を作る必要ありとして之れが法案を附し、（二）臨時臺灣糖務局　の設置を必要とし獨立機關として官制案を提議し、（三）糖務局支局　を南部に置き中、北部は事業進捗に伴ひ更に定むべく、（四）技術生の養成　新種配付に伴ひ之れが栽培法を敎習すべき技術生の養成、（五）技手を布哇に派遣し完全に蔗苗を購入し、（六）八重山島及本島に栽培せらるゝ外國種を買收し種苗に供し、（七）臺南地方に甘蔗苗圃を設け別に、（八）甘蔗試作場を設置し更に　（九）小型壓搾機各種を購入試驗の上適當と認むるものを民間に貸付又は賣渡し、（十）産糖組合の組織を促し、（十一）蔗作に適する新墾地の開拓を獎勵し、（十二）栽培法の改良に伴ひ水利開發を圖り、（十三）事業計畫書を調製し資本家の企業參考に資し、（十四）産糖地の狀況に應じ大規模企業を勸誘すること。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を列擧した卽ち其の說くところ質實にして愷切而かも直ちに實行に著手し得べきものであつた明敏にして果斷事を爲すに躊躇するところなき兒玉總督、後藤民政長官は卽ち博士の意見を容れ直ちに實施し得べきものから順次著手することとなつた是れ實に本島糖政の基調を成した具體的方策である。

殖產局臺南出張所 斯くて糖業奬勵規則及臨時臺灣糖務局特設の機運に向つたが是等は中央政府竝に帝國議會に提案承認を求むるの要があるので差當り三十四年十一月十九日殖產局出張所を臺南に設置し技師藤根吉春氏を所長に任命し甘蔗耕作及砂糖製造の改良試驗及奬勵に關する事項、蔗園及糖業上の調査、補助金を下付せる糖業者の業務監督を爲さしむることとし臺南に甘蔗試驗苗圃を、鹽水港廳蔴荳堡崁仔に出張所附屬甘蔗苗圃を設置し又糖業技術傳習生の養成に著手し一面前述の如く技手今井兼次氏を布哇に派遣し優良蔗苗を購入せしめ翌三十五年初めには其新種苗の續々入著を見るに至り茲に應急的積極施設の端緒を開いたのである。

糖業奬勵規則 新渡戶博士の意見に基く糖業奬勵規則は三十四年末開會の帝國議會に於て其の豫算の協贊を得三十五年六月十七日卽ち始政滿七年の記念日に於て律令を以て發布を見直ちに實施せらるゝに至つた卽ち糖業奬勵規則は其の第一條に於て甘蔗の耕作又は砂糖製造に從事する者にして臺灣總督に於て適當と認むるものには、（一）甘蔗苗費又は肥料費、（二）開墾費、（三）灌漑費又は排水費、（四）製糖機械器具費に對し奬勵金を下付し又は現品を下付又は貸付す。第二條には臺灣總督の定むる數量の原料を以て砂糖の製造に從事する者には補助金を下付することを得。第三條甘蔗耕作の爲に官有地を開墾する者には之を無償にて貸付し全部成功の後無償にて其の業主權を付與す。第五條甘蔗耕作の爲に灌漑又は排水工事を施行せむとする土地官有地なるときは無償にて之を其の起業者に貸付することを規定し同時に府令を以て公布せられた施行細則

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に於て本則第一條奬勵金の步合は每年度初期に於て告示すべく(後に告示を廢止す)甘蔗苗費又は肥料費は一町步以上を耕作する者(後改良種を耕作する者と改めらる)、開墾費は五町步以上(後五甲步以上と改む)を開墾する者、灌漑費又は排水費は千圓以上を要する工事若は當該官廳に於て特に指定する設備を爲す者、製糖機械器具費は當該官廳に於て指定する製糖機械器具を裝置する者に下付すること。本則第二條の補助金は一日(十二時間)一萬二千貫以上の原料を消費する機械を裝置して粗製糖業に從事する者、又は一日(十二時間)二千四百貫以上の粗糖原料を消費する機械を裝置して精製糖業に從事する者に下付すること。本則第三條に依り貸付すべき土地の面積は原則として五十町步以內(後に五十甲步以內と改む)とすること等を規定して積極的奬勵補助の準據と範圍程度が明示せられ茲に愈本島糖政の確立を見た次第である。

臨時臺灣糖務局 前揭糖業奬勵規則の發布と同時に之れが執行の特設機關として勅令を以て臨時臺灣糖務局官制の發布を見た而して糖務局は大體十年計畫で五年を以て甘蔗農業、十年を以て製糖事業全部の改善に一段落を告げしむるといふ新渡戶博士の豫想に立脚するもので官制第一條に於て臨時臺灣糖務局は臺灣總督の管理に屬し甘蔗耕作及砂糖製造の改良及奬勵に關する事務を掌理すと冒頭し。第二條に於て職員を定め局長一人、事務官專任一人(後二人)奏任技師專任四人(後六人)奏任、屬、技手、通譯專任三十人(後三十二人)判任を置き。第十條に於て臺灣總督は須要の地に支局を置くことを得。第十二條に於ては各支局に五人以內の糖務委員を置くことを得べく糖業に經驗ある者又は名望ある者の中より糖務局長之を任命し判任を以て待遇して諮問機關とすることを規定された依て本局は臺北なる總督府構內に置き支局を糖業中心地たる南部臺灣の臺南に設置し更に支局出張所を嘉義、鹽水港、鳳山、阿緱の四箇所に分設し(明治三十六年六月更に斗六出張所を設く)局長には卽ち當の立案者にして中心人物たる新渡戶博士を、本局庶務課長には當時澎湖廳長

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

兼臨時臺灣土地調査局事務官より新に糖務局事務官に任せられたる浅田和定氏（現在新高製糖會社専務取締役）、糖務課長には技師横山壯次郎氏、又支局長には技師堀宗一氏夫々任命せられ陣容全く整ふと共に從來の殖産局臺南出張所は同月十九日廢止せられ其の所管たる臺南試作場、蘇荳苗圃、傳習生養成其他事務事業一切は糖務局及臺南支局に於て夫々引継ぎを受け支局内に分析所を、又臺南廳大目降支廳管内王公廟庄土名坎脚洋に大規模の甘蔗試作場を開設し（現中央研究所農業部糖業科の前身）玆に愈糖業改良奬勵に向つて積極的活躍を開始することゝなつた。

原料採取區域制度　從來本島製糖業は分糖法に依り其の原料代として製品の約半額を分與するを常として居たが大規模の企業擡頭するに至り多數の原料供給者は此等大企業に對して理解なく隨つて分糖法は到底其の繁雜に堪えない一方自作により原料の自給を圖らむとせば土地の買收又は借地に少からず困難を來すのみならず風水害其他の危險は全然製糖業者の負擔となる從つて新興大製糖場に於ては何れも蔗農者から原料を買收する簡便な手段に出でたのである然るに大製糖場の陸續勃興するに當り其の原料採取に關して何等取締規則なく製糖業者と農民との間に種々の弊害を釀成し將に其の弊に堪えざらむとするものがあつたので明治三十八年六月府令を以て製糖場取締規則發布せられ玆に原料採取區域限定の制を施行するに至つた即ち同規則第一條に於て先づ「全部又は一部新式機械を應用し製糖場を設立せむとする者は此の規則に依り臨時臺灣糖務局長（後臺灣總督と改む）の許可を受く可し、設立後工場の設計を變更せむとする場合亦同じ」と規定して許可制度を明かにし其の第三條に於て「臨時臺灣糖務局長（後臺灣總督と改む）は製糖場の設立又は變更の許可を與へたる場合には其の原料採取區域を限定すべし、原料採取區域内に於ては臨時臺灣糖務局長（後臺灣總督）の許可を受けずして在來の構造に依る糖廍を設立することを得ず、原料採取區域内の甘蔗は臨時臺灣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

糖務局長（後所轄州知事又は廳長）の許可を受けずして之を區域外に搬出し若は砂糖以外の製造用原料に供することを得ず」と令し各製糖場專屬原料採取區域の制を實施した此の制度に依り不健實なる製糖場の濫興を抑制し製糖業者は原料獲得上比較的確實なる基礎の上に置かれ爭奪競買に因る蔗價攪亂の弊を免れ得たると同時に耕作者は自由に栽培したる甘蔗を必ず所屬製糖場に賣却することを得るの見込充分なるに至つた此の區域制度に對しては製糖會社をして蔗價を壟斷せしめ自然蔗農を壓迫するもの丶如く說く者もあるが斤は皮相の見であつて事實上製糖業者が徒らに蔗農を壓迫し蔗價を壟斷するに於ては米其他の對抗作物との收益採算上農家は蔗作を廢止するに至るべく結局製糖業者は困難にして危險を伴ふ原料自給法に依るにあらずんば其の業務を繼續遂行する能はざるに至るの弱點がある故に會社は容易に蔗價を引下げ得ないのみか割增金獎勵補助等各種の手段を盡して蔗農を優遇し原料獲得の安固を圖る一方原料採取鐵道敷設其他製糖場として必要なる設備に安んじて巨資を投ずることを得るのである斯くて製糖業者と蔗農とは其の利害關係頗る緊密となり所謂共存共榮の實を擧ぐるに至るべく今日迄の事實に徵するに却て農家に制せられて製糖會社が蔗價引上げを餘儀なくされた事實こそあれ蔗價を壟斷して農民を壓迫したことは絕えて無いのである卽ち此の區域制度は臺灣糖業をして今日あらしめた主要なる制度の一つと謂はねばならぬ。

工場胎權規則 督府當局の獎勵と企業家の活動に伴ひ大規模新式製糖場の本島に設立せらる丶もの續出し製糖場の設備に多大の資金を固定せしめ一面製糖資金、砂糖消費稅金等にも巨額の融資を必要とするに至つた然るに本島には未だ工場抵當法の如き融資の準據なく固定資金は之を利用するの途を缺ぎ製糖業者は資金運轉上多大の苦痛と困難を感ずるものがあつたので臨時臺灣糖務局に於ては大體工場抵當法に準じ之に本島特殊の事情を參酌して明治四十二年以來工場胎權規則を立案し翌四十三年五月に至り律令を以て臺灣製糖及

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

織維工場胎權規則を發布し玆に新式製糖場に對し固定資金を流通化せしむるの途を拓き製糖界に一大福音を齎らしたが越て大正十二年一月工場抵當法の實施を見るに至り同時に胎權規則は廢止された。

製糖能力制限　糖務局開設當時糖業開發の主要地は南部臺灣卽ち濁水溪以南であつた故に糖政の直接執行機關としての支局出張所及試驗、講習機關等も南部に集中せられ更に明治四十年六月には本局を臺南に移して支局を廢し敏活に躍動したが縱貫鐵道の全通と島政の中心たる總督府に接近することの必要に促がされ明治四十一年十一月再び臺北に本局を移した而して此の頃から糖業は漸次中北部に進出せむとする趨勢顯著となり四十二—三年期に於ては中部主要米產地にも大規模新式製糖場の續々建設せらるゝあり全島甘蔗收穫面積六萬三千四百餘甲となり作業工場新式十六箇所能力九千七百六十噸、改良糖廍六十九箇所五千六百噸、舊式糖廍六百六十三箇所に上り產糖高三百四十萬四千餘擔に增進し更に翌四十三—四年期に於ては收穫面積九萬甲に垂んとし作業工場新式二十一箇所能力一萬七千二百餘噸、改良糖廍七十四箇所六千百三十噸、舊式糖廍四百九十九箇所、產糖總額四百數十萬擔に上るべく豫想せられ之に內地產糖百餘萬擔を加算すれば正に內國消費量を凌駕せむとし尙更に既許可工場の建設と作業の圓熟さるゝに隨ひ本島糖は比年激增の一途を辿るべく而かも生產費と品質の關係上爪哇糖其他と海外に競爭を試むるの域に達せず勢ひ內地市場に橫溢して內地產糖を壓迫せむとする懸念を招くに至つたので玆に本島內外の產業及經濟策よりして臨機の手段として暫定的に製糖能力の增加を抑制するの必要に迫られたので明治四十三年八月民政長官より依命通達を各廳長に發し桃園及東部臺灣の特殊地方を除き一般に新式製糖場及改良糖廍の新設又は能力增加を許さぬことゝなつた。

糖務局廢止糖務課設置　當局奬勵の結果本島糖業は甘蔗作付面積の增加、品種、耕作法の改良、新式製糖

場の勃興により産糖額に於て將其の品質に於て比年躍進を續け其の發展の顯著なる實に世界に其の例を見ざる一大偉觀を呈し正に豫想以上の效果を擧ぐるを得却つて能力制限を必要としたる一方早くも保護の偏重なるを說く者を見るに至つた此間米作蔗作等も亦大に進展し茲に各種産業の利害關係愈緊密を加へ來つたので特殊獨立の奬勵機關たる臨時臺灣糖務局を存續せしむるよりは寧ろ諸他の産業と相關聯して必要なる保護奬勵を講ずることの妥當有利なるを認めらるに至り産業政策統一の意味に於て明治四十四年十月十六日督府官制改正に際し臨時臺灣糖務局官制を廢止し同時に民政部殖産局內に糖務課を設置し糖務局の事務事業一切を繼承して專ら斯業の奬勵に當らしむること〻なつた卽ち糖務局は豫定の十年に滿たざること八箇月、九年四箇月にして豫期以上の效果を擧げ得た次第である。

檢糖所設置　明治四十二、三年の交に至り督府奬勵の效果漸く顯著にして大規模製糖場各所に勃興せむとし本島糖の産額就中分蜜糖の生産激增の趨勢を呈し砂糖の輸移出取引活潑繁多となり內地精製糖の原料として本島分蜜糖は爪哇原料糖に代はらんとするの勢を呈し糖度を標準とする取引價格の決定上往々にして賣買双方の間に紛爭を惹起すること少からず茲に權威ある糖度檢定の機關として官設檢糖所設置の必要を痛感するに至り臺灣糖業聯合會よりも其の設置希望を督府當局に開陳するところあり臨時臺灣糖務局に於ては明治四十四年に於て高雄に出張所を設け檢糖の事務に當らしめんとしたが豫算其他の關係上實現するに至らず次で糖務局は廢止せられたるも殖産局に於て此の計畫を踏襲し翌四十五年四月殖産局附屬檢糖所を高雄に設置し砂糖、肥料其他砂糖に關する物料の分析檢證を開始した其後大正七年四月官制改正總督府研究所に分屬し更に大正十年八月中央研究所高雄檢糖支所として今日に及ぶ。

蔗苗養成所設置　明治四十四年及翌四十五—大正元年に亙る三回の大暴風雨は啻に原料甘蔗の大減産を來

したるのみならず延て蔗苗の大不足を來し其の良否を撰別するに遑あらず然なきだに退化の徵を現はしつゝあるとも唱へられた「ローズバンブー」種は漸く其の收量を減じ且つ病害蟲傳播甚しからんとし茲に品種の選善、優良健全蔗苗供給の基礎的施設の一日も弛ふすべからざるものあるを痛感せらるゝに至つた然るに全島の蔗苗を適當の期間に更新せしむるには大面積の苗圃を要し而かも從來の試驗成績及爪哇の實例に徵し相當高地にして普通蔗園と離隔し病蟲害傳染の虞なき場所を要する等の關係上到底民營の能くするところでないので糖務當局に於ては既に明治四十五年度に於て大規模の官營蔗苗養成所を設置すべく計畫し其の設計及所要經費等に就て中央政府と折衝を重ね大正元年十二月開會の帝國議會にて協賛を得翌大正二年度から臺中廳大南庄仙塘坪庄及水底寮庄に土地を買收し同年十一月事業を開始した是れ即ち現在の殖產局大南庄蔗苗養成所である然るに此の方面のみでは圃場面積に不足を告ぐるので大正三年に於て同廳下后里庄驛附近牛稠坑庄及圳寮庄に土地を求めて圃場を開設した是れ現在殖產局后里庄蔗苗養成所である斯くて從來試驗の結果優良なる新品種を養成し糖業者の希望により大正五年度から優良蔗苗の配給を開始した而して現在に於ける兩蔗苗養成所の甘蔗作付面積は年々五百甲內外配給蔗苗四千五百萬本乃至五千萬本の間にある。

蔗苗取締規則發布　明治四十四年及翌大正元年の暴風雨に因り蔗苗の大不足を來したる結果各製糖會社は之れが供給を爪哇、沖繩等島外に仰がんとし大量の輸移入を敢行した之れ一面に於て新優良適種の選擇並普及に資するの目的を含むと雖も急場の蔗苗不足を補はむとするのが其の主たる目的で從つて輸移入蔗苗の良否病害蟲の有無等を考慮選擇するの遑あらず大膽無謀に類する傾があつたので糖務當局に於ては病害蟲の同時に輸入傳播せらるゝを防止せむが爲め專門技術家をして嚴密周到なる檢查を行はしめたが之に合格したものは全輸移入數量の一割餘に過ぎず更に植付後活著發芽を見たのは遙かに一割以下に下つた此の狀態に鑑み

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蔗苗の輸移入及之れより生産する蔗苗の搬出に至るまで嚴密なる檢査監督を勵行するの必要痛切なるものあり從つて之れが準據たるべき法規の制定發布を要するものあるより大正三年四月律令を以て蔗苗取締規則を發布し檢査監督を嚴密に續行することゝなつた。

能力制限の撤廢　明治四十四年及翌四十五―大正元年に亘る三回の大暴風雨は甘蔗の收穫に四割乃至六割の減收を來し延ひて産糖額を激減し旭日冲天の本島糖界に大恐慌を與へたが大正二―三年期より漸く恢復の趨勢に歸した際恰かも世界大戰の勃發するあり歐洲甜菜糖は年次急激なる減産を來し甘蔗糖國の生産增加に腐心したるも遂に之を補ふに遑あらず且つ船腹の不足は一時殆ど對歐輸送の途を杜塞し諸物價竝に勞賃の昂騰は砂糖の生産費及糖價に至大の影響を與へ一方本島の甘蔗作況は愈順調に復し大正五―六年期收穫の如き甲當六萬五千餘斤に上り産糖高七百六十三萬餘擔に達し既設工場の能力を以てしては遂に生産原料の全部を經濟的に處理すること能はざる形勢を誘致し他方內地砂糖消費量も亦比年躍進的增加を來したるのみならず世界的砂糖供給不足と糖價昂騰、臺灣糖の品質向上は海外輸出に好影響を與ふるあり玆に本島糖の生産經濟は製糖能力制限を有利とせざるのみならず反つて其の撤廢を必要とするに至つたので大正六年五月大體に於て制限を撤廢すべく民政長官より各廳長に依命通達するところあつた。

甘蔗中間苗圃設置規則　蔗苗更新の大計畫の下に設置されたる大甫庄、后里庄兩蔗苗養成所は其の事業著々進捗し大正五年末に於て其の生産蔗苗を糖業者に配給し得るに至つた而して當局當初の更新計畫は各製糖會社をして二千數百甲の中間苗圃を設置して養成所生産蔗苗を栽培繁殖し之を各年全島一般蔗園の三分の一に配給せしめ斯くて三年を以て全島の蔗苗を一更新せしむるの計畫であつた從つて中間苗圃は病害蟲傳播の虞なく蔗苗の生産繁殖上好適の場所たるを要し且つ栽培上特殊の技術と指導監督を要するものがあるので大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正五年十二月甘蔗中間苗圃設置要項なるものを定め必要なる諸條件を指定し指導監督に資するところがあつた然るに其後甘蔗早植漸く盛となり大正十二、三年の交に於ては早植は全島蔗園の一半を占むるに至り之に對する蔗苗の配給上中間苗圃以外特設苗圃の必要を感ずることゝなり且つ中間苗圃特設苗圃の相關的聯絡を改善し三年を要せずして原料蔗園の蔗苗更新を畫策するものあり糖務當局に於ても時勢の推移に顧み可成的速かに良苗を以て更新せしむべき計畫の下に實行の根據たるべき法規發布の必要を認め大正十三年七月府令を以て甘蔗中間苗圃設置規則を公布した而して本規則に依り從來の設置要項を改めたる主要なる事項は要項にあつては「三年毎に一更新」を目的としたが本規則に於ては「三年以内に一更新」せしむることゝし且つ苗圃地選定其他の條件に於て本島の實狀に照し聊か不便の點を排除し且つ苗圃地の選定設置より所產苗の蔗園配給に至るまで終始一貫地方當局の指導監督に委し以て設置目的の達成に利便ならしめむとするにある。

特產課　明治三十四年十一月殖產局臺南出張所設置以來臨時臺灣糖務局、殖產局糖務課等糖政の衝に當るべき局課の設置せらるゝこと二十四年一箇月餘此の間本島糖業は時に異常の困難に遭遇したるも要するに旭日沖天の勢を以て活躍發展を續け來つたが大正十三年の行財兩政整理の方針に基き同年十二月總督府官制大改正に際し從來の糖務課に茶、「バナナ」、鳳梨、柑橘類等に關する事務を加へ之を特產課と改稱した當時之を形式の上から見て總督府糖政施設の消極的退轉を意味するものゝ如く解した者もあつたやうであるがそは誤解も又甚しきものと謂はねばならぬ督府に於ては糖業上農工各方面の改善奬勵施設を統一的に一貫して取扱ひ來りたる糖務課が斯業發展の原動力となり今日の隆盛を招致し得た事績に鑑み從來横斷的に農業方面の事務は農務課に、工商方面は商工課に分屬して自然終始統一するを得なかつたところの前記特產物に對する奬勵事務を縱に原料生產の初より製造販賣の末に至るまで之を一課に統轄して終始一貫事に當ることの如何

に有利有效なるべきかを察し之が撤底的施設を期せんが爲め從來の糖務課に此等の事務を加へ大に擴張增員して之を特產課と改稱したもので特產課に於ては糖業事務のみを取扱ふものではないが糖政上の施設方針には些の消極的退轉を意味するものではない況んや現時本島糖業は生產經濟上未だ理想的完成の域に達せず關稅の保障により內國市場に於て辛ふじて爪哇、玖瑪等の外糖と對抗し得るの狀態にあり之を生產の實狀に徵するに甘蔗農業方面に於ては品種の改善、蔗苗の更新、肥培の方法等最近大に其の面目を改めんとするの機運に向ひつゝある折柄內地種米の普及に一層の刺戟を受くるものある等革新の第二期に入り又製糖工業の方面に於ても幾多改善の企畫せらるゝあり糖業の將來益々多事ならんとし從つて糖政施設は愈愼重に而かも適切敏活に其の步を進むべき重大時機に遭遇してゐることは夙に當局の認むるところ、從つて督府の方針は益々撤底的に糖政の遂行を期せんとするにあるのである。

獎勵方法の變遷　以上は卽ち糖政の確立及之れが準據たる法規並に機關の改廢變遷を述べたのであるが總督府の糖業改良獎勵方針は糖務局設置の前後を通じ其の農工何れの方面をも等閑視するものにあらず反つて恰も車の兩輪の如く其の一を改良せむとすれば必ず他の一つを改善せねばならぬと云ふ見地に立つもので先づ根柢たる原料品種の改良に對し明治二十九年に於て著手したる一方經濟的なる大規模新式工場の設立を勸獎する等各方面の施設に僻りなく越て三十五年六月十七日糖業獎勵規則及臨時臺灣糖務局官制の發布に依り糖政の確立と其執行機關の特設を見茲に愈積極的改良獎勵の步を進めんとするに當り該規則及官制の明示するが如く各方面の獎勵開發に努力せむと期したのは勿論であるが糖務局開設以後の數年間は其の主力を製糖工業の方面に置いた觀がある蓋し當時本島の甘蔗農業は頗る幼稚粗放で改良の急を要するものがあつたのは言を俟たぬところであるが一方工業方面に於ては一層不利不經濟で轉た暗澹を極め其の改良の一日を弛ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すれば一日の損失たるものあり且原料方面の改良は既に業に著手したるも由來農業の事たる天然條件に支配せらるゝこと頗る多く從つて長年月を要し到底急速に其の完成を期すること能はざるものがあるので先づ人爲的に速かに達成し得べき工業方面の改良を促進しつゝ徐ろに農業方面の改善を圖るの策に出でたのである然るに工業改良の理想とする大規模新式製糖場の設立には巨額の資金を要し而かも本島の物情未だ全く靖からず既設臺灣製糖會社の如き前述の如き總ゆる困難苦礎を嘗めつゝある狀態に鑑み直ちに本島内外の巨資を誘致することの不能なるは見易きの理である即ち糖務局に於ては先づ小規模ながらも從來の最も不經濟なる甘蔗壓搾法に改良を促すべく明治三十五年度に於て「オハヨー」式鐵製壓搾機三十臺を購入し豫ねて殖產局臺南出張所より引繼を受けたる五臺を加へ適當なる糖廍經營者に之を貸付し指導監督の下に其の成績を徵しつゝ隨所に之れが使用を勸奬し傍ら豫算の容るす範圍に於て年々一臺乃至數臺の稍大規模なる壓搾機を購入して之を貸付又は下付し一面石油發動機、糖汁喞筒、タンク、加熱機、清澄機、結晶罐等の製糖機械、器具を購入貸付し又は其の購入費を補助し更に別に經營資金を補助する等極力補助奬勵を與へて大規模製糖場設立を慫慂した此に於て改良製糖場勃興の機運は明治三十五年維新製糖會社の創立に依て萠芽を兆し翌三十六年蔴荳、南昌兩製糖會社の成立を見るに迫んで愈砂糖工業奬勵に嘱望し三十七年度に於ては益々重きを之に置き新興、鹽水港、臺南等各新式製糖會社の設立を奬勵し何れも補助金を交付した一面壓搾裝置に汽力又は石油發動機を用ゐ他は在來の製造方法による稍大規模にして而かも小資本を以て經營し得べき所謂改良糖廍は明治三十七年鳳山廳下に設立せられた振祥製糖場を嚆矢とし各所に續出せむとするの氣勢を示し明治三十八年製糖場取締規則發布せられ原料採取區域制度の實施以後に於ては各所に地域を求めて大規模の新式製糖場竝に改良糖廍の設立を出願するもの頻々として相次ぐの狀態となり爲に新設工場の原料を潤澤に供給すべく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甘蔗農業改良發達の急を要するに至つたので糖務局では明治四十年度に於て主力を此の方面に轉じ傍ら工業方面の完成と進展を期し明治四十四年十月糖務局廢止後に於ても亦此の方針を持續し以て今日に及んだのである而して奬勵補助の方法及農工兩方面に對する厚薄は左表に依つて明かである。

□糖業補助及奬勵金交付一覽表

補助項目	自明治三十三年度至同三十九年度	自明治四十年度至大正十三年度	計	摘要
製糖會社及製糖所補助	三九七,〇九三円	五七,〇〇〇円	四五四,〇九三円	明治四一年度限廢止
製糖機械購入補助	五〇五,九八九	四五,一六六	五五一,一五五	明治四二年度限廢止
計	九〇三,〇八二	一〇二,一六六	一,〇〇五,二四八	
改良糖廍取拂補助	—	二〇二,九二九	二〇二,九二九	明治四一、四二、四三の三箇年度
原料糖製造補助	—	一,二五一,九八三	一,二五一,九八三	明治四三年度
原料消費補助	—	三,二一一,九三四	三,二一一,九三四	明治四三、四四兩年度
氷糖製造補助	—	二七,三三五	二七,三三五	大正三、四、六、七、八、九の六箇年度
計	—	四,六九四,一八一	四,六九四,一八一	
種苗補助	現品 五七,七八九,五四八本	七二〇,八六八 外現品 一五,〇九八,八七一本	七二〇,八六八 外現品 七二,八八八,四一九本	大正二年度限廢止
同(中間苗圃)	—	現品 一三七,一〇五,四〇〇本	現品 一三七,一〇五,四〇〇本	大正一一年度以降無償配付 外に有償配付五—一〇年度 一八五,三三六,七六〇本
蔗苗圃補助(中間苗圃)	—	五三三,六八六	五三三,六八六	大正六—一〇の五箇年度
肥料補助	八〇,〇七八	四,〇四〇,二〇八	四,一二〇,二八六	大正五年度限廢止
灌漑排水補助	一四,〇一一	一,四八七,四三四	一,五〇一,四四五	明治三八、三九、四一、の三箇年度は補助なし、現在續行
開墾補助	九,八六一	五,六七三	一五,五三四	明治四〇年度限廢止
農具補助	—	二七,七九五	二七,七九五	明治四一、四三、四四、大正元、二、三、五の七箇年度
模範蔗園耕作費補助	二,〇〇〇	—	二,〇〇〇	明治三四年度
模範蔗園標木補助	—	一,八五六	一,八五六	明治四四—大正三の四箇年度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甘蔗品評會補助	一	一四、三〇〇	一四、三〇〇	明治四一、四三、大正二、四の四箇年度
計	一〇五、九七〇 外苗 五〇七、七八九、五四八本	六、八三〇、七八〇 外苗 一五三、三〇四、三七一本	六、九三六、七〇〇 外苗 二〇九、九九三、八一九本	外有償配付蔗苗 一八五、三五六、七六〇本
總計	一、〇〇九、〇三三 外苗 五〇七、七八九、五四八本	一二、六二七、一三七 外苗 一五三、三〇四、三七一本	一三、六三六、一五九 外苗 二〇九、九九三、八一九本	外に有償配付蔗苗 一八五、三五六、七六〇本

即ち右表に示すが如く明治三十九年度以前に於ては工業方面の補助は九十萬三千八十二圓に上れるに對し農業方面の補助は十萬五千九百五十圓に過ぎず然るに翌四十年度以降に於ては工業方面の僅々十萬二千百六十六圓に對し農業方面にあつては六百八十三萬七百八十圓の巨額に上る而して改良糖廍取締補助は製糖會社の經營全部に又原料糖補助及原料消費補助は何れも關稅の關係上爪哇其他外國產糖と內地市場に於て同樣の立場に在らしめむ爲め臨機應急の補助にして亦製糖業經營上の補助に屬し氷糖製造補助は一般糖業獎勵に基く補助とは趣を異にするもので何れも工業方面のみの補助と目すべきではないのである。

斯くて明治三十三年度に於て臺灣製糖株式會社に對し一萬二千圓を補助したのを嚆矢とし大正十三年度迄二十五年間に糖業の爲に支出したる補助金總額は一千二百六十三萬六千百五十九圓に上り蔗苗、肥料の配給、機械器具の貸付、工場建設及操業の指導監督、甘蔗及製糖に關する各般の試驗調査、研究乃至砂糖其他の物料分析檢證、優良蔗苗の養成配給等糖政に關する事務及事業の經費は大略一千百三十萬圓に上るべく前掲補助金を合算すれば總督府の斯業獎勵に支出した總額は二千三百九十四萬圓に達するを見る而して獎勵著手後約八年間は專ら濁水溪以南所謂南部臺灣に主力を注いだのであるが明治四十三年頃に至り中北部水田地方に大規模の新式工場經營を企畫するもの續出し督府當局に於ても產業政策上愼重考慮の上之を許可するに至り玆に糖業は濁水溪以北の中、北部に進出し東部臺灣竝に桃園地方等特殊の地方を除くの外全島蔗作適地は殆ど全部新式製糖場又は改良糖廍の區域に分屬し各年蔗作面積は八萬甲を突破し四十四年期產糖額も亦四百

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

萬担を超ゆるの見込で自然內地方面の需要を凌駕し延ては糖價に惡影響を及ぼし經營上不利を招かんとする虞あるので明治四十三年八月暫定的能力增加を抑制したが越て大正六年五月時勢の推移に鑑み其の制限を撤廢するに至つたことは前述の通りである更に年度別に補助金額の多寡に依り之を窺ふに。

□糖業補助累年表

年度	補助金額 円	摘要
明治三三	一二、〇〇〇	
明治三四	七五、九二一	外に蔗苗現品補助 五、四一六、〇九八本
明治三五	一〇五、〇一七	同 三、五二六、〇〇〇本
明治三六	一四〇、四三四	同 三、四六六、三〇〇本
明治三七	一三九、八二六	同 二、四八四、〇〇〇本
明治三八	二六九、一六九	同 二〇、四九七、一〇〇本
明治三九	三六六、六五五	同 九八〇、〇〇〇本
明治四〇	二九五、六七五	同 二、八二二、一八七本
明治四一	六四〇、九三〇	同 六、〇六六、九六四本
明治四二	八一三、五三九	同 七五〇、〇〇〇本
明治四三	二、五五三、三五四	內原料消費補助及原料糖補助 一、八〇三、〇三九圓
明治四四	三、三四一、〇〇八	外に蔗苗現品補助 三、八七〇、〇〇〇本 內原料糖補助 二、六三〇、八七七圓
明治四五 大正元	七一六、五三一	外蔗苗現品補助 六三三、七二〇本
大正二	五〇三、二六一	
大正三	四一三、二九〇	
大正四	三七二、九七九	
大正五	三三〇、四六一	
大正六	二七四、〇二〇	
大正七	二七七、九五四	
大正八	二七四、〇八六	
大正九	二七〇、四三一	
大正一〇	二三〇、六八八	
大正一一	一四九、九九二	外蔗苗無償配付 四七、八〇一、四〇〇本
大正一二	三九、九八八	財政緊縮の爲大減額 外蔗苗無償配付 四六、五一四、〇〇〇本
大正一三	一三九、九六〇	同 四〇、七三〇、〇〇〇本
二十五箇年 合計	一三、六三六、一五九	外蔗苗無償配給 二〇九、九九三、八一九本

明治四十年度迄は逐年補助金額を增加したが要するに各年三十萬圓に達せず然るに四十一年度以降新式製糖場勃興時代に入り原料供給を安固且つ潤澤ならしむる必要上蔗園の擴張著しく肥培農耕の奬勵に主力を轉ずると共に補助金額も亦著しく增加し四十三、四十四兩年度の原料消費補助及原料糖製造補助を控除するも

明治四十一年度以降大正元年度迄は年額六十四萬圓乃至八十一萬圓の多きに上つた斯くて蔗農の漸次覺醒して集約耕作に赴くに隨ひ且つ蔗苗養成所開設の爲め巨額の經費を要することゝなり茲に一般農業方面の補助金は時勢の推移と經費豫算の關係上漸次緊縮せられ其の補助項目も整理減少せられ大正六年度以降は基本的地力維持增進の手段たる灌漑排水費補助の外蔗苗養成事業の聯絡機關たる中間苗圃補助竝特殊の狀態にある氷糖製造補助のみを續行し更に氷糖に對しては大正九年度を以て打切り中間苗圃に對しては大正十年度を以て補助を廢し之に代ふるに十一年度以降養成所生產蔗苗を無償配付することゝなり爾來補助は灌漑排水工事費及蔗苗現品の無償配付を續け以て今日に及んだのである。

關稅の保護　本島の我が治下に置かるゝや直ちに淸領時代の關稅を踏襲し本島糖に對して輸出稅を徵したが翌二十九年二月內地の稅關法及稅關規則を本島に施行することゝなり茲に輸出糖に對しては從價五分の輸出稅及輸入糖には百斤に付赤糖十二錢六厘、白糖二十三錢六厘、氷糖三十一錢五厘の輸入稅を課することゝなつた從つて本島糖は內地移出に於て對外輸出よりも輸出稅額だけ有利の立場に置かれ更に內地市場に於て外糖に對して輸入稅額だけの利益を享受することゝなつた然るに此の輸入稅率は頗る低度にして敢て見るべき效果を擧げ得なかつたが明治三十二年一月以降數回引上げられて漸次其の效果を擧げた越て明治四十三年に於ては本島糖の生產額激增し販路を海外に擴張するの必要を生じ自然輸出稅制度は產業奬勵の方策を矛盾するに至つたので同年十一月之を廢し翌四十四年七月現行輸入稅率の實施と共に本島糖は內國市場に於て赤糖百斤に付色相の如何に依り二圓五十錢乃至三圓十錢分蜜糖及耕地白糖は其の色相に依り百斤に付三圓十錢乃至四圓六十五錢の障壁を設けられ本島糖業は正に其額だけの保護を受けつゝある次第である。

三　砂糖農業の改良と進展

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

蔗作地域の進展と面積の增減　臺灣が帝國の版圖に歸した當時の蔗作地域は殆ど濁水溪以南の畑地に局限せられ其の面積一萬六千甲乃至二萬甲の間にあつた而して明治三十五年糖政の確立以後に於ても明治三八―三九年期收穫三萬五千餘甲を除きては尙此の狀態を持續した然るに甘蔗特に「ローズバンブー」種の如き畑地よりも寧ろ灌漑の便ある水田地に好適するものであるのを實驗し得た糖業試驗場囑託松岡富雄氏は明治三十九年職を辭し臺中市の郊外水田の眞中に此種の蔗作を開始したが其の成績は頓に農家の注目を引き此所を區域として氏は四十年一月能力百噸の改良糖廍設立の許可を受け四〇―四一年期から作業を開始した是れ實に水田のみを基礎とする製糖場の嚆矢である更に三八―三九年期に於ては花蓮港郊外に賀田組製糖場の開設を見又同年期及翌三九―四〇年期以來臺北廳、臺中廳管內の畑地に改良糖廍を開設するものあり玆に中北部及東部に改良糖廍又は小規模新式製糖場發展の萠芽を示したが未だ顯著ならず越て四一―四二年期よりは蔗作面積擴張の趨勢著しく四十二年新高製糖會社及林本源製糖場、翌四十三年帝國製糖會社の臺中廳下水田地方を基礎として創立せらるに及び大規模なる糖業は中部以北の水田地方に進出し爾後苗栗製糖、臺北製糖、南日本製糖等新式製糖場の北部地方に設立せらるゝあり玆に蔗作地域は全島に渡り作付面積も亦急激なる發展を致したが明治四十四年及大正元年の二年に亘る大暴風雨被害は著しき蔗苗の不足と蔗作の不安を招致したる結果爾來二年期間收穫面積に稍減少を見たるもやがて再び恢復躍進の勢を示し大正四―五年期收穫は十萬甲を突破し同六―七年期收穫に於ては前年期の豐作に促進せられて實に十五萬甲を越え作付面積上最大記錄を發した然るに大正七年以來米價の暴騰に從ひ甘藷其他の價格も亦著しく昂騰し糖價の之に伴はざる觀あり爲に蔗作面積の減縮を來し大正七―八年期收穫は十二萬餘甲、翌八―九年期には十萬八千餘甲に急落した次で大正九年三月以降米其他諸物價の暴落、經濟界大不況を招いたが糖價は比較的下落の時期が遲かつたのと甘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蔗買收價格の維持及農業勞力の不足緩和により更に蔗農の自發的努力は收穫率の向上を來し其の收益を增進し從つて蔗作面積は再び恢復し大正一〇—一一年期收穫は十四萬二千餘甲に進んだが翌一一—一二年期に於ては十一萬六千餘甲に下り一二—一三年期には十二萬三千餘甲の收穫を爲した而して大正十二年の交より內地種米の急激なる普及に牽制せられ大正一三—一四年植付の如き水田地方に於ては稍減縮の傾向を示して居る。將來耕地の新開拓灌漑排水の施設、耕鋤法の改良其他土地改良等により蔗作の適地面積は增加すべきも一方甘蔗品種の改良蔗苗の更新、集約耕作等に依り單位面積の收量增進に重きを置くの傾向著しきものあり一面耕地及勞力の分配上蔗作面積の急激なる大增進は容易に期待されざるべく又差當り徒らに面積の大擴張を必要とする時代は過ぎ去つたものかとも思料せらる今累年蔗作面積の消長及耕地面積に對する割合、竝蔗園增加率等を示せば左の通りである。

□田畑面積對蔗作面積累年表

年次	耕地面積（甲） 田	畑	計	甘蔗植付面積（甲）	蔗作對耕地面積割合%	蔗作面積增進割合	摘要
明治二八	二四〇、七六七	一八八、五一五	四二九、二八二	—	—	—	田畑面積は清の光緒十四、五年（明治二十一三年）清丈の際の調査に依る
明治二九	二四〇、七六七	一八八、五一五	四二九、二八二	—	—	—	〃
明治三〇	二四〇、七六七	一八八、五一五	四二九、二八二	—	—	—	〃
明治三一	二三八、八四六	一七五、四五六	四一四、三〇二	—	—	—	算定面積
明治三二	二一一、九四九	一五一、三四一	三六三、二九〇	一六、五七六	四・三六	一〇〇	以下實地調査
明治三三	二〇〇、六九三	一五七、四八九	三五八、一八二	—	—	—	
明治三四	二一三、一六五	一七四、四〇三	三八七、五六八	二六、一六七	六・七五	一五八	
明治三五	二五二、九九八	一九八、〇三四	四五一、〇三二	一六、五二六	三・八六	一〇〇	
明治三六	二八六、八一八	二六三、九〇五	五五〇、七二三	二一、五九四	三・九二	一三一	

明治三七	三一三、五九九	三三一、〇九二	六四四、六九一	二四、九七七	三・八七	一五一
明治三八	三一四、三六四	三二九、五〇五	六四三、八六八	三五、一五八	五・四六	二一三
明治三九	三一九、二一七	三三四、〇八一	六五三、二九八	三〇、三九一	四・六五	一八四
明治四〇	三一八、五四〇	三五五、九八三	六七四、五二三	二八、七〇四	四・二六	一七四
明治四一	三三二、八一一	三三七、五九三	六七〇、四〇四	三九、〇三五	五・八二	二三六
明治四二	三三七、七八〇	三四四、六九八	六八二、四七八	六三、四一一	九・二九	三八四
明治四三	三四二、六八〇	三五二、三二五	六九五、〇〇五	八九、四四五	一二・八七	五四一
明治四四	三四五、三一五	三六三、一八四	七〇八、四九九	七五、三三九	一〇・六三	四五六
明治四五	三四六、三七四	三六四、九〇八	七一一、二八二	六七、三五八	九・四七	四〇八
大正二	三四八、〇八〇	三六四、三八三	七一二、四六三	七六、二七七	一〇・七一	四六二
大正三	三五〇、一二五	三六四、五四五	七一四、六七〇	八五、一五〇	一一・九一	五一五
大正四	三五三、七二八	三六八、〇六四	七二一、七九一	一一四、四五一	一五・八六	六九三
大正五	三五八、六六八	三七九、七四九	七三八、四一七	一二九、六六二	一七・五六	七八五
大正六	三三〇、四六八	四一二、五一七	七四二、九八五	一五〇、四五〇	二〇・二五	九一〇
大正七	三五二、〇六九	四〇二、八九五	七五四、九六四	一二〇、四一〇	一五・九五	七二九
大正八	三五五、八〇四	四〇五、〇〇五	七六〇、八〇八	一〇八、三七六	一四・二四	六五六
大正九	三七八、二六四	三九四、〇九六	七七二、三六一	一一九、八八八	一五・五三	七一九
大正一〇	三七五、四四〇	四〇〇、七一〇	七七六、一五一	一四二、〇三三	一八・三〇	八五九
大正一一	三七六、三二一	三九七、四九四	七七三、八一六	一一六、六二〇	一五・〇七	七〇六
大正一二	三七六、七六七	三九八、六三三	七七五、四〇〇	一二三、二三三	一五・八九	七四六
大正一三	—	—	—	一三四、七八九	—	七五五

（備考）耕地面積は其年十二月末現在にして甘蔗作付面積は前年八月乃至其年五月迄の間に植付けられたるものなり。
甘蔗植付増進割合は明治三十四年以前は正確を缺くの嫌あるを以て三十五年を一〇〇として計算せり。

●●●●●●甘蔗品種の變遷　總督府に於ては治臺の第二年に於て既に布哇より「ローズバンブー」「ラハイナ」の種苗を

輸入し甘蔗品種の遷善に著手したのは前述の通りであるが糖務局設置以後に於ても數多の外國品種を輸入し試驗を重ねつゝ先づ優良適種として「ローズバンブー」種の繁殖普及を奬勵し明治三十五―三六年期に於て斯種の收穫面積三十七甲、甲當十二萬五百八十六斤の收量を擧げ在來種の甲當四萬一千百六十一斤に對し殆ど三倍の良績を得たので益之を奬勵し明治四〇―四一年期收穫に於ては一萬七千二十一甲即ち全蔗園面積の五九・二%に上り尚比年躍進し大正元―二年期に於ては實に六萬四千七百九十四甲即ち全蔗園の九六・二%に達し正に本島蔗作界を獨歩するの觀を呈した然るに其の甲當收量は四圍の環境に依り一高一低なきにあらざるも大體に於て漸減の趨勢を辿り明治四三―四四年期の如き五萬四千二十三斤に下り更に明治四十四年及翌大正元年に於ける前後三回の大暴風雨に際會するや甲當收量は明治四四―大正元年期四萬二千五百五十二斤、大正元―二年期二萬二千八百二十二斤に激減して其の耐風性に乏しきを示し且つ病蟲害の蔓延著しく遂に品種の退化を唱ふる者あるに至り茲に更に一層本島の氣象風土に好適せる優良品種を以て之に代らしむるの必要に迫られたので督府當局に於ては糖業試驗場に於ける品種試驗の成績に鑑み比較的耐風性に富み且つ收量、含糖分共に高き爪哇實生種を奬勵し一面蔗苗養成所を設置して此等優良品種を養成して糖業者の希望に隨ひ之を配給し三年毎に全島蔗苗を一更新せしむるの計畫を立てた糖業者側でも亦各自區域の環境に適應する品種を考査し大正二年より或は新品種蔗苗を爪哇布哇其他に求め或は糖業試驗場及蔗苗養成所より若干の配給を求め試作繁殖に努めた結果三六ＰＯＪ、三六Ｍ、一〇五ＰＯＪ、一六一ＰＯＪ、二三四ＰＯＪ、等爪哇實生種漸次各地に歡迎せられ大正五年度蔗苗養成所生産蔗苗の一般配給開始さるゝと共に此等品種は頓に普及の趨勢を辿り大正六―七年期收穫に於ては面積一萬五千六百七十四甲、全蔗園の一〇・四%に進み「ローズバンブー」種は八一・七%に下り爾來爪哇實生種は躍進的激增を續けて「ローズバンブー」種に代はり全島

蔗園に普及しつゝある傍ら大目降糖業試驗場に於ては技師金子昌太郎氏多年苦心研究の結果大正二年臺灣實生種育成に成效し引續き研究陶汰を行ひ遂に耐風性頗る強く且つ收量多く含糖率に於ても亦略爪哇實生種に匹敵する品種を育成しF四、F一九、F二四等と名號し最近各地に普及せんとして居る更に大正九年帝國製糖會社取締役農事部長田原哲二郎氏爪哇に出張して二七一四POJ、二七二五POJ等所謂爪哇大莖種蔗苗を持歸り試作の結果灌漑の便ある土地に於ては其の收量著しく多く同社區域の如き最も好適なりとし大に其の增植を圖りつゝある折柄大正十二、三年に於て頓に普及の勢を逞ふし來りたる內地種米は水田地方の蔗作に脅威を與ふるに至り從つて糖業者は此の收量多き大莖種の奬勵普及に依り採算上內地種米と對抗せんとするの氣勢を示し蔗農亦之に刺戟せられて大莖種の集約耕作に依り益其の收益を增進せむとするの傾向を示し來つた試に新式製糖場區域內に於ける大正一三—一四年期收穫蔗園に就て其の品種別作付面積を示せば左の通りである而して總督府糖務當局に於ては糖業試驗場（現新化糖業科）及蔗苗養成所の成績及事業と相關聯して大正八年以降地方州廳農會及各新式製糖場に委托し各地方に適應する品種の試驗を續行しつゝあるので其の進捗に伴ひ一面新優良品種の育成せらるゝに隨ひ現在の品種に陶汰乃至變遷を來すべく製糖會社側に於ても將來各地方に適應すべき實生品種育成を企畫するものある等品種の變更遷善は永劫停止することなかるべしと思料せらる。

□大正一三—一四年期收穫新式製糖場區域甘蔗品種別作付面積表

品種	作付面積	割合	順位
二七二五POJ	三七甲	〇・二九%	一四
チェリボン	一二八	〇・一一	一七
D一一一七	三、四三五	二・七四	六
三六POJ	三、三三五甲	一七・七%	三
三六M	一七〇七	一・三六	八
一〇五POJ	三五、一三	三〇・六八	二

一四三POJ	一,六三八	一・三二	九
一六一POJ	四七,七六九	三八・一七	
一八一POJ	二六五	〇・二一	一五
二三四POJ	四,八三二	三・八六	五
二四〇POJ	三八〇	〇・三〇	三
二四七POJ	二六三	〇・二一	一六
二七一四POJ	一,一七六	〇・九四	一〇
H一〇九	一二八	〇・〇九	八
ローズバンブー	六,四二五	五・一三	四
F一九	一,一七三	〇・九四	二
讀谷山	二,五五四	二・〇四	七
竹蔗	七一二	〇・五七	三
其他諸種	四,八六四	三・八八	
新式區域計	一二五,一六四	一〇〇・〇〇	

本表は大正十三年十月末現存の蔗園面積にして百甲以上の品種を特掲以下其他に合算したり、其他品種中品種不明のもの四、二四四甲（三・三九％）あり其の大部分は爪哇實生種なるべしと言はる。

蔗苗更新　健全なる原苗に依り一般蔗園の種苗を成るべく短期間に更新せしむることは品種の選擇改良と共に收穫率增進上最も必要なることは學理より論ずるも亦糖業試驗場の試驗成績、爪哇、布哇等先進糖業國の實例に徵するも明かなるところである由來本島蔗作の舊慣は一般蔗園の甘蔗梢頭部より採苗栽植するを普通とし特に苗圃を設けて原苗を供給するが如きは絕えて見ざるところであつた而して明治二十九年以來督府當局が外國から新種苗を取寄せ各地に苗圃を設け蔗苗供給を圖つたのも其の目的は寧ろ品種の改良にあつて周期的に蔗苗の更新を期するまでには至らなかつた然るに明治四十三、四年の頃から主要品種たる「ローズバンブー」に病蟲害漸く甚だしく更に四十四年及大正元年の暴風雨により品種の遷善と蔗苗の周期的更新が最大急務なることを認められ督府當局の蔗苗養成所設置を見るに及んで茲に品種改良と共に蔗苗の系統的更新策が樹立された當時の計畫に依ると養成所に於ては輸入苗圃、母苗圃を經て年々四百甲の本苗圃より民營苗圃に原苗を供給し民營苗圃より年々一般原料蔗園の三分の一に配苗し全島蔗園を三年每に一更新せしむといふにあつた斯くて養成所生產蔗苗は大正五年度から一般配給を開始し從つて約二千甲內外の民營中間苗圃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も亦大正五、六年期から各新式製糖場區域に設けられたが製糖業者竝に蔗農側の希望品種に時々變更を來し或は各品種原苗の生産豫期の如くならざる等の爲め三年一更新は聊か困難なる事情あり中間苗圃生産蔗苗の第一次植付蔗園は各年一萬甲内外に過ぎず一面甘蔗早植は大正八年から頓に擡頭普及せむとし之に要する多量の蔗苗は特別の養成を必要とするに至り所謂特設苗圃は各地に設置せられ而かも蔗苗の更新は强ち三年を待たずして二年一更新を計畫するもの續出するに及び督府當局に於ても亦時勢の進運に鑑み之に順應すべく當初の計畫に一歩を進め養成所、中間苗圃、特設苗圃、一般蔗園の系統に依り强ち三年を待たず二年以内に於て全蔗園の蔗苗を一更新せしむべく大正十三年計畫を變更し著々之れが施設に努めつゝあるので近き將來に於て蔗苗更新の周期は大に速められるであらう。

●植付時期●　舊來本島の蔗作慣行として收穫時期たる十二月乃至翌年四月の間に一般蔗園から採苗して之を植付け十二箇月乃至十四箇月にして之を收穫するを普通とした然るに糖業試驗場に於て反覆試驗の結果植付時期を早むることの收量竝に糖熟上有利なるを認め隨時其の成績を發表しつゝあつたが未だ一般に實行さるゝの機運に向はなかつた然るに明治四十四年及大正元年の大暴風に蔗苗の大不足をした際北港製糖に於ては折損した未熟の蔗莖を全部蔗苗として九月の植付けを敢行したところ其の收量多きを認め爾來數年間試驗を重ぬる一方之れが實施を企畫した次で一般蔗農中に之を試むるものあり其の收量頗る多くして有利なること漸次一般に認めらるゝに至り會社側に於ても特に補助奬勵金を與へて之を奬勵し大正五年に於ては十一月末日迄に千二百九十一甲の植付を見大正八年一躍二萬三千二百四十九甲に激增し比年增進して大正十三年には約六萬五千甲に上り全島蔗園の一半を占め更に特設苗圃の增設に伴ひ益々普及せんとするの趨勢にある而して早植時期は早きは八月より十一月の間にして南部地方は雨期の末期に當るを以て土壤中の水分多く活著發

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

育共に旺盛一、二月の交一時生育を中止するも三月以後の發育更に旺盛にして暴風季節に於ては既に相當耐風力に富むので其の被害も輕く培養宜しきを得ば普通植の二倍に當る收量を擧ぐること敢て難事にあらず然れど其の土地を使用する期間十八箇月内外に及ぶのと恰かも二期米の收穫以前に植付くる爲め中北部水田地方には未だ一般的に行はるゝに至らざるが稻の收穫前其の間に併作する所謂糊仔甘蔗の方法に依るものも續出し又特殊の條件の下に第二期米作を廢して甘蔗の早植を行ふ等漸次水田地方にも普及するの氣勢を示しつゝある今大正五年以來新式製糖場區域内早植進展の狀勢を示せば左の通りである。

□新式製糖場甘蔗植付對早植面積

植付年期	植付總面積	早植面積	早植割合 %
大正五—六	甲 一三二、二九五	甲 一、三九一	一・〇六
大正六—七	一〇七、二六五	三、八七八	三・六二
大正七—八	九六、一七三	四、五七八	四・七四
大正八—九	一一七、六三六	二三、二四九	一九・七六
大正九—一〇	一三四、六八二	四五、六一四	三三・八七
大正一〇—一一	甲 一二五、三八三	甲 四八、八三四	三八・九六
大正一一—一二	一二一、一五六	五一、七四五	四二・七一
大正一二—一三	一二四、一三四	五八、二二五	四六・九〇
大正一三—一四 豫定	一二〇、二二四	約 六五、〇〇〇	五四・一

品種は主として一六一POJ、一〇五POJ、三六POJ、三六M等の爪哇實生種なり。

●●●灌漑排水　灌漑排水の蔗作上最も必要條件たるは勿論であるが從來本島蔗作地は殆ど南部の畑地に限られ特に灌漑排水の施設を爲するのなく單に降雨に依るのみにして時に旱害に苦しみ或は豪雨淅水久しきに及んで甘蔗の枯腐するに委するものある等甚だしき不利を招くことが少くなかつた故に糖務局に於ては明治三十五年度以降堀井、揚水風車等の手段に依り蔗園に灌漑を奬勵したが其の成績未だ振はず三十八、九の兩年度は之を中止し四十年度に復活した而して四十一年度からは灌漑のみならず排水に對しても補助奬勵し相當大規模の工事を施行するものには工費の十分の五以内を補助することゝなつた乃ち此頃から大日本製糖、北港

製糖、臺灣製糖等各社競ふて灌漑又は排水の工を起すに至つた殊に北港製糖の如き低濕にして時に淅水月餘に亘り排水設備の最も急を要するものあり加ふるに「アルカリ」性の强烈なる土質の改善を企て大正三年迄に數十萬圓を投じて大規模なる系統的排水幹溝及支線を設け爾來之れが擴張完成を期し遂に「アルカリ」性土壤の矯正に成功し收穫率の如き全島最下位より一躍最上位に進むの偉觀を呈した又臺灣製糖後壁林區域の如き開設當初より大規模の啣筒を裝置し灌漑排水を兼ね行ひ、阿緱及東港兩製糖所區域に於ても遠く蕃界に水源を求め大規模の工事を起し數千町步の荒蕪地を蔗園とした其他東洋、明治、鹽水港等各社に於ても至る處灌漑排水の大工事を施行し一方各地官設又は民設埤圳の進捗は間接に蔗作に有利なるものあり今や蔗園の灌漑排水は其の收量の增進乃至地力維持向上に必須の施設として一般に普及するに至つた而して濁水溪以南十五萬甲步に對し系統的排水を施行すると共に年々其の三分の二卽ち十萬甲に對し灌漑を行はむとする嘉南大圳の工事進捗は從來生產力低劣の地をして良田園に化せしむる一方米作蔗作の關係に微妙なる影響を與へ製糖業者は其の形勢の推移に注目しつゝある今糖業奬勵補助に依る灌漑排水工事の各年施行面積及工費額を示せば左の通りである。

□糖業補助に依る灌漑排水工事

年度	施行面積(甲)	工費(円)
明治三五	二六	
明治三六	四二	
明治三七	六二	
明治三八	—	—
明治三九	—	—
明治四〇	二三	
明治四三	一、一三	二、九三七
明治四四	一、九七二	一三〇、四七六
大正元	一、八三二	二六七〇一
大正二	二、六六三	一三九、〇六七
大正三	二、五二五	二七五、三三八
大正四	二、三七〇	二七一、三八三
大正七	一八、七〇五	六九〇、八三九
大正八	七、八三五	七八〇、六六八
大正九	一〇、〇六五	六八三、七八三
大正一〇	三、二一七	四四八、二八四
大正一一	三、八二四	四四五、一〇〇
大正一二	一三〇	一一三、八〇〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四一	五六二	—	大正五	一〇,六八一	二〇三,一四五	大正一三	九二,九二二	五〇〇,三五七
明治四二	—	—	大正六	一六,五八一	五八,一八八	大正一四		

●●●●施肥の増進　本島蔗作の舊慣に依れば施肥は甲當約一千斤乃至三千斤の堆肥を基肥として施用するも綠肥乃至人造肥料は絕えて施すことなく殆ど施肥の觀念を缺如して居た故に糖務局設置當初より先づ品種の改良と共に人造肥料の施用を奬勵せむとしたが慣習に囚はれた農家は容易に費用を投じて施用せんとせず且つ其の效果の如何に偉大なるかをも覺知するに至らなかつたので糖務局では先づ適種肥料を購入して或る條件の下に之を無償配付し蔗農の覺醒を促がし三十六年度よりは現金補助をも併せて開始し翌三十七年度以降は共同購買を推奬して之に補助を與へ肥料の購入、檢査及配給の手續等總べて當局に於て擔當斡旋し明治四十二年度よりは間接の利害關係を有する各製糖會社をして協力事に當らしむることゝしたが大正元年度からは各新式製糖會社をして蔗農を代表し萬般の斡旋を爲さしむることゝした斯くて施肥の效果は漸次蔗農の知覺するところとなるに隨ひ確實に施行するの風潮を來し又製糖會社に於て各奬勵策を講ずるに至つたので大正五年度限り補助を廢止し製糖會社の施設及蔗農の自發的力行に委することゝなつた一方綠肥も亦夙に奬勵せられ北港製糖會社の如き特に此の方面に意を注ぎ其の自營農場は勿論一般蔗農に對しても堆肥と共に大に奬勵に力め灌漑排水の施設と相俟つて其の效果偉大なるものあるに鑑み各會社並關係當局の奬勵に順應するもの漸次多きを致し現在に於ては蔗作に利用せらるゝ綠肥栽培は三萬五、六千甲乃至五萬五、六千甲に及び尙益增進の勢を示し其施用量も亦大に增加しつゝあり一方甘蔗の枯葉梢頭部等も亦鋤込まるゝの風を生じ來つた而して人造肥料の施用種類は各地一樣ではないが大正四年乃至八年に亘り殖產局に於て各廳農會及製糖會社に委托して續行したる地方的肥料試驗並に各製糖會社自由試驗の結果環境を異にする各地に夫々適種を選擇し從つて地方的に大體の傾向を成すに至つた現在に於ては調合肥料最も廣く施用せられ其の面積十萬甲內外

を算し硫酸安母尼亞之に亞で三、四萬甲の間にあり大豆粕は二萬甲以下に降り第三位に落ちてゐる明治三十七年度以降督府の補助を受けた共同購買肥料の數量金額其の施用面積並に大正四—五年期以降新式製糖會社共同購買肥料數量及金額を示せば左の通りである。

□補助共同購買肥料

年度	補助施用面積	共同購買肥料數量	同上金額
明治三七	四九九甲	三九,九三〇貫	一九,九六〇円
明治三八	九八四	七八,七五六	三六,六三三
明治三九	九八三	八六,七四一	三六,一八一
明治四〇	五,五一六	六八,九二四	二七,九〇〇
明治四一	一七,八九二	二八七,九九三	七八,七五〇
明治四二	三〇,五三四	四,三〇三,三五九	一,二七〇,八五〇
明治四三	三六,八九四	七,〇二五,七六〇	一,五八七,六三三
明治四四	四四,八九四	七,六一五,三二五	一,七〇六,八五三
大正元	四四,四五八	—	—
大正二	三九,五〇一	五,二九三,二五一	一,五四六,四七四
大正三	三九,九九九	六,三五六,一五九	一,五三二,八二六
大正四	三五,〇〇〇	五,八八一,三二四	一,六〇六,七九七
大正五	三五,〇〇〇	六,〇〇〇,六九三	一,六一七,三八三

備考　大正六年度以降は補助共同購買廢止

□新式製糖會社共同購買肥料

年期	共同購買肥料數量	同上金額
大正四—五	九,三六五,八二四貫	二,四〇七,二〇三円
大正五—六	一三,〇〇六,三七〇	三,四三八,七一六
大正六—七	一六,九五二,四九一	六,七三八,六二七
大正七—八	一六,五四八,八七四	六,八九五,七七七
大正八—九	一四,四七五,一七七	九,四二二,二五八
大正九—一〇	二一,三四五,〇七八	九,五六二,五九一
大正一〇—一一	一五,五七八,三〇〇	六,二〇六,二六二
大正一一—一二	一五,五七八,三〇〇	六,二〇六,二六二
大正一二—一三	二〇,七二一,〇三七	八,三五一,八六七
大正一三—一四	二四,四二八,二九一	一〇,三六七,七七八

耕作法の改良　以上は即ち砂糖農業發展上の新傾向中特記し得べき主なる事項であるが最後に此等改良事項をして其の效果を顯著ならしむべき努力即ち狹義の意味に於ける耕作法の改良に一言なかるべからざるものがある總督府に於ては粗放極まる舊來の蔗作を改良すべく品種の選善、施肥、灌漑排水等を奬勵すると共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に耕作法を改良すべく深耕、畦の切り方、密植、蔗苗の豫措、植付、覆土、中耕、除草、肥料の種類用量施用時期、病蟲害の驅除豫防等總ゆる方面に渉り實地に就て具體的指導監督を加ふべく先づ支局出張所等より技術者を派し或は講話をなさしめた越て明治三十九年度に於て上記耕作法の各方面に於て適當の條件を附し篤農家を選んで各地に民營模範蔗園を設置せしめ肥料、蔗苗等に補助を與へたが其の成績頗る擧り成育の旺盛、收量の增進著しきものあり附近蔗農に好印象を與ふること少からず翌四十年度よりは廣く各地に增設し技術者を駐在せしめ指導監督に任じ汎く其の範を示すに努めた卽ち初年たる三十九年度に於ては耕作者十八人、面積合計十甲餘であつたが翌四十年度は一躍百七十五人、一千甲を設置し四十一年度は四百十四人、一千百甲、四十二年度五百五十一人、一千六百甲を最多とし四十三年度三百九十一人、五百甲、四十四年度三百九十九人、五百二十五甲、大正元年度五百三十七人、五百十九甲、二年度五百十九人、五百三十八甲、三年度百人、百甲を以て之を廢止し得るに至つた此の間製糖會社側に於ても亦臺灣製糖後壁林を始めとし大規模の自營農場を開設し蒸汽犂を使用して埴土の深耕、綠肥の鋤込み其他耕作法萬般の改善を圖るあり更に帝國製糖鹽水港製糖の如き「レノーソ」式或は洋犂式耕作法を實行し大正七、八年の交よりは勞力の缺乏、勞銀の昂騰に促がされて「トラクター」を使用するもの各地に起り茲に農具の改良と共に耕作法は漸次集約に赴いた而して大正九年後半以來の不況に際し蔗農は競ふて集約耕作に依て收益の增進を圖らむとする新傾向を呈し會社側の獎勵施設は更に之を促し品種の選擇、早植其他前揭各項の改良と相俟つて甲當收量は一般に向上し中には舊來瘠薄の地に於て能く十數萬斤を得るあり大正十一年頃よりは甲當收量の標準として「甘蔗三十萬斤會」「同二十萬斤會」等の集團各地に組織せらるゝに至り蔗農の自發的努力著しく本島甘蔗耕作法は舊態を脫し今や其の面目を一新するに至つた一面南部地方に廣大なる面積を有する看天田の改良竝耕作法に就ては糖務當局

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に於ても大に研究を重ぬる一方東洋製糖烏樹林臺灣製糖後壁林の如き灌漑排水の施設と共に砂土を以て客土法を行ひ又最近鹽水港製糖新營農場に於て使用に著手したる「ヒースプラウ」の如き能く看天田の堅盤を碎いて二尺乃至三尺の深耕を爲し得るもの丶如く之れが經濟的使用に成效する曉に於ては本島蔗作界に一革新を與ふるもの丶如く觀られて居る。

甲當收量の消長　明治三十五年糖政確立以前に於ける本島甘蔗の甲當收量は正確なる調査の材料を缺くと雖も蓋し四萬斤を超えたること稀なるもの丶如く糖務局開設第一年期たる明治三五—三六年期收穫は四萬一千三百三十八斤であつた爾來改良種「ローズバンブー」の普及は漸次收量の向上を來したが蔗園面積の擴張に伴ひ比較的不適の地域に栽植するものあると肥培未だ宜しきを得ず或は暴風雨に累せらる丶等の關係より理想的向上を見ること能はずと雖も明治四一—四二年期に於ては五萬六千八百五十八斤、四二—四三年期五萬六千七百九十六斤に上り翌四三—四四年期は稍下りて五萬二千七百十七斤を擧げたが同年の全島的大暴風及中北部の霖雨に因り翌明治四四—大正元年期には四萬一千九百四十四斤に下り更に同年全島大暴風雨の爲め大正元—二年期に於ては實に二萬二千七百二十二斤と未曾有の激減を來した爾來漸次恢復して大正四—五年期には五萬百十一斤に進み更に同年氣象の順調に因り翌大正五—六年期に於ては一躍六萬五千四百六十三斤に上り多收の新記錄を殘したが翌大正六—七年期四萬五千三百十四斤、七—八年期四萬六千七百六十八斤、八—九年期四萬四百三十八斤と年次一高一低の間にも寧ろ減退の甚しきものあるを示した然るに大正八年より品種の改善、早植の勃興、灌漑排水、施肥其他耕作法の集約的なるに隨ひ八—九年を底入れとし九—一〇年期には四萬一千五百三十八斤、一〇—一一年期四萬七千五百四十四斤、一一—一二年期五萬六千八百六十七斤と遞增し更に蔗農の自覺努力と氣象の順調に依り一二—一三年期に於ては六萬三千二百四十三斤に上り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過去の最大記錄を靡せんとし一三—一四年期に於ては未だ正確なる數を得ざるも約六萬七千斤に達すべく玆に多收の新記錄を作るもの丶如く豫想せらる而して大正九、十年の交に於ける低下の狀態と植付面積の擴大其の極に達したりとの見解から本島糖業の行詰り說をさへ唱ふるものあるに至りたるに刺戟せられ總督府當局竝に製糖會社は總ゆる方面の改善に腐心努力し蔗農の自覺を促したる結果甘蔗農業は玆に立體的進展の新時代に入らむとし大正一〇—一一年期以降甲當收量は前述の如く比年遞增の趨勢を示すに至つた以上の經路と優良品種の輸入、育成等官民共に大に企畫するところあらんとする狀勢に鑑み甲當收量は氣象其他環境の變異に依り時に多少の消長あるべきも大勢に於て益增進の一途を辿るものと觀測せらる尙新式製糖場區域內に於ける會社自作及一般蔗園甲當收量竝新式製糖場區域內甲當收量別面積を示せば左の通りである。

□新式製糖場區域內自作及一般蔗園甲當收量

經營別	大正五—六年	大正六—七年	大正七—八年	大正八—九年	大正九—一〇年	大正一〇—一一年	大正一一—一二年
會社自作蔗園	斤 八四、四三三	斤 六二、〇五八	斤 五九、五四〇	斤 五一、九八六	斤 四八、四四〇	斤 五三、二三〇	斤 七三、六五九
一般蔗園	六七、五三三	四三、五一〇	四三、一八六	三八、四四七	四三、六六四	四四、一六〇	五一、八五一

□新式製糖場區域內甲當收量別蔗園面積

收量區分	大正六—七年	大正七—八年	大正八—九年	大正九—一〇年	大正一〇—一一年	大正一一—一二年	大正一二—一三年
七萬斤以上	甲 一〇、六九九	甲 九、九三三	甲 六、六六一	甲 八、一一七	甲 一六、四四八	甲 二八、五四六	甲 四六、六四三
七萬斤未滿	八、三九一	六、四八六	四、三〇五	七、三四八	一〇、四一〇	一四、八四〇	一五、八六〇
六萬斤未滿	一三、五一六	一一、五四八	七、九二〇	一一、五六六	一六、四五七	一五、一一四	一五、〇九五
五萬斤未滿	二四、六八〇	二〇、七九二	一五、〇四六	二〇、二六四	二三、四七三	一四、九九四	一一、八七七
四萬斤未滿	二八、〇三〇	二二、二一四	二〇、六四六	二五、七八三	二五、八七九	一三、二四五	一〇、五〇四
三萬斤未滿	二〇、〇三七	一六、二五〇	一八、三八五	一七、九七七	一七、一一五	一三、〇〇六	八、三四四
二萬斤未滿	九、六二六	六、八三八	一一、一三一	一一、九二六	一〇、〇一〇	七、九九〇	三、二〇二
面積計	一一三、九八〇	九三、〇六〇	八四、〇九三	一〇三、〇四〇	一一八、八二三	一〇五、七三三	一一一、六二五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

前二表に就て見るに會社自作蔗園は概して一般蔗園より收量頗る多く又甲當收量別面積は大正一〇―一一年期迄は四萬斤未滿三萬斤以上のもの最も多きを占めて居たが此頃から七萬斤以上の蔗園は急激なる增加を續け翌一一―一二年期には一躍第一位に上り同時に七萬斤未滿六萬斤以上、六萬斤未滿五萬斤以上の蔗園も亦大に增加し大正一二―一三年期に於ては七萬斤以上の蔗園は實に總面積の四一•八%を占むるに至つた而して此七萬斤以上を區分すれば七萬斤以上一萬二千五百六十一甲、八萬斤以上一萬百七十五甲、九萬斤以上八千五百十一甲、十萬斤以上八千三百十六甲、十一萬斤以上一千六百七十九甲、十二萬斤以上二千八百三十八甲、十三萬斤以上五百五十一甲、十四萬斤以上一千百九甲、十五萬斤以上二百四十五甲、十六萬斤以上三百五十甲、十七萬斤以上六十五甲、十八萬斤以上百六十九甲、十九萬斤以上一甲餘、二十萬斤以上七十三甲となる更に一三―一四年期に於ては多收面積は愈增加し大正十四年の臺灣新聞社主催全島甘蔗增收品評會の成績に徵するも製糖會社自營蔗園以外一般蔗作者にして甲當三十萬斤以上を收穫し得たるもの啻に一、二に止まらず北港製糖區域內篤農家紀長氏の如き大規模の蔗園に於て平均十二萬餘斤を得其一部に於ては實に四十一萬八千二十五斤の收穫を擧げた是れ一には天候の順調なりしに依るも其の最大原因は自覺努力能く自然を征伏し得たものと謂ふべく本島蔗作界に一大衝動を與へ天惠の最も豐かなる爪哇の收穫率に追及し得るを思はしむるに至つた。

四　製糖工業の改善と進展

製糖場及能力の變遷　明治三十三年一月督府當局の慫慂に依り臺灣製糖會社の創立後糖政確立を見て以來製糖工業方面の改良に對して督府當局の腐心努力並に其の結果企業家の奮起を促し恰かも日露戰役後の經濟

界好調に伴れ大規模新式製糖場並改良糖廍勃興の趨勢を招致したことは糖政施設の項に於て略記した通りであるが明治四十年度以降糖政方針の農業方面に主力を轉じて後に於ても亦大規模新式製糖場續々設立せらるゝあり明治四三―四四年期に於ては新式工場二十一箇所一日の原料壓搾能力一萬八千五百九米噸（内十五工場能力一萬四百九十英噸は米噸に換算して加算）の作業を見外に改良糖廍七十四箇所能力六千百三十噸の操業するあり之に反して舊式糖廍は大に其の數を減じて四百九十九箇所に下つた而して明治四十三年八月能力制限以後に於ても既許可工場の建設に依り新式工場の數及作業能力は比年擴大せられたが改良糖廍は新式製糖場の作業開始と共に其の區域内に在るもの漸次取拂はれて減退し舊式糖廍も亦激減して二百箇所内外を持續した越て大正六年製糖能力制限の撤廢と共に經濟界の好調に乘じて新式製糖場及改良糖廍の新設又は能力擴張を圖るもの所在續出し大正六―七年期に於ては新式三十七工場三萬一千六百五十四米噸、改良糖廍三十三箇所二千八百十噸の操業するあり舊式糖廍亦三百十一箇所の作業を見た爾來糖界の好況乃至原料の増産に伴ひ新式製糖場は漸次新設或は能力擴張に依り益々增大したが改良糖廍は比較的巨資を投じて遂に經營不引合に陷り又稍大規模なる沙轆製糖、臺中製糖の如き新式工場に變更せられ大正製糖苑裡工場三百噸の如き遂に設立に至らずして止みたる等の關係上漸次退勢に赴き又既設改良糖廍の作業休止を續くるものある等最近に於ては僅に十數箇所一千餘噸の作業を見るの狀態にある元來改良糖廍は本島糖業の大規模にして完備せる新式工場に進むべき過渡期の一階梯として起つたもので其消長の跡は舊式糖廍の激減、新式工場の勃興と共に製糖工業の一大進展を裏書するものである更に舊式糖廍も亦比年激減して僅かに百餘箇所となつたが新式工場の區域に適せざる山間僻地に於ける小規模の産業として地方的に輕視すべからざるものもあるので近き將來に於て絶滅するが如きことはないであらう今左に各種製糖場の各年作業箇數及能力を示して製糖工業の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進運を窺ふに資せん。

□作業製糖場種別工場數及能力累年表

年期	新式製糖場 工場數	新式製糖場 英米噸別工場數及能力	新式製糖場 米噸換算總能力	改良糖廍 工場數	改良糖廍 能力	舊式糖廍數
明治三四－三五	一	英(一) 三〇〇噸 米 ―	三三六噸	―	―	一,一一七
明治三五－三六	一	英(一) 三五〇 米 ―	三九二	―	―	八九五
明治三六－三七	二	英(一) 三五〇 米(一) 四〇	四三二	―	―	一,〇二九
明治三七－三八	七	英(四) 一,一六六 米(三) 一六〇	一,四六六	四	三七六	一,〇五五
明治三八－三九	八	英(五) 一,三九六 米(三) 一六〇	一,七二四	五二	三,二七六	一,一〇〇
明治三九－四〇	七	英(五) 一,三九六 米(二) 一二〇	一,六八四	六〇	三,八九六	八七八
明治四〇－四一	九	英(六) 二,〇四〇 米(三) 五二〇	二,八〇五	六一	三,八五六	八四七
明治四一－四二	一五	英(一〇) 六,五九〇 米(五) 二,七二〇	一〇,一〇一	四二	二,八二六	五八二
明治四二－四三	一六	英(一一) 七,〇四〇 米(五) 二,七二〇	一〇,六〇五	六九	五,六二〇	六六三
明治四三－四四	二一	英(一五) 一〇,四九〇 米(六) 六,七六〇	一八,五〇九	七四	六,一三〇	四九九
明治四四－大正一	二九	英(二一) 一四,三三〇 米(八) 八,五二〇	二四,五六〇	五〇	四,二九〇	二二三
大正一－二	二六	英(二〇) 一三,八八〇 米(六) 七,四五〇	二三,九九六	三二	三,五六〇	一九一
大正二－三	三一	英(二三) 一六,二八〇 米(八) 八,〇五〇	二六,二八四	三四	二,八七〇	二一七
大正三－四	三三	英(二四) 一七,一一〇 米(九) 九,〇五〇	二八,二一三	三四	二,六四〇	二一六

大正四—五	三五	英(二六) 米(九)	一八,〇一〇 九,〇五〇	二九,二三一	二三	二,四六〇	二七
大正五—六	三五	英(二六) 米(九)	一八,〇一〇 九,〇五〇	二九,二三一	二八	二,五〇〇	二五六
大正六—七	三七	英(三〇) 米(七)	二〇,四五〇 八,七五〇	三一,六五四	二三	二,八一〇	三一
大正七—八	三七	英(三〇) 米(七)	二〇,四五〇 八,七五〇	三一,六五四	二五	二,四七〇	二五一
大正八—九	三九	英(三二) 米(七)	二一,七〇〇 八,七五〇	三三,〇五四	二四	二,三三〇	二〇三
大正九—一〇	四二	英(三三) 米(九)	二三,四五〇 一〇,五五〇	三五,六九四	二三	一,九〇〇	一七一
大正一〇—一一	四五	英(三五) 米(一〇)	二五,七五〇 一一,三〇〇	三七,九〇〇	二六	一,二七〇	一三六
大正一一—一二	四四	英(三三) 米(一一)	二三,六〇〇 一三,〇五〇	三七,三六二	二	八二〇	一〇一
大正一二—一三	四四	英(三三) 米(一一)	二三,六〇〇 一三,〇五〇	三七,三六二	二三	一,一八〇	一〇四
大正一三—一四	四四	英(三三) 米(一一)	二三,六〇〇 一三,〇五〇	三七,三六二	二三	一,一三〇	一三一

右の過程を經て現在新式製糖場は作業休止一工場を加ふれば全島に渡り四十五の大工場巍然として廣漠たる田園中に到る處偉觀を呈し改良糖廍も亦休止中のものを合し二十六箇所の現存を見る卽ち其の所在能力區城內耕地面積等を示せば左の通りである。

□新式製糖場現勢一覽表

會社工場名	所在地	能力		區域內田園面積 二作田	一作田	畑	計	會社私設鐵道哩	摘要
臺灣製糖株式會社橋子頭第一工場	高雄州高雄郡楠梓庄橋子頭	英	六五〇噸	二,九二六甲	三,九九一甲	一,四四五甲	二七,三六二甲		
同第二工場	同上	米	四〇〇	四,三五六	一,六六七	三,〇八二	七,九二五		

同 後壁林製糖所	高雄州鳳山郡小港庄二苓	米	一,〇〇〇	四,五七六	二六七	三,〇八二	七,九二五		
同 阿緱製糖所	同 屏東郡屏東街歸來(本社所在地)	同	三,〇〇〇	九,六五六	三,九一六	一七,六六一	三一,二三三		
同 東港製糖所	同 東港郡林邊庄溪州	同	七〇〇	七,六〇六	五,四九六	一四,七六一	二七,八六三		
同 車路墘製糖所	臺南州新豐郡仁德庄田厝	同	一,二〇〇	六〇〇	七,八二三	一四,三〇九	二三,七三二	二八二七	
同 灣裡製糖所	同 新化郡善化庄六分寮	英	一八〇	—	一,五六二	四,二〇三	五,七八四		
同 三崁店製糖所	同 新豐郡永康庄三崁店	同	八五〇	二五三	二,三二三	八,七七四	一一,三四〇		
同 埔里社製糖所	臺中州能高郡埔里街埔里	同	三〇〇	二,〇一〇	一,九七四	三,七八五	七,七六九		
同 臺北製糖所	臺北州臺北市下崁	同	五〇〇	二四,四六二	—	一七,九七二	四二,四三四		白糖製造装置
新興製糖株式會社	高雄州鳳山郡大寮庄山子項(本社所在地)	同	八五〇	二,一五二	八二一	四,九七四	七,九四七	一六・一	現作業能力五〇〇噸
明治製糖株式會社總爺工場	臺南州曾文郡麻豆街溝子墘	米	一,〇〇〇	—	三三五	七,一五一	七,四八六		
同 蕭壠工場	同 北門郡佳里庄佳里	英	七五〇	—	八五	九,六四四	九,七二九		白糖製造装置
同 蒜頭工場	臺南州東石郡六脚庄蒜頭	米	一,八五〇	二一〇	三,一三四	一五,三二一	一八,六六五	一七〇・八	
同 南投工場	臺中州南投郡南投街包尾	英	七五〇	四,四七一	一,二六五	六,四九一	一二,二二七		
同 溪湖工場	同 員林郡溪湖庄溪湖	同	七五〇	八,一九四	一九七	六,四三二	一四,八二三		
大日本製糖株式會社臺灣第一工場	臺南州虎尾郡虎尾庄虎尾(本社所在地)	英	二,二〇〇	七,五三七	三,三八三	四五,一六四	五六,〇八四	一一〇・八	内一,〇〇〇噸は一四—一五年期より増加
同 第二工場	同 上	同	一,〇〇〇						
東洋製糖株式會社南靖製糖所	同 嘉義郡水上庄南靖(本社所在地)	同	一,〇〇〇	三,八六〇	九,三七六	七,二九六	二〇,五三二		白糖製造装置
同 烏樹林製糖所	同 新營郡後壁庄烏樹林	同	七五〇	一,四〇四	七,八一五	四,六四三	一三,八六二		白糖製造装置

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同斗六製糖所	同 大崙 斗六郡斗六街	同	三〇〇	八九九	三、七五三	六、一五五	一〇、八〇七	三三一・二	白糖製造裝置 内五〇〇噸は一四―一五年期より増加
同北港製糖所	同 北港 北港郡北港街	同	一、五〇〇	―	―	三三、一九三	三三、一九三		
同月眉製糖所	臺中州豐原郡內埔庄 月眉	米	七五〇	六、六六八	―	一、四七八	八、一四六		
同烏日製糖所	同 烏日 大屯郡烏日庄	英	四五〇	二、〇五四	―	五、〇七七	七、一三一		
鹽水港製糖株式會社 新營工場	臺南州新營郡新營庄 新營(本社所在地)	英	一、〇〇〇	二九八	八、九二四	九、五〇九	一八、七三一	一七八〇	白糖製造裝置
同岸內第一工場	同 岸內 新營郡鹽水街	同	五五〇	―	三、九五一	一一、六五一	一五、六〇三		白糖製造裝置
同第二工場	同 上	同	七〇〇						白糖製造裝置
同旗尾工場	高雄州旗山郡旗山街 旗尾	同	一、二〇〇	三、九五八	一、二六六	五、九三〇	一一、一五四		白糖製造裝置
同壽工場	花蓮港廳壽區壽村	同	三〇〇	一、三九一	四六五	五、六九九	七、五五五		
同大和工場	同 鳳林區馬太鞍	同	五五〇	二、二五四	八七八	四、九〇〇	八、〇三二		
林本源製糖株式會社 溪州工場	臺中州北斗郡溪州庄 溪州(本社所在地)	英	七五〇	一〇、八七六	―	一五、一二三	二五、九九九	四〇・九	
新高製糖株式會社 彰化第一工場	同 彰化郡和美庄 中寮(本社所在地)	英	七五〇	二四、三〇八	―	四、〇三一	二八、三三九	三一七	
同第二工場	同 上	米	一、一〇〇						
同嘉義工場	臺南州嘉義郡大林庄 大湖	英	一、二〇〇	二、五五五	七、七六八	六、九一八	一七、二四一		
帝國製糖株式會社 臺中第一工場	臺中州臺中市臺中 (本社所在地)	米	七五〇	二〇、六二八	―	六、二二二	二六、八四〇	八六・一	
同第二工場	同 上	同	三〇〇						
同潭仔墘工場	同 潭子 豐原郡潭子庄	英	七五〇						
同中港工場	新竹州竹南郡竹南庄 竹南	英	五五〇	一六、三二八	一、四九五	七、四三三	二五、一五五		

同　新竹工場	同　新竹郡新竹街水田	英	六五〇				—		
臺南製糖株式會社宜蘭第一工場	臺北州羅東郡五結庄二結(本社所在地)	同	四〇〇	一五、一六六	一〇九	五、〇二四	二〇、三九九	二五〇	
同　第二工場	同　上	同	七五〇						
同　玉井製糖所	臺南州新化郡玉井庄玉井	同	四二〇	—	一、四七二	三、五六八	五、〇四〇		
臺東製糖株式會社第一工場	臺東廳臺東街馬蘭	同	三五〇	一、一〇四	七九四	五、五三〇	七、四一八	六五	
同　第二工場	同　臺東支廳里壠區	同	一五〇						未設
新竹製糖株式會社苗栗工場	新竹州苗栗郡苗栗街維祥(本社所在地)	同	五〇〇	四、三七三	—	一、八七六	六、二四九	—	
沙轆製糖株式會社沙鹿工場	臺中州大甲郡沙鹿庄沙鹿(本社所在地)	同	三〇〇	一、〇九一	—	三、〇八五	四、一七六	—	
日本拓殖株式會社	新竹州中壢郡中壢庄興南(本社所在地)	同	七五〇	—	—	—	—	—	未設
合　計(四七工場)		英 米 計	二五、七五〇 一三、〇五〇 三七、八〇〇	一九三、七七八	九三、六四七	三三五、四六七	六二三、八九二	一、三五一八	

□改良糖廍現勢一覽表

會社工場名	所在地	能力	區域內田圍面積 二作田	一作田	畑	計
林熊徵淡水製糖場	臺北州淡水郡八里庄小八里坌字海墘厝	六〇	七六五甲	—甲	三七五甲	一、一四〇甲
高砂興業製糖株式會社	同、基隆郡貢寮庄下雙溪	六〇	一、六四五	一、一五八	七六三	三、五六六
朝日製糖拓殖株式會社大湖製糖場	新竹州大湖郡大湖庄南湖	一二〇	八三〇	一〇〇	七、一〇〇	八、〇三〇

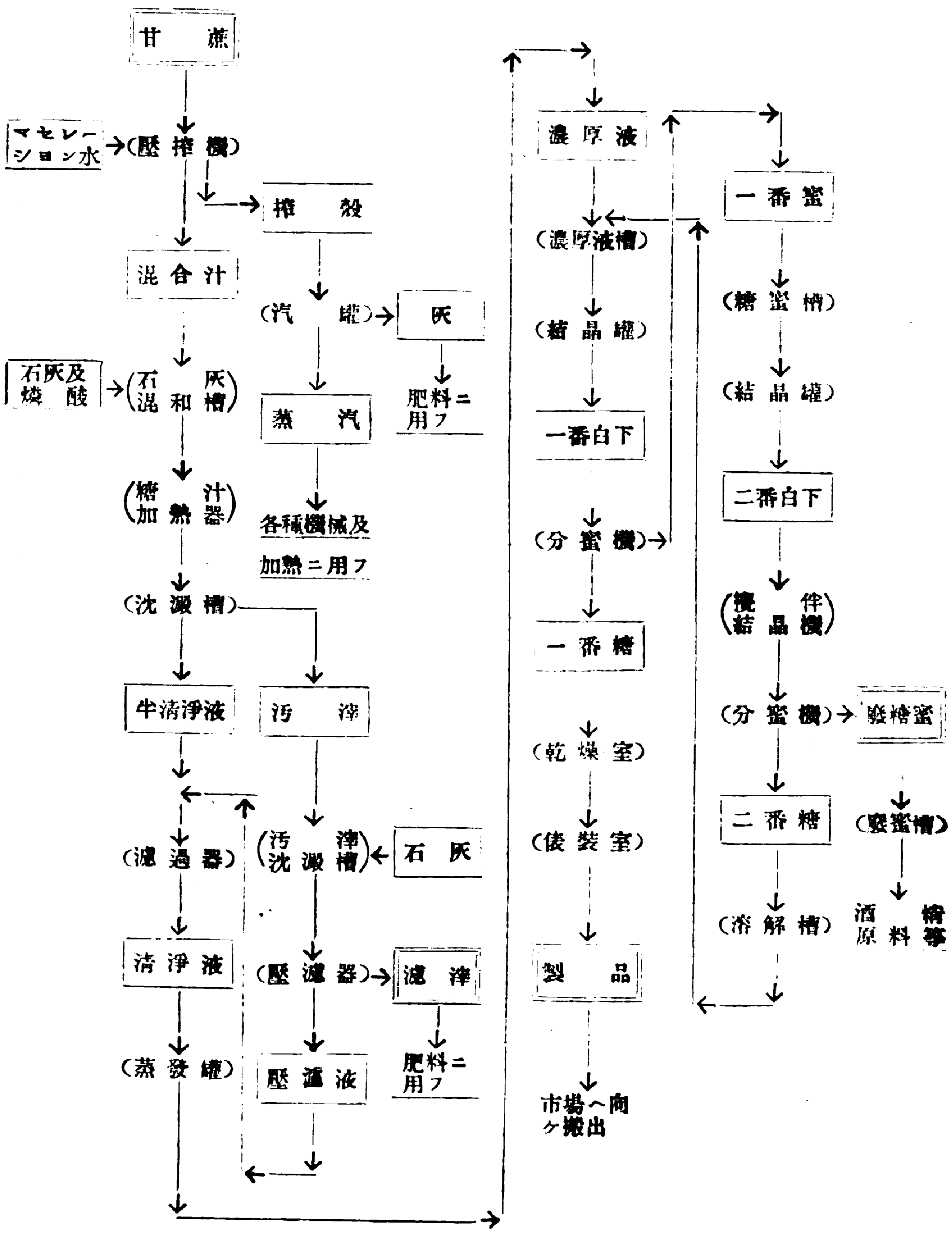
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺南拓殖株式會社	同 銅羅圈 竹南郡三灣庄	八〇	六〇〇	二五〇	二,二〇〇	三,〇五〇
新竹製糖株式會社 竹東工場	同 竹東 竹東郡竹東庄	三〇〇	一,四九四	—	一,五四三	三,〇三七
大安製糖株式會社 卓蘭製糖所	同 卓蘭 大湖郡卓蘭庄	六〇	五五五	—	二四〇	七九五
東洋製糖株式會社 社寮工場	臺中州 社寮 竹山郡竹山庄	八〇	—	二,七五三	七三五	三,四八七
愛久澤製糖場	同 [illegible]磘 北斗郡二林庄	八〇	一,五八一	—	九四五	二,五二六
大安製糖株式會社 中社工場	同 中社 豐原郡內埔庄	六〇	四二三	—	一〇一	五二四
東洋製糖株式會社 大安製糖場	同 大安 大甲郡大安庄	六〇	五三九	—	五八	五九七
同 丁臺製糖場	同 丁臺 南勢庄 大屯郡霧峯庄	六〇	三九六	—	二八	四二四
大豐拓殖株式會社 國姓工場	同 國姓 能高郡國姓庄	八〇	二八〇	二五	三一〇	六一五
同 烏塗仔工場	臺南州 烏塗仔 斗六郡斗六街	八〇	二六〇	二〇	八五〇	一,一三〇
臺灣製糖株式會社 左鎮工場	同 左鎮 新化郡左鎮庄	六〇	三	一,〇九九	一,二三三	二,三三五
臺南製糖株式會社 下崁工場	臺中州 下崁 竹山郡竹山庄	一〇〇	四六三	七一三	八〇二	一,九九七
同 前大埔工場	臺南州 前大埔 新營郡番社庄	六〇	一〇六	三七八	二七三	七五七
同 無水寮工場	高雄州 無水寮 鳳山郡大樹庄	四〇	—	五七	三七四	四三一

同 内埔工場	同 内埔 旗山郡内門庄	一〇〇	—	一,〇六三	三〇三	一,三六六
同 狗氳氳工場	同 狗氳氳 旗山郡田寮庄	六〇	—	六三二	六三五	一,二六七
同 杉林工場	同 杉林 旗山郡杉林庄	六〇	—	四〇八	二八三	六九一
同 新威工場	同 新威 屏東郡六龜庄	四〇	二〇七	一八	六九	二九四
恒春製糖合資會社 第一工場	同 恒春 恒春郡恒春庄	一六〇	一,三八〇	一,二七〇	二,九九三	五,六四三
同 第二工場	同 滿州 恒春郡滿州庄	四〇				
阿緱製糖株式會社	同 土壠灣 屏東郡六龜庄	(未設) 一五〇	八七	三七五	六九〇	一,一五二
臺東製糖株式會社 新開園工場	臺東廳 新開園區 臺東支廳新開	一〇〇	—	—	—	—
同 里壠工場	同 里壠區 臺東支廳里壠	四〇	—	—	—	—
計	二六工場	二,〇九〇	一一,六二四	一〇,三二七	二二,九〇三	四四,八五四

●●●●●製糖法の進步　舊式糖廍に於ける砂糖製造及糖間(舊式白糖製造所)の白糖製造方法が何れも頗る幼稚不完全にして不經濟を極むることは概略既述の通りである之を改善して最新にして完全且つ經濟的なる方法に依らしめむとして當局の奬勵と企業家の奮起により陸續勃興したる新式製糖場は前表に示すが如く其の規模頗る大なると共に其の設備亦完全にして悉く科學的方法に依り操業するものである今其の工程を略示すれば左の通りである。

臺灣分蜜糖製造工程略圖

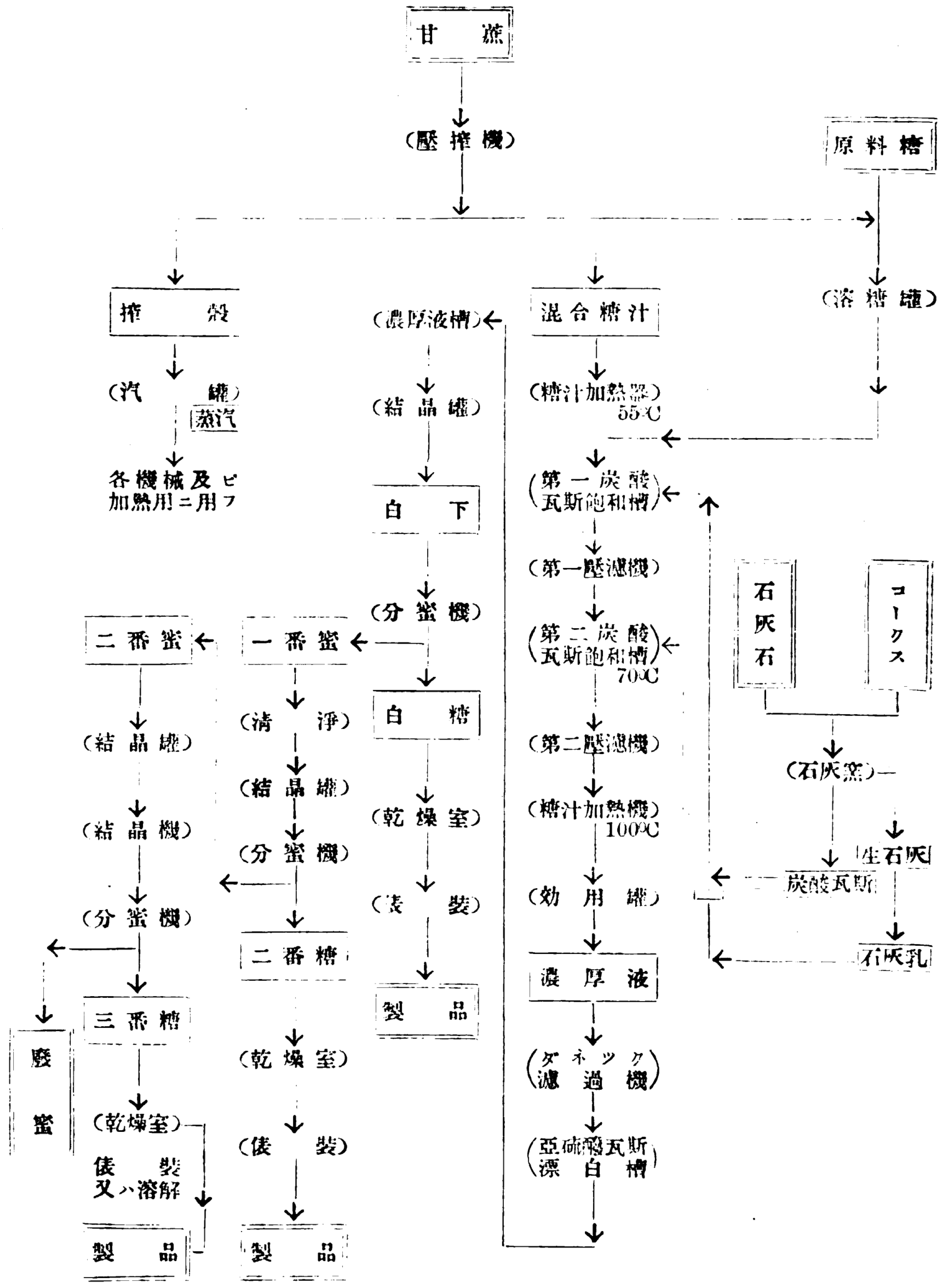


即ち先づ甘蔗壓搾操作には輸送機より細裂機(シユレッダー)、壓碎機(クラッシャー)等を經て鐵製大規模にして三箇一組を成す橫置式轉子の間を縫ふて第一回壓搾を行ひ第二、第三、第四の同樣裝置に成る壓搾機を經含有蔗糖の九五乃至九七%を搾出せられ搾殼は輸送機により直ちに竈場に送られて燃料に供せられ蔗汁はタンクに送られ計量して石灰混和槽に入り以下悉く科學的機械に依つて操業せられ分蜜糖を生產すること前揭工程表の通りである更に將來社會文化の向上に從ひ漸次精白糖の需要を增進すべきを豫想したる製糖業者は爪哇其他の狀態に鑑み製成されたる原料糖を溶解して骨炭濾過の再製法に依る精製糖製造に相對立して經濟的に甘蔗汁より直接白糖を製造する經濟的方法に著目し鹽水港製糖會社に於ては夙に技術者を爪哇に派し調查研究を重ねたる結果明治四二―四三年期岸內工場に於て少量の所謂耕地白糖製造に成效し爾來更に研究改善を重ね旗尾工場にも完全なる裝置を加へ益優良品を多量に生產して市場に提供した爾來、臺灣、明治、東洋等各社に於ても亦耕地白糖の製造に著手し最近に於ては益其の增產を豫想せらる更に大正七―八年期に於ては此の白糖製造裝置を利用し原料糖を用ゐて再製白糖を製出し或は原糖を溶解して甘蔗糖汁に混和し白糖を製造する等何れも主として鹽水港新營、岸內、旗尾及臺灣製糖臺北工場に於て行はる此等白糖製造工程は左の通りである。

溯つて明治三十八年作業を開始した振祥製糖場を嚆矢とし此年各地に設立せられた改良糖廍は唯其の壓搾裝置を稍大規模なる鐵製橫置式三轉子に改め之れが動力裝置に汽機又は石油發動機等を以てし從來の無蓋平鍋の數を增加して壓搾能力に適應せしめたのみで蔗汁搾出率は向上したが其後の製造方法及製品の品質には何等見るべき變更改善はないのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣耕地白糖製造法圖解



五　生産の増加と品質の向上

生産の増加　臺灣が帝國の版圖に入りたる明治二十八年の砂糖生産額は九十二萬餘擔であつたが爾來民心の動搖其他諸種の原因に依り翌二十九年以後七、八十萬擔内外を持續し三十三年には四十四萬五千餘擔に激減し爾來數年間一高一低あるも未だ然したる増産を見なかつた然るに三十五年以來糖務當局の奬勵補助と當業者の奮起に依り改良糖廍及小規模の新式製糖場各所に設立せられ其の歩留八乃至九%に上り延て全島平均歩留をして全部舊式糖廍時代の七%内外なりしものを七・八%内外に向上せしめ次で改良蔗種の漸増と肥培其他耕作法の漸進に伴ふ含糖率高き優良甘蔗の増收は三八―三九年期に於て百二十七萬餘擔の生産を擧げしめ更に四一―四二年期には完備せる新式製糖場の續出するあり其の歩留一〇%内外に達し爲に全島平均九%に及び作付の順調と相俟つて二百萬擔の産糖を出し翌四二―四三年期には優良種作付の激増と共に歩留も亦平均一〇%以上に進み三百四十萬餘擔を産出し更に翌四三―四四年期に於ては四百五十萬餘擔と激増を續け恰も此年を以て新渡戸博士其他先覺者の目標を突破するの盛況を呈したが同年竝翌大正元年の大暴風雨に原料大減收を來し明治四四―大正元年期に於ては二百九十二萬餘擔、大正元―二年期には百十九萬餘擔と激減し糖界恐慌時代を劃した爾來漸次恢復して大正四―五年期には五百三十五萬擔に上り更に翌五―六年期には天候の順調と糖業者の努力に依り一躍實に七百六十三萬餘擔に達し空前の記錄を作つたが翌年期よりは再び退轉して大正八―九年の如き作付面積の減少と收穫率の低下に依り實に三百七十二萬擔に激減し臺灣糖業の行詰り説をさへ唱ふる者あり此間幸に糖價は未曾有の昂騰を續けたるに激成されたる糖業者は總ゆる手段を講じて作付竝に收穫率の向上に努め蔗農亦大に發奮するあり生産は比年増進して大正一一―一二年には七百

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五十三萬餘擔に上り將に大正五—六年期の最大生產に匹敵せむとするの狀態に進み更に大正一三—一四年期に於ては七百九十萬擔內外を豫想せられ未曾有の增產を告げんとするに至つた而かも最近三四年間の增產は要するに製糖竝に蔗作當業者の人爲的努力に依る原料の增收が其の主因を成すものゝ如く將來多少の暴風雨等に遭遇するも之が對抗施設は總ゆる方面に進んで居るので時に多少の減產を免れずとするも大勢に於て益增產を期待せられ會社側の生產計畫を綜合すれば將に一千萬擔に達せんとするの狀勢にある明治二十八年以降製糖原料使用高、產糖高及步留の消長を示せば左の通りである。

□原料使用高、產糖高及步留累年表

年期	原料使用高（千斤）	產糖高（擔）	步留（%）
明治二七—二八	—	九二〇,八九一	—
明治二八—二九	—	八二八,九四七	—
明治二九—三〇	—	七七九,九四二	—
明治三〇—三一	—	六八三,四九九	—
明治三一—三二	—	八一五,一〇三	—
明治三二—三三	—	四四五,二八〇	—
明治三三—三四	—	五八五,一四五	—
明治三四—三五	—	九〇八,七〇四	—
明治三五—三六	—	五〇六,〇八五	—
明治三六—三七	一,〇七四,九七四	七五八,三四三	七・〇五
明治三七—三八	一,〇七二,二三三	八二六,三三六	七・七一
明治三八—三九	一,六七九,二四五	一,二七三,八八四	七・五八
明治三九—四〇	一,三六三,五九五	一,〇六四,六一三	七・八一
明治四〇—四一	一,四〇三,一七四	一,〇九二,〇一五	七・七八
明治四一—四二	二,二二九,四七二	二,〇三八,七九六	九・一九
明治四二—四三	三,三六三,三五八	三,四〇四,〇一八	一〇・一三
明治四三—四四	四,四二六,七九九	四,五〇五,六四六	一〇・二〇
明治四四—大正元	二,八八五,一五八	二,九二六,四五二	一〇・一四
大正一—二	一,二八三,〇七九	一,一九一,四九二	九・二九
大正二—三	二,三三六,八五五	二,五一二,七九二	一〇・七五
大正三—四	三,五七三,七八九	三,四七四,四六三	九・七三
大正四—五	五,三六八,三三九	五,三五一,〇七〇	九・九七
大正五—六	七,九九五,七一〇	七,六三四,九〇二	九・六〇
大正六—七	六,三五九,八七二	五,七三五,三八〇	九・一六
大正七—八	五,一九三,八〇八	四,八六三,三六九	九・三七
大正八—九	三,八七一,二九三	三,七二〇,一六八	九・六一
大正九—一〇	四,四八一,九八八	四,二二二,三三六	九・四〇
大正一〇—一一	六,一九二,〇九〇	五,八七七,五八〇	九・四九

大正一一―一二	六、一九三、〇四〇	五、九二三、二〇三	九・五六
大正一二―一三	七、三八三、三五五	七、五三六、八六八	一〇・二八
大正一三―一四 豫想	八、〇九六、一一三	七、九三四、五六五	九・八〇

砂糖品質の向上 舊式糖廍及改良糖廍の生產糖は壓搾裝置を除く外製造法に何等相異の點なく其生產砂糖の品質は何れも赤糖にして色相は和蘭標本第十一號未滿に屬し糖蜜を分離せず且つ滓渣其他夾雜物を含み其味重く蔗糖分は七四乃至八六度にして區々一定せず低級の直接消費用に向けられ再製原糖としては頗る不適當なる品質たるを免れぬ然るに新式製糖場に於ける製造法は沈澱濾過清淨等數次の科學的方法に依り夾雜物を排除し蒸發結晶操作も亦完全に行はれ最後に分蜜機に依つて糖蜜を除去するので製品の粒形太く齊整し糖蜜は殆ど分離し盡され糖度は粗糖に於て九七度以上を普通とし其の色相も亦和蘭標本第十五號未滿又は之を超ゆるものあり當初製造技術に習熟する迄は精製原糖としては爪哇品に比し稍劣るものゝ如く稱せられたが現在に於ては却つて彼に優るものを製出し盛に精製原糖を供給するに至つた更に耕地白糖は多くは和蘭標本第二十一號以上の純白なる色相を備へ粒形太き白双の如き糖度は九九度を超え中には九九・八度に達するものあり其の需要狀況に於ても將に精製糖と相匹敵せんとし市價も亦些少の下鞘にあるに過ぎぬ狀態である斯くて本島糖業が舊式糖廍及改良糖廍の時代を經過し殆ど新式製糖場の獨舞臺たらんとするに至り本島產糖は少量の赤糖を除く外大部分は直接消費用又は精製原料用分蜜粗糖及耕地白糖に進んだのである左に明治二十八年以來累年產糖種別を揭げ以て品質向上の經過を示す。

□臺灣產糖種類別累年表

年期	含蜜糖(赤糖)	分蜜糖 粗糖	分蜜糖 白糖	分蜜糖 計	合計
明治二七―二八	擔 九二〇、八九一	擔 ―	擔 ―	擔 ―	擔 九二〇、八九一
明治二八―二九	八二八、九四七	―	―	―	八二八、九四七

年期	含蜜糖(赤糖)	分蜜糖 粗糖	分蜜糖 白糖	分蜜糖 計	合計
明治二九―三〇	擔 七九九、九四二	擔 ―	擔 ―	擔 ―	擔 七九九、九四二
明治三〇―三一	六八三、四九九	―	―	―	六八三、四九九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三一―三二	八一五,一〇三	—	—	—	八一五,一〇三
明治三二―三三	四四五,二八〇	—	—	—	四四五,二八〇
明治三三―三四	五八五,一四五	—	—	—	五八五,一四五
明治三四―三五	八九〇,二〇二	一八,五〇二	—	一八,五〇二	九〇八,七〇四
明治三五―三六	四七八,三六八	二八,四三七	—	二八,四三七	五〇六,八〇五
明治三六―三七	七〇二,〇四三	五六,三〇〇	—	五六,三〇〇	七五八,三四三
明治三七―三八	七五〇,七四二	七五,五八四	—	七五,五八四	八二六,三二六
明治三八―三九	一,一四六,二三二	一三七,六五一	—	一三七,六五一	一,二八三,八八三
明治三九―四〇	八九四,六〇三	一七〇,〇〇九	—	一七〇,〇〇九	一,〇六四,六一二
明治四〇―四一	八〇七,七一八	二八四,二九六	—	二八四,二九六	一,〇九二,〇一五
明治四一―四二	八五一,三七四	一,一八七,一七七	二四五	一,一八七,四二二	二,〇三八,七九六
明治四二―四三	一,四三二,八一九	一,九六九,三五二	一,八四六	一,九七一,一九八	三,四〇四,〇一八
明治四三―四四	一,三八四,九〇五	三,一五三,二二九	六七,五一三	三,二二〇,七四二	四,六〇五,六四六
明治四四―大正一	四三三,四五七	二,四三九,七六七	五四,二三〇	二,四九三,九九七	二,九二六,四五二
大正一―二	一四一,〇一五	一,〇五〇,〇三三	四四五	一,〇五〇,四七七	一,一九一,四九三
大正二―三	二八九,一五二	二,一〇五,六八六	一一七,九五四	二,二二三,六四〇	二,五一二,七九二
大正三―四	三五六,九六三	二,九二四,九五四	一九二,五四六	三,一一七,五〇〇	三,四七四,四六三
大正四―五	五〇八,五五八	四,五五二,二四二	二九〇,二七〇	四,八四二,五一二	五,三五一,〇七〇
大正五―六	八六五,八八六	六,三九二,三九〇	三七六,六二六	六,七六九,〇一六	七,六三四,九〇二
大正六―七	七六七,七九四	四,五三二,九七三	四三四,六一二	四,九六七,五八五	五,七三五,三八〇
大正七―八	五四四,五一七	三,八六四,〇五九	四九四,九九三	四,三五九,〇五二	四,八六三,五六九
大正八―九	二〇五,三五四	三,三六七,一七二	一四七,六四二	三,五一四,八一四	三,七二〇,一六八
大正九―一〇	一九二,七五四	三,七〇五,三二七	三一四,一六五	四,〇一九,四九二	四,二一二,二四六
大正一〇―一一	一四七,七七九	五,〇一九,一九八	七一〇,六〇三	五,七二九,八〇一	五,八七七,五八〇
大正一一―一二	二三四,一五五	五,二〇〇,二四九	五九八,七九八	五,七九九,〇四七	六,〇三三,二〇二
大正一二―一三	一八八,六〇六	六,五三四,六一三	八二三,六〇九	七,三五八,二二二	七,五四六,八二八
豫想 大正一三―一四	二三一,三〇五	—	—	七,七〇二,二六〇	七,九三三,五六五

（備考）白糖は檢定高中和蘭標本十八號以上の色相を有する第四種及第五種を合算したる數量なり。

次に再製白糖は原糖の仕入及製品需要地の市價、爲替相場其他各種商機の關係上製造せらるゝもので從つて本島に於ける年產額は區々一定しないが其の原料糖は殆ど全部爪哇より輸入し前述の如く白糖裝置を利用して製出し一部內地又は島內の需要に振向けらるゝも大部分は支那各地に輸出せらる此の製法は大正五―六年期及六―七年期に既に行はれ各年期夫々二十七萬三千餘擔、及十四萬七千餘擔を製出したが斯は島內產糖を原糖としたもので外國產糖を輸入再製したのは七―八年期以來のことに屬し同年期の五十萬餘擔を最多とし爾來其の生產量一高一低あり大正一二―一三年期に於ては三十七萬三千百三十六擔の製成を見た。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六　糖業經營の變遷

●●●●●●
原料對策の變革　製糖業の經營上原料獲得の施設が最も重要なる基礎的事項に屬するは言ふ迄もないが新式製糖場及改良糖廍就中前者にあつては其の規模頗る宏大にして工場能率を經濟的に充分發揮せしめんが爲めには頗る多量の原料を要し且つ創業當時は製糖業者に於ても將た蔗農に於ても未だ大規模なる斯業に習熟せず農工各方面に積極的施設改良を急務とし從つて如何なる方面に進展し得べきや容易に逆睹すべからざるものあり舊慣を踏襲して分糖法を行はんか原料供給者の頗る多數なると其の理解に乏しき忽ちにして各種の紛擾を惹起するの虞れあり而かも原料自作法に依らむか大面積の耕地を買收又は賃借するを要し到底之れが實現を見る能はざるの事情があるので製糖會社は比較的安易なる原料買收法を採ることゝなり茲に糖業組織に大變革を齎らした利に敏き本島農家は巨資を投じて優良なる砂糖の大量生産を圖らむとする會社の態度と其の利益の多額なるべきを想察して直ちに原料代價の引上を要望して已まず甚だしきは不穩の態度に出づるものあり買收上多大の苦痛と犧牲を拂つた臺灣製糖の如き操業第二年に於て約三割の引上を爲すの餘儀なきに至り自作農場に於て其の所要原料の一半を生産して蔗價昂騰を抑制せんと腐心した越て明治三十八年原料採取區域制度の實施せらるゝや蔗作の不利なるを唱へ或は原料代の引上げ、等級の低下乃至撤廢を要望し或は秤量の不正、刈取順序の不公平を稱ふるものあり會社當事者も未だ業務に熟せず互に他を信せず爲めに幾多の紛爭を惹起したが年を經るに隨ひ相互の理解と信用漸次厚きを加へ特に會社側に於ては原料獲得の安固を計るべく耕作資金の前貸各種奬勵方法の制定等專ら蔗農の愛護に努め茲に共存共榮の觀念を生起し明治四十一年の頃より紛爭は次第に其の影を潛むるに至つた然るに臺灣製糖後壁林製糖所及北港製糖の如きは始め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

より廣大なる開墾地の拂下を受け又帝國製糖の如き自作自給主義を標榜して高價なる借地料を拂ひ大面積の水田を賃借して實行に著手したが明治四十四年及大正元年の大暴風雨に遭遇してより一時各地農家の之に怯えて蔗作を廢せんとするの風を生じ製糖會社は或は見舞金を出し或は前貸金の一部又は全部を棒引し且つ蔗價引上げの餘儀なきに至り其の將來を慮つて自作農場經營の必要を說くもの續出し中には將來地價の昂騰に依り資產の自然增加を期するものある等會社の土地所有熱大に高まり爾來臺灣、東洋、明治、鹽水港等各社何れも土地買收乃至開墾地豫約拂下に腐心し各廣大なる面積を獲得して自作蔗園を開設するに至り原料の一部自給竝に甘蔗農業改善施設は頓に其の色彩を濃厚ならしめたが自作多年の經驗は未だ原料の經濟的生產を理想的ならしむるを得ず東洋製糖の如き數年の經過に鑑み寧ろ所有地を長期間安價に賃貸し肥培耕作の改善指導を加ふるに於ては自然農家の收益を增進せしめ土地愛護の風を馴致し延ては會社の利益たるべきに想到し大正十一年頃より漸次之れが實行に著手した是れ原料策の新傾向である又各種の名目の下に蔗農に對し補助獎勵金を與ふるの姑息にして繁に堪えずとなすの風數年來漸次擡頭し一面蔗農の自發努力能く增收の實を擧げ利益の增進を期するに至り最早煩鎖なる補助の要なき機運に向ひつゝあるを見漸次其の範圍と程度を減縮し將來之を廢止せんとするの傾向を生じ來つた更に從來各會社は作付の豫定面積に達するを以て原料員の責任足れりとなすの風があつたが大正九年後半以來の糖界不況と生產の低下に鑑み原料方面の施設に頗る眞劍味を加へ蔗農をして增收に努めしめ成るべく小面積の作付を以て可及的多量の原料を得んとし各社競ふて收穫率の向上に依り經濟的に所要原料を收めんことに腐心し自然收穫量を主とし面積を從とするの風潮最近に於て漸く高からんとしてゐる是亦原料策上の一新傾向である。

更に最近不況に際し豫定の原料を得る能はず經營難を痛感しつゝある沙轆、臺南・新竹の諸會社は寧ろ舊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

慣に復して農家を慫慂するの便なるを思ひ理態に立脚して三社何れも大正一一—一二年期より分糖法に立歸つたが沙轆には特殊の事情あり兎も角圓滿に進捗しつゝあるも他の二社は未だ豫期の成績を收むるに至らず特に最近對抗作物たる米の價格騰貴と內地種米栽培の頗る有利なるを唱へらるゝ一方糖價は低迷して反撥を見るに至らず分糖法の利益は寧ろ一定價格の買收法に及ばざるを思はしめ爲に農家は蔗作に躊躇するものさへあるの狀勢に陷つて居るとの觀測も行はれて居る。

生産費の高低　砂糖生産費の約六割を占むる原料の獲得策は前述の如き變遷を來し又來さんとしつゝある而して砂糖の生産費は明治四三—四四年期の四圓八十五錢六厘を最低とし爾來暴風雨に因る減收其他の原因に依り急騰を來したが更に大正七、八年の交より物價竝に勞賃の暴騰に依り啻に原料費のみならず製造、營業、販賣等の諸經費も著しく騰昂し本島糖の生産費は非常なる增嵩を續けた當時幸にして糖價も亦未曾有の暴騰を續けたので製糖會社は異常の利益を收め十割以上の配當を爲すもの比々皆然りの有樣で所謂糖界黃金時代を現出した然るに大正九年後半以來糖價慘落生産亦減退して恐慌時代に入るや黃金時代の喜色は忽ち愁眉と變じ茲に根本的に生産費の低減を圖るの急務なるを知覺し原料方面の施設と共に製造、販賣、營業等の諸費に大緊縮を加ふるの策に出でたので今日に於ては急激なる遞減を致し最も著實なる方針を持續せる某會社の如き擔當八圓餘を以て足るに至つた左に新式製糖會社の各年平均生産費を掲げ其の高低の跡を窺ふに便す。

□新式製糖會社平均累年生産費

年期	原料代	原料諸費	製造及包裝費	販賣費	營業費	計
明治四二—四三	円 二、三八二	円 〇、三九七	円 〇、九〇四	円 〇、六一四	円 〇、七六三	円 五、〇六〇
明治四三—四四	円 二、二二三	円 〇、四三二	円 〇、八二四	円 〇、五三一	円 〇、八四六	円 四、八五六

明治四四—大正一	二,五三〇	〇,八〇三	一,〇五八	〇,四六九	一,五一七	六,三七七
大正一—二	三,二〇九	一,三五一	一,三四〇	〇,七〇三	二,九五三	九,五五六
大正二—三	二,六六三	一,三四八	〇,九〇三	〇,六六八	一,四八三	六,九六三
大正三—四	三,三六一	一,一一三	〇,八九六	〇,五〇四	一,三四〇	七,二二三
大正四—五	三,一八二	〇,九五六	〇,七〇五	〇,四七六	〇,九六五	六,二八四
大正五—六	三,二五七	〇,九三三	〇,六九〇	〇,八〇四	一,〇四九	六,七三三
大正六—七	三,八六一	一,三〇九	一,一〇五	一,六六五	一,六三三	九,五七三
大正七—八	五,一四六	一,六八三	一,六八四	一,七七八	一,六七〇	一一,九六一
大正八—九	八,二六九	三,一五五	二,二八五	一,三三二	五,七三〇	二〇,七七一
大正九—一〇	七,〇八八	三,五〇七	一,九〇〇	一,一九九	三,三〇一	一六,九九五
大正一〇—一一	五,八四四	二,二七一	一,五三〇	〇,九二七	三,二一六	一三,九八八
大正一一—一二	五,五三二	一,六五一	一,三〇〇	〇,八一七	二,二五一	一一,五四一

副產物と其の利用　舊式糖廍時代に於ては糖業の副產物としては搾殼を乾燥せしめて燃料に供し又甘蔗の枯葉を地方的に燃料に使用する外何等見るべきものはなかつたが分蜜法を行ふ新式製糖場では廢糖蜜の大量副產を見ることゝなつたので之れを經濟的に利用せんとし臺灣製糖會社は明治四十年十二月橋仔頭工場に酒精工場を設けて其の製造に著手した越えて明治四十三年十二月明治製糖會社は蒜頭工場に又四十四年五月には臺灣製糖阿緱工場に於ても酒精工場の作業を開始した其後新式製糖場の所在勃興するに及び糖蜜の產額は急增加したので之れが利用法に腐心研究を重ねたが家畜飼料、肥料燃料等としては消化し盡されず又製酒原料として對岸支那地方への輸出も價格と輸送に困難なる點に於て然まで大量に上らず結局酒精原料とする外差當り大量利用の途なきを看取した茲に於て各製糖會社は相次で酒精工場を設けて其の原料に供することゝなり現在に於ては製糖會社所屬酒精工場十箇所一日の製造能力四百三十四石、他に專賣局工場二箇所能力七十石を算するに至つた而して之れに依る糖蜜の使用高及酒精の年產額は需要の多寡に依り時に增減あるも大體に於て糖蜜一億餘萬斤を使用し十萬石內外の酒精を製造し主として內地方面に移出し工業用原料に供し一部は南支那方面に輸出して製酒原料に用ゐ外に島內消費用糖蜜酒の原料として大正十年度迄は直接糖蜜の使用二千餘萬斤に上つて居たが大正十一年度以降製法に變更を來し直接糖蜜の酒造原料使用高は稍減退するに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

至つた。

製糖會社の精製糖業兼營　臺灣に關係ある製糖會社にして精製糖業を營むものは明治四十二年作業に着手した大日本製糖會社が殆ど獨占的に內地精糖界に濶步して居たのが唯一のものであつた併し是れは內地の精製糖會社が臺灣に進出して粗糖業を營むこと丶なつたものである其後明治四十五年操業を開始したる臺北製糖會社は寧ろ粗糖製造よりも精製糖を製出し對支輸出を試むるを趣旨とすと標榜したるも遂に實行に至らずして臺灣製糖に併合された然るに此頃より原料糖の製造對內地供給の增加するに及び之れが處分を有利ならしめ或は精糖對粗糖の値鞘如何に依りては進んで精製糖業を經營するの利便なるを看取し臺灣製糖は神戸に精糖工場を買收し明治製糖亦神奈川縣川崎に精糖工場を買收し帝國製糖も亦神戸市外に新設し更に明治製糖は大正五年對支輸出上便宜の地位を占むる福岡縣戸細に新設した此間鹽水港製糖は臺灣に於ける耕地白糖を以て對立せんとしたが大正九年大阪市に精糖工場を設け新高製糖も亦大阪市外に新設し更に臺灣製糖は福岡縣荒木村に工場を新設して精糖業に一步を進めた斯くて大會社としては唯東洋製糖のみ粗糖主義で終始したが此間南靖工場では白糖を製造すること丶なり又林本源・新興・新竹・沙轆及臺東の諸社は純粗糖を以て一貫して居る而して帝國製糖は大正十二年神戸工場を明治製糖に賣却して粗糖專營に復した尙明治製糖は北海道に於て日本甜菜糖會社を買收して甜菜糖業に着手し更に大正十三年上海に明華糖廠を設けて精製糖業の對支發展を策し大日本製糖は東京・大阪・大里に精糖業を營む外朝鮮製糖を併合して甜菜糖及精糖業に着手し更に內外製糖を併合して爪哇に進出し南方發展の雄圖を示して居る而して東洋製糖は沖繩の東方二百浬の洋上なる大東島に五百噸の分蜜糖工場を建設し臺南製糖は沖繩縣下に八工場能力合計一千八百三十噸の粗糖業を經營して居る斯くて殆んど全國の製糖業は臺灣關係諸會社の掌中に把握さる丶に至つたのである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七　經濟上の立場

本島糖業は既に約三百年以前に於て產業の大宗を成し貿易竝經濟上重きをなして居たが明治二十八年本島の帝國版圖に入り農工各方面の改良奬勵に積極的施設を加ふるに及び翕然として新興の機運に向ひ大規模新式工場及原料、製品の運搬設備、土地の買收乃至改良等に巨額の資金を投下し現在に於ては新式製糖會社の資本總額二億八千百二十萬圓、拂込額一億七千百五十五萬三千三百五十圓に上り改良糖廍の資本金一千百三十二萬圓拂込額三百十七萬圓を合すれば資本總額二億九千二百五十二萬圓、拂込額一億七千四百七十二萬三千三百五十圓を算し啻に臺灣隨一の大產業たる地位を占むるのみならず內國事業界に於ても電氣紡績等に亞ぐ大企業である而して農工總ゆる方面に積極的施設改良を加へた結果優良砂糖の生產は前掲の如く大躍進を致し產糖額に於て世界各地中第九位を占め尙益向上せんとするの趨勢を辿り將に國內需要を充たさんとするの域に向ひつゝあり更に本島糖の對內地移出金額は糖價の騰落生產の增減に隨ひ一高一低の間に大勢激增を示し移出總金額の過半を占めて優に第一位に在り輸出糖金額も亦區々一定せざるも能く重要なる地位を保持し移入糖金額も亦相當の額に上るも主要の地位を占むるに至らざるは主產地として至當の事に屬し更に輸入糖金額は再製白糖の製出額により左右せらるゝも大正八年以降斯種事業の擡頭に伴ひ相當重要視すべき額に上れること次表に示すが如し斯くて明治三十年以後の十箇年平均移出金額三百十六萬一千九百十一圓に對し最近十箇年間の平均は實に八千二百九十八萬四千三百七十四圓の巨額に上り外糖に代つて內地に供給し以て巨額の國帑流出を防止し得更に生產原價の約六割卽ち約三千萬圓乃至五千萬圓は主として島內蔗農に仕拂はれて其の懷を暖め地方農民の購買力增進はやがて物資の需要を喚起し耕作資金の前貸は蔗農の金融を援く

設鐵道の貨客輸送は交通經濟を助長し十一月下旬乃至翌年六月の出廻期に於ては移輸出糖の輸送に約五十萬噸内外の船腹を要し積出港たる高雄基隆等には積取船幅輳して頓に活況を呈し從つて地方の殷賑を招致するあり即ち砂糖の生産と糖況の如何は以て本島經濟界好不況の分水嶺を成するものと稱せらるゝ以て糖業が本島及内地經濟界に如何に重きを成すかを窺ふに足る若夫糖業の爲めに土地の開發乃至改良せられ地力增進を招致したる效果に至つては單り、糖業界のみならず汎く農產業全般に渡り裨益するところ其の效果の大なる殆ど數字を超越するものと謂ふべきであらう尙副產製造品たる酒精の移輸出も亦左に揭ぐるが如く相當の金額に上り輕視すべからざるものがある。

□臺灣砂糖貿易累年表

年次	輸出 數量(擔)	輸出 價格(円)	移出 數量(擔)	移出 價格(円)	計 數量(擔)	計 價格(円)	輸入 數量(擔)	輸入 價格(円)	移入 數量(擔)	移入 價格(円)	計 數量(擔)	計 價格(円)
明治二九	三六六、五八四	一、五三九、四六〇	三七三、五四一	—	七四〇、一二五	—	一八、五三二	一二三、一七三	—	—	一八、五三二	一二三、一七三
明治三〇	三五八、七二〇	一、四九四、〇三二	三四四、五七〇	一、一九四、〇〇〇	七〇三、三九〇	二、六八八、〇三二	五一、七五一	三三〇、八〇七	—	—	五一、七五一	三三〇、八〇七
明治三一	二九六、九七一	一、九八四、三七六	三七八、〇七一	一、六〇三、二六五	六七五、〇四二	三、五八六、六四一	七三、三三三	四八三、五四五	—	—	七三、三三三	四八三、五四五
明治三二	三〇〇、六四三	一、五八六、九四五	三五五、〇一一	一、四七八、八七九	六五五、六五四	三、〇六五、八二四	四二、六六八	二八三、八九八	—	—	四二、六六八	二八三、八九八
明治三三	一三〇、八八三	六六九、二四六	二九一、四三〇	一、五三七、八三八	四二二、三一四	二、二〇七、〇八四	五五、八九八	三七九、九七一	—	—	五五、八九八	三七九、九七一
明治三四	一七八、四〇一	一、〇三一、三一四	四三二、一一二	二、二九二、五九八	六一〇、五一三	三、三二三、九一二	五六、七一八	四五八、四三八	—	—	五六、七一八	四五八、四三八
明治三五	一八一、八七三	九九九、一六五	五八一、〇一〇	三、一七三、六四九	七六二、八八四	四、一七二、八一四	二一、六九二	二一一、八四七	三、八五四	五二、一三六	二五、五四七	二六三、九八三
明治三六	二三七、八八〇	二二〇、三六八	二七五、五四四	二、一七一、三四五	四〇九、三三三	二、三九一、七一三	一五、三七三	九三、八八五	一三、八八〇	一五五、六二六	二八、七六一	二四九、五一一
明治三七	二九七、四三〇	二二三、五二四	四七一、三九七	三、七九一、三四七	五〇一、一四〇	四、〇一四、八七一	三四、六六五	二七五、三三三	一一、一一三	一六九、四〇七	四六、七七七	四四四、七三九
明治三八	二三、七四〇	二五、七三〇	七〇九、一一三	五、八七〇、三二七	七二一、四八六	五、八九五、九五七	一、六五一	一一、〇九六	一八、九一二	三二四、九〇六	二〇、五六三	三三六、〇〇二
明治三九	二三、三六七	一五三、六九四	一、〇九〇、七九三	八、五〇六、九六三	一、一一四、一六〇	八、六六〇、六五七	一、〇二六	八、七四〇	一七、三一六	二九四、四四八	一八、三四二	三〇三、一八八
明治四〇	二四、五三〇	一七、二八六	九四六、九六八	七、四六九、七四六	九四九、四三三	七、四八七、〇三二	一、八九〇	一三、三七三	二五、四五六	四三一、一九九	二七、三四六	四四三、五七二

明治四一	一四七〇	一五、四七四	一、〇四七、二五九	九、四四八、三三七	一、〇四八、七三一	九、四六三、八一一	三、三五三	二三、六八三	二三、三二〇	四三〇、七三〇	二六、四七四	四六四、四一三
明治四二	五四、〇四〇	一二、一三七	二、一二五、七五八	二三、〇七七、四八五	二、一三一、一六三	二三、〇八九、六三三	一、九四二	一四、七五二	二七、三五四	四九八、四七〇	二九、二九六	五一三、三三三
明治四三	一三〇、四三三	六〇一、八九一	三、一〇九、五八一	三四、八八一、九三三	三、二四〇、〇〇三	三五、四八三、八一三	一、一二六	一〇、〇七九	二九、四七三	五七六、六一七	三〇、五九九	五八六、六九六
明治四四	一七九、四〇五	一、〇一八、〇三六	四、〇〇三、二五五	三六、九九三、八二六	四、一八三、六六一	三八、〇一一、八六二	二、〇七八	一五、八九〇	二八、〇三三	五五六、〇〇一	三〇、一一一	五七一、八九一
大正一	三四九、四六九	一、八〇四、八八六	二、五一六、一〇八	二八、一九三、〇六八	二、八六五、五七七	二九、九九七、九五四	二五、五五五	一四八、八一九	四一、〇六三	八七七、〇〇九	六六、六一九	一、〇二五、八二八
大正二	三、四七七	五、三一八	一、〇五四、三〇〇	一五、五一二、三二〇	一、〇五七、七七八	一五、五一七、六三八	二、八八八	七三、八六四	八五、二七一	一、五三〇、八二四	九七、一六〇	一、五九三、六八八
大正三	一〇、七〇四	二〇、五九八	二、二七七、八四四	二七、六八四、九六二	二、二八八、五四八	二七、七〇五、五六〇	九五四	五、七一五	三六、三四一	七三四、四〇六	三七、二九六	七四〇、一二一
大正四	九四、七八八	四〇三、九五五	三、四八六、七六八	三五、九二二、三五五	三、五八一、五五六	三六、三二六、三一〇	一、四七二	一〇、〇七三	四三、九七一	八一三、三四二	四五、四四四	八二三、四一五
大正五	一、二三八、一〇二	一一、四二六、二九〇	四、二四八、五八七	五一、六八五、〇六三	五、四七六、六八九	六三、一一一、三五三	二、五九九	一八、四七二	二九、三二九	六三六、八〇一	三一、九二八	六五五、二七三
大正六	一、六一二、五四〇	一五、九三二、二九二	五、五七五、九七一	六八、三四八、二七三	七、一八八、五一一	八四、二八〇、六六五	二、五一四	一三、五二八	二三、三七五	五七一、三六六	二四、八九〇	五八四、八九四
大正七	七二八、四三三	六、四一六、〇四六	四、五三五、六六二	五四、六四二、一六九	五、二六四、〇九五	六一、〇五八、二一五	一六三、五六〇	一、六八八、六二〇	一〇、八七七	三〇八、四二二	一七四、四三七	一、九九七、〇四二
大正八	三七四、〇五五	七、六三六、六三六	四、八四九、四〇一	七九、一一三、二九三	五、二二三、四五六	八六、七四九、九二九	七四五、九二四	一五、五〇六、一三三	一七、五九三	七〇七、九九一	七六三、五一七	一六、二一四、一二四
大正九	二一一、四五〇	六、九八一、二七五	三、六六〇、一五三	一三五、二二四、一五九	三、八七一、六〇三	一四二、二〇五、四三四	三八五、五四八	一一、〇九九、八〇三	三〇、七九四	一、四〇四、八八七	四一六、三四二	一二、五〇四、六九〇
大正一〇	一七五、九七七	二、一八六、八〇五	四、二四三、七九〇	八四、七一〇、一〇八	四、四一九、七六七	八六、八九六、九一三	三六二、〇二六	五、三八〇、六五七	三一、五九八	一、〇〇五、四四七	三九三、六二四	六、三八六、一〇四
大正一一	三六〇、三六八	二、八三一、三四二	五、九二九、〇七六	八四、四七五、〇二四	六、二八九、四四五	八七、三〇六、三六六	五七一、四〇〇	六、一〇〇、七〇八	二六、七一八	六六二、二九二	五九八、一一九	六、七六三、〇〇〇
大正一二	四三一、五九五	二、三九九、九七一	六、二七〇、三五三	一一一、八〇七、八一八	六、七〇一、九四九	一一四、二〇七、七八九	三九六、一四七	四、四四六、〇〇七	二七、八一四	八〇七、五二三	四二三、九六二	五、二五三、五三〇
大正一三	六八八、〇六五	六、一八九、四一〇	七、一四七、八二九	一一九、九一五、三八〇	七、八三五、八九五	一二六、一〇四、七九〇	三〇四、九五八	三、八三八、六六八	四六、六〇八	一、三二六、七六三	三五一、五六七	五、一六五、四三一

備考

(1) 本表は砂糖・氷角棒糖・糖水・糖蜜を合算したるものなり

(2) 本表の外移入白糖明治三二年一、六九六圓、三三年八、五四一圓、三四年一一、九七六圓及移入角砂糖類大正元年二、一五〇圓二年二、六一三圓、三年二、六九二圓、四年三、〇二一圓、五年六、一五一圓、あるも數量不明に付除外せり

□臺灣酒精輸移出累年表

（右側ハ數量　左側ハ金額）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年別	輸出	移出	計
明治四十年	〇・三三五石 三五円	—石 —円	〇・三三五石 三五円
同　四十一年	〇・〇二七 五	五二〇・二八三 七四、六七〇	五二〇・三一〇 七四、六七五
同　四十二年	〇・〇四四 八	七五五・〇五一 一二一、六〇三	七五五・〇九五 一二一、六一一
同　四十三年	〇・二八〇 三〇	一、三三九・六七八 一八一、三〇五	一、三三九・九五八 一八六、三三五
同　四十四年	一七六・九三四 二、八八五	三、一六三・〇〇一 四二一、九七一	三、三三九・九三五 四二四、八五六
大正元年	七〇八・五一〇 二四、〇九六	一四、四六八・五五八 一、五七九、〇八七	一五、一七七・〇六八 一、六〇三、一八三
同　二年	九二・七六六 一、五九七	二、九四二・八六〇 一、五一八、〇二〇	三、〇三五・六二六 一、五一九、六一七
同　三年	— —	一三、七二五・八七二 一、九四五、五五四	一三、七二五・八七二 一、九四五、五五四
同　四年	一、七八九・九四七 六三、三三九	四〇、〇五八・九五三 五、三二一、三五五	四一、八四八・九〇〇 五、三八四、六九四
大正五年	一五、五八九・四八〇石 一八二、一二八円	五五、八三一・一〇〇石 七、六九三、五七五円	七一、四二〇・五八〇石 八、一七四、六九三円
同　六年	三〇、六七六・八〇五 七五五、八九七	六二、一八九・三九六 八、五五七、一六二	九二、八六六・二〇一 九、三一三、〇五九
同　七年	二一、七六一・六三〇 八九七、一四二	六七、二九九・七〇五 一〇、七九九、一七二	八九、〇六一・三三五 一一、六九六、三一四
同　八年	四、六四九・五四六 三五七、四二〇	七二、六六一・五三四 一三、四四九、三七一	七七、三一一・〇八〇 一三、八〇六、七九一
同　九年	三六七・二〇二 三〇、八八八	四五、五四一・〇二九 九、九六二、六六二	四五、九〇八・二三一 九、九九三、五五〇
同　十年	一七、八五八・七七五 二七一、四六八	五五、六六四・二四一 五、八〇一、三一〇	七三、五二三・〇一六 六、〇七二、七七八
同　十一年	二三、六七一・〇〇〇 六五二、二七五	六四、四六〇・九二〇 一、七八七、〇二四	八八、一三一・九二〇 二、四三九、二九九
同　十二年	三三、一五六・二〇〇 一、三〇〇、一九八	六八、七六六・七〇〇 三、〇〇五、四四四	一〇一、九二二・九〇〇 四、三〇五、六四二
同　十三年	五六、〇一四・五〇〇 一、六二一、一二六	七五、三九四・九〇〇 三、〇三九、六二八	一三一、四〇九・四〇〇 四、六六〇、七五四

八　財政上の立場

總督府當局が糖業の開發に囑目したのは産業並に食糧政策上自産自給を圖り一方國富の增進と國帑流出を防ぐと同時に他方財政上の資源を求むるにあつたと言はれてゐる吾人は今に及んで其の眞僞を訊すの必要を感せぬが砂糖消費税收入は實施の翌年たる明治三十五年度に於て七十七萬七千餘圓を擧げ三十七年四月非常特別消費税の賦課せらるゝや百四十五萬餘圓と殆ど倍加し四十一年二月の税率引上げは砂糖の生産增加と相俟つて四十一年度に於て一躍六百四十三萬餘圓の收入を擧げしめ總督府財政の基礎的資源となり尚此年激增

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して四十三年度に於ては優良分蜜糖の激增により實に一千百九十七萬九千七百八十二圓の記錄を作つたが爾來三年間暴風雨の爲め生產急減し收稅額亦遞減を續けた折柄豫ねて一部に唱導せられつゝあつた「消費稅は其課稅目的物の消費地に於て徵收するを至當とす」との說漸く擡頭し加ふるに中央政府の財政に逼迫を告ぐるあり遂に此の說の實現を見るに至り大正三年度以降總督府の收入たるべき砂糖消費稅は島內に於て消費せらるゝ砂糖に對して徵收するものゝみに止り徵稅額僅かに八十萬一千餘圓となつたが翌年度からは生產の恢復と共に島內消費の增進に伴ひ大正五年度以降百萬圓臺を持續し大正十一年度に於ても百五十三萬二千百三圓、翌十二年度百五十八萬五千九百三十七圓の收入を得るに至つた而して內地消費用本島糖に對する課稅收入額は生產と移出の多寡に依り時に增減あるべきも思ふに年額約四千萬圓を貢獻しているであらう。

九　結び

以上本島糖業に對する官民協力施設の跡を顧み公務の餘暇禿筆を呵して取纒めなき思出を腦裡に浮ぶまゝ紙上に羅列する間斷間なく湧き出づる感想は其の發達の實に「世界の偉觀」であると共に發展の原動力は實に「人の努力」に外ならぬことである臺灣の天惠は決して爪哇のそれの如く我が糖業に常に笑顏を向けるものではない、臺灣の人は帝國の治下に置かるゝ以前に於ては糖業の觀念に然まで目覺めなかつた而して其の結果は「不振」であつた新來の同胞は官民協力之れが指導啓發に力め多大の犧牲を拂つて向ふべき方面と步むべき路を示し漸くにして相共に進まんとする刹那「明治四十四年、大正元年の大暴風雨」は突如其の路を遮つた當業者も當局も一時其の針路を失はんとし天惠の我に薄きを怨んだがやがて猛然起つて對抗を企て品種の改善蔗苗の更新、早植等に新しき路を辿つて休むことなく遂に豐產の嶺に攀ぢ顧みて大暴風雨の天譴に感謝し得

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

るの時機に達した然るに引續き出現したる「黄金時代」に漸く先きの苦しみを忘れんとした時忽ちにして「大不況」の襲來を受け再び混亂恐慌を來し傯倥として甘蔗の增收、生産費の節減に眞面目の努力を加へ蔗農も亦茲に長夜の眠より覺めたるが如く己が歩むべき路と目標を自覺した斯くて「平面的に行詰り」を見んとした糖業は更に猛烈なる勢を以て「立體的に伸張」せんとし茲に本島糖業上刮目すべき第二の革新期に入つた恰も此の時内地種米の急激なる普及は水田地方の蔗作に脅威を與へ糖業者は之に激勵せられ品種肥培に一段の改善を加へ以て之に對抗せんとし立體的發展は益々促進せられんとしつゝある卽ち「不況」、「内地種米」なる二つの强敵も結局は我が糖界の刺戟劑となり人爲を盡して能く之に打勝たんとするの概がある然るに我が臺灣糖は其の生産費の點に於て未だ々々玖瑪、爪哇に及ばぬこと遠く關稅の障壁なきに於ては内地市場に外糖と競爭し得ず更に海外に輸贏を決すべき時期に到達せず物的補助の時代は漸く過ぎ去らんとしつゝあるが如きも區域制度其他の政策乃至關稅の保護は容易に撤廢し得べからざるものあり從つて國民に夫れだけ高價なる砂糖を嘗めさせつゝある是れ正に糖業者の顧みて大に努むるところなかるべからざる所以ではあるまいか。

（大正十四年五月二十日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣四千年史の研究（四）

臺灣史料編纂委員　尾崎秀眞

山川及沿岸

位置と地勢とに關聯して尙ほ一言すべきことは臺灣の山岳及び港灣の關係である、之を地理學的に說明することは專門的智識を缺いて居る予輩の敢て企及する所では無いが、極めて常識的に而かも通俗的に臺灣の山川港灣等の狀況を概說せんことは歷史硏究の骨子として最も必要であると思ふ。

臺灣の位置が恰も太平洋と支那大陸との境界線上に引廻されたる屛風の如きものであることは前回に述べた通りであるが、其屛風は延長實に一百里に亘り其高さも亦海拔一萬尺以上の頗る峻峭なものであつて、斯の如く面積僅かに二千三百餘方里に過ぎない眇たる海上の孤島にして斯の如く高峻峭拔なる崇岳連嶺を有するものは世界の地圖上に於いて多く其比類を見出さない、卽ち其面積と高度との割合が世界多くの海島中に於いて最も卓越したものであること、夫れが直ちに臺灣の人文史上に重大なる關係を有つて居ることも、歷史を硏究する者の見逃すべからざる處である。

臺灣統治史第一卷（未刋本）には臺灣の山脈に就いて下の如くに記載して居る。

亞細亞大陸の東沿岸に連續せる海中山脈は北々東より南々西に走り恰かも太平洋に對する防波堤の狀をなせり卽ち北は千島群島より北海道日本本島四國及び九州を經、琉球諸島を廻りて臺灣に至り臺灣山脈を爲し更に南して比律賓群島に亘れり。

臺灣山系　臺灣山系中(一)本島の延長に從つて東北部より蜒蜿南々西に馳せ本島の分水嶺となり南端に盡くるものを中央山脈と稱す、この山脈の各所より數多の支脈を派出し本島西部に於ける山地を形成せり。(二)中央山脈に竝行し東海岸に低く連亘せるものを海岸山脈と名づく。(三)本島の北部に獨立せる火山脈を大屯獨立脈とし或は大屯火山彙と稱す。

(一)中央山脈　中央山脈及びその支脈には高峰峻嶺多く特に中央山脈と新高山脈とは本島の中部一帶に於て一萬尺內外の連峰を爲せり帝國第一の高山新高山を始め近く我攝政宮の命名し給へる次高山の如きは其の最も著しきものにして一萬尺以上のもの總て四十八座あり其他九千尺級のもの十一座、八千尺級のもの二十四座に及び七千尺以上の高山を合算すれば其の數百十五座の多きに達し所謂高山國の名に背かずして熱帶・暖帶・寒帶各種の林相を有せり。

中央山脈は本島の東北端三貂角に起るものと北々東端瑞芳に起るものと二脈相合し西南走せるものにして三角嵜(三、五〇五)阿玉(四、六八〇)捿蘭(六、四三六)ボンボン(五、六七四)の諸山を爲し南に赴き南湖大山(一二、五三一)となり更に南して畢祿山(一一、六九五)能高山(一〇、七三一)安東郡山(一〇、一八三)大石公山(一〇、〇六〇)丹大山(一一、一二四)秀姑巒山(一二、六五〇)關山(一二、一〇〇)卑南主山(一〇、九〇六)知本主山(七、三一三)霧頭山(九、三一三)大武山(一〇、三一二)となり恒春附近に至りて漸く低く終に鵞鑾鼻に達して海に入れり。

中央山脈より生ずる支脈の重なるものは北より順次に擧ぐれば次の如し。

(甲)三星支脈は南湖大山に起り東北走して三星山(七、四七四)となり更に東して烏石鼻に至り海に入れり。

(乙)插天支脈は棲蘭山に起り插天山(六、三三三)を經て獅子頭山に至れるものにして別に西方角板山を經て大嵙崁(大溪)の南に盡くる分脈あり。

(丙)シルビア支脈は南湖大山より西走して大覇尖山(一、一七二九)及び我國第二の高山たる次高山(舊名シルビア若くは雪山と稱し高さ一萬二千九百七十二尺あり)となれるものにして更に三箇の分脈ありその(い)は大覇尖山の西より出で正西に向ひ鹿場大山(八、三五六)となり(ろ)は次高山より出づ西々南に走り大雪山(一〇、八三〇)鳶嘴山(或は大尖山と云ひ七、二三五)となり(は)は大覇尖山と鹿場山の中間より出でて北走し李崠山(六、四六八)に走り更に西して六畜山となれるものなり。

(丁)白姑支脈は畢祿山より起り西して白姑大山(一一、〇五二)白毛山(五、〇二四)となり餘脈更に南して大横屛山、火炎山となれり。

(戊)東眼支脈は合歡山より起り南西に馳せて北東眼山(六、九五七)南東眼山(六、二〇〇)及び守城大山(七、三八二)となり關刀山(六、六五〇)に至り漸く西下して平岡に盡く。

(己)水社支脈は合歡山及び北東眼山の中央なる櫻ヶ峰より南走する山脈にて水社大山(七、二〇二)あり山脚の一大湖は水社湖又は日月潭と稱す。

(庚)卓社支脈は安東郡山の南に起り大鞍部をなし卓社大山(一一、九一六)を擁して西に走れり。

(辛)新高支脈は中央山脈の秀姑巒山に起り八通關の鞍部を經るものにして其中軸は本島中央部に蟠崛する高嶺峻岳の群彙なり所謂新高山彙にしてその主山新高山は高さ一萬三千七十五尺ありこの山彙より派出せ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る西北正西及び西南への三分脈あり(い)西北に向へるものは阿里山簇大塔山(八、三三〇)鹿屈山(七、六一〇)に至りて更に二派となり一は西し一は北して金柑山(七、〇二四)鳳凰山(五、四六二)となり(ろ)正西に向へるものは阿里山鐵道の終點たる萬歳山となり更に西して糞箕湖山に至り西南の三派となれり(は)西南に直下せるものは鋖頭雁山(九、四四四)南面山(九、三七二)新望嶺(八、一八七)及び大竹溪山(五、五一五)となり(丙のシルビア支脈と辛の新高支脈とは俗に後山と稱し乙・丁・戊・庚等の諸支脈は之を前山と稱し或は總稱して蕃界山脈といへり)餘脈は更に南に瀰ひて延長せり。

(二)海岸山脈　海岸山脈は花蓮港の南方海岸に起り海岸に沿ひて南に向ひ秀姑巒溪の北に至りて盡き更に此溪の南より起りて都巒に連れり此山脈と中央山脈との間には狹少なる低地あり。

(三)大屯獨立脈　本島の北部に特立したる山簇にして大屯火山彙とも呼び大屯・七星・紗帽・竹仔・五指の諸山より成れり他の諸山脈と趣を異にし總て火山系なるにより山脚に温泉多し又淡水河を隔てゝ此火山彙と對峙せる觀音山あり此等の諸山は海拔二千尺乃至四千尺の間にあり甚だ高からざれども臺北近郊に位するにより其名特に著はる。

因に曰ふ帝國の全領土を通じて次に示せる如く一萬尺以上の高山五十五座の中內地は僅かに七座を有する外他は總て臺灣に屬し北海道・朝鮮・樺太には共に之を缺けり卽ち新高山を首座とし次高山之に次ぎ富士山は漸く第六位を占め內地第二の高山赤石山は僅かに四十五位に在るに過ぎざるなり。

山名	海拔	順位	山名	海拔	順位
新高山	一三、〇七五	一	マボラス山	一二、五六〇	四
次高山	一二、九七二	二	南湖大山	一二、五三二	五
秀姑巒山	一二、六五〇	三	富士山	一二、三八七	六

七	中央尖山	一三、二六〇
八	關山	一三、一〇〇
九	大水窟山	一三、〇二八
一〇	蕃萊主山北峰	一二、八九五
一一	東郡大山	一二、八九五
一二	大雪山	一二、八八〇
一三	大覇尖山	一二、七九二
一四	雪峰	一二、七七八
一五	蕃萊主山	一二、六九五
一六	東巒大山	一二、四三六
一七	合歡山	一二、三〇〇
一八	北合歡山	一二、三〇〇
一九	東合歡山	一二、二〇〇
二〇	南玉山	一二、一九一
二一	桃山	一二、一八八
二二	シンカン山	一二、一五七
二三	畢祿山	一二、一五一
二四	丹大山	一二、一三四
二五	白姑大山	一二、〇五二
二六	蕃萊主山南峰	一二、〇〇五
二七	南双頭山	一二、〇〇〇
二八	能高山南峰	一二、〇〇〇
二九	卑南主山	一〇、九〇五
三〇	干卓萬山	一〇、九〇三
三一	カシバナン山	一〇、八六九
三二	郡大山	一〇、八六五
三三	タロコ山	一〇、八六三
三四	卓社大山	一〇、八一六
三五	小關山	一〇、七〇〇
三六	能高山	一〇、七七三
三七	屏風山	一〇、六七二
三八	大武山	一〇、六六五
三九	尖山	一〇、六三三
四〇	バトッノフ山	一〇、六三〇
四一	ハイノートーナン山	一〇、六三〇
四二	マヒサン山	一〇、四七八
四三	白石山	一〇、三五四
四四	ウハノシン山	一〇、三三四
四五	赤石山（内地）	一〇、三一三
四六	東俣山（内地）	一〇、三一二
四七	槍ケ嶽（内地）	一〇、二〇四
四八	安東郡山	一〇、一九三
四九	巒大山	一〇、一五〇
五〇	御嶽（内地）	一〇、一三八
五一	關門山	一〇、〇七三
五二	大石公山	一〇、〇六〇
五三	白根山（内地）	一〇、〇五三
五四	小雪山	一〇、〇四三
五五	大蓮華山（内地）	一〇、〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯の如く海拔一萬尺以上の高山連亘するにより支那人は之を鋸山又は九十九峰と稱し特に新高山次高山の如きは盛夏の外大概ね雪を戴けるにより前者を玉山と稱し後者を雪山と稱せり而して此等の嶮岳峻嶺を中心とせる諸山脈が往時概ね蓊鬱たる大森林に蔽はれしにより臺灣近海を往來したる當年の葡萄牙人が遙かにその山色の秀麗にして風景の雄大なるを嘆稱してイラ、フォルモサと呼び若くは元龜天正の頃臺灣近海に往來したる邦人等が臺灣北部の蕃社にカッコウサン社なるものありしに起因して高山國又は高砂と稱したるは良に謂れあることなり。

臺灣の山岳は大略右の如き狀態であつて、其山岳は直ちに臺灣近海の風向に影響し臺灣近海の波濤に關係し潮流にも雨量にも氣候にも非常なる影響を有つて居る、言葉を換へて云へば臺灣海峽の恐るべき波濤も、北部地方の降雨期に於ける半歲の連霖も、南部地方に於ける半歲の乾燥期も、北東海岸に於ける信風期の風浪も、夏期に於ける南部臺灣の驟雨も、臺東平野に於ける熱風も乃至は臺灣全島の被むる颱風も、文學上の熟語として古來北臺灣の名物とされて居る竹風蘭雨も、南部臺灣の砂塵も一として此高山連嶺の影響に因らざるものは無いのである、然り斯かる臺灣の大自然が臺灣の山岳に重大なる關係を有するとしたならば、爭でか其土地に居住し衣食する所の人類に影響しないで濟むべき理由があらう、然り確かに臺灣四千年來の人文は此山岳に左右せらるゝ大なるものがある、幷して更に山岳に伴ふ河川及港灣等は一層密接に臺灣の人文史上に種々なる影響を有つて居る、請ふ左に「臺灣統治史」に記載されたる平野及び河川に就いて記して見やう。

臺灣本島の地勢は副狹く又分水嶺の南北に縱貫せるにより河川の流域に長大なるもの無し特に山岳高峻なるにより其の流れ多くは傾斜急なる溪流にして上游は峽谷をなし或は水底深く岩層を刻みて數百尺の懸崖を形づくり數十丈の瀑布となすものあり其の流向も山脈の形勢に從つて或は縱谷をなし或はこれと直角と

なれる横谷をなすものあれども北部に於いては次高山・大覇尖山及び合歡山を中心とし南部に於ては新高山及び秀姑巒山を中心とし四方に放射狀に流下さるゝものなり而してその中間に於ける諸山の水を集容するものは濁水溪にして一支流は南を指し一支流は北に向へり。

本島の溪流は總て河床に於いて高度の勾配を有し且つ其の降雨も熱帶的にして七八月の交豪雨一たび到れば恰も盆を覆せるが如く諸溪忽ち暴漲すと雖も乾燥期には涸渇して涓滴をも留めざることあり其の河流の多くが溪と稱する實に偶然にあらざるなり今左に支那海に注げる河流の重なるものを掲ぐ。

(一)淡水河　淡水河は大嵙崁溪・新店溪・基隆河の三源流より成る大嵙崁溪は次高山の北なる大覇尖山に發し北流して石門と稱する隘峽を經て大溪(舊名大嵙崁)三峽(三角湧)板橋(枋橋)を過ぎて臺北の北に至り新店溪と會し始めて淡水河の稱あり新店溪は棲蘭山に發する南勢溪を上流とし龜山に至り中央山脈に屬する烏山より發する北勢溪を合せて新店を過ぎ臺北の西南方を廻りて大嵙崁溪と合す臺北・基隆・瑞芳金山等にて使用する水力電氣は新店溪の水力を利用するものにして臺北水道も此河水を利用せり基隆河は三貂嶺以西の水を集め瑞芳・基隆の南部を縫ふて西し臺北の西北方なる關渡に至り溪水の本流に合す關渡は大屯・觀音二山の迫れる隘口にして清の康熙年間までは河幅甚だ廣かりしも土砂の堆積によつて沙洲を生じ遂に現狀となれりと云ふ。

淡水河は其の長さ三十三里あり上流特に大嵙崁溪の如きは斷崖絕壁を爲せども臺北平野に出で臺北市附近に至れば其の流れ緩にして潮汐の影響を被むれり然れば臺北淡水間の如き小汽艇の往來さへありて下淡水溪に亞ぎ舟楫の便あり然れども河口の淡水港は流水及び海潮の齎らせる泥沙にて游淺し港內には樹木さへ生せる砂洲在るにより僅かに滿潮時を利用して狹少なる水路を辿り小汽艇及支那型船舶の出入を見るのみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なり。

(二)大安溪　源を大霸尖山及び次高山より發し西南に流れて平野に出で西流して新竹・臺中二州の境界をなせり下流は更に分岐して沙洲を爲せるが其の西して海に入るを房裡溪と稱し南西して海に注ぐものを大安溪とす河の長さ二十一里あり。

(三)大甲溪　南湖大崁高山及び畢祿山より出づる諸溪相合し西南に流れ白姑山の北を過ぎ幾多の小流を合して臺中州管内に入り北流して東勢庄に至り漸く大きく西に轉じて豐原街の北を過ぎ數箇の分流となりて海に入る河の長さ三十里古より北部臺灣に於ける難流の稱あり。

(四)烏日溪　二源流あり一は畢祿山より出で西流するものにして北港溪と稱し一は北東眼山の鞍部より出づるものにして南港溪と云ひ龜仔頭附近にて二流相合して烏溪となる蕃界山脈の間を突破せる中流の峽谷は大石鼓と稱する奇勝を爲せり本流は更に西し田中央の東に至りて集々大山より發せる猫羅溪と相合し大肚溪と稱し臺中の平野を潤して海に入る河の長さ約二十九里。

(五)濁水溪　本島第一の長流にして其長さ四十二里數多の源流ありその本流は合歡山及奇萊主山の間より發し西に流れて萬大社に至り安東郡山より出づる萬大溪と合し西流して更に新高山より出づる陳有蘭溪を合せ愈々西して集々の南を流れ臺中・臺南兩州の境に至りて數派に分れ本流は西北に向ひ西螺溪は兩州の境に沿ふて正西に流れ虎尾溪は南西に向ひ共に兩州に跨れる平野を貫いて海に入る河名の如く水色常に渾濁を帶ぶるは畢竟上流の粘板岩が激流に洗はれその流下の速かなる爲め沈澱するに遑あらずして流出するによるものとす下流に至り水勢漸く緩く多量の黑泥堆積して渡渉に困難なり特に下流一帶は所々に廣き磧地を形成し平時は河水磧下に滲透して流水を見ざるも降雨一度至れば水量頓に增加し分流河磧相合して一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大巨流となり濁水四方に溢る爲めに河床往々變移しこれに伴ふて生ずる砂丘は乾燥期に於ける北東風に吹き上げられて山狀の突起をなせり而も此突起は南方に移り行き田園の埋沒するもの頗る多く沈害隨て大なるにより總督府に於ては砂防林を設け居れり因に曰ふ本島には濁水と稱する溪流三あり。

(六)曾文溪　源を阿里山の南に發し諸溪の水を合して玉井(舊名噍吧哖)の西北を過ぎ後堀仔溪を合せて西方に向ひ灣裡の北を迂回して西し二派となる本流は南西し支流は西し三角洲を爲して共に海に入る河の長さ約三十四里。

(七)下淡水溪　本島第二の長流にして其長さ約四十里、源流二あり一は楠梓仙溪にして新高山の南より出で西南に流れ一は新高・秀姑巒兩山の間に在る鞍部八通關より發せる荖濃溪にして亦西南に向ひ小關山及び卑南主山より出づる寳來溪を合せて更に西南に流る此兩流は旗山に至つて相會し下淡水溪となり南下して海に入る兩流共に灌漑の利多く舟楫の便に富めること本島第一なり。

以上は支那海に注げる重なる溪流にして尙ほ此外本島の北部に頂双溪・鳳山溪・後壠溪等あり、西南部には東港溪・林仔邊溪・刺桐脚溪・楓樹溪及び四重溪等あり各西又は西南に流れて海に注げり。

又諸溪流の大平洋に入るものは主として左の諸溪とす。

(八)宜蘭濁水溪　源を南湖及び大覇尖兩山の鞍部に發し東北に流れて叭哩沙平野を過ぎ宜蘭と羅東との間を經て大平洋に入る。

(九)花蓮溪　水源を大石公山に發し中央山脉と海岸山脈の間に出で加籠々溪となり更に中央山脉より出づるマリバシ・馬太鞍・チヤカン・木瓜等の諸小溪を合せ東流して南に向ひ太平洋に注ぐ下流には砂金の産あり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(十)秀姑巒溪　河の長さ約二十三里源を臺東廳下に發し臺東峽谷を北に流れ中央山脈より發する清水溪、轆々溪及びタビラ溪を合せて海岸山脈を南北兩部に横斷し太平洋に注ぐ。

(十一)卑南大溪　長さ約二十二里關山の北より出づる大里溪と卑南主山の北より出づる大崙溪と相合してシンブロク溪となり新開園の南に至りて卑南大溪となり更に南に流れ卑南の北部に至りて太平洋に入る。

以上の外大南澳溪・大濁水溪・タッキリ溪・三棧溪・知本溪・太麻里溪等の諸小流あり總て東部沿岸の諸溪流は卑南大溪を首めとし概ね河身分岐して數條の砂洲を作り急流瀨渦多く舟楫の便無く渡渉困難なり。

山岳は總べて溪流を發するものであると云ふ原則を脱しない以上、臺灣の山岳が面積の割合に海拔の高度の多いと云ふだけで直ちに臺灣に急流の多いことも知られる、交通の不便なことも知られるのである、然れば其海岸線と港灣との狀況は何うであらうか、予は之を説明する爲めに又「臺灣統治史」の記載を借りることにした。

臺灣本島は海岸の凹凸比較的少なきにより海岸線は約二百九十里三町にして澎湖島及び其他の島嶼を合するも三百九十八里三十町に過ぎず面積に比し海岸の短かきことは我國の六大島中第一倍に在り九州の海岸線八百六十一里に比し其二分の一にも及ばず加ふるに東海岸に絶壁多く山脈海岸に迫りて良錨地に乏しく西岸は一帶に遠淺にして高雄を除くの外は概ね滿潮時を利用し僅かに數百噸の船舶を出入せしめ得るのみ其稍や出入多きは東海岸の一部のみにして基隆・蘇澳等あり本島の南端は稍や出入あれども僅かにその小部分にして特に言ふに足らず基隆・高雄等も改隷前までは岩礁又は淺瀨多く數次の築港により始めて今日あるを得たるものなり唯澎湖島の馬公のみ水深く波浪を避くべく天然の良港にして本島關門の鎖鑰を爲せり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

海岸は本島の東西兩側に於て著しき差あり太平洋岸は既に述べしが如く概ね斷崖にして海水甚だ深く西岸一帶は平地にして支那海に接し斥鹵の地多く間々又砂丘あり海底は淺くして土砂多し卽ち東岸は險絕にして西岸は平遠共に船舶を碇泊すべき處にあらず。

基隆より東鼻頭角を廻りて三貂角に至る間は山脈海に迫りて屈曲あれども風浪穩かなるの日僅かに小蒸汽を碇泊し得べき砂濱あるのみ三貂角より宜蘭平野に至る間も山脈起伏せり平野には砂濱連なり南蘇澳灣に至る。

蘇澳は東海岸唯一の港にして南北の兩灣に分る北灣は特に水深く港口南東に開け南東風の外は四周の山にて遮らるゝも灣內に岩礁多く良港と稱し難し蘇澳の南ドーム角より新城に至る約十五六里の間は世界に有名なる八百尺の斷崖ありて海岸に直立しその後方の岩角を合すれば海拔三千尺以上に及べり海底亦深く深度は海岸を離るゝに隨ひ益加はりその最深き處は四千尋に達する所ありといふ。

新城より南すれば稍や砂濱となりて花蓮港に連る花蓮港は東岸唯一の碇泊地なれども冬季は風浪特に險惡なりこれより南卑南までは海岸山脈海に迫り僅かに大港口、成廣澳、蔴荖漏等の灣入あるも船舶碇泊の便なし。

卑南は寄航地なれども花蓮港と等しく風浪の爲め貨客の荷役を許さゞること多し卑南以南は多く砂濱にして間々砂丘を作せる所あり南端なる鵞鑾鼻と猫鼻頭との間は南灣にして大板埒港あり風波なき時は僅かに碇泊の便あり。

猫鼻頭は古の沙馬磯にして夫れより北方に向ひ珊瑚礁又は懸崖なきにあらざれども枋寮より淡水に至る西岸一帶は溪流の流下する泥沙と風力とにより砂濱竝砂丘相連りて海底淺く傾斜極めて緩かなり此の故に港

潟も漸次埋沒せられ安平・鹿港の如き有名の港灣も船舶は海岸を距る里餘の外口に在り又臺南市の如き砂丘上に都市をなせるものなどあり。

淡水河口の淡水が流出の泥砂により殆んど廢滅に歸せんとしつゝあることは既に述べし所の如し淡水より基隆に至る北部沿岸は大屯火山彙の裾野にして殆んど屈曲なくその北端は富貴角なり。

澎湖列島は六十四箇の島嶼より成り面積合計十四方里に滿たず其住民を有するものは二十八にして他は海面に露出せる岩礁に過ぎず列島中最も大なるは澎湖本島にして漁翁島及び白沙島之に次ぎ三島相擁して澎湖灣を爲せり灣內濶くして水深く大船巨艦を容るゝに足れるを以て古來支那沿岸若くは臺灣に事ある每に列島は常に爭地となれり現に灣內の馬公港が要港及要塞を控へて帝國南門の要樞となれるも偶然にあらざるなり本列島は總べて火山島にして玄武岩より成れるに依り土地極めて低平なり又海岸の凹凸に富み澎湖本島の如き僅かに四方里に過ぎざる小島なれども海岸線の延長は實に二十六里强に及べり岩盤海底に蟠りて干潮時には表出せる處多く珊瑚礁もよく發達し珊瑚砂より成れる砂濱あり。

烈風到る每に遮蔽する丘陵多きにより島を擧げて土砂且つ運び去られ海潮亦動蕩せられて鹹雨を下す程なり、されば僅かに矮草の生ぜるのみにて樹木の生育に適せず又河流地沼なく水分の供給乏しきにより蔬菜の如きも枯死を免れず從つて島民は燃料に窮し牛糞より草根に至るまで之を採り盡して人爲的にも植物を絕滅せしむるの有様なり。

臺灣本島の屬島も多くは火山岩にして安山岩より成るも小琉球嶼と鵞鑾鼻の南方なる七星岩（我國の最南端）とは珊瑚礁より成れり屬島中東北に在るは彭佳嶼、棉花嶼、花瓶嶼、基隆島、社寮島にして彭佳・社寮二島の外は無人島なり彭佳嶼は歐人のアジンコートランドと呼べる島にして鼻頭角を北に距る約三十哩燈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺あり周圍一里三町棉花嶼はクラッググランドとも呼ばれ鼻頭角の北十七哩餘に在り。
基隆嶼は基隆港口に近き圓錐形の小島にして航海者の目標とする所なり社寮島は西班牙人のサンサルヴァドルと稱せし島にして基隆港口に在り周圍一里島內大小二峰あり現に燈臺及び氣象觀測所あり住民は概ね漁業を營めり東都に在る屬島は龜山島、火燒島、紅頭嶼とす龜山頭は宜蘭の東北五哩の海上に在り火山質にして圓錐狀を爲し東端は懸崖にして西岸は砂堆を爲せり周圍約二里八町あり島民は漁撈を主とし農業を兼ね火燒島は卑南の東約十八哩の海上に在り面積一方里餘、周圍五里餘、島名は島中の山上に火を焚きて出漁者の目標となしたるに因れりと云ふ往時生蕃パンチアー族（アミ族）の住せしも漢人之を逐うて來り住し主として漁業を營めり紅頭嶼は歐人ボテル、ダバコと呼べる島にて鵞鑾鼻の東三十五浬に在り面積二方里餘周圍九里二十八町概ね山地にして海岸は凹凸多し生蕃中最も未開と稱するヤミ族住居し主として簡易なる漁撈耕作等を爲せり。
小琉球嶼は本島の南々西隅に在りて下淡水溪の河口なる東港を距る約十浬に在り周圍三里島形楕圓に近く土地低きも起伏少なからず住民は農耕を主とせり。

臺灣の沿岸及屬島等の狀況は略ぼ右の如くである、要するに一言にして云へば臺灣の沿岸線は適當なる港灣即ち錨地を有せず、過去四千年來全く自然の狀態に置かれて、其間幾多桑滄の變を免れないにしても、太古よりこの方大體に於いて大差無いと信ぜられるのは、臺灣全島の沿岸線に太古時代の遺蹟たる貝塚が發見せられるのでも、また三千年前に生じたりと稱せらるゝ阿里山との古檜が其儘今日に及んで居ることに見ても略ぼ推測するに難からずである、從て臺灣に於ける自然と人文との交渉も此間に見出されなくてはならぬ『自然と人文』夫れは歷史上の原則とも云ふべき『波濤の打つ處は文明の起る所なり』との言葉を文字通りに解

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

釋すれば臺灣は文明の起る所なりと云ふことにもなるのであるが、事實は決して然らず、波濤の打つ處は必らず港灣ならざるべからず、即ち『港灣と文明』でなくてはならぬ、然るに臺灣には古來殆んど適當なる港灣即ち錨地が無い、此點が臺灣の當然發達すべき文明を阻碍して四千年來奇蹟的に原始狀態に置いた重なる原因である、夫れには風土の關係もあらう、氣候の關係もあらう、潮流の關係もあらう、併しながら主として臺灣の山川及港灣等の關係で無くてはならぬ、臺灣の山川が四千年來の一大寶庫とすれば、其港灣は即ち門扉である、門扉の鎖された儘に四千年來、今日まで持傳へたことは實に奇蹟的ではあるが、實は全く大自然の偉大なる力である、海拔一萬尺を超ゆる險隘なる山嶺、矢の如き奔潭激流、天をも呑まんとする風濤、夫れに沿岸の岩礁容易に人をして此美麗島に近づけしめざりしことは、確かに四千年を一貫した原始時代の人類生活の模樣を其儘吾人の前に陳列し展開して甚だ興味あり且つ有益なる教訓を吾人に與へて呉れるのである、貴重なる哉臺灣の山川、尊敬すべき臺灣沿岸の自然的要害、及び近海の險惡なる風濤と叫ばざるを得ないのである。（未完）

臺灣産米の話

安藤泰夫

今茲に本題の下に臺灣産米に關聯して居る次の樣な項目に就いて極く概略を述べて見やうと思ひます。

一、世界の産米　二、吾國の産米　三、本島米の沿革　四、本島米の現狀　五、本島米の將來　六、本島米の取引　七、本島米の貿易　八、內地市場に於ける本島米

一　世界の産米

米は獨り吾國民の太古以來の主要食糧作物たりしのみならず、支那・比島・佛領印度支那・シャム・ジャバ・英領印度・等の諸地方に於ても亦食糧作物として最も主要な位置を占めて居ります。全體世界中で米が幾ら生産されるかと云ひますと、最近五箇年間平均白米六億六千四百九十一萬四千五百十九石でありまして、丁度本島の年産額の百四十倍餘に相當して居ります。之を地方的に見ますと次の樣な次第であります。

	白米	
亞細亞	六二五、五九六、五二一石	九四・一%
北及中央亞米利加	三、七四一、八九七	〇・六
南亞米利加	二、〇三六、九七八	〇・三
歐羅巴	三、二六三、八三九	〇・五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

亞弗利加	五、八五四、三〇〇	〇・九
太洋洲	二四、四二〇、九八四	三・七
計	六六四、九一四、五一九	一〇〇・〇

即ち世界總生産額の九割四分は亞細亞で産し、其主要な産地は次の様な處であります。

支那	白米 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇石	四五・一%
英領印度	二一〇、七八一、四一〇	三一・七
日本內地	五四、五五四、九八〇	八・二
佛領印度	一九、五九四、〇四〇	三・〇
暹羅	一三、八六八、五四六	二・一
朝鮮	一三、一八四、五二二	二・〇
臺灣	四、四六五、七〇四	〇・七

支那には正確な統計が無いので確實な數字は擧げられませんが、概數で既に亞細亞總産額の四割五分以上を占めて居り、日本內地は八分、本島は僅か七厘餘にしか當りません。併し乍ら單位面積當收量を調べて見ますと次の様な狀態であります。

地方別	一ヘクタール(一町二五歩)當白米收量
英領印度	六・八石
佛領印度支那	四・六
暹羅	五・九

地方別	一ヘクタール(一町二五歩)當白米收量
比律賓	四・四石
日本內地	一七・八
朝鮮	八・六

臺灣	九・二	伊太利	一五・九
米國	八・三	エヂプト	一六・四
メキシコ	七・二	ジャバ	八・六
ペルー	五・七		

即ち米の主產地たる亞細亞では單位面積收量は吾國が最も多い事になります。換言すれば吾國が最も集約的に稻の栽培をして居る事が知られます。臺灣も印度・佛領印度支那・暹羅あたりに比較しますと單位面積收量は遙かに勝れて居りますが、將來まだ〳〵之が昂上の餘地は充分殘されて居ります。

二　吾國の產米

偖て吾國現在の產米はどんな狀態に在るかと申しますと、內地では最近五箇年平均產額五千八百九十二萬石でありまして、內地だけの消費量は六千四百六十九萬石であります。其差額五百七十七萬石は外米・朝鮮米・臺灣米に依つて補はれて居ります。

朝鮮は年一千四百四十四萬石を產し、朝鮮內の消費高が一千百五十一萬石でありまして、其差額二百九十三萬石の剩餘米は其大部分を內地に向つて出して居ります。

臺灣は御承知の通り年五百萬石の生產が有り、島內消費が四百二十萬石で、其差額八十萬石は殆ど總てを內地に出して居ります。

樺太は米の生產なくして、年十四萬石を內地から入れて消費して居ります。それが結局日本全體として見ますと、年產七千八百三十六萬石ありまして、消費額が八千五十四萬石でありますから、二百十八萬石だけ

吾國は米に不足を告げて居るのであります。

斯く數量上から觀察して來ますと、臺灣の米は世界總產額に對しましては僅か〇・七%に過ぎず、甚だ微々たるものでありますが、日本內地との關係を見ますと、內地不足米の約五分の一は現在本島米を以て補つて居りますので、母國食糧政策上には甚だ重要な位置に在るものと云はねばなりません。

三　本島米の沿革

本島の米作は早くから生蕃人の間に行はれて居りまして、彼等は米を常食とし、又酒を釀造して居りました。是等の蕃人は人類學上馬來種に屬し、南洋諸島に棲息して居つた事實から推察しますと、本島の稻は或る時代に南洋方面から移植されたものだと云ふ事は疑はれません。其後十七世紀の初葉に支那民族が本島に來住した時、支那から種籾を持つて來て支那在來の方法で栽培を初めたと云ふ事は、種々の史籍に徵して明であります。そして其移住民は剩餘米を支那に出して居たと云ふ事が、後に和蘭が本島を領有した時に、米の輸出稅を賦課したと云ふ事實に依つて、推知する事が出來ます。西曆一六二四年、丁度今から三百年前、和蘭人が本島を占有しましてから專ら意を拓殖事業に注ざ、先に移住して居た支那民族に對して、耕牛・農具・耕作資金等を給して農地の開拓耕耘を奬勵したと云ふ事は臺灣府誌に記されてあります。其後十七世紀の中葉に鄭成功が支那から本島に渡つて來ました時、彼の引卒して來た明の遺臣等に農兵の策即ち一種の屯田の法を講じて荒漠たる沃野の開拓に從事しました。此頃から本島の米作は一新紀元を劃せるものと云ふ事が出來ませう。西曆一六八四年に鄭成功滅亡後、本島は全く淸國の版圖となり、支那人の移住は年々增加して來まして、是等の移住民は大部分農耕に從事しましたから水田の開發は益々盛んになり、此の時代に臺南・

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彰化・臺中附近の平野や下淡水溪流域の平野は大部分開拓されました。清朝の康熙三十年から六十年に至る三十年間に埤圳が七十有餘も開設され、乾隆の初年には水田五萬三千八十甲に及んだと云ふ事であります。乾隆以降支那人の來住は益々繁くなりまして、先に來た者の開拓した土地以外に進展して山谷部まで開拓されるに至りました。乾隆末年には臺北平野は全く田園と化し、臺中平野の大部分も開拓されました。降つて嘉慶・咸豐年間に至つて宜蘭平野が開拓され、孰れも水利を有する處は水田となりました。時代を追ふて其開拓された地方を擧げて見ますと左の通りであります。

開墾時代	地方名	西暦	今ヲ去ル
蘭領時代	臺南・高雄・附近	一六二〇—一六五〇	三〇五—二七五
鄭氏時代	斗六・嘉義・鹽水港・鳳山・彰化より新竹に至る海岸部	一六五〇—一六八〇	二七五—二四五
康熙雍正年間	彰化・臺中・屛東・臺北・旗山・桃園	一六八〇—一七三〇	二四五—一九五
乾隆年間	南投・臺中・桃園の山間部	一七三〇—一八〇〇	一九五—一二五
嘉慶咸豐年間	宜蘭・苗栗の山間部	一八〇〇—一八六〇	一二五—六五
同治光緒年間	臺東	一八六〇—一八九〇	六五—三五

斯る狀態で本島の米作は古くから行はれて居りましたが、其緒に著いたのは三十年前からであつて、就中鄭氏時代に著るしく發達して今日に及びました。故に獨り本島の米作史上に於てのみならず一般農政史上から見ましても、鄭成功の事蹟を詳しく研究しましたら非常に面白い事が多々ある事と思ひます。

明治二十九年本島が吾領有に歸しましてから僅に三十年にしかなりませんが、此間の進歩は亦顯著なものであります。試みに領臺當時の米の作付面積・收量・甲當收量等を今日の夫れと比較して見ますと、次の樣な數字が示されます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年次	作付面積	收穫高	甲當收量
明治二十九年	二〇五、〇二八甲	一、五七二、七〇七石	七・六七一石
明治三十九年	四七二、八一三	三、九六八、五七七	八・四[illegible]三
大正五年	四八六、三〇五	四、六四九、一七三	九・五六〇
大正十三年	五四六、六五六	六、〇七六、六二八	一一・一一六

即ち作付面積は二倍餘の増加、收穫高に於きましては約四倍の増加を示して居ります。

四　本島米の現狀

既に述べました様な徑路を辿つて發達して來ました本島米は、前揭の通り昨年は六百七萬六千六百二十八石の產出を見ましたが、之を地方別に觀察しますと次の様な次第であつて

臺北州	一、〇九九、三〇〇石	高雄州	九〇五、五七二石
新竹州	一、一三六、九五五	臺東廳	六三、二九七
臺中州	一、七四一、一八九	花蓮港廳	八八、九三二
臺南州	一、〇四一、三八三	計	六、〇七六、六二八

臺中州が首位を占め、新竹・臺北・臺南・高雄・花蓮港・臺東の順になつて居りますが、例年は高雄が臺南より上位にあるのですが、昨年は殊に臺南州の第二期作が増收を告げました結果、高雄を追越した譯であります。

偖て此の六百萬石の產米がどう片付いたかと申しますと、內地に移出されましたのが百八十六萬石、外國に輸出されましたのが一千石で、其殘りは先づ島內で消費されたものと見做されます。一面外から入つて來た米は、內地から八萬四千石、外國から二萬六千石あります。要するに昨年中本島では米が六百萬石穫れて島外に百八十六萬石出し、外から十一萬石餘入つて來た勘定になります。それですから繰越米を考へないも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のとすれば、輸移出入を相殺したものを產額から減じた四百三十二萬石が、島內で吾々の常食酒其他菓子原料等として消費された事になります。

五　本島米の將來

今後本島米は其產額に於て如何なる程度迄發展して行くものでありませうか。之は甚だ漠とした問題ではありますが、先づ今後三十年を目標として考へますと、治水工事竝に水利設備・嘉南大圳・桃園大圳其他埤圳の改善竝に新設によりまして、年々追ふて水田面積が增加します事は疑なく、從つて將來は水稻の作付は增加し、又陸稻に於ても畑の擴張に伴つて自然其作付を增加する事は豫想されます。一方品種の改良、施肥及耕種法の改良發達に伴ひまして、單位面積の收量も增進します結果は、次の様な增收を豫想されます。

種別		作付面積 甲	甲當收量 石	產額 石
水稻	一期作	三一八、二七三	一四・九九〇	四、七七〇、九一二
	二期作	三七八、七六〇	一一・八〇〇	四、四六九、三六八
	計	六九七、〇三三	—	九、二四〇、二八〇
陸稻	一期作	一三、四四六	七・三八四	九九、二八五
	二期作	四〇、三三九	七・九五六	三二〇、九三七
	計	五三、七八五	—	四二〇、二二二
合計		七五〇、八一八	—	九、六六〇、五〇二

將來に於ける島內消費額を算定するのに、島內人口の增加步合と一人當消費量とを基礎としますと、三十年後の島內消費米額は六百二十三萬四千七百四十三石となります。即ち將來の產米額九百六十六萬五百二石から消費額六百二十三萬四千七百四十三石を引いた三百四十三萬五千七百五十九石だけが、將來は島外に搬

出される事になります。

六　本島米の取引

本島米の取引の建米は、御承知の通り北部米・中部米・南部米の三銘柄に大別されて居ります。取引單位は百斤建でありますが、受渡には一袋百五十二斤(正味百五十斤)を以つてして居ります。又農家が籾を賣る場合には千斤を單位として居るものが一般であります。然るに此の相場の建方、取引單位は勿論臺灣獨特のものでありまして、內地米・朝鮮米・外國米・夫々之れを異にし、又荷造等も異なつて居ります。例へば市場に於ける相場の建方から云へば、內地米と朝鮮米とは一石建であるのに、臺灣米と外國米は百斤建であります。又た深川市場あたりの集散米に於ても內地米は俵單位であるのに、朝鮮米は叺、臺灣米と外國米とは袋單位であります。従つて各一個の容量や重量も自から異なつて來ますのは無論の事であります。今是等の相違を示して見ますと次の表の通りでして

種類	荷姿	容量(合)	重量(斤)	同グラム量(瓩)
內地米	一俵	四〇〇	一〇五	六三
朝鮮米	一叺	四〇〇	一〇五	六三
同	一袋	五〇〇	一三〇	七八
臺灣米	一袋	六三〇	一五〇	九〇
外國米	一袋	六八〇	一六八	一〇〇

等しく一袋單位では、外國米と臺灣米とは著しい違があり、又朝鮮米一叺と云つても普通四斗入の外に五斗入一叺もあります。又內地米が一俵四斗入と云ひますが、集散米の全部がそうかと云ひますと、中には九州米の樣に三斗三升入や又北陸米の如く四斗乃至五斗入のものもあります。斯の如く米の取引上の單位は複雜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で區々ですから、米突法實施の機運となりました今日、米穀も全部グラム量取引としてはどうかと云ふ成案があります。昨年六月米穀取引所幹事會が主務省の諮問に係る穀物秤量取引改正案に對し、次の樣な答申をして居ります。

一、十五年猶豫期間を置く事。

二、豫め俵裝の重量を一定する方法を講ずる事。

三、一俵の正味重量を五〇瓩(約三斗三升三合)に一定する事。

卽ち現在の一俵(四斗)正味重量六十三瓩が十五年後には三斗三升三合卽ち五〇瓩に一定しやうと云ふのであります。少し話が橫道に入りましたが、偖て本島米の島內取引の實際はと申しますと、皆舊慣に依つて行はれて居りまして、大體次の樣な種類が有ります。

(一)現物賣買。

現米(コンビー)、賣買價格及數量を定めて其契約成立と同時又は三日乃至五日以內に現品及代金の受授を終るもの綏(ウアン)錢(チーン)、現米と同樣なるも只だ代金の支拂が一箇月乃至三箇月後に行はれるもので此場合には賣主が代金支拂期間の長短に應じ普通一袋に付き日步何錢と云ふ利息契約を同時に結びます。

(二)先物賣買。

期米(キービー)、數量價格及受渡期日又は期間を定めて契約し代金の幾分を前貸し期限に至りて現品を受授すると同時に殘金を支拂ふものであります、期間は普通十日乃至二十日の短期であります。

糶米青(チヨビーチエン) 立毛中甚だしきは挿秧後間もなく手金を交付し價格及數量を定めて收穫後の取引の豫約をなすものであつて所謂青田賣買に該當します、手金の額は契約の時期及當事者の境遇等によつて區々であり收穫

後普通一箇月以内に現物の受授及殘金の支拂が行はれます。

無期限米(ボーキーハンピー)、價格及數量を定めて契約し同時に代金の幾割かを前貸し現品の受授の期限は買手の自由に委すものであります。

緩米(ウアンビー)、價格、數量、期日又は期限を定めて契約し同時に代金の幾割かを前貸し期限に至りて現物の受授を了した後、殘金の決濟をするものでありまして定期取引に似て居ります。

(三)空賣買。

賭米購(ボアビーキョウ)、價格、數量、及期日を定めて契約し其期限に至りて現物の受授をなさず只だ時價と約定値段との差額を受授するもので純然たる空相場であります。

(四)委託賣買。

依時行情(イースーハンチエン)、數量及期限を定めて別に値段を定めず契し同時に手金を渡し其期間内は手金に何錢かの日歩を支拂ひ双方差値の出合ふを待つて決濟するものであります。

現物賣買は最も確實な取引方法ですが、此取引では單に値鞘を利得するに過ぎないので本島人の投機心には適せず、從つて先物賣買又は委託賣買を好んでやります。殊に委託賣買は最も廣く行はれるものでありまして取引高の大半を占めて居り、空賣買は米價昂騰の際に大都市に於ける米商以外のものが行ふのが多くて、見様によつては純然たる賭博であります。斯の如く本島米の島内取引慣行は多種多様でありますが、孰れも前貸金の件はないのはありません。之は恐らく領臺以前からの慣習でありまして、領臺以前本島產米は對岸福州地方に淡水・鹿港等から移出されて居りまして、移出商は產米の買付をする時前貸制度を利用して居りましたが、併し其金額は一袋に付き五十錢乃至一圓五十錢に過ぎませんでした。領臺後内地移出が旺盛となる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に從つて同業者間の競爭が甚しくなり、從つて前貸金も段々と增加し、期限も延長されて今日に至つたものらしく、之れに伴つて色々の弊害が起る樣になりましたので、今日では移出同業組合では土礱間に對する前貸金は一袋一圓以內に制限を加へる事にして居ります。

七 本島米の貿易

本島米の對岸各地への取引は領臺以前は盛に行はれて居りましたが、今日では甚だ微々たるものとなり、專ら內地との取引に限られて居ります。昨年の島外取引狀態を見ますと、外國貿易の方は基隆・高雄・淡水の各港から支那福建地方・海峽殖民地・英領ボルネオ・等に精米一千百三石を出して居るのみであつて、輸入の方は主として白米を支那から九千五十二石、暹羅から一萬五千七百二十八石、英領印度及佛領印度から一千六百八十四石、計二萬六千四百六十四石を、基隆・淡水・安平・高雄の各港を通じて入つて居ります。

內地貿易は主として移出にありまして、昨年基隆及高雄から出された數量は次の通りであります。

東京	玄米	三六七、五三三石	門司	玄米	二一九、一八八石
名古屋		二六二、一二八	長崎		八一、五四三
大阪		六八、二三九、	其他		二四四、三八三
神戸		五六〇、二三九	計		一、八六六、二四二
下關		六二、九八九			

又內地から本島に入つて來ます量は極く僅であつて、基隆・高雄・馬公・等に主として白米を神戸から五萬九千二百十四石、門司から二萬四千五百八十三石、其他から一千五十四石、計八萬四千八百五十一石移入されました。本島米の島外取引は斯る現狀でありまして、島外取引上最重要な位置を占めて居ります。內地移出に對しては、本島移出商は臺灣米穀移出商同業組合を組織し、組合の定款によつて取引をして居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

從來內地移出米は年々百萬石內外でありましたのが、昨年は一躍百八十六萬石餘を出して未曾有の盛況を見せましたが、之は畢竟昨年が例年に比し約百萬石の增收があつた事と、又一面內地種米・丸糯米等が增えて來ました事に起因するものでありまして、今後內地米の產額增加に伴つて移出米は益々增加するものと考へられ、自然不足を生じて來る島內消費米は、外米によつて補はれる様になるのではないかと考へられます。

八　內地市場に於ける本島米

內地に於ては近年朝鮮米移入激增の結果、外米の輸入を抑制する傾向があります、其上本島米が移入增加すると、外米は益々減少する事になります、之に反し本島米は母國食糧政策上愈々重要なものとなり、殊に內地種米の販路が開拓されました以來其聲價は非常なもので、朝鮮米と同等或は夫れ以上の歡迎を受けて居ります。而も本島の內地種米は年々其產額を增して行く形勢を示して居りますから、從つて內地に移出する數量も年々增加し、近い將來に於て內地から外米を全く驅逐してしまへる時機があらうと思ひます。

本島米の內地に於ける主な市場は、東京・名古屋・大阪・神戶・關門・長崎・等でありまして、其他那覇・三池・朝鮮〃釜山・小樽・八重山・鹿兒島等へも少し宛移出されて居ります。

東京は震災後一時金融梗塞と信用收縮の結果、米商も甚しく疲弊して思惑がかつた先物取引を殆ど不可能ならしめました。又勞働者はバラック式復興景氣に煽られて生活程度が急激に昂上した結果、一時外米と共に臺灣米の需要は激減しましたが、夫れは極く僅かの間の現象であつて、其後間もなく不景氣風は勞働者の賃銀を降下せしめ、又以前通り再び臺灣米の御得意となりました。殊に深川・神田川・の正米商が內地種米の眞價を認めて、朝鮮米の代りに買ひ競ひ出しました事は注目に値します。

名古屋に於ける臺灣米の勢力は近來朝鮮米以上に歡迎されて居ります。之は同地附近は生活程度低く賃銀の安い土地で、從來裾米の需要地であつた關係であります。以前名古屋は港灣が不完全であつた爲め一旦四日市に移入したものを艀船で名古屋に輸送した關係上、四日市市場が割合多額の移入を見ましたが、今日では名古屋直揚が激增しまして、四日市は殆んど杜絕してしまいました。

大阪は從來から朝鮮米の中心市場であり、神戶は外米の取引中心市場でありまして、輸入米穀商組合があつて其の多くは又臺灣米をも取扱つて居ります。元來臺灣米が外米と同じガンニー袋を使用して居り、値段も品質も大體大差がないので、地方によつては臺灣米をも一口に外米と云つて居る處があります。神戶で臺灣から直接移入して居るものに岩崎商業支店・瑞泰出張所・山田・重藤・柴田・玉田・藤澤・田宮・等があり最近農業倉庫の米を移入した睦商會があります。又三井支店も組合外ではありますが矢張り取扱つて居ります。

今日神戶に次で大きな臺灣米の市場は關門市場であります。其販賣區域は九州一體の外、四國・山陰・の一半まで擴がり、其御得意は炭礦勞働者であります。今日炭礦と云ふ炭礦には殆んど臺灣米が行き渡つて居りますが、之は從來臺灣米が內地米の混用として使用されて居りましたのが、近時官憲の取締が嚴重で殊に熊本縣等は混合を絕對に許さない方針を取つて居りますので、米商側では外米の代りに臺灣米を臺灣米として一本で賣込む可く極力努力しました結果に外ならないのであります。

三池、長崎等にも便船の都合で入りますが、三池は其附近に炭礦を持つて居る爲め相當移入され、今後も有望視されて居りますが、長崎は唯だほんの其附近だけの消費で、臺灣米の市場としては語るに足りません。

元來臺灣米は內地米の混合用として使用されて居りましたものが多く、其點からして北部丸粒米卽ち短廣花螺等と云ふ米が喜ばれて其目的に供せられて居りまして、普通粳米より四、五十錢高値に取引せられて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。然し乍ら九州方面炭礦向としては先に申しました通り、臺灣米一本で賣れて行く樣になりましたが、全く一本で賣れて行くのは內地種米と丸糯とであります。

內地種米は在來米と其需要家を異にして居ります。即ち個人の購入以外に製紙家・機業筋・其他の團體に纒まつて賣れて行きます、朝鮮米が內地に入るのは每年十一月から翌年四五月迄で、五月以降からそろ〳〵端境期に達し、內地の在米が古くなつて來た處に臺灣から第一期作の新しい香を持つた米が入つて行くので、朝鮮米の代りに吾が內地種米が大變歡迎せられるのであります。それですから內地種米としては、どうしても此臺灣獨特の有利な條件の着いて居る第一期作米を、今後益々多量に內地市場に出すと云ふ事が肝要なのであります。然らば第二期作はと申しますと、勿論內地種米を出しても有利でありますが、夫れ以上のものが控へて居ります。即ち丸糯米であります。丸糯米は東京にも歡迎せられますが主として京阪地方で多量に消費せられます。臺灣丸糯米は粒形食味共に內地糯と大差なく、幾分粒力が足りない樣に思はれます。が併し內地の陸稻糯よりも遙かに歡迎されます。

近年內地市場に於ける臺灣米の相場を調べて見ますと、神戶市場に於ける一石價格は次の樣な次第であります。

年	內地米	指數	臺灣粳米	指數	內地種米	指數	丸糯米	指數	朝鮮米	指數	外國米	指數
大正十二年	三二・一二円	一〇〇	一九・二四円	五九・八四	二九・三〇円	九一・二三	二四・二八円	七五・五九	二七・五七円	八五・八六	一八・五五円	五七・七五
大正十三年	三九・一三	一〇〇	二三・八二	六〇・八五	三三・六六	八六・〇二	三四・三〇	八七・七〇	三四・二五	八七・六一	二四・〇九	六一・五六

即ち內地種米及丸糯米或は朝鮮米が內地米に對しまして其八掛內外の相場を保つて居るのに較べて、本島在來粳米は六掛內外でありまして、聊か安値過ぎる樣に考へられます。尤も在來粳米は從來外國米を標準として取引される關係上、常に外米に支配されてゐる傾向があります。が併し曾ては內地米の八掛で賣れた時

代もありますので、内地の需給並に米價の如何に依つては内地米に稍寄する事は必らずしも不可能とは思へませんo 夫れには先づ產地取引の改善が急務であります。現在内地市場では米の實質によりまして値稍を付け、良米は良米として高く買ひますが、本島產地では二等米でも三等米に格下して取引するのが從來の慣習です。だから農民は馬鹿を見て居る譯であつて、從つて農民としても品質の點に重きを置かず、單に收量本位となる傾向は免れない次第であります。其結果は產米改良に對する農事方面の改良奬勵事業が不徹底に歸してしまいます。產地取引の改善と相關聯して當然内地取引が又等級取引にならねばなりません。現在では三等米を標準として中南部米と云ふ單なる形式で。三等米かつ〳〵と云ふ處が多く内地に出て居りまして、優良な米は比較的上値で島内で消費されて居ります。そうかと云つて中には良質な米も内地に出るので、結局品が不揃と云ふ事に歸しませう。斯る取引は米商としては面倒でなく、實際どんな米か知らないでも取引が出來て便利かも知れません。が併し斯る方法を繼續して居る間は、在來米の聲價は何日迄たつても今日より昂上する事は期待されません。結局等級によつて格付し、良質の米であれば相當の値稍で取引される樣に改める事が緊急な問題であります。現に農業倉庫の米は乾燥調製共に甚だ完全で、申分のない米が出ますので、先般當地にやつて來ました神戸の睦商會の主人等は此の優良な農倉米を非常に希望し、相當の値段で幾らでも引受けると云つて居りました。斯る次第で、臺灣から良い米を出せば、内地では夫れ相當に認めて吳れる時代となつて居りますのにも拘はらず、依然として三等米ばかり出して居る事は如何にも殘念な事であります。之は單に臺灣米の品質昂上を阻害するばかりではなく、農民の福利慈いては本島產業開發上からしても甚だ遺憾な事で、一刻も早く等級取引の實現を望む次第であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣とマラリア

眞倉民治

一 緒言

臺灣と謂へば、マラリアを聯想するほど、マラリアを恐怖した時代。マラリアの暴威を逞ふするや、全く戰慄せざるを得ざりし時代は、早や過去に屬した。改隷以來、春風秋雨玆に三十年の星霜を閲して本島は文化燦然たる樂土となり、衞生方面に在つても、其の善處せる施設と、高唱せし改善とは、著るしく民衆衞生觀念の向上となつて、更始正に一新、逐年好果を齎らしつゝあるは、眞に盛世の餘澤に外ならない。併し本島に於けるマラリア並にマラリアに因する疾患は、本島の亞熱帶圏にある、地理的關係上から絶對に其の勦滅を見んこと恐らくは、期して俟つ譯には行くまい。

由來、マラリアとは惡しき空氣（伊太利語のMal' arias）の義にして、往時之を瘴癘性の疾患となせり。彼の明治七年の戰役に際し、我が出征軍に、猖獗を極めし惡疫の過半は、マラリア病に外ならざりしなり。又領臺の當初に於て、臺灣熱病として、土匪以上に心膽を寒からしめたるも、亦マラリア病なりしなり。本島人は之を稱して寒熱症といふ。

而してマラリアの大勢を、從來の歸嚮と、現在の推移とより觀察するに、樂觀すべき時期に到達するのは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近き將來であらう。夫れは現行の衛生行政の設備——同病唯一の媒介者たる、アノフエレス蚊族發生の場所、或は棲息の巣窟たる、竹林・藪叢又は瀦水池を整理し、伐採に排水口之れ閉め。一面マラリア原蟲保有者を檢出し、直に無償にて服藥を強ふる等、最善なる方法上の制度——からの歸結である。

斯くして現在のマラリアは、全島第一位の死因たる地位を代へたりとは言へ、風土病としては今も尙ほ第一に指を屈せざるを得ざる情勢を續けて居る。又マラリアが遠因をなして各種疾病の萠芽となり、惹いて體格の發達を阻碍し、乳幼兒の死亡率を高め、或は生産能力の減殺を來たすなど、マラリアの禍根を數へたら實に憂慮に堪へざるものが多々あつて、獨り保健衛生上からの問題のみではなく、産業上の見地から觀るも忽諸に附すべからざる事である。故にマラリア防遏事業は萬難を排しても、層一層徹底的に強行せなければならぬ。

併し、一口に臺灣のマラリアと言ふが、全島一般に普遍的のものでないのは勿論であつて、臺北市を中心に其の附近に居住するもの杯は、十數年來、マラリア病の發作狀態、又はマラリアの適藥をすら知らぬ樣な情勢である。同病の分布狀態に就ては後に縷述しよう。

二　マラリアの死亡實數

改隷以來のマラリアに因する、死亡實數といふも、明治三十年は百事草創の時代とて醫院と公醫の取扱に係るものゝみ記錄に止まり。又翌三十一年は上記の外、警察官吏に就き調査せしものゝみで、是亦た全島マラリアの全部を網羅せしものではないから是等を省略し、三十二、三年頃よりのマラリア死亡數を通覽するに、其の一萬人を超えたのは三十五年乃至四十二年の間である。其の中で三十八年は九千人臺を示してゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

作然玆に注意を要するは其の當時の人口との釣合を攻ふべき事を忘れてはならぬ、即ち三百萬内外の現住人口でこの割合を示したのである。爾來九千人臺に低下し、又八千、七千、六千臺と引續き遞減して逐年好況を呈したが、大正四年、五年の兩年に至つて又〳〵逆轉して一萬臺に上つた。無論此の時は人口も三百五十萬内外に増加したが、兎に角マラリア死亡に大増加を來した譯である。人口と死亡率との關係は後に述べよう。

從前の事實は姑く措き、最近大正六年より同十二年に至る七箇年間の一年平均マラリア死亡數を算出するに八、一〇九人である。就中六年八、九四〇人を最高とし、大正七、八、九の三箇年は順次に遞減の歩調を持續したが、十年は前年に比較し八〇三人を増加し、十一年は更に八、九一六人に上り、越えて十二年は前年に比し約二千を減じて七、一六四人に低下したのは、實に領臺以來の好成績と謂ふべきである。如上の最近七箇年の事實に於てすら、高低常ならざる狀態であるから、本病防遏は些しも緊張味を缺くことは出來ぬ。

次に累年の死亡實數を擧げん。

□改隷以來の現住人口とマラリア死亡

年	現住人口	マラリア死亡
明治三十年	二、七九七、五四三	一、二三六
同三十一年	二、六九〇、〇九六	二、六七七
同三十二年	二、七五八、一六一	五、〇五五
同三十三年	二、八四〇、八七三	七、五二八
同三十四年	二、九二五、〇六四	九、四五二
同三十五年	三、〇〇〇、〇九六	一三、四四四
同三十六年	三、〇二五、五六四	一三、五〇四
明治三十七年	三、〇七三、六八三	一一、八八〇
同三十八年	三、〇四六、八五九	九、四四七
同三十九年	三、〇八〇、五四五	一〇、五八二
同四十年	三、一〇八、七二三	一一、七一五
同四十一年	三、一三二、三三五	一一、七四〇
同四十二年	三、一六八、二〇五	一〇、三三三
同四十三年	三、二一九、一一一	九、一〇四

同　四十四年	三、二八八、八七九	七、九四九
大正元年	三、五五三、九四三	六、九〇九
同　二年	三、四一八、二七〇	六、五七二
同　三年	三、四六八、七一九	八、八八五
同　四年	三、四八三、二六六	一三、三五〇
同　五年	三、五一〇、一一〇	一一、三四六
同　六年	三、五六〇、〇五〇	八、九四〇
同　七年	三、五八三、三九五	八、一九七
同　八年	三、六三〇、三八五	八、一一四
同　九年	三、六七三、二九〇	七、三一三
同　十年	三、一五一、二一七	八、一一六
同　十一年	三、八二一、五二八	八、九一六
同　十二年	三、八九一、九二一	七、一六四

三　マラリアに因る死亡率

總數　領臺當時の統計には、前叙の如く絶體數の調査を缺けるものがあるから、三十五年以後の事實を觀察しよう。三十五年、三十六年の兩年は人口千に對し四人四分の死亡率を算した、即ち現住人口二百二十三人毎に一人宛のマラリアに因る死亡の轉歸を見た情勢であつた。爾來明治四十二年迄は人口千中三人臺の死亡割合を示したが、其後衛生上の施設と民衆の自衛とは、本死亡の上に明かに大減少を來して二人臺に下り、大正元年は一・九四人、大正二年は一・九二人といふ一人臺の激減となり、大正三年更に二人臺に、大正四年と五年とは三人臺に逆轉增加を示した。是の現象は或は衛生施設の完成に賴み、却て反對に其の豫防上に弛緩を來した結果ではなかろう乎。或は一面山脚地方又は避遠地に於ける死亡に對し、從來は衛生機關としての醫師、醫生の闕如せしがため、止むなく病名不詳として葬られたるものが、醫療機關の充實に伴ひ、死因マラリアとして計上せられたのも亦本病增加の原因だと想ふ。而して大正六年以降は二人五分一厘より一人八分四厘（大正十二年）の間に遞減した。

□改隷以來のマラリア死亡率

年	人口千に付マラリア死亡	年	人口千に付マラリア死亡	年	人口千に付マラリア死亡
明治三十年	○・四四	明治三十九年	三・四四	大正四年	三・八三
同三十一年	一・○○	同四十年	三・七七	同五年	三・二三
同三十二年	一・八三	同四十一年	三・七五	同六年	二・五一
同三十三年	二・六五	同四十二年	三・二六	同七年	二・三二
同三十四年	三・二三	同四十三年	二・八三	同八年	二・二四
同三十五年	四・四八	同四十四年	二・四二	同九年	一・九九
同三十六年	四・四六	大正元年	一・九四	同十年	二・一六
同三十七年	三・八七	同二年	一・九二	同十一年	二・三三
同三十八年	三・一○	同三年	二・五六	同十二年	一・八四

内地人の狀態 種族を通じて全島總數のマラリア死亡を通觀するに、最多數の年ですら人口千人に付四人臺で止まつたが、之を内地人側より窺ふに明治三十二年は一一・六二人を示して種族平均の三倍に昂り、三十三年は八・○九人に減じ、三十九年は四・一五人に遞減した。而して四十三年以來は大正四年を除けば急轉直下一人臺に下り、累次逐年規則正しく遞減を示し、大正七年以後は大正十一年を除けば、一人に達せざる少數となつた。蓋し内地人は比較的醫療機關の充實地に居住すとはいへ、個人衞生の自覺向上せしに基因せしものと謂はざるを得ず。斯くの如くマラリアに當面して、顯著なる成績を擧げたるは、寧ろ一驚を喫する次第である。全く過渡期に於ける渡臺者は、遠く故郷を離れ、氣候の變化は勿論、飲食物又は嗜好品も意に任せず、從つてカロリーの減耗せし處へ附込み、マラリア菌の侵襲となり、病勢の熾烈となるは當然であり、結局土著の本島人以上に多數の死亡を出すは其の所である。然るに今日の内地人の死因としての位置は如何、第三位又は第四位に降り、其の結果として多衆内地人の腦裡から、マラリアが恐るべき疾患中より除かれた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふことを言ふに憚からぬ次第である。

今內地人の累年人口とマラリア實數の夫れと、同死亡率とを表記すれば左掲の如くである。

□內地人の現住人口竝にマラリア死亡及同死亡率累年比較

年	現住人口	マラリア死亡	人口千に付マラリア死亡
明治三十年	一六、三二一	三九〇	二三・九〇
同三十一年	二五、五八五	二七六	一〇・八
同三十二年	二三、一三〇	二八五	一二・三二
同三十三年	三七、九五四	三〇七	八・〇九
同三十四年	四二、一一六	二六四	六・二七
同三十五年	四七、〇六三	二四六	五・二三
同三十六年	五一、九四四	二二一	四・二六
同三十七年	五三、三六五	二三四	四・三八
同三十八年	五九、六一八	一五〇	二・五二
同三十九年	七一、〇四〇	二九五	四・一五
同四十年	七七、九二五	二四四	三・一三
同四十一年	八三、三二九	一八三	二・二〇
同四十二年	八九、六九六	一九七	二・二〇
同四十三年	九八、〇四八	一八〇	一・八四
明治四十四年	一〇九、七八六	一七八	一・六二
大正元年	一二二、七九三	一九五	一・五九
同二年	一三三、九三七	一七八	一・三三
同三年	一四一、八六五	二一六	一・五二
同四年	一三七、二二九	二八五	二・〇八
同五年	一四二、四五一	二四八	一・七四
同六年	一四五、二三二	二三四	一・六一
同七年	一四八、八二一	一二二	〇・八二
同八年	一五三、三三〇	一三二	〇・八六
同九年	一六六、六二一	一六一	〇・九七
同十年	一七四、六八一	一七三	〇・九九
同十一年	一七七、九五三	一八〇	一・〇一
同十二年	一八一、八四七	一三三	〇・七三

本島人の狀態　概して總數として觀たる傾向と略ば同一で、領臺當時に比し約半減したが、其の減少率は遲々として內地人に比倂すべくもない。之を數年前に較ぶれば勿論逓次減少を來したが、尙二人臺にあつて、最近大正十二年は最も好成績を擧げ、初めて一人臺（一人臺と稱するも未だ二人に近き一・九人を示したるに過ぎず、內地人の明治四十三年頃の死亡率）となり、之を同年の內地人（〇・七三人）と比較するに一・一七人

の著るしい差を存する。であるから本島人に對しては、個人的衛生觀念を徹底的に涵養せしむる必要が緊急事である。卽ち本島人千に對するマラリア死亡率を左に掲げる。

□本島人の現住人口竝にマラリア死亡及同死亡率累年比較

年	現住人口	マラリア死亡	人口千に付マラリア死亡
明治三十年	二,七八一,二三六	八四六	〇・三〇
同三十一年	二,六六四,五一一	二,三九一	〇・九〇
同三十二年	二,七三五,〇四一	四,六七〇	一・七一
同三十三年	二,七〇七,三三六	七,二三一	二・六八
同三十四年	二,七八八,六六三	九,一八八	三・二九
同三十五年	二,八五五,〇八四	一三,一九八	四・六二
同三十六年	二,八七一,六四一	一三,二八六	四・六三
同三十七年	二,九一五,九八四	一一,六四六	三・九九
同三十八年	二,九七九,〇一八	九,三九七	三・一五
同三十九年	二,九九九,三一四	一〇,三六七	三・四六
同四十年	三,〇一九,四〇二	一一,四四二	三・七九
同四十一年	三,〇三六,八五五	一一,五一九	三・七九
同四十二年	三,〇六四,九一七	一〇,一一五	三・三〇
同四十三年	三,一〇六,三三三	八,九〇一	二・八七
明治四十四年	三,一六三,七八七	七,七五三	二・四五
大正元年	三,二一三,二二一	六,六八一	二・〇八
同二年	三,二六五,一六九	六,三七九	一・九五
同三年	三,三〇七,三〇三	八,六四〇	二・六一
同四年	三,三三七,八一二	一三,〇四五	三・九二
同五年	三,三四九,〇三五	一一,〇六九	三・三一
同六年	三,三九五,六〇五	八,七六三	二・五八
同七年	三,四一三,四一四	八,〇六七	二・三六
同八年	三,四五四,一六七	七,九六六	二・三一
同九年	三,四八一,八三三	七,一三四	二・〇五
同十年	三,五四八,〇五三	七,九〇三	二・二三
同十一年	三,六一四,三〇七	八,六八五	二・四〇
同十二年	三,六七九,三七一	七,〇〇五	一・九〇

四　總死因としてのマラリアの位置

●總數● 明治四十四年迄は例年マラリアの死亡が、總死因中の第一位を占め來りしが、大正元年乃至同三年は第二位に下り、下痢腸炎第一位なりき。同四年、五年の兩年には又マラリアが第一位となり、亞で大正六

年以降は第二位又は第三位に下つた。

本島に於て種族と疾患との關係に就き著しき偏差を示すものは、急性傳染病中の腸チブスと、地方病としてはマラリアとである。以下簡單にマラリアの種族に依る差異を述べん。

内地人の狀態　マラリアの總死因の順位を内地人に就て觀るに、明治四十三年迄は第一位を示せども、四十四年より大正三年迄は下痢腸炎第一位を占めマラリア第二位となり、大正四年より六年迄の三箇年間はマラリア又第一位に復歸し、爾後第二位（大正八年）より第六位（大正七年）の間に在り。特に最近大正十二年の狀態を觀るに、マラリアは總死亡の六・三%を示して第四位なり。之を第一位の肺結核に比して三・八%低く、下痢腸炎に比して二・六%低く、又肺炎及氣管支肺炎に較べて〇・八%低し。マラリアの次位にある先天性弱質及幼兒に固有なる疾患に較ぶるに、僅かに〇・三%の差あるに過ぎず。此の推移より豫測するに、マラリアは爾來下降する傾向著しきものと謂ふべし。次に内地人死亡病名中マラリア迄の順位を表章すべし。

□内地人死亡中マラリア迄の順位

年	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位	第六位
明治四十三年迄	マラリア					
同　四十四年	下痢腸炎	マラリア				
大正元年	下痢腸炎	マラリア				
同　二年	下痢腸炎	マラリア				
同　三年	下痢腸炎	マラリア				
同　四年	マラリア					
同　五年	マラリア					
同　六年	マラリア					

同　七年	肺炎及氣管支肺炎	流行性感冒	肺結核	脚氣	腦膜炎	マラリア
同　八年	肺炎及氣管支肺炎	マラリア				
同　九年	流行性感冒	肺結核	肺炎及氣管支肺炎	マラリア		
同　十年	肺炎及氣管支肺炎	肺結核	マラリア			
同　十一年	肺結核	肺炎及氣管支肺炎	マラリア			
同　十二年	肺結核	下痢腸炎	肺炎及氣管支肺炎	マラリア		

●●●●●**本島人の狀態**　本島人の死因としては、大正元年迄はマラリヤ第一位を堅守せしが、大正二、三年は下痢腸炎第一位となり、マラリア第二位に下り、大正四年、五年は内地人の趨勢と同じくマラリア又擡頭して第一位を占め、爾來大正六年以降は第二位にあらざれば、第三位として存在して、第四位に下る事なし。之を大正十二年の事實に徴すれば、肺炎及氣管支肺炎。下痢腸炎に次で第三位を維持し、第二位の下痢腸炎に比し三・一％低く、マラリアの次位たる肺結核に較べ、一・五％の著差あれば、暫らくは第三位にあるものと信せざるを得ず。累年死亡原因中マラリア迄の順位を例により羅列すれば、左表の如し。

□本島人死亡中マラリア迄の順位

年	第一位	第二位	第三位
大正元年	マラリア		
同　二年	下痢腸炎	マラリア	
同　三年	下痢腸炎	マラリア	
同　四年	マラリア		
同　五年	マラリア		

同　六年	肺炎及氣管支肺炎	マラリア	
同　七年	肺炎及氣管支肺炎	下痢腸炎	マラリア
同　八年	肺炎及氣管支肺炎	下痢腸炎	マラリア
同　九年	流行性感冒	肺炎及氣管支肺炎	マラリア
同　十年	肺炎及氣管支肺炎	マラリア	
同　十一年	肺炎及氣管支肺炎	マラリア	
同　十二年	肺炎及氣管支肺炎	下痢腸炎	マラリア

五　マラリアの分布

總說　マラリアの分布狀態を闡明せんには、患者統計に賴るを本則とするも、同統計は資料として完備せしものなく、又其の單位視察に於ても、交錯する弊からして、寧ろ歸納的に反面死亡統計より推斷してマラリアの分布狀態を略叙せん。但し死亡統計を主體としたる關係上、以下述ぶるに當り死亡の夥多なる地方をマラリアの濃厚地とし、死亡の割合寡少なる地方を稀薄地とすべし。

州廳別に依る分布　州廳別に分布狀態を稽ふる前に、最も妥當なりと信ずべき最近大正六年より同十二年に至る七箇年間の年次的平均を索める必要がある。

マラリア死亡は州廳に依りて、著しき差異がある。卽ち分布の度合に厚薄ある次第である。(一)人口千人に對するマラリア死亡の割合は、如上七箇年間の全島一年平均のマラリア死亡實數は八、一〇九人にして、若し之をペッテンコーフェル氏の罹病率推算——死亡數に三十四を掛けたる積——をして信なりとせば、我が臺灣に於ける一年平均マラリア患者は無慮二十七萬五千七百人を算すべき筈である。而してマラリア死亡の首位を占むるは花蓮港廳の八・四人(人口千人に付)で、同廳住民百十九人毎に一人のマラリア死亡に該る割合で

ある。次は臺南州の三・四人、高雄州の三・一人の順位で、新竹州の〇・九人は最少である。臺北州は一・〇人で新竹州と軒輊なく、最多は花蓮港の約十分一である。若し夫れ全島平均位を覓むると二・二人であつて、臺中州(一・八人)と、臺東廳(二・三人)とは平均位に比し伯仲の間にある。又如上七箇年中で、大正六年の二・六人を最高率とし、同十二年の一・八人は最低率である、而して其の中間五箇年は七箇年平均(二・二人)と略々同率である。故に此の大量觀察は眞實なりといふ事が言ひ得る。(二)種族別に依る差異は、種族別の著差あるは前叙の如くであるが、この七箇年平均より考察せむに、內地人の全島平均は人口千中一人の死亡あるを語り、其の內容を一瞥するに、平均以上を示せるは東海岸の兩廳のみに限られ、臺北州の如きは僅かに〇・三人である。然るに本島人は內地人に倍加して二・二八人を示し、內地人と同じく花蓮港廳は九・三四人の最高率で、新竹州の〇・九一人最低率である。外國人の高低の距離過大なるは、畢竟州廳別人口構成の影響に基因する。委曲の記述は之を省き、次に表記を揭げむ。

□種族別マラリア死亡率 (最近七箇年平均、人口千に付き)

州	內地人	本島人	外國人	平均	州	內地人	本島人	外國人	平均
臺北州	〇・三三	一・〇四	〇・八八	〇・七七	高雄州	〇・九〇	三・二一	〇・九六	三・一三
新竹州	〇・三五	〇・九一	〇・七四	〇・九一	臺東廳	四・五〇	二・〇六	一・九〇	二・二八
臺中州	〇・九二	一・八三	〇・八四	一・八一	花蓮港廳	五・二九	九・三四	一〇・一七	八・四三
臺南州	〇・七八	三・五二	一・一〇	三・四五	全島	一・〇〇	二・二八	一・二八	二・二三

郡・市及支廳に依る分布 州廳別の分布狀態は前項に其の大要を述べた。されど同州・同廳にても地勢異なり風土異なるがためマラリア分布狀態に差異あるは當然である。故に分布狀況は少くとも郡・市及支廳別を單位として觀察せなければならぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今人口千に對するマラリア死亡の割合を窺ふに、最低位にあるは臺北市の〇・二人なり。亞で大溪・澎湖兩郡の〇・三人、新竹郡の〇・四人等の順位で、一人に達せざるは已上の外、二市、十郡、一支廳で、凡て十七市郡支廳を包括する。其の中臺東支廳の〇・六人の少數なるは、同支廳總死亡の六・七割は不明の疾患なるが爲めである。翻つて死亡率高き地方、卽ちマラリアの濃厚地は、大武支廳の一二・八人と、花蓮支廳の一〇・一人の二支廳は十人以上を算して、全島平均の二人内外なるに比し、廻に五倍、六倍の高率を認める。其の他五人以上の地方を擧げむに、玉里支廳(八・五人)、新高郡(六・九人)、潮州郡(五・五人)、竹山郡(五・三人)、東石郡(五・二人)と、屏東・新營(各々五・一人)の六郡、一支廳である。其の詳細を揭記すれば左の如し。

□マラリアの分布(市郡別)　(人口千に付死亡の割合)

□一人迄	
臺北市	〇・二
大溪郡	〇・三
澎湖郡	〇・三
新竹郡	〇・四
七星郡	〇・五
海山郡	〇・五
豐原郡	〇・五
竹東郡	〇・六
臺南市	〇・六
臺東廳	〇・六
宜蘭郡	〇・七
新莊郡	〇・七
中壢郡	〇・七
桃園郡	〇・八
竹南郡	〇・九
臺中市	〇・九
文山郡	一・〇
□二人迄	
羅東郡	一・一
員林郡	一・一
新港支	一・六
苗栗郡	一・七
大屯郡	一・八
南投郡	一・二
大甲郡	一・四
東勢郡	一・八
北斗郡	一・八
高雄市	一・八
基隆郡	一・九
研海支	一・四
基隆市	一・六
彰化郡	一・九
新豐郡	一・九
□三人迄	

岡山郡	二・一	虎尾郡	二・五	大湖郡	二・八		
淡水郡	二・二	里壠支	二・五	恒春郡	二・八		

□五人迄

北門郡	三・一	嘉義郡	三・六	斗六郡	四・〇	鳳山郡	四・二
東港郡	三・二	新化郡	三・七	能高郡	四・一	旗山郡	四・九
北港郡	三・三	蘇澳郡	三・九	曾文郡	四・一		

□十人迄

新營郡	五・一	東石郡	五・二	潮州郡	五・五	玉里支	八・五
屏東郡	五・一	竹山郡	五・三	新高郡	六・九		

□十人以上

花蓮支	一〇・一	大武	一二・八

更に總死亡百中の割合から、マラリアの分布を觀察せむに、全島平均位は八%内外であるが、郡・市・支廳別に觀ると、一層的確にマラリア厚薄の程度が分かる。尤も其の割合には、幾分各死因間の影響で多少の高低あると、概して死亡率に述べた樣に同型を呈してゐる。卽ち臺北市の〇・九%、澎湖郡の一・〇%は最寡少で、二十パーセント以上を突破せしものに大武（二九・五%）、花蓮（二六・一%）、玉里（二二・七%）の三支廳を認める。併して全島平均位に相當すべき地方は苗栗郡・恒春郡等である。例に依つて記述を略し、表記を揭げる。

□總死亡百中の割合より觀たるマラリアの分布（郡、市、支廳別）

一パーセント迄

臺北市	〇・九%	澎湖郡	一・〇%

五パーセント迄

大溪郡 一・四%	豐原郡 二・一%	南投郡 三・六%	文山郡 四・二%
臺東支廳 一・五%	新莊郡 二・七%	新港支廳 三・七%	竹南郡 四・四%
七星郡 一・八%	臺南市 二・九%	中壢郡 三・八%	臺中市 四・四%
新竹郡 一・八%	竹東郡 三・二%	員林郡 三・八%	大甲郡 四・九%
海山郡 二・一%	宜蘭郡 三・四%	桃園郡 三・九%	

一〇パーセント迄

羅東郡 五・一%	岡山郡 六・四%	基隆郡 七・三%	東港郡 九・一%
基隆市 五・四%	高雄市 六・六%	研海支廳 八・〇%	虎尾郡 九・六%
大屯郡 五・九%	里壠支廳 六・六%	苗栗郡 八・一%	
彰化郡 五・九%	東勢郡 六・九%	恒春郡 八・五%	
新豐郡 六・二%	北斗郡 七・〇%	淡水郡 八・六%	

一五パーセント迄

新化郡 一〇・一%	北門郡 一一・一%	斗六郡 一二・六%	屏東郡 一三・九%
嘉義郡 一〇・三%	曾文郡 一一・四%	北港郡 一二・八%	能高郡 一四・二%
鳳山郡 一一・〇%	大湖郡 一一・五%	新營郡 一三・一%	

二〇パーセント迄

竹山郡 一五・一%	潮州郡 一五・二%	蘇澳郡 一七・四%
旗山郡 一五・二%	東石郡 一五・四%	新高郡 一九・四%

二〇パーセント以上

玉里支廳 二三・七%	花蓮支廳 二六・一%	大武支廳 二九・五%

●●●●●●●●●●●●●●●●●マラリア死亡の順位より觀たる分布狀態

終りにマラリアの分布帶を窺知するの一法として大正十二年マ

ラリア死亡の總死亡に對する順位と、總死亡百中の割合とを擧げん。

「州廳別」臺北及新竹兩州のマラリア死亡は、總死因中の第六位を占め、總死亡の前者は四・九%、後者は四・四%を示した。臺中州は八・〇%にて第四位である。臺南・高雄の兩州は第三位であつて、前者は一一・二%、後者は一〇・〇%である。東海岸の兩廳は孰れも第一位であつて、臺東廳は七・六%、花蓮港廳は實に二一・九%の大多數を示した。之を要するに、北部は良好に、中部の臺中は總ての中位に位し、南部は佳良を缺き、東海岸は不良なりと言ひ得べし。

「郡・市・支廳別」州廳別は大勢を達觀するには便あるも、尙は盡さゞる嫌あるにより、前例に倣ひ、郡・市、支廳別を調査せん。マラリアを第一位とする地方は、臺北州に二郡。新竹・臺中・臺南の三州に各一郡。高雄州に三郡。臺東廳に二支廳。花蓮港廳は全廳の三支廳總てを包括して第一位を示せり。其の詳細を表記するに次の如くである。

マラリアを第一位とする地方（%は總死亡中、以下同じ）

臺北州	羅東郡	一二・三%	
	蘇澳郡	二一・〇%	
新竹州	大湖郡	一二・五%	
臺中州	新高郡	二二・五%	
臺南州	斗六郡	一八・七%	
高雄州	旗山郡	一五・六%	
	屛東郡	一七・七%	
	潮州郡	一四・九%	
臺東廳	里壠支廳	一一・四%	百分率の低位にあるは不明の疾患五四・八%を占むる故なり
	大武支廳	二八・四%	不明の疾患四八・三%あり
花蓮港廳	花蓮支廳	一五・九%	同四・一九%あり
	玉里支廳	四〇・〇%	
	研海支廳	三一・〇%	

マラリアを第二位とする地方

新竹州（竹南郡　五・九%
臺中州｛能高郡　一〇・六%
　　　　竹山郡　一二・七%
臺南州｛新化郡　一一・九%
　　　　曾文郡　一二・〇%
　　　　新營郡　一五・〇%

マラリアを第三位とする地方

臺北州｛基隆郡　六・八%
　　　　宜蘭郡　八・八%
新竹州（苗栗郡　七・一%
臺中州｛彰化郡　九・七%
　　　　北斗郡　一一・六%
　　　　新豐郡　八・四%
　　　　北門郡　七・八%
臺南州｛嘉義郡　一二・九%
　　　　虎尾郡　九・八%
　　　　北港郡　八・〇%
　　　　東石郡　一二・六%
高雄州｛鳳山郡　九・七%
　　　　東港郡　八・三%
臺東廳（臺東支廳　二・九%（不明の疾患六九・八%あり）

マラリアを第四位とする地方

臺中州｛臺中市　五・六%
　　　　大屯郡　六・八%
　　　　大甲郡　五・八%
　　　　南投郡　七・八%
高雄州｛高雄郡　六・一%
　　　　岡山郡　六・〇%
臺東廳（新港支廳　四・七%（不明の疾患六一・二%あり）

マラリアを第五位とする地方

臺北州（淡水郡　五・九%
新竹州（中壢郡　四・六%
臺中州｛東勢郡　四・六%
　　　　員林郡　五・七%
高雄州（恆春郡　五・九%

マラリアを第六位以上とする地方

臺中州（豐原郡　三・五%……第六位
新竹州（大溪郡　三・九%……第七位
臺北州（七星郡　三・四%
新竹州（竹東郡　三・三%｝……第八位

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺北州｛海山郡 三・二%……第九位
臺北州｛文山郡 三・四%
新竹州｛桃園郡 一・三%｝……第十一位
新竹州｛新竹郡 一・八%……第十二位

臺南州（臺南市） 一・六%……第十三位
臺北州｛新莊郡 一・四%……第十四位
臺北州｛臺北市 ○・八%
高雄州（澎湖郡） ○・二%｝……第十九位

五　季節とマラリア

大正六年より同十年に至る平均數によつて、季節に依るマラリア死亡の狀況を檢覈するに、十一月最多にして一一・四%を示し、亞で十二月の九・八%、十月の九・九%等で、寡少なるは四月の五・八%を最とし、三月（六・三%）、二月（六・五%）等之に次ぐ。若し最近大正十二年の一般死亡と月別との關係を觀るに、各月間平衡を保ち、著しき弛張を呈せざるも、又定型的傾向の一端を窺ふ事が出來る。卽ち七月の九・四%を第一位とし、二月の九・三%之に亞ぎ、夫より十二月（八・七%）、八月（八・一%）の順位である。寡少なるはマラリアと同じく四月（七・四%）を首とし、九月（七・八%）、十一月（七・九%、マラリアに在りては最高位の月）等の順位である。由來本島の死亡は七、八月の候と、十二月、一月の季に多數なるを例とするも、マラリアは然らず、前述の如く十一月前後に多數を認むるは同病の特性ならん乎。

□マラリアと總死亡との月別比較　（百分比）

月	マラリア	總死亡	月	マラリア	總死亡
一月	八・九	九・三	六月	七・四	八・二
二月	六・五	八・一	七月	八・九	九・四
三月	六・三	八・三	八月	九・三	八・七
四月	五・八	七・四	九月	九・一	七・八
五月	六・七	八・一	十月	九・九	八・一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十一月	一一・四	七・九
十二月	九・八	八・七
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

六　年齢とマラリア

（1）**總説**　マラリア死亡と年齢との關係を觀察するに、先づ年齢を五歳階級に括約し、更に出生より五歳迄の乳幼兒級を各歳に區分し、又老年級として八十歳以上を別に一括して、年齢對マラリアの影響を討ぬるに、最多數の死亡を現はしたるは、一般死亡と同じく五歳迄の幼兒級で三〇・三%に該る。即ち全マラリア死亡の約三分一はつまり五歳迄に斃れる割合である。亞で五歳以上十歳迄の一〇・〇%を第二位に多數とし、第三位は三十歳以上三十五歳級の六・四%である。夫より第四位乃至第六位は孰れも六・一%で、二十歳以上三十歳級の二階級と、三十五歳以上四十歳級との十五年間である。之を要するにマラリア死亡は一般死亡と同じく幼、少年級の十歳迄を除外して考察すると、二十歳以上四十歳迄の生産年齢期にある中堅者を斃す惡疾患なる事が分かる。

（2）**州廳別**　州廳別の差異を觀察するに、大體全島平均と同傾向を辿れども、多少の差異あるから、其の大要を摘記せむに。

（1）五歳迄の幼兒の三〇%以上に達せざるは、臺北（二三・五%）と、新竹（一九・二%）との兩州のみで、斯くマラリア死亡率の寡少なる地方に限られたるは、或はマラリア患者の系統が多くは生産年齢者が他地方に出役して罹病し、歸郷後死亡するからの現象にあらざるなきか、從て幼年級者は勞務上、煩羈を來たす關係上本居地に留まる結果寡少なるにあらざる乎。

（2）第二位に多數なるは、凡て五歳乃至十歳級にあれども、獨り臺東廳は然らず、三十歳以上三十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

級（八・一％）にあるは全く奇現象と謂はざるを得ず。由來同廳は漢人種僅少で、其の大勢は蕃人なると倶に、人口の密度も極めて稀薄なため、偶々或る年齡級に多數の死亡ありとせんか、其の餘波は僅少なる年齡階級人口に影響すること當然なるは贅言を要せずして明なりとす、蓋し前項に述べたるが如く本年齡者の死亡多數なるは、否むべからざる事實である。

（3） 二十歲以上三十歲級は、各地方ともに第五位迄であるが、花蓮港廳は然らず。即ち三位より五位は凡て三十歲以上の十五箇年間に含有せらる。

其の他の州廳別の差異に就ては、之を次表に讓る。

□年齡別マラリア死亡（大正六年乃至同十年の五箇年間平均）

年齡	臺北	新竹	臺中	臺南	高雄	臺東	花蓮港	全島
〇—一歲	六・三	三・二	一一・九	八・一	六・四	六・五	九・八	八・〇
一—二	五・九	五・六	七・一	八・九	一〇・〇	一一・二	七・七	八・二
二—三	四・四	四・九	五・〇	五・八	六・七	七・〇	五・四	五・七
三—四	三・四	三・一	四・一	四・八	五・八	四・八	四・三	四・七
四—五	三・五	二・四	三・一	三・六	四・一	二・四	三・八	三・六
計	二三・五	一九・二	三一・二	三一・二	三三・〇	三一・九	三一・〇	三〇・二
五—一〇	九・一	一三・〇	八・七	一〇・八	九・七	六・〇	七・一	一〇・〇
一〇—一五	六・一	六・七	五・五	六・五	四・三	三・六	三・五	五・六
一五—二〇	七・一	七・八	五・六	五・六	四・七	二・九	四・〇	五・五
二〇—二五	七・五	八・六	六・一	六・〇	五・四	五・六	五・二	六・一
二五—三〇	七・三	六・四	六・〇	五・八	六・一	六・五	六・〇	六・二
三〇—三五	六・三	六・一	六・八	六・〇	六・七	八・一	六・三	六・四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三五―四〇	六・八	四・七	六・五	六・〇	七・〇	七・七	六・四	六・一
四〇―四五	六・八	五・三	五・九	五・一	五・八	六・五	六・三	五・六
四五―五〇	五・四	四・四	四・八	四・一	四・四	六・三	五・九	四・五
五〇―五五	四・三	三・六	三・六	三・六	三・四	六・八	五・四	三・六
五五―六〇	三・三	三・三	二・九	二・八	二・九	二・九	三・三	二・九
六〇―六五	二・七	四・一	二・四	二・三	二・七	二・九	二・八	二・六
六五―七〇	一・九	三・四	一・八	二・二	一・八	一・四	二・〇	二・二
七〇―七五	一・二	二・二	一・二	一・五	一・二	〇・七	一・六	一・四
七五―八〇	〇・五	一・四	〇・七	〇・八	〇・六	〇・三	一・〇	〇・八
八〇―	〇・四	〇・九	〇・四	〇・四	〇・四	―	〇・三	〇・四
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

一般死亡との對照　年齢關係の終りにマラリアと、一般死亡との異同を考察するに、其の要項次の如くである。但し一般死亡の比例は大正十二年分に據る。

(1)　總死亡の五歳迄は四二・七%を示せども、マラリアの同年齢者は一二・四%低し。是れ確かにマラリアの幼年者に尠少なるを物語るものである。特に一歳迄を對比するに、マラリアの八・〇%に對し、一般死亡率は迥に高率の二六・七%で、約三倍半の較差を認めらる〻。

(2)　マラリアは二十歳以上四十歳迄の二十年間を死亡多數の期間とするに反し、一般死亡者は老衰級の七十歳以上級の六・六%を第二位とするは、固より其の所なるも、第三位以下の多數も比較的中老者級たる三十五歳以上五十歳迄にあるを觀ば、マラリアの死の魔手は全く青壯年級を奪ふことが分かる。

其の他の年齢階級に於ける詳細は次表を以て説明に代へる。

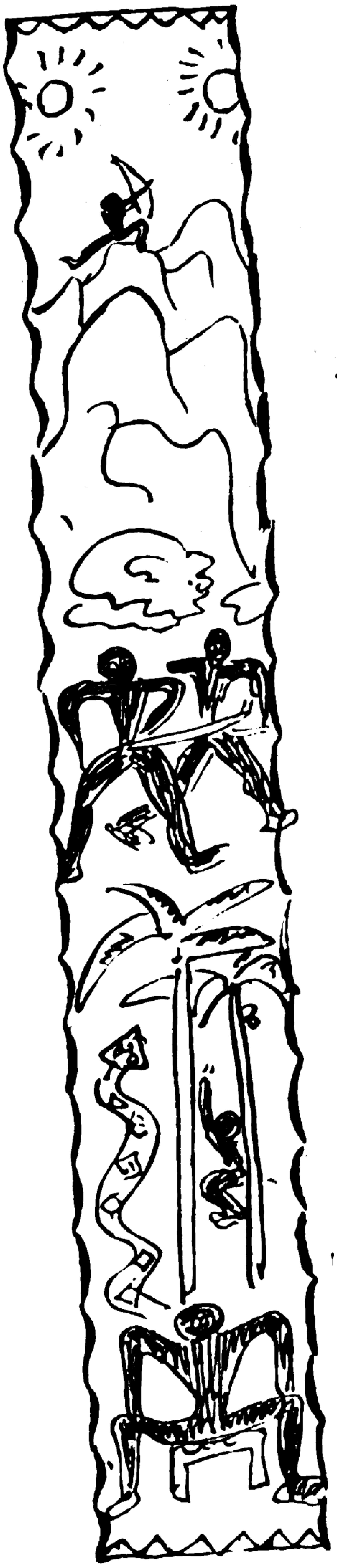
□マラリア死亡者と一般死亡者との年齢別比例比較

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年齢	マラリア死亡者	其の他の死亡者
〇—一	八・〇	二六・七
一—二	八・三	八・一
二—三	五・七	四・〇
三—四	四・七	二・四
四—五	三・六	一・五
計	三〇・三	四二・七
五—一〇	一〇・〇	三・六
一〇—一五	五・六	二・二
一五—二〇	五・五	二・八
二〇—二五	六・一	三・五
二五—三〇	六・一	三・六

年齢	マラリア死亡者	其の他の死亡者
三〇—三五	六・四	四・二
三五—四〇	六・一	五・〇
四〇—四五	五・六	五・一
四五—五〇	四・五	四・九
五〇—五五	三・六	四・四
五五—六〇	二・九	三・七
六〇—六五	二・六	四・〇
六五—七〇	二・一	三・七
七〇—	二・六	六・六
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

（終）



征臺軍惡疫に惱まさる

水野遵氏手記

「征蕃私記」の一節

臺灣總督府初代の民政局長たりし故水野遵氏は明治七年の征臺役に通譯官として從軍し、後同十二年東京に於て當時の事實を記錄した。「征蕃私記」は卽ち夫れである。本文は西鄉都督が當時牡丹蕃社の膺懲を終り、北京に於ける日支交涉の成行如何を待つ間に、偶々龜山本營に起りたる大慘事の實況を錄したもので、五十餘年前の臺灣南端の蕃地に於て、如何に惡疫が其の暴威を恣にせしか、其の狀觀るが如くである。爾來二十年、本島改隸の當初に於ても亦た之に類する事實は尠くなかつた。卽ち並に掲げて懷往の一資料とする。

（略）八月下旬より「弛張熱」の患者、兵隊又は夫卒中にちら〳〵と相見え、醫官も初めの程は一時の輕疫なりとして掛念の樣子もなかりけるに、其病炎次第に蔓延して九月の末頃には遂に撲滅すべからざるの勢にいたり、全軍中悉皆此病に罹らざるものなし、只南部の士にて余の親友杉村濬君のみ其疫を免れたり、病勢最熾のときは一日間に十三人を埋葬せしことあり、全體此の病は兵隊卒夫の如く一室中に密居する處に多く流行すれば、日々の使役に供する夫卒に事を缺き、近方の土人を數百人會計部へ傭ひ入れ、

薪炊看病等の勞に服せしめたりき、余は九月一日より風港支營に出張なし、專ら北方蕃社招撫の事に横田、杉村の兩氏と共に盡力せり、既に一月間を過ぎ十月の末頃に至り常用の煙草を喫し了りければ、同僚彭城忠平氏へ煙草の請求狀を認め、土人を雇ひ龜山本營へ遣はしけり、其翌日煙草は一筥到著したれども彭城氏の回信なく、盧高朗君より彭城は昨夜鬼籍に上れり、其他の諸士も悉く重症に罹りたれば、日々の事務をとるもの一人もなしとこそ申し越されたり、此時余は龜山本營の方心元なく思はれたれば、病を侵して其翌日小舟に打乘り、龜山の後灣に近付き、海岸に見なれぬ木標の林立するを望み見、甚だ奇態の事と思ひ、船頭に打向ひ那處の木標は何なるやと問ひければ、そは日本兵士の墓標なりとぞ答へたりき、余は曾て想像せしよりも墳墓の多きに愕き、暫くは言葉も出ざる程なりしが、上陸の後墳墓壘々の中を歩行するに、何某は何月何日死と誌せるは悉く識面の人のみにて、哀れ余も日ならずして此の中に伍をなすやも計られず、人生は眞に夢なりなど丶獨り心に問ひ心に答へて營門を東に入れば、一月前の景況とは翻然と打變り、秋草は茫々として脛を沒し、兵舍は兩回の颶風に吹倒されて砂上に傾きたるまゝにて、其破窓の下には病者伸吟の聲充滿せし有樣こそ、哀とも筆紙の能く盡くす所にあらず、余は地方課の營內に到るに、四面の簾を下ろして營中寂然人なきかと疑はるゝ許りなり、怪しみつゝ內に入れば、同僚の諸氏は悉く病み衰へて、さながら鬼の如くに見えければ、思はずも聲を發して諸君は痛く衰へ玉ふものかな、冥土の鬼とやらの如く見え侍ると呼びければ、病者は余を顧りみ左宣ふ君の顏色こそ疲て鬼の如く見ゆると答へられければ、さらば鏡を借されよとて病顏を打照して始めて衰弱せしを知りたるも亦一奇事なり、然れども余は病たりとも平臥せざれば、再び局を開き常務を執り、其の餘閑には營中の病士を訪尋し、北京政府との談判如何なるやと只その快報を待つの外餘事なかりき、此の節折惡しく南海暴風の候なれば、海岸の高浪は山をなし運送船の中々岸近く寄泊なすべきにあらざれば、陣中次第に粮食缺乏するの風說ありて痛く有司の心勞を重ねたり、然れども幸に當時は全軍病人のみにて、飯を食ひ得る者は二千五百人中僅かに十五六人に過ぎず、其の他は何れも粥又は米汁を啜る位なれば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米は無くなるとも恐れざれども、醫藥の拂底には却て困却せり、夫は最初軍醫航來の節は、軍陣必須の藥品を齎し來りしに、豈圖らむや軍は何の事もなく相濟みたれども、俄然數千の熱病患者の一時に出來たりしかば、醫官貯藏のキナは僅かに一月間を出ずして既に用ひ盡くしたり、却て病魔は其勢を恣まゝにし、醫藥は益々品切れとなる、運輸船は一艘も來港せず、玆に於いて醫官の心苦實に筆頭の話し盡す所にあらず、加之醫官並に看病夫とても各限りある人數にて、且鐵石もて造れる身體にあらざれば、尋常の人よりも早く重症に罹りて病床に打ち倒れたり、されば如何なる危篤の患者ありとても、回診などは思ひもよらず、又病人とても治療をうけずして幾日も臥病しあれば死を待つより外なし、到底臨機の所置なくては此の危急を救濟し難しとて、會計部に於ては土人數十名を傭入れ、之を各營に分配し、病人を負ひて每朝醫局に來往なさしめたり、是に於て炎日の下を土人の肩に倚りて醫局に出入するもの恰も織るが如く、其景狀は兎ても日本に居る人々の能く想像の及ぶところにあらず、其頃長崎より居牛屋・蕎麥屋・豆腐屋など四五人づゝ渡來なして、何れもよき生意（アキナヒ）をなさばやと陣中の一閑地に茅屋二三戸を築き、始めて開店の時は門外人の市をなして繁昌なしにけるに、開店後未だ五六日も過ぎざるに悉く流行病に罹り、牛屋一人蕎麥屋一人死去したり、其の他之に畏縮して次便の船にて長崎へ逃げ歸りけるこそ氣の毒の至りなりしが、蕎麥屋は蕎麥數十俵の損亡にて余輩も一箸二錢の高値なる蕎麥を食せざるのみなれば全軍の得失には更に關係なし、されど桶屋の死去せしには差當りの迷惑如何ともなし難し、其迷惑とは桶屋在世の日は埋葬用の棺は事缺く事なかりしに、桶屋の死沒せしより車城の桶匠を傭入れ棺を造らせけるに、支那にては埋葬に立棺を用ひるの制にて、死人を桶に入るゝ事は夢にも見たる事なきものなれば、兼ての差圖に構はず、長六尺口二尺計なる長圓形の桶を造り出せり、其不便なるには實に困し果てたり、又一日間に土人の造り出せる三四個の桶にては、とても多數の死人を埋葬する事能はざれば、更に大工に命じて筥を作らせ、其急を救ひ居りしに、日本より運輸せし木材も既に用ひ盡くしたれば、閑房の床板を剝ぎ取りて漸く其の用に供しけり、營中に居て傍の床板を剝ぎ取らるゝときは、自己の

皮肉を削り取らる丶如き心胸に感動を生じたりと、人々後に語り合ひたり、左もありぬべき事にこそ、此時都督本營に於ては何どかなして兵氣を振起し病勢を撲滅せむものとて、砲隊に大砲射的を演習せしめ、或は營外に土俵を築き、相撲をなさしめて一旦の英氣を養ひたり、其時都督も相撲をなされたりしに、都督に敵する剛の者一人もなかりき、玆に一奇事あり、某兵の重症に罹り痛く熱に侵かされ、一滴の水に渴を潤して後死せむものとて、暗夜病床より走り出で、誤つて涸井中に陷落し、あわやと驚く際に病は夢の如くに醒めたりとぞ、此等は瘧熱に變症せしものか、何にいたせ不可思議な事と言ふべし、抑々此の惡疫の猛威を逞ふせしは、九月より十一月まで大凡百日間なり、其節に兵隊の瓜期交代なせし事ありしに、新渡の兵士は顏色赫然にして永屯の兵士は其容貌青黑なれば、赫黑兵の遊歩せるを見て、余等は久し振りにて眞の日本人を見たりとて喜びしに、程なく赫黑も青黑と變化し、上陸の當時は勇氣虎を搏す可きに似たれども、遂に蚊を捕ふるすら怖き迄に衰弱せしこそ畏るべき病なり、此弛張熱は毎年此の地方に流行すれども、斯く甚しき事は古今未曾有と聞き及べり、又熟蕃中にも往々患者のありと見え處々の門口に疾病除の神符を貼したる所多かりき。

却說日支の葛藤日々に急に迫り、將に其の曲直を干戈に訴へむ勢に及びし時、枋寮地方には弱兵ながら支那兵一千餘駐屯し、直に瑯嶠に襲來の擬勢を張り居たれば、此方にても其手當をなさでは豚尾兵に先を制せらる丶も計り難しとて、壯健ならずとも兵士の兵役に堪ゆべき者を選抜せしに、漸く二大隊中より一中隊の精兵を得たり、之を臨時の戰隊に編成し、非常を嚴戒せり、余等も病體ながら砂礫上に半年餘の永屯に退屈を催ほし、早く北京政府の談判戰に決しなば、此の炎熱地獄の苦を離脫し、臺灣府に突出し、清凉の空氣に呼吸し得る樂土に到らましと思ひ待りき。（畢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐洲婦人と衣服

小林準一

歐洲婦人の服裝は至極簡短であるかの樣に聞いておつた私は、渡歐の船中に於て、歐洲の婦人連が食事毎に別の衣服を着換へて出るのに驚きました。假裝會などのあつたときに、假裝に用ゆる衣服調度迄を持參して旅行しておるのを見て、更に一驚を喫しました。

私の見た所では歐洲の婦人の服裝とてそう簡短の物ではなからうと考へてゐます。と申して歐洲に限りたる事ではありませぬが、衣服の如きは其場所なり、其人の貧富境遇、身分の尊卑、職業、當人の趣味嗜好などに依りて各人異なるのであります。一概に簡短であるとか複雜とかいふ譯には參りませぬ。日本に於ても非常に簡短に、冬一裘夏一葛といふ如くに單物を袷に直し、又之を綿入に仕立てるといふ程の人もあれば、毎日取り換へ引き換へて生涯にも着切れない程に澤山所持しておる方もあらう。歐洲に於ても矢張りそうではないでせうか。歐洲の婦人の服裝は簡易であるといふのは、氣候風土の關係と暖房法の完全の爲めに、室内に於ては一年を通じて同じ服で通す事が出來ます。我國の如き嚴冬と盛夏とがあり、そして室内の温度が、殆んど外氣と同じ所では、夏冬を通じて同じく單衣を着ておる事は到底出來ませぬ。臺灣の南部など内地より來た許りの若い方などは、一二年は單衣で冬を越さうといふ元氣の人もないではないが、例外と見なければならぬ。又た冬の衣服を夏着るといふ事は、我國では想像もつかぬ所であります。歐洲だからとて何人も夏冬同じとは申しませぬが、下に少し厚い物を着れば上は單衣で冬も通じますし。又た冬に白の上着を着ておるのを見ても、決して寒む相な氣分を周圍に與へませぬ。是れは彼地の婦人が腕や胸は肉體其儘を露出しておりますから、白いのが似合ふのかもしれませぬ。しかし冬に白を着る場合は袴は大低黑を用ゐる樣に思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の居つた宿の主婦や女中連などは、全く一年中同じ服裝でやつておりました。下に着るものは夏冬で多少のちがひがあるでせうけれども。

歐洲の婦人服は日本服と仕立方が違ひますので、地質を多く要さない事は事實と思ひます。日本の衣服に比して袖が半分以内で出來ます。日本服の樣にオクミに當る所もありませぬし。殊に日本の婦人の衣服の長さは腰に隨分餘裕を殘しておきますから、地質を多く要しますが、洋風の女の服には之が無くて丈が短かいから、餘程少しでよいと思ひます。殊に日本の婦人服には帶、其下締や帶揚げなどを要するのでありますが、彼地のは其必要がなく、又た日本服は上下が一枚になつておりますまれども、洋服は上着と袴とを分つて作る便利もありますので、此點が便利であり簡短である事は申す迄もありませぬ。

日本の冬の服や禮服は三枚襲ねとか二枚襲ねとかになつております。外に長襦袢や肌着などを要したり、帶の外に下締めとか腰上げとかを要します。裏も表も同じ程の品質價格の物を用ゐますが、洋服は上着の外は人目に見えませぬから、下着には淸潔を主として見えない處には高價の地質を用ゐる必要がない樣に思はれます。故に製式の上に簡短であり又た費用も少いといふ事は誰人も認める事實であります。日本婦人の禮服の一襲もあつたらば、西洋の袖の無い上着なら何十枚も出來ませう。

西洋の婦人は外套に最も多くの費用を投じておるのが普通の樣に思はれます。室内のそんな簡短の服に外套さへ引き掛けたら大低の處へは出入が出來ます。西洋を男の服裝は中々やかましいが、女は隨分吾々から見ると半裸體の樣な上着を著て、特別の場合以外は夫れですむのでありませう。外套を着ますと下に着ておるものはスッカリ見えなくなります。故に外出すれば外套が主なる衣服であり裝飾であります。外套に金を費やすのは無理はないので、何千圓といふ高價の者を着る人は少數でせうが、降つては三百圓四百圓といふ處は隨分多くの人が着ておるのを見受けます。

以上申し述べた所だけで見ると、如何にも西洋の婦人服は簡易であり、外套一枚ありさへすれば何處こでもそれですます樣に見えますが、事實は仲々そうでないと思はれるのです。試みに街頭に立つて往來の婦人の衣服を見ますと、何人にも直ちに其製式

の多種多様なるが目を惹くでありませう。日本の婦人の集る場所に於て其服装を見ると、仕立方に多分の差を見ませぬが、其地質と柄(ガラ)とに於て非常に多くの種類を見ます。恐くは三四百人五百人の集合せる所に於てさへ同じ地質同じ柄の婦人の衣服を見出す事が困難でありませう。彼地では衣服の地質・柄・色相等に於て日本の婦人服程に差を見ぬ代りに其仕立方に千差萬別を見る。故に私はこちらの婦人服には其製式に非常の流行を見る事であらうと或女史に質しました處、實際其通りで、大戰後殊に其傾向が甚しく、約半年毎に其製式に流行があつて、地質は少しも損(ソン)せざるに賣り換えたり買ひ代へたりして流行を追ふ婦人は是れが爲めに忙殺され、多額の金錢を費すのみならず、若き上に虚榮に滿ち志操堅實ならざる婦人に至つては、或は賣るべからざる大切の物をさへ犠牲にして其流行の渦中に投ずるものなきにあらずとの事でありました。之も私は只聞いただけで決して事實であると斷定するのでありませぬ。

衣食住を生活の三要素とし、其内の衣服と申します部類を廣く解釋すると、所謂着物の外に頭飾り帽子靴及其他外出に際しての身の廻りの持物も之に屬すると思ひます。

髪飾りは歐洲婦人に比較的簡短である様に考へます。是れは帽子を被る爲めとそして其帽子は衣服の一部と見做されて何處でも脱がなくてよいからの様に思はれます。夫れ故髪飾するものは人に見せる機會がないのですから、其の代りに帽子には隨分苦心の跡が見えます。靴下や靴に西洋婦人の浮身をやつすであらうといふ事は從前の通信に屢々書いた事で茲には略します。まつた日本服に附屬として全く或は殆んど必要を見ざる手袋及びマッフ（毛皮(ケカハ)でこしらへた冬季手を温めるもの）肩掛毛皮の肩掛が大流行之を所持せざるものは二十世紀の婦人にあらざるなりの觀がある。防寒用の爲よりは寧ろ裝飾用と見做すべきものです。此等にも澤山の種類があり、衣服が一枚ですまされぬ如く此等の者も亦其美なるを誇り其多きを誇りたい爲め澤山の數を持たうとする事は、流行の心理狀態ではありますまいか。

美を好み美を愛する性質は、實に婦人の先天的に男子に勝つておると私は考へてゐます。私の考が間違つておるかも知れませぬが、子供を育てゝ見ましても、女子は幼年時代より美に對する感じが深いと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

思ひます。

婦人の美を愛する事は家庭に於ても社會に於ても必要の事であります。日本の婦人が美を愛せぬ筈はありませぬ。美を愛するといふ心が流行の源泉となるのでありませう。私は衣服の流行するものは我國のみでなくて、歐洲に於ても同樣の狀態であつて、比較的簡短と見らるゝものも深く內部に入りて觀察すれば、矢張り仲々複雜の者ではありますまいか。こうして衣服の流行なるものは歐洲の婦人をも可なり苦しめておるのではありますまいか。

しかし西洋の服に取るべき所は其活動に便利なるにあり、作業に容易なるにあり、何時でも外套さへ脫げば働かれます。エプロンさへ掛ければ臺所に立つ事が出來ます。籠を下げて市場に買出しに行けます。室內の構造も之に準じて働き易くなつてゐます。外に出るに着換える事を要しませぬ。履物を新に履く事を要しませぬ。こうした便利は唯々衣服のみによるのではありませぬが、美やましく感ずる所であります、顧みて日本の衣服は如何、私は日本の婦人服は美術以上に發達しておると考へます。私の頑固の頭と舊式の腦髓とはどうしても和服の優美高尙なるを捨てたくないのであります。現今日本の織物の美、衣服の好尙が餘りに發達し過ぎたのではありますまいか。縮緬の婦人の曲線美に照應する。御召類の粹、染色の發達。裾模樣の意匠、色相の美、柄の選擇、餘りに美術的に發達したる結果は實用を離れてしまつては居ますまいか。實用品を超越して觀賞すべき美術品と進化してしまつたのではありますまいか。毛織物は此點に於て日本の絹織物に當る事數等であります。絹織物が單に眼に視て美を勝るのみならず、更らに他の五官に感ずる美に於て、毛織物に數等勝る所があると信じてゐます。聽官に達する彼の絹ずれの音は微妙なる音樂と聞えますし。織物の新らしき染色の香りは私共の嗅覺を刺戟して一種の懷かしみを起させます。又た絹物の吾人の皮膚に對する觸感は一種の快感を起させます。のみならず、感覺の最も銳敏なる指の先きに於ける觸覺は、鹽瀨・羽二重・御召・錦紗・縮緬・其他、何と、眼を閉ぢても尙其感じに依りて區別が出來るのであります。婦人が衣服を着て其趣味を滿足せしむるのみならず、多く貯へて樂しまんとするのは、一は之に原由するのではありますまいか。

日本婦人の帶に至つては一層發達して已に立派な藝術品中に算すべきものではありますまいか。上記の美に加ふるに金銀の如き鑛物の美をも加味してをります。其他に人工の刺繍の美も加はつてゐます。已にかゝる美術品を所有し之を玩賞し、其經驗を持ちてをる婦人に對し今俄かに毛織物を以て代へんとするが如きは仲々容易に行はれますまい。日本の服は實用を離れた點のみを云ふならば西洋に金銀珠玉を鏤めたる禮服や或は裾を持つ爲めに數人を要する樣の禮服などは、我國の裲襠や振袖と少しも異なつた點はありませぬ。

私は和服殊に禮服を或點迄國粹として保存したいのです。極端なる奢侈禁止の如き古來行はれた例がありませぬ。人間の美を好愛する先天的の性質を無理に壓抑したり、趣味好嗜好を絶たしめやうとする事は無理ではありますまいか、美術は五千年の以前より發達して今日に至りたるものを原始時代に復歸する事は出來ますまい。私の其人の身分・地位・境遇・財產・收入等に相應じて虛榮に走つたり、將來の不時の用意を缺かない限りに於て、美に對する嗜好を滿足させながら、人間として行くべき道を一路向上せしむるといふ方、が穩健質實の方法ではありますまいかと考へてゐます。

夫れにしても私は我國現代の婦人服に滿足は出來ない、是非活動するに便宜であり、婦人美をそこなはず、そして經濟的であるものを求めたいものと考へます。

金甌無缺の國體。萬世一系の聖天子。光輝ある歷史は正に我國の世界に誇るに足る所であります。併し我國の受けてをる天惠は、決して世界に冠たりと斷ずる事は出來ないと私は竊に考へてゐます。天惠少なき故に我國が列國に劣るといふ意味ではありませぬ。文明は人力を以て自然を制す。或は不利の者を轉じて有用となす、例へば我國の急流の多き爲め以前は其不利益のみを受けたものが水力電氣全盛の今日では世界有數の電氣國となり得るが如き是れなりと思ひます。併し私は世界各國に伍して其優勝者たるには尙幾多の努力を要する者と考へてゐます。是は男子のみの問題でなくて、男女協力を要すると存じます。此意味に於て動作に不便であり不經濟である現今の婦人服を改良して其目的に協ふ樣にしたいと考へてをる一人であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島情

始政三十年記念展覧會

「產業部」の趣意竝に計劃

臺灣が帝國の版圖に入りてより此に三十年、其の間文物制度の進步發展實に矚目に値すべきものあり、特に各種產業の顯著なる發達は、天惠の豐饒なると施設機宜を制したるとに依り駸々として歇まず、今や世界植民史上の驚異たり、卽ち生產に於て五億圓、貿易に於て三億八千餘萬圓の巨額を算する現狀なり。

此を今領臺當時の本島生產額五千萬圓、貿易額二千五百萬圓に對比せば誠に隔世の感無しとせず、盛隆斯の如しと雖も本島の產業は未だ現狀を以て甘んずべきにあらず、更に一段の開發を促進し尙一層の充實を圖ると同時に、南方發展の基礎を築かざるべからざるなり。

來る六月十七日始政三十年に際し、之を記念すべく展覧會を開催し、內第二會場を產業展覽會に充て本島各種物產を綜合陳列し、以て產業發展の跡を回顧し其の進運を記念すると共に、將來の進步發達に資する所あらむとす、庶幾くば官民各位の協力援助に依り多數の出品を得て其の目的を達成せんことを。

產業部計劃書

一、臺灣始政三十年記念展覽會は四の會場より成る卽ち。

第一會場　臺北新公園內博物館を充て教育及衞生に關するものを陳列す。

第二會場　臺北植物園內商品陳列館の全部及林產

館、地方館、臺灣卽賣館、內地卽賣館の四棟を新築し別に演武館を以て工業實演場に充つ。

第三會場　總督府舊廳舍を充用し交通事業卽ち遞信鐵道に關するものを陳列す。

第四會場　專賣局構內を使用し專賣事業に關するものを陳列す。

二、展覽會々期は本年六月十七日より十日間とし夜間も開場の見込なり。

三、第二會場の本館は商品陳列館の全部を充て階下は米、砂糖、茶の三大物產を始め酒精、鑛物、染織等を系統的に陳列し階上は蕃產品、中央研究所、度量衡所及產業に關係ある土木事業資料を陳列する筈なり。

四、第二會場內の地方館は七十坪臺灣卽賣館亦七十坪にして既に建築中なるが何れも各地方廳に場面を割當て島內の優秀なる物產を陳列又は卽賣せしむるものにて小間料其の他の料金を徵せざる見込なり。

五、林產館に三十坪阿里山檜を以て建築するものにして既に營林所嘉義工場にて木組し目下運搬中なり。

六、第二會場內地卽賣館は三十坪の豫定にて既に建築中なるが出品希望者多かるべき模様なるに付猶增築の見込なり本館は內地各府縣に依賴し一定の使用料を徵し場面を貸與し內地製品にして本島內に販路を擴張せんとする向に利用せしむる見込なり。

七、演武館を實演場に充て珊瑚加工、鰹節削、機織、帽子編、煙草卷き、薯榔染、蕃人籐細工等の實演を爲す見込なり。

八、植物園の入口には裝飾門を新設し夜間は園內に電飾を爲す見込なり。

九、植物園內は地面の許す限り自營の賣店、飲食店又は廣告塔等假設物を許容し美觀を添ふる見込にて勸誘しつゝあり。

一〇、會期中は內地各方面に依賴し多數の觀光客を誘致すべく宣傳中なり。

一一、出品物は島內の汽車賃五割引展覽會關係役員並出品人は同上二割引のことに鐵道部の承認を受け沿岸航路の汽船は出品物に對し五割引のことに大阪商船會社の承諾を得たり。

一二、會期中活動寫眞、琵琶、打揚煙火其他適當な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る餘興を催す見込なり。

一三、既往三十年間に於ける本島產業發達の狀況を記述したる印刷物を編纂し無料配付の豫定なり。

一四、此機會に於て市街地各商店に於ても一齊に賣出、又は適當の催しものを希望し居れり。

產業部出品規定

第一條　本會の名稱を始政三十年記念展覽會（產業部）と稱す。

第二條　會場は植物園內の一部を以て之に充て商品陳列館を中心とし林產館、地方館、臺灣即賣館、內地品即賣館を新設し武德殿を實演館に充つ。

第三條　本會の會期は大正十四年六月十七日より同二十六日迄十日間とす。

第四條　本會の出品物は之を普通出品と卽賣品とに分ち普通出品は出品人の希望に依り賣約することを得るものとす但し出品に要する荷造、運賃、其の他の費用は出品人に於て負擔するものとす。

第五條　普通出品物は物產と模型（圖表統計を含む）の二種とす大凡左の如し。

（イ）物　　產

農產品　米、甘蔗、茶樹、纖維作物、芭蕉、鳳梨、柑橘、養蠶、其の他。

工產品　砂糖、茶、罐詰類、染織、帽子、紙、調合肥料、研究所參考品、セメント、硝子、煉瓦、釀造品、植物性油、木工品、籐製品、竹細工、度量衡器、手藝品其の他。

鑛產品　金、銀、銅、石炭、石油、硫黃、水晶其の他。

林產品　各種木材、竹、筍、其の他。

水產品　珊瑚、鰹節、石花菜、鱶鰭、鹹鮓、田麩、其の他。

蕃產品　籐籠、竹籠、月桃製品、蕃布、手藝品其の他。

（ロ）模　　型

物產中模型を以て說明せむとするもの及產業と密接の關係ある土木事業を模型又は圖表にて說明せんとするもの。

第六條　本展覽會は既往三十年間の臺灣產業發展を記念するものに付其の狀況を可成陳列品によりて表すものとす。

第七條　普通出品は可成原料より製品に至る迄工程

順に出品するものとす。

第八條　本會に出品せむとするものは別に定むる出品申込書に依り申込むべし但し地方出品物は州廳を經て申込むべし。

第九條　出品物に就ては相當の保護を爲すと雖も不可抗力に依り生じたる損害に對しては本會は其の責に任せざるものとす。

第十條　出品目錄は五月二十日迄出品物は六月五日迄會場に送附すべし。

第十一條　本會の出品物は閉會後一週間以内に引拂ふべく本會の承認を得て假設したる工作物は同期間内に撤去し原狀に復すべきものとす。

第十二條　本規定に違背し又は本會より命ずる事項を履行せざるものは出品を拒絕することあるべし。

地方長官會議付議事項

□諮問事項

一、本島現下の情勢に照し敎化上促進又は新に施設すべき重要なる事項に付意見を問ふ

二、農村經濟の近況及之に關する意見を問ふ。

三、地方産業開發上施設すべき要項を問ふ。

四、管下に於ける産業資金需要供給の現勢竝金融機關の活動に對する所見を問ふ。

□指示事項

一、事務改善に關する件

二、官公吏非違行爲に關する件

三、地方債低利借替に關する件

三の二、國税徵收成績向上に關する件

四、學校と街庄役場との連絡に關する件

五、中等敎育に關する件

六、入學試驗準備敎育に關する件

七、視學機關の活用に關する件

八、學校敎員臺灣語習熟に關する件

九、小公學校敎員の研究竝講習に關する件

十、書房義塾私立學校に關する件

十一、各種社會敎育團體に關する件

十二、社會事業團體指導監督に關する件

十三、公設質舗設置の件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十四、寺廟及神明會所屬財產處分に關する件
十五、水源涵養に關する件
十六、水利に關する件
十七、副業奬勵に關する件
十八、水產會及漁業組合指導に關する件
十九、甘蔗苗圃の經營指導竝監督に關する件
二十、植物檢查事務勵行に關する件
二十一、警察官の敎養に關する件
二十二、蕃童敎育に關する件
二十三、蕃地道路保持に關する件
二十四、阿片密輸入の取締に關する件
二十五、腦灶の增減及位置變更に對する調査の件
二十六、蕃人開墾地內に於ける樟木燒却の取締に關する件
二十七、煙草耕作に關する件
二十八、煙草耕作組合に關する件
二十九、酒類專賣令犯則者取締に關する件
三十、酒類專賣に關する件
三十一、メートル法實施に關する件

警察會議の付議事項

□諮問事項

一、警察官吏の素質向上に關する意見如何
二、浮浪者取締の實況如何
三、近時蕃人進化の現況及將來の施設に對する意見如何
四、阿片密吸食者中眞に癮に陷りたる者なきや其實況を聽きたし

□指示事項

一、訓授の徹底に關する件
二、警察精神の涵養に關する件
三、警察官の職務執行態度に關する件
四、學術講習の實施に關する件
五、能率增進に關する件
六、警察專用電話の保守に關する件
七、警察官就中特技者の配置に關する件
八、警察と他の行政機關との聯絡に關する件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九、派出所の小破修繕に關する件
十、警察費豫算經理に關する件
十一、保甲經費節減に關する件
十二、自動車取締に關する件
十三、街庄吏員、產業組合職員等の犯罪防止に關する件
十四、銀行會社員の犯罪に關する件
十五、贋造貨幣取締に關する件
十六、警察官吏の刑事被疑者取調に關する件
十七、蕃地警察職員の特技者養成に關する件
十八、蕃童教育に關する件
十九、蕃語其他の研究に關する件
二十、蕃地道路保持に關する件
二十一、蕃地警察官吏の品性陶冶に關する件
二十二、蕃地職員助勤に關する件
二十三、授產施設に關する件
二十四、醫師及按摩、鍼灸術營業者廣告に關する件
二十五、醫師免許證書換に關する件
二十六、藥品巡視勵行に關する件
二十七、阿片密吸食及密輸入取締に關する件
二十八、マラリアの豫防制遏に關する件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣貿易統計

（大正十四年四月）

臺灣總督府稅關

⊙貿易額

外國貿易	十四年四月	十三年四月	十四年累計	十三年累計	增減(●)
輸出	三、三三六、七八七円	四、一八〇、三六七円	一二、〇九三、三四七円	一三、二五一、六八七円	●一、一五八、三四〇円
輸入	三、七六〇、二三九	三、五五七、七四七	一九、五二〇、九八六	一八、七八一、二二七	七三九、七五九
計	七、〇九七、〇一六	七、七三八、〇一四	三一、六一四、三三三	三二、〇三二、九一四	五八一、四一九
輸出(入)超過	四二三、四四二	六二二、五二〇	七、四二七、六三九	五、五二九、五四〇	—

內地貿易	十四年四月	十三年四月	十四年累計	十三年累計	增減(●)
移出	二二、四四三、四四九円	二〇、九三〇、六三五円	一二〇、八五六、二六二円	一一〇、七九五、七六四円	六〇、四九八円
移入	九、一二三、六五四	七、三四三、三六〇	三三、一五四、三九五	二七、四七〇、二三三	五、六八四、一六二
計	三一、五六七、一〇三	二八、二七三、九九五	一五四、〇一〇、六五七	一三八、二六五、九九七	五、七四四、六六〇
移出(入)超過	一三、三一九、七九五	一三、五八七、二七五	八七、七〇一、八六七	八三、三二五、五三一	—

⊙輸出

		四月 數量	四月 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	十三年累計 數量	十三年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
石炭	噸	七二、八〇六	七六六、九五八円	二四〇、九一九	二、五四三、八三六円	二三一、〇二一	二、四五一、四六六円	九、八九八	九二、三七〇円
砂糖	斤	五、六五五、〇〇〇	八〇三、一八九	三〇、四九六、三〇三	二、八四八、八九三	三二、八三七、七五三	三、二五三、四一三	●二、三四一、四五〇	●四〇四、五二〇
包種茶	同	二八三、九二六	二二四、九〇八	一、〇五八、四三一	八三八、三四五	一、三六二、二九一	一、〇四三、八六五	●三〇三、八六〇	●二〇五、五二〇
烏龍茶	同	二二九	一五三	一、二二五	九七四	二二二	九四	一、〇〇三	八八〇
鹹魚及乾魚	同	一、二三八、七六〇	一五八、九五三	四、三〇一、二二九	五六一、一八三	六六七、四六一	一一五、七六〇	三、六三三、七六八	四四五、四二三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樟腦	同	二四六,五〇〇	四三二,六〇八	七〇七,五一九	一,二四一,八六三	四七一,六三三	八七七,四四三	二三五,八六六	四一四,三二九
酒精	升	五〇〇,八〇〇	一五七,七一三	二三三,八六〇	六七一,三六一	一,八七六,三四〇	五八〇,一九七	三五七,五二〇	九〇,八六四
鯣	斤	一三,七七六	六,三二八	五一七,六三〇	二三〇,二一四	二,六四二,〇九四	八〇〇,五六六	• 一,九三四,四六四	• 五六九,九四二
綿織物	碼	三九五,二四七	九四,四六六	一,六七五,八一一	四八六,四三八	一,三三〇,四〇六	三七一,一一九	三五五,四〇五	一一四,三一九
セメント	斤	二,〇八三,六六三	四一,一八七	一九,六七七,〇九七	四〇三,一六四	七,九三三,〇九三	一七四,〇一〇	一一,七四三,九六四	二二九,一五四
苧麻	同	七〇,〇一五	一八,〇六〇	一七六,三九六	一一四,一四六	二一〇,七〇八	九四,四三九	六五,六〇八	一九,七〇七
紙	同	五〇二,八四二	三七,二八七	一,八七四,四一三	一四〇,四一七	二,〇四〇,八一九	一七六,四四五	• 一六六,四〇七	• 二四,〇〇八
食鹽	同	一二,四〇〇,〇〇〇	八一,〇〇四	一六,〇八一,七五〇	一一三,六三七	四,八五六,一六八	八八,〇六八	一一,二二五,四六二	二五,五六九
貝柱	同	一四,八四五	一八,八九六	六七,八五九	八〇,九四九	三四,七九四	四五,一四六	三三,〇六五	四三,八〇三
硝子罎	箇	九一八,九三八	二三,三〇一	三,四六四,三四七	八九,六六六	三,三三一,七四四	七九,六七五	一三三,六〇三	九,九九一
其他諸品		—	四四三,八八七	—	一,七三〇,六六一	—	二,一五〇,三九一	—	• 四二九,七三九
計		—	三,三三六,七八七	—	一三,〇九三,三四七	—	一三,二五一,六八七	—	• 一五八,三四〇

⊙輸入

大豆油糟	斤	一七,八一六,五四四	九二五,二〇六	九八,九三〇,八五〇	五,三三五,六三三	九三,七一七,〇三〇	四,七四五,九一九	五,一一三,八三〇	五七九,六九三
砂糖	同	一,七五三,七〇六	二六一,五七三	一三,一〇三,九八八	一,六三三,四四四	一四,一三七,四四三	一,七七三,一〇一	• 二,〇三三,四五五	• 一六〇,六五七
大豆	同	四,〇八〇,七九五	三九一,三九四	一一,八一〇,九七一	八八六,三七七	一四,一一一,五三二	九六八,六三〇	• 二,三〇〇,五六〇	• 八三,三五三
大材		—	一七六,一八九	—	六三〇,一三〇	—	一,二四七,一四〇	—	• 六七,〇一〇
硫酸アンモニウム	斤	八八五,九一〇	九一,七七七	一七,四〇四,八八一	一,八七二,八六三	五,三七二,〇五〇	五四一,八一四	三,〇三三,八三一	一,三三一,〇四九
ガンニー嚢	箇	一七九,三〇〇	一三三,一八四	一,七〇五,六〇〇	一,三七四,〇五六	三七三,八〇〇	一五〇,九三〇	一,三三一,八〇〇	一,三三三,一三六
包蓆	枚	三九二,三四〇	八六,三五二	一,六三八,〇一三	三七六,六七二	四,〇八六,二九四	八七九,三〇五	• 二,四五八,六八二	• 五〇三,五三三
小麥	斤	—	—	五,〇〇〇,七三三	四七六,五六六	一五,三五四,四三九	九二〇,五三五	• 一〇,三五三,七〇七	• 四四三,九五九
石油	瓦	一四〇,八〇八	九五,〇四九	七三六,二四〇	四八〇,七四七	一,三八七,七八一	五七三,四七七	• 五六一,五四一	• 九一,七三〇
阿片	斤	—	—	二八,九三四	七一三,三三五	• 三〇,一三〇	八一六,〇三八	• 一,一八六	• 一〇三,七〇三
葉煙草	同	四〇六,四二七	二〇八,二〇八	九三八,四四二	五三五,八七七	九七二,七九七	四四〇,六三四	• 三四,三五五	八五,二五三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

黃麻	同	一五七,三六五	二三,七五五	九三三,九三五	一四九,六三一	一,二四三,二七六	一九九,三六三	●三〇九,三四一	●四九,七三二
毛織物	方碼	八一,二六九	一〇六,七六八	一,一六六,五〇八	二四七,四六八	一,二六八,三三〇	二八七,六〇六	●一〇一,八二二	●四〇,一三八
米（籾共）	斤	三,五三六,一〇九	二七六,七七六	一〇,三六一,八六六	八八〇,五五六	一,四五八,五二三	一六〇,〇七〇	八,九〇三,三四三	七二〇,四八六
綿織物	方碼	一三四,二〇八	一〇四,六五三	二〇四,三三九	一七一,四六一	六六二,一九六	四〇六,四八三	●四五七,八五七	●二三五,〇二二
鹹魚	斤	一,〇八一,三四八	八〇,〇八三	五,二三五,二三三	四七六,三五八	一,七〇六,一九一	一六六,四七〇	三,五二九,〇四二	三〇九,八八八
禮拜紙	同	一一三,八九一	三三,三九九	五五九,二七一	一八〇,三七〇	六九一,六三六	二〇三,三九八	●一三二,三六五	●二三,〇二八
陶磁器		—	二六,七五八	—	八〇,五三三	—	一五八,九二一	—	●七八,三八八
苧麻布	方碼	三八六,八七三	二一一,一七二	六四四,四八五	一八〇,〇〇七	四七七,八七四	一三九,一七〇	一六六,六一一	四〇,八三七
唐紙	斤	二六五,二五三	三四,〇一八	七一三,七五二	九六,九七一	八五三,七二三	七九,四四三	●一三九,九七一	一七,五二八
燐礦石	同	—	—	—	—	四,七八六,二五五	五六,五一八	●四,七八六,二五五	●五六,五一八
コンデンスドミルク	打	四〇〇	二,〇〇〇	一,三六〇	五,四九〇	一〇,二五五	四七,〇四四	●八,八九五	●四一,五五四
綿絲	斤	四,八六一	三,四九四	六三,三八〇	三八,九六五	四〇,九三三	二七,二四三	二二,四四七	一一,七二二
鐵道機關車及部分品		—	—	—	一八,三四四	—	一六七,八九五	—	●一四九,五五一
石炭	噸	一,〇五〇	一三,六〇〇	七,九五六	一〇五,七九五	八,九〇〇	一一一,七〇〇	●九四四	●五,九〇五
機械用油	斤	三三,七四九	四,九三九	一九一,九九五	四四,九二一	八〇六,〇〇八	一三一,三三七	●六一四,〇一三	●八六,四一六
苧麻綿布	方碼	七六,四三三	四〇,五七一	一四七,二七八	七八,六一八	二〇〇,六八一	九四,〇三七	●五三,四〇三	●一五,四一九
輕油	瓦	三二六	四八一	二四,〇七一	三二,〇七九	七六,一五八	七七,九六九	●五二,〇八七	●四五,八九〇
豆索麵	斤	六〇,四七三	二四,六五二	一五七,八四八	六五,二四八	一四九,三六一	四六,九三九	八,四八七	一八,三〇九
パラフインワックス	同	五六,六四八	一四,三五三	二九六,六六八	八二,三三八	三〇六,四一四	六三,三八六	●九,七四六	一八,九五二
其他諸品		—	五九〇,七二五	—	二,三三一,一三四	—	三,一六三,八三三	—	●八三二,六九九
計		—	三,七六〇,二二九	—	一九,五二〇,九八六	—	一八,七八一,二三七	—	七三九,七四九

◎移出

品名	單位	四月 數量	四月 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	十三年累計 數量	十三年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
砂糖	斤	一二、三三三、三九〇	一七、四三〇、二四八円	五六八、六三三、六〇七	八五、〇〇四、七八三円	五三六、九五三、三九〇	九〇、六七九、五七七円	四一、六七〇、二一七	●五、六七四、七九四円
米(籾共)	同	二、九一三、七〇〇	一、五一〇、三三三	一二五、八八九、七五〇	一三、八五一、九六四	六六、〇六〇、四七〇	六、四七六、三三三	四九、八二九、二八〇	七、三七五、七四三
芭蕉實	同	一三、四八一、八六〇	一、三〇〇、〇五七	三五、〇五三、七七〇	二、四七四、四八〇	四七、三四六、七三〇	三、一四三、一四五	●一二、二九三、九六〇	●六六七、六六五
樟腦	同	三、〇三四	五、六〇〇	四三五、一八一	七六〇、八五四	九四五、四九三	一、七八七、一三四	●五一〇、三一二	●一、〇二六、七二〇
酒精	升	八六一、五〇〇	四七九、七六三	二、八七八、四六〇	一、五三三、四六六	二、八二六、〇〇〇	一、〇六〇、五四五	五二、四六〇	四六一、九二一
樟腦油	斤	四七九、一六三	三三七、三三二	一、七四四、三三四	八七七、三八〇	一、七九四、九二九	八八八、九七七	●五〇、六〇五	●三一、五九七
木材		—	一九四、三八八	—	一、一三〇、七四八	—	七三四、五七一	—	三九六、一七七
石炭	噸	二四、一六九	二五〇、一四三	八三一、一九六	八四五、三三〇	六九、三三〇	七一七、九二一	一三、八七六	一二七、三〇九
セメント	斤	六四、一六三	一、三〇九	七二、七二二	一、三六三	二八、五五二、六六三	七四〇、六八九	●二八、四七九、九五一	●七三九、二七七
鰹節	同	四一、三六三	五三、五三二	六五、九八六	八五、四三八	一五五、九一六	二五六、三七二	●四九、九三〇	●一七〇、八四四
食鹽	同	一三、九一〇、四〇〇	一〇六、五〇一	五三、四八三、四二〇	四一八、五三一	八一、六九五、四〇八	七〇五、三〇八	●二八、二一一、九八八	●二八六、六六七
切乾薯	同	二、三〇七、一八〇	八八、六三七	七七三、五四〇	三八七、四八七	二、七三九、四一〇	一一四、五三一	四、九八四、一三〇	一七三、九五六
鳳梨罐詰	打	二九、一三四	一〇四、一〇四	一五五、一〇三	五三九、〇三一	八三、八〇三	二五六、四五八	七一、三〇〇	三七二、五六三
模造パナマ帽子	箇	二七四、二〇〇	九一、八〇〇	一、〇八四、八〇〇	三六一、九八四	四一〇、五三〇	三〇五、九三〇	六七四、二八〇	一五六、〇五四
麻織物	碼	二九六、八七〇	七〇、五一八	一、〇五一、四七三	三五三、九四六	一、九三一、六七九	三三八、一一〇	二九、七九三	一四、八三六
其他諸品		—	六三九、六〇五	—	二、四七一、六〇八	—	二、七九一、五四四	—	●三一九、九三六
計		—	二三、四四三、四四九	—	一一〇、八五六、二六二	—	一一〇、七九五、七六四	—	六〇、四九八

⊙移入

品名	單位	四月 數量	四月 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	十三年累計 數量	十三年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
絹及綿織物		—	一、〇三九、四五〇	—	三、五六八、九一六	—	二、三七六、〇八七	—	一、一九二、八二九
肥料	斤	七、七六六、四〇二	五八九、九九〇	四五、九三三、五九六	二、九三三、三〇〇	四七、八四〇、四六三	三、一〇〇、〇九四	●一、九〇六、八六七	●一六六、七九四
鹹乾魚	同	二、五四三、〇六八	三五六、〇二一	一三、三七九、五三四	一、六六一、八四五	一四、〇三四、一七〇	一、五八八、〇三一	●一、六一七、六四六	七三、八一四
鐵	同	三、七七二、一三三	四七四、八三五	一五、三三八、〇六四	二、一〇三、一一一	一二、六三七、一三五	一、七九一、九五八	二、五八〇、九一九	三一一、一五三

小麥粉	斤	一九七,三三八	二四六,一〇六	六,一〇七,三〇七	八四〇,五五七	六,五五四,三八九	六五三,三三一	●四四七,一八三	一八九,三三六
米	石	六〇,八六五	一,四八三,八六五	八四,四四六	二,一五七,五九九	五六,三三六	一,四〇八,三三二	二八,三三〇	七四九,三八六
紙		—	二五四,六〇八	—	一,〇五八,八一八	—	七七四,三八五	—	二八四,四三三
清酒	打	四,四〇〇	四三,〇〇九	九一,八五一	六九七,七三五	六四,四四〇	六三五,四九二	三七,四二一	七三,三三三
鰛	斤	八〇,三三〇	四三,八七三	九八八,二九五	四九六,九三〇	二,八八三,六九五	八一八,六六一	●一,八九四,四〇〇	●三二一,七三一
紙卷煙草	千箇	六九,七四〇	一四五,四六四	二六五,〇三〇	五四九,九〇〇	二九五,一九八	六三七,三八七	●三〇,一六八	●七七,四八七
ガンニー袋及黄麻袋	箇	一七三,五五〇	一〇一,七一九	一,〇六三,三九〇	六八九,五七七	六一九,四二四	一七七,八〇三	四四三,八七六	五一一,七七四
麥酒	打	四三,六九〇	二〇一,一七〇	一〇七,三四三	五一三,九三三	一〇七,二五三	五一八,七三一	●一〇	四,七九九
鐵製品		—	三〇七,三八一	—	六六五,二九一	—	三八八,七五六	—	二七六,五三五
燐寸	哥	一三四,九一六	一一〇,一三〇	四九七,九三七	四〇五,七〇六	四七六,一八一	三六七,三三六	二一,七五六	三八,三七〇
絲類		—	一五五,六七八	—	五六〇,〇三三	—	二九〇,五一六	—	二六九,五一七
砂糖	斤	三二六,一〇〇	三七,〇三九	五六四,六五八	一,五三二,三四八	五〇六,三五三	一四五,九七八	五八,三〇六	六,三七〇
罐詰食物		—	七八,八八一	—	三六七,〇四一	—	六八七,三八五	—	七九,七五六
メリヤス肌衣		—	三四,六九〇	—	一八三,七五一	—	三三四,八三三	—	五七,九二八
自轉車同部分品及附屬品		—	七九,三三一	—	三二七,五六〇	—	二四〇,五〇九	—	七七,〇五一
醬油	石	七五七	五五,八七六	三,四〇一	二四四,〇六〇	三,九四三	二七二,五八四	●五四三	●二八,五三四
石鹼		—	五九,〇五〇	—	二一五,三七四	—	二三〇,五四三	—	●五,一六八
鐵道建設用材料	斤	九五九,一三三	一七六,一八七	二,四八五,二八六	二二〇,八三三	一,九三〇,四七九	一七三,三七三	五五四,八〇七	三七,四四〇
毛織物		—	四,八五四	—	一六九,一三〇	—	二三七,五一九	—	三一,六〇一
機械用油		—	三三,三三九	—	一九三,三二九	—	三三一,七九〇	—	●二八,四七一
セメント	斤	八〇五,三一九	一六,三九七	九,五八七,三四六	三〇一,三九七	一〇,三五一,三五六	一五三,八七九	●七六四,〇一〇	●五三,四八三
陶磁器		—	六四,〇一九	—	一八四,九六六	—	二一七,八六九	—	●三三,九〇三
菓子類		—	八八,五三三	—	二四六,八五六	—	一九四,一七〇	—	五三,六八六
木材		—	一八,三五一	—	三八七,三六八	—	一五三,一三七	—	一三四,一三一
乾蝦	斤	一〇八,〇〇〇	六六,三三七	一四三,六三〇	二〇一,一三三	二七五,八八八	一七一,〇九八	六七,七三三	一三〇,〇三九

石油瓦	九五,四八二	五三,一〇八	五三,五四九	四一,六六三	二五〇,八一〇	三一一,三五六	二七四,六四九	二九五,二九七
其他諸品	—	二七,九四,五九三	—	一〇,四九〇,三九七	—	九,〇三九,六四一	—	一,四二〇,七三六
計	—	九一,一三,六五四	—	三五,一五四,三九五	—	二七,四〇〇,一三三	—	五六,八四,一六三

⊙港別貿易額

港名	輸出 円	輸入 円	計 円	十四年累計 円	十三年累計 円	增減(●) 円	移出 円	移入 円	計 円	十四年累計 円	十三年累計 円	增減(●) 円
基隆	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	●[illegible]	[illegible]	—	—	—	—	—
臺北	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	●[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
淡水	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	●[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安平	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高雄	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
其他諸港	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	●[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

金融統計

財務局金融課

◉種類別銀行預金殘高

種類	大正十四年三月末
公金預金	四、五三三、四八五円
當座預金	一二、四二三、六三七
特別當座預金	三八、四四三、二八三
通知預金	三、五六七、四七七
定期預金	二一、五四四、六九六
別段預金	四、六九六、七五七
預金手形	一、八〇二、八九六
日本銀行預金	三、五一六、三〇五
貯蓄預金	四、〇四五、八二五
合計	九四、五六二、三六三
前月末	九四、七七七、五三九
前年同月末	七九、七五一、〇八一

◉地方別銀行預金殘高

州廳別	大正十四年三月末
臺北州	五〇、九六八、三三三円
新竹州	四、九四六、五六四
臺中州	一六、〇八八、三〇六
臺南州	一五、六六二、四八四
高雄州	五、六二六、六九九
臺東廳	三四〇、〇九二
花蓮港廳	九二九、八九六
合計	九四、五六二、三六三

◉種類別銀行貸出金殘高

種類	大正十四年三月末
證書貸付	六六、四三九、三三〇円
手形貸付	五一、二九八、一二五
當座貸越	三六、八一〇、九二二
割引手形	一二、一〇八、六六三
荷付爲替手形	一七、三五三、五五七
利付爲替手形	一、四三一、四八八
買入外國爲替	五〇〇、四〇二
日本勸業銀行貸付	四、一二九、九二一
貯蓄銀行貸付	一、六一三、一一七
合計	二九四、七九八、六七三
前月末	二九二、二四七、〇〇三
前年同月末	三〇三、九一七、〇六五

◉地方別銀行貸出金殘高

州廳別	大正十四年三月末
臺北州	一七七、〇六四、八五三円
新竹州	一九、三二一、〇五八
臺中州	三六、一六七、九八〇
臺南州	三六、一八九、五一四
高雄州	二一、五一五、四〇六
臺東廳	三、四五一、五四六
花蓮港廳	一、〇八八、三三六
合計	二九四、七九八、六七三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉重要物産別銀行放資高

品名	大正十四年三月末	前月末	前年同月末
米	一七,九五二,一二七円	一六,七三〇,一二八円	一六,六四九,〇四七円
砂糖	五〇,二四四,一五八	四八,四六六,六八九	四八,八六六,〇七九
茶	一,六五一,六四三	二,一七三,六二四	二,五三〇,〇〇三
樟脳	一,八二八,五七五	一,七七八,一八五	一,五五三,二五一
金塊	三九九,七四六	四三九,九二四	四八九,四五五
酒精	二五三,七六四	二五二,六六七	三七六,六三一
石炭	七,六〇九,五九四	七,六八〇,九九六	七,五一九,一七七
合計	七九,九四八,六一六	七九,五二三,二八三	八〇,〇〇三,六四三

◉重要物産別銀行放資高累計

品名	大正十四年三月中	大正十四年三月迄累計	前年三月迄累計
米	一〇,五三一,二〇三円	三六,八七二,七五五円	三〇,二九三,五八三円
砂糖	一七,六四四,七五四	五九,五一〇,〇九九	六一,〇三六,九四九
茶	六五〇,五一三	二,五三〇,二二二	四,六〇四,二九九
樟脳	四七四,五七二	一,七五八,七一六	二,〇七一,八四四
金塊	四四五,四五三	九九三,五四九	一,〇九一,一三九
酒精	一八〇,六三二	四八七,七九七	五六七,八五五
石炭	二,一一〇,七六三	六,二九一,五三四	八,四三二,八四七
合計	三三,〇四七,八七二	一〇八,四三四,六三一	一〇八,〇九八,五五五
前月中	三七,八三六,四四二	—	—
前年同月中	三五,九三〇,一九〇	—	—

◉市街地信用組合事業一覧表（大正十四年三月末日現在）

（其 一）

州廳別＼種別		組合數	組合員數	出資口數	資産：未拂込出資金	貸付金	土地建物什器	有價證券	預ヶ金	假拂金	手形割引	其他	現金	計
臺	北	九	五,一四六	四六,三四一	一三三,九五五円	四,五一一,〇五一円	一〇〇,一五一円	四九四,五五四円	一,七七三,〇三九円	五,三八三円	八五,四四七円	一円	四六,三五一円	七,一三八,八九四円
新	竹	一	四八七	三,三三〇	一,六一七	五四〇,三六〇	一四,〇七四	一,二七七	四一四,三九五	六六四	—	一八,〇一五	三,〇一三	九九三,四三〇
臺	中	二	一,一三九	五,四五三	二,七七七	六四六,〇六八	一七,六八二	六三〇	三五一,七七一	二,三二一	—	二,四二四	四,五六四	一,〇三七,二二九
臺	南	五	二,四九三	一三,八二九	一〇九,六九七	一,四八八,六〇三	四八,六〇四	三六,一七六	六八四,四四六	四,八五五	二九,八九五	三八,一六八	九,六一九	二,四九〇,〇八六
高	雄	一	二四七	一,一五一	四五五	二七〇,七七三	三二,一五三	七五〇	二八,九四五	—	—	四五三	三〇三	三七七,八九一

臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	一	一九六	四,六五〇	—	二六七,五七九	九九八	—	一五,〇〇〇	二五六	二五,二九二	—	—	三〇九,一二五
合計	一九	九,七〇八	七四,七四四	二二七,四七二	七,六八四,三五六	二二〇,六六三	五三三,五七八	三,二六七,五八八	一三,三〇一	一三〇,六三五	七三,一二〇	六三,八五〇	一三,三〇六,六六七
前月末合計	二〇	一〇,九五三	七八,五五二	二三七,三三八	七,六四三,九六四	二三〇,五六一	五三三,九二〇	三,四五三,二八二	一五,三二四	一七四,七八八	七〇,八一四	七四,六九〇	一三,四〇四,四八一
△ハ減	△一	△一,二四五	△三,八〇八	一〇,二四四	四〇,三九二	△六,八九七	△三五一	△一八五,六九三	△一,八五二	五五,八四七	一,三〇六	△一〇,八三九	△九七,八四三

(其二)

州廳別＼種別	出資金	貯金	準備金	各種積立金	未拂配當金	借入金	假受入金	其他	剩餘金	計
	資				負		債			
臺北	一,五八三,五九〇円	四,六七五,〇三四円	五一三,七七五円	一七八,〇七七円	一四,一一〇円	四三,六六九円	六,七八九円	一五,七四四円	一〇九,一一三円	七,一三八,八九四円
新竹	一六六,〇〇〇	六七七,九六五	九三,七二三	三八,八五一	五三〇	—	三五四	五五四	一五,四三八	九九三,四二〇
臺中	二七一,五〇〇	五六八,〇九三	九五,〇三七	五三,三二〇	四七一五	—	一七,一六八	—	二七,三九三	一,〇三七,二二九
臺南	六九一,四五〇	一,四〇五,九五九	三二八,〇九七	三七,四五一	四,〇三九	二七,八三七	三六,八一九	三一,七〇四	三四,七三六	二,四九〇,〇八六
高雄	三七,五五〇	二二五,三三六	四七,二五〇	二三三	三八四	一七,〇〇〇	—	—	一四六	三二七,八九一
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	九三,〇〇〇	一四六,二八七	三五,二三〇	一五,九一三	—	一四,〇四三	一,四三一	—	三,二三九	三〇九,一二五
合計	二,八六三,〇九〇	七,六八八,六七六	一,〇一三,一一五	三三三,八〇八	二三,七七一	一〇一,五四九	五四,五六五	四八,〇〇三	一九〇,〇五七	一三,三三六,六三七
前月末合計	二,九三三,七六〇	七,六六三,四四七	一,〇四五,〇五一	三三五,八八一	二九,三三〇	一二一,〇五一	八二,一九一	四九,四七八	一四四,二九三	一三,四〇四,四八二
△ハ減	△七〇,六七〇	二五,二二九	△三一,九三五	△二,〇七三	△五,五五八	△一九,五〇一	△二七,六二五	△一,四七四	四五,七六四	△九七,八四四

(其三)

州廳別＼種別	貯金內譯 組合員貯金	第一條第三項貯金	第一條第四項貯金	加入豫約者貯金	計	貸付金利率 最高	貸付金利率 最低	貯金利率 最高	貯金利率 最低	借入金利率 最高	借入金利率 最低	手形割引步合 最高	手形割引步合 最低
臺北	一,六〇二,一二四円	一,八六四,〇〇八円	一,二〇八,九〇一円	—円	四,六七五,〇三四円	錢厘 四三	錢厘 三五	錢厘 三〇	錢厘 一〇	錢厘 三五	錢厘 一八	錢厘 四三	錢厘 三六
新竹	三二六,二六九	二六四,八七三	八六,八二三	—	六七七,九六五	三五	三五	二六	二〇	—	—	—	—

臺中	一四五,七六三	三八二,二二〇	四〇,二二〇	—	五六八,〇九三	三九	三〇	二七	二〇	—	—	—	—
臺南	六八三,四六一	五六〇,五七六	一六一,九二〇	—	一,四〇五,九九九	五〇	三〇	二六	一三	二五	二六	二六	二〇
高雄	一一九,九四八	六〇七,〇五六	一一八,二三二	—	二二五,二三六	四八	三六	二五	二〇	二五	三六	—	—
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	八四,七八七	二一,五一一	三九,九八八	—	一四六,二八七	二七	二五	二二	一八	二六	二六	二七	二七
合計	二,九六二,三五四	三,一六〇,一四五	一,五六六,一七六	—	七,六八八,六七六	五〇	二五	二〇	一三	二五	一八	四二	二〇
前月末合計	三,〇〇八,九三九	三,二八一,五〇八	一,五七二,九九二	—	七,六六三,四三九	五〇	二五	二三	一〇	二五	一八	四五	二六
△ハ減	△四六,五八五	七八,六二七	△六,八一五	—	二五,二三七	—	—	△二	—	—	—	△三	△六

◉島內各銀行內外爲替取組高表

（大正十四年三月中）（單位圓）

摘要	收入 島內 口數	收入 島內 金額	收入 內地 口數	收入 內地 金額	收入 外國 口數	收入 外國 金額	支出 島內 口數	支出 島內 金額	支出 內地 口數	支出 內地 金額	支出 外國 口數	支出 外國 金額	收支(△)超過 島內	收支(△)超過 內地	收支(△)超過 外國
送金爲替	六,八三三	三五,九九九,三五五	四,八一七	一七,七二六,五七五	三四	四一六,四七〇	三九,一一〇	三五,九九六,〇二七	二,八九九	一五,七八六,六六二	五三	六一五,二二九	△九二二,五三二	四,三五五,四一一	△一八八,七九九
割引手形	三,三三四	二,三八五,三三九	一,五〇七	一,三六九,〇三九	—	—	三,三三四	二,三二五,七〇七	四〇	八〇九,一四四	三	一,三二八	四三,八八二	四二一,八九五	△一,三二八
荷付爲替手形	八九八	八〇五,八八八	一,七四四	二,一二五,七九七	九四	三六八,三三九	五九九	五五九,八四四	七一二	一,三五九,三五八	一	三,四五一	一三九,九四四	△八,四〇四,五五一	三四五,五三四
買入外國爲替	—	—	—	—	一五	七三〇,六六四	—	—	—	—	一三	三五五,五三四	—	—	三九五,五四三
利付爲替手形	—	—	—	—	六	三,三五九	—	—	—	—	七〇	四九八,八二一	—	—	△四九七,四五二
代金取立	一〇,三九八	三,一六五,四三六	八,六二二	二,七四九,三五八	三六	二三五,三〇一	一〇,四〇七	三,一八一,九六六	二,六三五	四四一,〇〇七	三三	三〇,九五六	△一六,一三一	二,三〇八,三五一	一六三,三四五
計	二一,四五九	五二,四八一,六六八	一六,六〇九	三四,八八八,四六六	一七九	一,八六〇,二二八	四一,四二〇	五二,五六六,六六六	五,七五九	一六,三一六,六八一	一七九	一,六六四,一七五	△八四,七九八	△一,四四七,一二四	四二五,八九三
一月以降累計	一二〇,八六六	一七七,四四〇,一六五	四〇,七七九	六四,二二〇,七六八	一,九九八	五,六八〇,五五六	一二〇,九八二	九九,三五九,三三四	一二,五九七	六八,七五九,五三五	二六,一五九	四,三二一,四五〇	一,二七一,二一二	△五,五五四,九八八	一,四五九,一〇八
前年同月迄累計	一二四,四三五	八〇,六九四,八八八	五六,一二八	五一,八五一,二二五	三,五七五	八,七四三,三二八	一〇二,一二三	七七,九四五,八六六	一〇,一六九	五七,三三六,九九一	一,六〇九	四,〇八四,二九九	三,五九九,〇三三	△五,四〇二,三三六	二,六八八,九九九

◉手形交換高表

（大正十四年三月）

所在地	手形枚數	交換金額	交換差額	交換枚數一枚ニ對スル平均金額
基隆	四,七一六	一,四七七,四六六円	三〇三,四〇一円	三一三円
臺北	二六,六八五	一二,九三六,六二九	四,一〇三,五二六	四八五
臺中	六,〇九八	一,七四四,三三六	七四四,四六四	二八六
臺南	三,五八〇	二,六〇三,九三六	八八〇,四七六	七二六

所在地	手形枚數	交換金額	交換差額	交換枚數一枚ニ對スル平均金額
高雄	四,四一〇	一,四四三,八三四円	四八五,〇四八円	三二八円
計	四五,四六九	一九,三三六,三三三	六,五四六,九一五	四二三
前月	四二,一四四	一六,九九〇,二七二	五,三三六,三二八	四〇三
前年同月	四三,九四一	一六,八六〇,一八二	五,八六三,三四八	三九二

◉通貨在高 (單位圓) (大正十四年三月末)

區分	正貨 金貨	補助貨 銀貨	補助貨 白銅貨	補助貨 青銅貨	補助貨 計	銀行券 臺灣銀行券	銀行券 日本銀行券	銀行券 計	合計
本月末	七,六三〇	二,五三四,〇二一	五錢 一,〇四五,五二五 十錢 二,一三〇,〇〇〇	七三四,三二一	六,四四三,八五七	四六,三四〇,五六五	三二三,五六三	四六,六六四,一二八	五二,一〇七,九八五
前月末	七,六三〇	二,五三四,〇二一	五錢 一,〇四五,五二五 十錢 二,一三〇,〇〇〇	七三四,三二一	六,四四三,八五七	四五,四三九,八五七	四三六,九六四	四五,八七六,八二一	五二,三二〇,六七八
前年同月末	七,六三〇	二,二六四,〇二一	五錢 八八五,五二五 十錢 一,六六〇,〇〇〇	八〇四,三二一	五,六二一,八五七	三四,四三七,四三六	三五〇,四〇二	三四,七八七,八三八	四〇,四〇九,六九五

◉臺灣銀行券發行高及準備高 (同) (同)

區分	發行高	正貨準備 金貨及金地金	正貨準備 銀地金	保證準備 諸公債	保證準備 商業手形
本月末	四六,三四〇,五六五	一三,九二六,五三四	六,四五四,四七六	—	二五,九五九,五五五
前月末	四五,四三九,八五七	一三,九二六,三四四	六,二三二,三五三	—	二五,二八〇,九七〇
前年同月末	三四,四三七,四三六	一二,二七〇,三三四	三,二〇八,八七二	—	一九,九五八,二三〇

(備考)
一、通貨在高ニハ臺灣銀行券ノ兌換準備ニ充テタル分ヲ除ク
一、通貨在高ニハ各銀行所有ノ分ト銀行外各人所有ノ分トヲ合算ス但銀行外各人所有ノ分ハ大正三年五月末ノ推定高ニ依ル

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉臺北物價指數表（大正十四年四月末）

品目	大正三年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算 本月	前月	前年同月	大正八年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算 本月	前月	前年同月	明治三十五年一月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算 本月	前月	前年同月
白米 ○	(+)二七三、三五	二六七、四四	二四七、〇九	(+)八一、七三	八〇、〇〇	七三、八八	(+)二九三、九九	二八六、七五	二七〇、七〇
玄米 ○	(+)二三八、〇七	二三三、六八	二〇〇、八八	(+)八九、一〇	八七、三八	七八、四八	(+)三二〇、〇七	二九四、七九	二六四、七四
清酒 ○	二四三、八六	二四三、八六	二四三、八六	二三八、一八	二三八、一八	二三八、一八	六三四、九二	六三四、九二	六三四、九二
麥酒 ○	一六四、〇〇	一六四、〇〇	一六四、〇〇	一〇五、一三	一〇五、一三	一〇五、一三	一八六、三六	一八六、三六	一八六、三六
紅酒 ○	三三三、三三	三三三、三三	三三三、三三	二三五、八一	二三五、八一	二三五、八一	四七六、一九	四七六、一九	四七六、一九
澤庵漬 ○	一八五、一八	一八五、一八	三三三、三三	九一、六七	九一、六七	一六四、九五	一八一、〇五	一八一、〇五	三二六、〇九
小麥粉	(+)一八四、一五	一八〇、三七	一三九、六三	(+)八八、七三	八六、九〇	六七、二七	(+)二五〇、三五	二四五、二三	一九七、五五
砂糖	(-)一三五、三五	一三七、三三	一五九、八五	(-)三九、五五	四一、一八	四五、八五	(-)一八二、九三	一八四、九〇	二一九、一七
鰹節 ○	二九〇、九〇	二九〇、九〇	二三六、三六	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一三〇、〇〇	三八〇、九五	三八〇、九五	三〇九、五二
味噌 ○	一六四、六一	一六四、六一	一四八、一六	八九、一六	八九、一六	七九、七七	一三三、七五	一三三、七五	一一八、七五
醬油 ○	一八一、八一	一八一、八一	一〇〇、〇〇	一三五、〇〇	一三五、〇三	一二七、五〇	二〇〇、〇〇	二〇〇、〇〇	二二〇、〇〇
鴨卵 ○	二三七、一四	二三七、一四	一六八、七七	一二二、七五	一二二、七五	一一七、七五	三〇七、四一	三〇七、四一	二一八、五二
火油 ○	(+)一七九、四八	一六四、一〇	一四八、七二	(+)一〇六、〇六	九六、九六	八七、八八	(+)二五〇、〇〇	二三八、五七	二〇七、一四
鹽 ○	一四〇、九一	一四〇、九一	一四〇、九一	一二四、七八	一二四、七八	一二四、七八	一四〇、九一	一四〇、九一	一四〇、九一
煙草 ○	一五〇、〇〇	一五〇、〇〇	一五〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一八七、五〇	一八七、五〇	一八七、五〇
烏龍茶 ○	七四、〇〇	七四、〇〇	七九、七〇	四七、二一	四七、二一	五〇、八五	六三、四四	六三、四四	六八、三九
包種茶	一二七、九一	一二七、九一	一一七、二四	九五、〇三	九五、〇三	七九、〇七	二五八、二六	二五八、二六	二二九、三六
白木綿	(-)二二三、二三	二二六、一九	一九三、八六	(-)六五、二二	六六、七七	五六、五一	(-)三一四、六二	三二〇、三三	二七三、〇三
綿布	(-)一八七、二三	一九六、三八	一九二、三六	(-)七七、九五	八〇、五八	八一、〇三	(-)二六一、四八	二七〇、八五	二九二、五八

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洋紙	227.39	227.39	238.69	71.42	71.42	68.57	200.00	200.00	192.00
日本紙 ○	333.33	333.33	333.33	97.67	97.67	93.02	333.33	333.33	333.33
杉板	313.33	313.33	313.33	91.80	91.80	91.80	525.00	525.00	525.00
杉材	358.06	358.06	277.42	84.21	84.21	90.53	307.69	307.69	350.00
洋鐵	184.21	184.21	144.74	50.00	50.00	39.29	162.78	162.78	127.91
鉛	(一)193.75	200.00	168.75	(一)163.15	168.42	142.11	(一)238.46	246.15	207.70
銅	138.77	138.77	138.57	87.17	87.17	80.77	94.44	94.44	87.50
煉瓦 ○	208.70	208.70	208.70	133.33	133.33	133.33	342.86	342.86	342.86
日本瓦 ○	110.00	110.00	120.00	91.66	91.66	100.00	250.00	250.00	272.73
板硝子	168.75	168.75	175.00	44.26	44.26	45.90	146.73	146.73	152.17
セメント	176.47	176.47	161.76	76.92	76.92	70.51	86.95	86.95	79.71
燐寸	237.16	237.16	237.16	(十)77.96	77.96	77.97	187.75	187.75	188.76
石油	(一)168.18	181.82	170.45	(一)63.71	67.80	63.56	(一)238.70	258.06	241.93
石炭	137.50	137.50	142.50	78.57	78.57	81.43	196.42	196.42	203.57
木炭 ○	253.33	253.33	186.67	126.66	126.66	93.33	253.33	253.33	186.67
薪 ○	214.29	214.29	192.86	111.11	111.11	100.00	233.88	233.88	201.49
平均	(一)200.32	200.60	192.59	(一)99.72	99.92	96.18	(一)248.87	249.31	239.59

（備考）表中（十）ハ騰貴（一）ハ低下○ハ國内、其他ハ世界的取引品トス。

（附表）⊙平均指數五箇年對照表

月次	大正三年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算					大正八年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算					明治三十五年一月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計算				
	十四年	十三年	十二年	十一年	十年	十四年	十三年	十二年	十一年	十年	十四年	十三年	十二年	十一年	十年
一月	203.23	191.81	191.64	203.61	215.54	101.23	95.68	96.33	98.08	103.09	253.18	239.08	238.66	248.67	261.23
二月	203.20	191.94	195.33	200.15	211.43	101.27	95.76	97.88	97.36	100.55	258.00	238.87	243.27	248.33	256.13

月															
三月	二〇〇·六〇	一九一·三一	一九六·〇六	一九九·四一	二〇一·三五	九九·九二	九五·七三	九七·九一	九七·〇六	九七·九六	二四九·三一	二三七·九六	二四四·一二	二四三·九七	二五〇·一六
四月	二〇〇·三三	一九一·五九	一九六·〇二	一九九·三五	一九八·五〇	九九·七一	九六·一八	九七·一八	九七·〇二	九五·四六	二四八·八七	二三九·五九	二四四·〇四	二四三·九六	二四七·〇八
五月	—	一九四·一六	一九五·三七	二〇〇·〇三	一八九·八五	—	九六·九二	九七·〇三	九七·六九	九一·七〇	—	二四二·三九	二四三·三〇	二四五·四三	二三三·〇七
六月	—	一九二·七五	一九五·〇七	二〇一·九二	一九一·〇三	—	九六·三六	九七·〇二	九八·〇三	九二·九七	—	二三九·九六	二四三·〇三	二四七·五四	二三四·五三
七月	—	一九一·六一	一九〇·八六	二〇三·八九	一九二·四六	—	九五·七四	九五·三八	九九·五七	九三·四四	—	二三八·六六	二三六·一一	二五〇·八六	二三六·六七
八月	—	一九三·九二	一九〇·五六	二〇二·五四	一九三·六六	—	九六·七〇	九五·三八	一〇〇·〇六	九三·八八	—	二四一·二六	二三五·三七	二五〇·八五	二三七·五五
九月	—	一八八·一〇	一九三·〇四	二〇一·三三	一九七·四〇	—	九八·四〇	九六·〇六	九九·五九	九五·五三	—	二四六·五五	二三六·四七	二四九·〇六	二四三·六一
十月	—	二〇二·四一	一九〇·三三	一九六·六二	二〇〇·七八	—	一〇〇·三一	九五·一八	九九·七八	九七·四六	—	二五三·三四	二三四·六〇	二四八·七三	二四六·〇七
十一月	—	二〇五·〇一	一九三·三八	一九七·三九	二〇二·一〇	—	一〇一·五三	九五·三八	九八·六六	九八·二五	—	二五四·九一	二三七·九〇	二四四·六九	二四八·七七
十二月	—	二〇四·三三	一九三·六六	一九六·四〇	二〇〇·四一	—	一〇〇·九九	九五·九三	九八·三三	九七·四五	—	二五三·九四	二三九·一六	二四三·七七	二四六·九〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

詞苑

洞庭湖

田邊碧堂

洞庭淼淼水東流。尙見乾坤日夜浮。
無限蒼茫千古意。天風吹上岳陽樓」

七十二峯安在哉。岳陽日暮獨登臺。
洞庭秋水東南坼。天末蒼蒼楚色來」

湖水空明一棹囘。黃陵廟下月徘徊。
我鳴瑤瑟對淸夜。七十二峯靑欲來」

黃陵廟下湘雲幽。湘竹斑斑湘水秋。
千載湘靈不可見。獨聽湘瑟欲乘流」

白露橫天月滿舟。淸尊相對且忘憂。
故人休訝挂帆早。欲及君山半夜秋」

洞庭秋水碧重重。鼓枻中流興轉濃。
不識滄浪歌一曲。幾囘水夜起魚龍」

南望雲夢涯際無。洞庭一碧鏡平鋪。
勢將天漢近相接。夜夜衆星來浴湖」

雲谷道人曾此游。高情千古一扁舟。
天長水遠瀟湘夕。猶是離騷不盡秋」

詩人晚上洞庭舟。縹渺九嶷山色幽。
淸夜南飛鶴何處。一聲高響楚天秋」

楚澤蒼茫夜上舟。獨醒人去已悠悠。
積愁不洗沅湘水。碧杜香蘅空自秋」

秋霜秋露桂蘭摧。楚國千年騷思哀。
手搴芙蓉涉江水。屈原祠下一低囘」

斜陽秋色滿江關。候雁長年鼓棹還。
說與傍人風浪險。湖中十度見銀山」

白沙驛畔水光鮮。靑草渡頭霞色姸。
湖上西風秋放霽。千帆飛影欲無天。

甲子三月十六日。應柚木玉郁畫伯茶筵之招。抵玉島途上口占。

松田蜂城

一路春風訪舊知。野梅呈笑柳伸眉。
此行自覺襟懷豁。絕勝宦遊奔走時。

玉洲亭茶筵席上作

茶筵夙約莫相違。來叩白華山下扉。
三椀搜腸禪一味。松濤遶座雪霏霏。

遊白華山

白華勝景夢魂通。今日登臨願不空。
碧海閒涵新出嶼。白雲徐曳古琳宮。
趁波帆影春煙外。隔巘鐘聲夕照中。
絕頂振衣宜浩嘯。八州望斷倚天風。

歸途汽車中作

凭窗覓句費商量。身駕奔車心不忙。
柳岸花堤還竹塢。風光取次入詩囊。

赤穗華嶽寺

雙松錯落結淸陰。六月風生白日森。
想到當年赤城士。與渠同見歲寒心」

赤穗城址

壯烈之心泣鬼神。遺容四十七忠臣。
主盟殊有深謀在。枉作眠花醉月人。

對鷗館

遙隔淸流對翠微。山河好在昔人非。
臨風悄悵空囘首。大石祠前立落暉。
南對煙波北負山。一樓好景隔塵寰。
忘機半日勝遊足。人與白鷗心自閑。

滕閣唱和

一雨晚來秋暑收。半天新月水中浮。
江樓把酒會心處。風露無聲涼欲流。

次千溪詞宗韵

文字訂交終始同。琴尊縱興俗緣空。
仰看檐角一痕月。快受樓頭四面風。
殘柳荒塘秋色裏。遠鐘孤棹雁聲中。
唯應嘯傲永今夕。莫說人間途易窮。

次池田長谷韵

學詩已及二毛初。慚愧吾儂腹笥虛。
欲為詞林修蕪穢。蓬然鬢髮任風梳。

華甲自壽

白頭沒却亂書叢。至樂誰知存此中。
疎懶自嘲還自笑。等閑六十一春風。

呈藤村蕉雨詞兄

壯歲失明多苦辛。詩禪三昧了前因。
閉門覓句每趺坐。莫是當年無己陳」
何須訴向李中丞。暗坐幽吟詩是朋。
除盡機心銷盡劫。平生況味澹於僧」
超群聰慧萬人驚。靈性居然心不盲。
骨董論評判眞贋。暗中摸索最分明。

題風月窟詩鈔後　　久保天随

劇憐薄官甘趨走。世爭錙銖吾獨否。
堂堂七尺好丈夫。行路難兮蹉跌久。
平頭六十鬢如絲。置身閒地吟亦宜。
賴有腹中書不乏。茶前酒後貧作詩。
雖然斷句存眞骨。壽梓始免塵埃沒。
從是達觀眼更高。高臥長在風月窟。

同　　荒木看雲

會計當而已。冷官猶濟時。
乘田與委吏。孔聖亦曾為。
水竹雲山主。風花雪月詩。
讀書有眞樂。夜雨一燈知。

同　　池田長谷

李杜文章長短吟。齡過華甲尚追尋。
光風霽月一詩窟。白雪陽春三尺琴。
披得卷中無窮色。和來天下有知音。
老蒼圓熟菱花面。照見江山萬古心。

奉祝銀婚式　　林知義

廿五年前慶普天。皇儲叶配儲妃賢。
東宮光早南藩照。萬世膺我一系傳。
位正紫宸儀可象。澤施甘雨愛無偏。
銀婚帝室增祥日。共祝金婚看接聯。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣日誌

■四月

▲十六日

□東宮殿下臺灣行啓第二回記念日に當り總督府に於て殿下の臺灣官民に給はりたる御沙汰書捧讀式を行ふ

□行啓記念日に當り恩賜財團臺灣濟美會長より教育奬勵、社會事業及社會教育奬勵の趣旨により助成金を夫々贈呈せらる

□行啓記念日總督官邸茶話會

□第二回行啓記念日に當り伊澤總督より天機及御機嫌奉伺

▲十八日

□伊澤總督內地より歸府

▲二十一日

□臺中驛發着鐵道列車時間改正發表

▲二十二日

□臺灣銀行貸出利率引下を行ふ

□高雄壽山の行啓記念碑除幕式

▲二十三日

□臺北商工會晚餐會、伊澤總督、後藤長官を招待す。

▲二十四日

□植物檢査打合會を特產課に開く

□總督府に於て事務改善打合會を開く

□公學校用國語讀本審査會を總督府に開く

□臺南警察主催消防デー

▲二十五日

□總督府醫專校第四回卒業式

□移出米商懇親會をホテルに開く

▲二十七日

□地方長官會議を總督府に開く、伊澤總督訓示をなす

▲二十八日

□臺灣神社月次祭

□地方長官會議第二日、終了

▲三十日

□伊澤總督澎湖視察及招魂祭參列の爲め出發

□澎湖島大招魂祭、伊藤總督臨場

□臺北其他各地招魂祭

■五月

▲一日

□伊澤總督澎湖より歸府、同日上京

□臺中市鐵道時間改正祝賀會、大いに賑ふ

▲二日

□臺灣東部警察航空班蕃地を飛行す

▲四日

□南部臺灣住民大會、守備隊撤退反對演說會を開く

□鳳山街マラリアデー、蚊族征伐を行ふ

▲七日

□治安維持法、五月十二日より臺灣に施行の勅令公布

▲八日

□臺北城內各街兩陛下銀婚式祝賀大賣出し

□秩父宮殿下奉迎委員會規程發布

□同上奉迎委員任命

▲十日

□兩陛下銀婚式祝典記念臺灣敎化事業基金として五萬五千圓御下賜

□同上記念、本島善行者に御下賜金

□總督府兩陛下銀婚式奉祝拜賀

□臺灣神社同上祭祀

□臺北市民同上祝賀會を新公園に催ほす

□臺南小公學校聯合學藝會

▲十一日

□蕃地威嚇飛行花蓮港を發し宜蘭に着陸

▲十二日

□全島警察會議を總督府に開く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人事消息

自四月十六日
至五月十五日

▲後藤朝太郎氏　南洋視察の歸途來臺、四月十八日來北、同二十日支那に赴く

▲井村大吉氏（本誌評議員、臺灣日々新報社長）十八日內地より歸臺

▲松村傳氏　二十一日內地へ歸還

▲後藤總務長官（本誌評議員長）　夫人令孃同伴十八日內地より歸府

▲阿部滂氏（財務局長、本誌評議員）　同日歸府

▲三村三平氏（臺灣製腦專務、本誌評議員）　同日歸臺

▲副島八十六氏　（日印協會理事）　同日來臺

▲ヒップス氏（英領事）　ホノル、領事に榮轉し二十九日臺北出發內地を經て赴任

▲辛顯榮氏　二十九日上京

▲生野團六氏（中京市電局長）　二十九日交通局總長に任ぜらる

▲日置益氏（無任所大使）　女婿縫田馬尼剌總領事の赴任途次夫人同伴來臺せるに伴うて五月二日來臺、島內視察の上、同十一日內地に歸ろ。

▲長木栗造氏（工學士、臺灣製腦會社重役、本誌評議員）五月二日來臺

▲菅野軍司令官　五月十五日內地より歸臺

任命

自大正十四年四月十六日
至五月十七日

▲四月十五日
高雄州屬兼高雄州警部　宮間爾
任地方理事官、臺北州勤務ヲ命ス

▲四月十六日
地方理事官　宮間爾
依願免本官

▲四月十七日
師範學校教諭　石井權三
教科書調査會臨時委員ヲ命ス

▲四月十八日
府技師　小島鼎三
支那福州へ出張ヲ命ス

▲四月十八日
休職中央研究所技師　岸喜鑑
依願免本官

師範學校教諭　關野榮
任師範學校教諭、補臺北師範學校教諭兼臺北師範學校附屬公學校主事

▲四月十七日
坂上柞栽
臺中州協議會員ヲ命ス

▲四月二十一日
地方警視　岩田此一
岐阜縣下へ出張ヲ命ス

府技師　川口庄松
一時歸府ヲ命ス

▲四月二十二日
醫院醫官補　神田莞爾
高雄醫院勤務ヲ命ス

▲四月二十二日
醫院醫官補　今田資一
任醫院醫官、基隆醫院勤務ヲ命ス

▲四月二十四日
營林署技師　栗山忠男
任府技師

小林光政
任府事務官

公立實業學校教諭　古川美代治
兼任公立中學校教諭、補臺中第一中學校教諭

▲四月二十五日
府技師　大石浩
東京府下へ出張ヲ命ス

▲四月二十七日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上京ヲ命ス

州知事　吉岡荒造

同　古木章光

東京府及熊本縣下ヘ出張ヲ命ス

▲四月二十九日

任交通局總長

生野團六

總務長官　後藤文夫

交通局總長心得ヲ免ス

▲四月三十日

休職醫學專門學校教授兼中央研究所技師　清水彥太郎

復職ヲ命ス

▲四月二十九日

府事務官　辰野龜男

東京、仙臺、札幌ノ各稅務監督局管內ヘ出張ヲ命ス

公立中學校長　三屋靜

東京、大阪、京都、愛知、島根及熊本ノ三府三縣下ヘ出張ヲ命ス。

地方理事官　梅本馨

同　時枝俊四郎

東京及熊本ノ二稅務監督局管內ヘ出張ヲ命ス

東京、福岡、熊本、鹿兒島ノ一府三縣下ヘ出張ヲ命ス

▲四月三十日

秘書官　平山泰

伊澤總督上京ニ付隨行ヲ命ス

法院判官　相原祐彌

東京、大阪、廣島ノ二府一縣下ヘ出張ヲ命ス

法院檢察官　後藤和佐二

東京、長崎ノ一府一縣下ヘ出張ヲ命ス

法院判官　大里武八郎

東京、山形ノ一府一縣下ヘ出張ヲ命ス

▲四月三十日

電氣試驗所技師兼遞信技師府技師兼任交通局技師　橫山英太郎

免兼府技師、兼任交通局技師

電氣試驗所技師兼遞信技師府技師　小川若三郎

府技師　栗山俊一

（各通）

兼任交通局技師

公立高等女學校教諭兼公立高等女學校長　根津金吾

任公立高等女學校長兼公立高等女學校教諭、補嘉義高等女學校長、補嘉義高等女學校教諭

公立實業學校長兼公立實業學校教諭　山崎繁樹

任公立實業學校長、補嘉義中商業學校長

新里榮造

任高等商業學校教授

公立實業學校教諭兼公立高等女學校教諭　久住雅治

任公立高等女學校教諭、補嘉義高等女學校教諭

公立高等女學校教諭　黑岩米秀

任公立高等女學校教諭、補臺南第二高等女學校教諭

府屬　福田直廉

任警察官及司獄官練習所教官

▲四月二十九日

府事務官　富田松彥

財務局稅務課長辰野龜男不在中代理ヲ命ス

▲五月一日

內務局長　木下信

警務局長　坂本森一

（各通）

官房臨時國勢調査部副部長ヲ命ス

府事務官　佐藤續

官房臨時國勢調査部主事ヲ命ス

同　下村充郎

官房臨時國勢調査部主事ヲ命ス、官房臨時國勢調査部調査課長兼庶務課長ヲ命ス

府事務官　永山止米郎

殖產局營林所嘉義出張所長兼務ヲ免ス

府技師　重松榮一

殖產局營林所嘉義出張所長ヲ命ス

同　栗山忠男

殖產局營林所作業課長ヲ命ス

公立高等女學校教諭　廣松良臣

臺北第三高等女學校長事務取扱ヲ命ス

同　住江正

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

華北第三高等女學校長事務取扱ヲ免ス

地方技師 帖佐沭

高雄州兼務ヲ命ス

地方警視 佐治孝德

東京、大阪、石川、高知ノ二府二縣下へ出張ヲ命ス

交通局技師 池田季苗

朝鮮總督府管内へ出張ノ序ヲ以テ滿洲へ出張ヲ命ス

交通局參事 深川繁治

東京、大阪兩遞信局管内へ出張ノ序ヲ以テ熊本遞信局管内へ出張ヲ命ス

稅關長 伊藤兼吉

横濱、大阪、神戸、長崎ノ各稅關管内へ出張ヲ命ス

秘書官 一戸二郎

官房秘書課長平山泰不在中代理ヲ命ス

▲五月二日

府事務官 小林光政

警務局保安課長ヲ命ス

同 佐藤續

警務局保安課長兼務ヲ免ス

▲五月二日

州屬 天田小次郎

任地方理事官、新竹州勤務ヲ命ス

師範學校教諭 星野義人

任師範學校教諭、補華北師範學校教諭

▲五月四日

地方理事官 天田小次郎

師範學校教諭 星野義人

（各通）

依願免本官

▲五月五日

師範學校教諭 關野榮

教科書調査委員ヲ命ス

▲五月六日

高等商業學校長 武田英一

東京、大阪、兵庫、愛知ノ二府二縣下へ出張ヲ命ス

視學官 續有節

東京、京都、大阪、石川ノ三府一縣下へ出張ヲ命ス

（各通）

衛生技師 鈴本外男

東京、京都、大阪、福岡ノ三府一縣下へ出張ヲ命ス

稅關鑑定官 角俵太郎

東京市及横濱、大阪、神戸、門司ノ各稅關管内へ出張ヲ命ス

▲四月二十九日

交通局總長心得 後藤文夫

汽船職員懲戒委員長ヲ免ス

交通局總長 生野團六

汽船職員懲戒委員長ヲ命ス

▲五月六日

中央研究所技師 大島金太郎
法院判官 相原祐彌
財務局長 阿部滂
州知事 吉岡荒造
州知事 喜多孝治
法院檢察官 後藤和佐二
内務局長 木下信
交通局總長 生野團六
警務局長 坂本森一
殖産局長 片山三郎
專賣局長 宇賀四郎
州知事 古木章光
交通局理事 白勢黎吉
府事務官 鼓包美
州知事 本山文平
同 三浦碌郎
府事務官 高橋親吉
同 佐藤續
同 大澤清高
同 下村充郎
同 生駒高常
秘書官 平山泰

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

府事務官 中瀬拙夫
祕書官 一戸二郎
秩父宮殿下奉迎委員會委員ヲ命ス
陸軍少將 渡邊金造
(各通) 陸軍憲兵大佐 出口永吉
海軍中佐 藤澤宅雄
秩父宮殿下奉迎委員會委員ヲ囑託ス

▲五月六日
高等商業學校教授 切田太郎
高等商業學校長武田英一不在中代理ヲ命ス

▲五月八日
醫學專門學校教授 川口武男
依願免本官
總領事兼府事務官 天羽英二
免兼官
師範學校教諭兼醫學專門學校教授 松井實
任師範學校教諭、補臺北師範學校教諭

▲五月九日
中央研究所技師 磯永吉
兼任府技師、殖産局農務課兼商工課勤務ヲ命ス

▲五月六日
交通局技師 池田秀苗
同 照屋宏
同 松本虎太
府技師 井手薫
中央研究所技師 金平亮三
府技師 栗山俊一
交通局技師 小山三郎
府技師 森脇虎壽
府事務官 富田松彦
地方理事官 太田吾一
(各通) 專賣局參事 酒井雪介
府事務官 水越幸一
中央研究所技師 磯永吉
同 柳川秀興
府事務官 小林光政
府醫視 中田秀造
府技師 梅本英太郎
同 吉良宗一
醫學專門學校教授 杜聰明
交通局技師 圖子武八
同 片山活三
編修官 士性善九郎
測候所技師 寺本貞吉
秩父宮殿下奉迎委員會委員ヲ命ス

▲五月六日
交通局參事 深川繁治
同 戸水昇
(各通) 同 小川嘉一
同 須田一二三
秩父宮殿下奉迎委員會委員ヲ命ス

▲五月十一日
公立實業學校教諭 小出梅吉
上京ヲ命ス

▲五月十三日
專賣局技師 佐藤京吉
東京、大阪、兵庫、廣島及福岡ノ二府三縣ヘ出張ヲ命ス
公立實業學校長 高井利五郎
東京、大阪、德島、岡山、廣島ノ二府三縣ヘ出張ヲ命ス
公立中學校長 廣江萬次郎
東京、京都、大阪、愛知及廣島ノ三府二縣下ヘ出張ヲ命ス

▲五月十三日
判事 豐川善貴
任法院判官、補臺南地方法院嘉義支部判官
法院判官 渡邊里樹
補高等法院覆審部判官

▲五月六日
府事務官 淺野安吉
秩父宮殿下奉迎委員會委員ヲ命ス

▲五月十五日
領事 森新一
任翻譯官、官房文書課勤務ヲ命ス

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄贈書目

書名		發行所
臺灣日々新報	每號	其社
臺灣新聞	同	其社
臺南新報	同	其社
臺灣經世新報	同	其社
萬朝報	同	其社
九州日々新聞	同	其社
國報	同	其社
東亞經濟研究	同	其社
實業之臺灣	同	其社
工業評論	第二號	其社
臺法月報	每號	其社
糖業	同	臺灣糖業研究會
臺灣教育	同	其社
臺灣貿易表	同	臺灣總督府稅務課
朝鮮	同	朝鮮總督府
支那	同	東亞同文會
東拓月報	同	東洋拓殖會社
臺灣鐵道	同	其社
臺灣農事報	同	臺灣農友會
稅務月報	同	稅務職員共慰會
貿易	同	日本貿易協會
臺灣鑛業會報	同	其社
臺灣警察協會雜誌	同	其社
南洋協會雜誌	同	其社
海事新報	同	帝國海事協會
週報(上海貿易)	同	上海日本商業會議所
東洋	同	東洋協會
南洋經濟新報	同	新嘉坡商品陳列館
偕行社記事	同	陸軍偕行社
海友	同	大連海務協社
地方行政	同	帝國地方行政學會
內外情報	同	外事課調查課
臺灣パック社	同	臺灣パック社
統計學雜誌	同	統計學會
遞信協會雜誌	同	遞信協會
一味	同	本願寺臺灣開教々務所
發明	第三號	帝國發明協會
茶業界	每號	其社
產業事報	同	日本產業協會
臺灣醫學會雜誌	同	醫學專門學校
專賣通信	同	專賣局煙草課
臺灣之茶業	同	臺灣茶商公會
讀書會雜誌	同	滿鐵讀書會
警察彙報	同	朝鮮其社
滿洲之社會	同	滿洲社會事業研究會
臺灣山林會報	同	臺灣山林會
南支南洋經濟	同	同研究會
稅	同	國民租稅協會
臺灣之產業組合	同	其社
臺灣遞信協會雜誌		臺灣遞信協會
社會政策時報		財團法人協調會
臺灣詩薈	同	其社
朝鮮地方行政	同	帝國地方行政學會朝鮮本部
能率研究	同	中外產業調查會
海外重要記事	同	官房調查課
內外評論	同	其社
蘭領印度時報	同	南洋協會爪哇支部
新高時報	同	其社
朝鮮及滿洲	同	其社
中央佛教	同	其社
語苑		臺灣語通信研究會
人と人	同	協調會
海運月報	同	其社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

亞爾然丁共和國鐵道狀況

Argentine Rails. (S. No. 2455, Mar. 14, '25. P. 408.)

智利の豫算案

Chilean Budget. (E. No. 4257, Mar. 28, '25. P. 593.)

羅甸亞米利加貿易

Latin-America's Trade. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 707.)

英米兩國對ブラジル貿易比較

A Comparison of British and American Trade With Brazil. By R. C. Long. (Com. R. No. 16, Apr. 20, '25. P. 183.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

阿弗利加

埃及

スーダン事件に對する埃及側の要求
Egypt's Claim to the Sudan. (C. H. No. 5, Feb. 25. P. 721.)

兩米大陸

加奈陀及合衆國

加奈陀に於ける東西の軋轢
The Conflict Between East and West in Canada. (C. H. No. 5, Feb. '25. P. 683.)

米國森林行政は依然進捗せず
The Forest Service is Sticking to Its Job. (Ol. No. 9, Mar. 4, '25. P. 336.)

米國は逡巡せる理想家なりや
Are Americans "Clondy Idealists" ? By E. F. Baldwin. (Ol. No. 9, Mar. 11, '25. P. 366.)

米對外政策と歐洲
American Foreign Policy and Europe. (S. No. 2456. Mar. 21, '25. P. 454.)

米國に於ける護謨取引
Rubber Trade in America. (E. No. 4256, Mar. 21, '25. P. 533.)

米國煙草工業
America's Tobbaco Industry. (E. No. 4256, Mar. 21, '25. P. 537.)

米國對外タイプライター貿易
America's Foreign Trade in Typewriters. (Com. R. No. 12, Mar. 23, '25. P. 683.)

一九二四年米國對外製紙取引
The Paper Trade of the United States During 1924. (Com. R. No. 12, Mar. 23, ,25. P. 685.)

米國に擡頭せむとする革命
The Coming Revolution in America. By. T. N. Carver. (Ol. No. 12, Mar. 25, '25. P. 452.)

米國禁酒法と其實際
Prohibition : The Law and the Fact's. By E. W. Mandeville. (Ol. No. 13, Apr. 1, '25. P. 497.)

合衆國への移民(一)過去一世紀の經驗
Immigration into the U. S.—I. Experience of the Past Century. (E. No. 4258, Apr. 4, '25. P. 644.)

米國に擡頭せむとする革命
The Coming Revolution in America. By T. N. Carver. (Ol. No. 14, Apr. 8, '25. P. 533.)

合衆國への移民(二)制限策
Immigration into the U. S.—II. The Restriction Policy. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 697.)

米國の富
The Riches of America. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 704.)

布哇島に於ける大演習の眞價
The Value of the Hawaiian Maneuvers. By. J. L. Hines. (Ol. No. 15, Apr. 15, '25. P. 577.)

米國は太平洋に於て不具者なりとシムス海軍大將は宣言す
America Hamstrung in Pacific, Declares Admiral Sims. (N. C. D. N. Apr. 16, '25. P. 13.)

本年三月の米國出超貿易
U. S. Trade Last March Favorable. (P. H. Apr. 16, '25. P. 1.)

太平洋に於ける米國海軍の活動
Our Fleet's Function in the Pacific. By H. P. Jones. (Ol. No. 16, Apr. 22, '25. P. 615.)

墨西哥

墨西哥サイザル・ヘンプ栽培狀況
Henequen Fibre or Mexican Sisal Hemp. (B. I. I. Vol. XXIII. No. 1, '25. P. 17.)

一九一九/二四年墨國對外貿易
Five Years of Mexican Trade, 1919-24. By H. Lazo. (Com. R. No. 5, Apr. 13, '25. P. 79.)

南亞米利加

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海底の英國
Submarine England. (N. C. D. N. Apr. 15, '25. P. 9.)

英國の工學
British Engineering. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18661. Apr. 16, '25. P. 3.)

英國對支貿易
British Trade With China. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18661, Apr. 16, '25. P. 7.)

英國に於ける羊毛貿易
The Wool Trade in Britain. (N. C. D. N. Apr. 20, '22. P. 2.)

英國と金本位
Britain and the Gold Standard. (N. C. D. N. Apr. 23, '25. P. 2.)

佛蘭西及白耳義

一九二四年佛國石炭•コークス製造業
French Coal and Coke Industry in 1924. By D. J. Reagan. (Com. R. No. 11, Mar. 16, '25. P. 530.)

戰後佛國に於ける毛織物業
The French Wool Industry Since the War. (Com. R. No. 12. Mar. 23, '25. P. 693.)

佛蘭西の困難
The Difficulties of France. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 695.)

白耳義の貨幣政策
Belgian Monetary Policy. (S. No. 2456, Mar. 21, '25. P. 443.)

最近年白耳義に於ける化學藥品取引狀況
The Chemical Trade of Belgium. By L. A. Nolan. (Com. R. No. 15, Apr. 13, '25. P. 82.)

獨逸

過渡しつゝある獨逸
Germany in Transition. (S. No. 2455, Mar. 14, '25. P. 417.)

事務用器具に對する獨逸市場
Germany Market for Office Appliances. (Com. R. No. 11, Mar. 16, '25. P. 751.)

獨逸の外人に對する所得稅
German Income-Tax on Foreigners. (E. No. 4256, Mar. 21, '25. P. 537.)

一九二四年獨逸石油製品工業と其取引情況
German Petroleum Industry and Trade in 1924. (Com. R. No. 12. Mar. 23, '25. P. 678.)

獨逸の鐵•鋼產額
German Iron and Steel Production. (E. No. 4257, Mar. 28, '25. P. 593.)

獨逸政治家の暗流
Cross-carrents in German Politico. (S. No. 2458, Apr. 4, '25. P. 543.)

獨逸の大統領選擧
The Presidential Election in Germany. (E. No. 4258, Apr. 4, '25. P. 647.)

近時獨逸化學藥品工業最盛
The Competitive Condition of the German Chemical Industry. By W. T. Daugherty. (Com. R. No. 14, Apr. 4, '25. P. 23.)

一九二四年獨逸鐵鋼業
German Iron and Steel Industry in 1924. By G. E. Phoebus. (Com. R. No. 15, Apr. 6, '25. P. 14.)

獨逸に於ける實業情況
Business Conditions in Germany. (N. C. D. N. Apr. 21, '25. P. 2.)

露西亞及波蘭

ソヴィエット支配者に對するトロツキーの攻擊
Trotsky's Attack on the Soviet Rulers. (C. H. No. 5, Feb. '25. P. 655.)

トロツキーの經歷
The Extraordinary Career of Leon Trotsky. (C. H. No. 5, Feb. 1, '25. P. 665.)

波蘭の國際的地位
The International Position of Poland. (E. No. 4256, Mar. 21, '25. P. 528.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Batavia's Exports to the U. S. in 1924. By C. L. Hoover. (Com. R. No. 11, Mar. 16, '25. P. 773.)

カポツクと其用途
Kapok and Its Uses. (F. E. R. No. 4, Apr. '25. P. 185.)

蘭印貿易好望
Better Prospects in Dutch Indies. (S. F. P. Apr. 6, '25. P. 14.)

女としての最初のキナバル登山者ギブス孃の死
The Death of Miss Gibbs. (B. N. B. No. 8, Apr. 16, '25.)

東洋に於ける濠洲產果實取引狀況
The Fruit Markets of the East. (I. O. Vol. 6. No. 4, Apr. '25. P. 208.)

濠洲產兒率低下
A Dying Nation. Australia's Declining Birth Rate. (S. F. P. Apr. 4, '25. P. 6.)

■ 歐　羅　巴 ■

一　　般

歐羅巴の不安定
Insecurity in Europe. (S. No. 2455, Mar. 14, '25. P. 413.)

英　　國

英帝國領土に於けるセメント製造業と其可能性(三)
Cement Manufacture and Its Possibilities in the Crown Colonies and Protectorates. Part III. (P. I. I. Vol. XXIII. No. 1, '25. P. 32.)

英國商況
The Business Trend. (S. No. 2455, Mar. 14, '25. P. 405.)

英本國商況と"支配下に在る"貨幣
British Trade and a "Managed" Currency. (S. No. 2456, Mar. 21, '25. P. 451.)

英國と外國勞働者との比較
British and Foreign Labour. (S. No. 2456, Mar. 21, '25. P. 454.)

銀行率と金本位制
Bank Rate and the Gold Standard. (E. No. 4356, Mar. 21, '25. P. 527.)

最近英國移民狀況と產業
British Emigration and Industry. By T. W. Wilson. (Com. R. No. 12, Mar. 23, '25. P. 675.)

英國市場に於ける英帝國產木材(二)
Empire Timber in the British Market, II. (E. No. 4257, Mar. 28, '25. P. 589.)

英國政府經費
The Cost of Government. (S. No. 2457, Mar. 48, '25. P. 481.)

英國國債の借換
Conversion Loan. (S. No. 2451, Mar. 28, '25. P. 484.)

本年度の政府收入
The Year's Revenue. (S. No. 2458, Apr. 4, '25. P. 536.)

投資豫見
Investment Prospects. (S. No. 2458, Apr. 4, '25. P. 538.)

一九二四會計年度(本年三月末日迄)英國の財政
The Year's Accounts. (E. No. 4258, Apr. 4, '25. P. 637.)

一九二四年度愛蘭自由國の貿易
Trade of the Irish Free State in 1924. (E. No. 4258, Apr. 4, ,25. P. 652.)

英國と國際聯盟(フランク・シモンズ)
Frank Simons : England and the League of Nations. (P. H. Apr. 5, '25. P. 10.)

砂糖現況
The Position of Sugar. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 700.)

本年第一四半期の英國造船界
The Quater's Shipbuilding. (E. No. 4259, Apr. 11, '25. P. 705.)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヂュートの騰價
Price of Jute Up. (P. H. Apr. 3, '25. P. 2.)

比支人關係
Filipino-Chinese Relations. (P. H. Apr. 5, '25. P. 7.)

比島の初等教育(エヌ・エム・サリーバイ)
N. M. Salleby : Elementary Education in the Philippines. (P. H. Apr. 8, '25. P. 11.)

比島籐工業の脅威
Rattan Industry Threatened. (P. H. Apr. 8, '25. P. 1.)

比島護謨業の前途好望
Rubber Industry Here Has Bright Prospects (P. H. Apr. 8, '25. P. 8.)

セブー・セメント會社の缺損
P. 380,116 is Loss of Cement Co (P. H. Apr. 9, '25. P. 1.)

比島製糖所の好況
Central in Good Conditions. (P. H. Apr. 9, '25. P. 2.)

比島商況は活氣附きつゝあり(比島銀行頭取代理マリアス氏談)
Business is Picking Up, Says Marias. (P. H. Apr. 16, '25. P. 1.)

比島ナショナル銀行の指導者としてベン・ライト氏攻擊せらる
Wright Denounced As Dictator of Philippine National Bank. (P. H. Apr. 17, '25. P. 1.)

太平洋船舶界の競爭
The Race for Pacific Shipping. (P. H. Apr. 19, '25. P. 6.)

比島に於て英語は文化或は商業の中介物ならず
English Not Medium of Culture or Business in Islands. (P. H. Apr. 19, '25. P. 10.)

比島に於ける外資
Foreign Capital. (P. H. Apr. 19, '25. P. 12.)

林業としての護謨栽培業
Rubber Plantation As A Forest Industry. (P. H. Apr. 19, '25. P. 13.)

一九二四年度比島主要輸出產物の增產
Increases in Production Registered By Hemp, Sugar, and Tobbaco During 1924. (P. H. Apr. 21, '25. P. 1.)

獨立に對する比島民の權利は最早や合衆國に於て論議さるべき問題ならず(馬尼拉グランド・オペラ・ハウスに於けるゲバラ氏演說)
Right of Filippinos to Independence No Longer Debatable Issue in U. S. (P. H. Apr. 22, '25. P. 1.)

比島駐米委員ゲバラ氏歸る
Guevara Greeted By Thousands. (P. H. Apr. 22, '25. P. 1.)

一九二四年度比島鑛業界
Interest in Mineral Lands is Decreasing. (P. H. Apr. 23, '25. P. 2.)

馬尼拉麻標準向上策
Plan to Raise Hemp Standard. (P. H. Apr. 23, '25. P. 6.)

比島は最早や支那人のメッカに非ず
P. I. is No Longer Mecca for Chinese. (P. H. Apr. 24, '25. P. 2.)

本年三月中比島對外貿易
March Trade Abroad Over P. 51,000,000. (P. H. Apr. 26, '25. P. 1.)

對英輸出馬尼拉麻問題解決せるものゝ如し
Hemp Pazzle Appears Solved. (P. H. Apr. 26, '25. P. 1.)

比島各地方言とサンスクリットとの關係
Relation of Philippine Dialects to Sanskrit. By Dr. Saleeby. (P. H. Apr. 26, '25. P. 9.)

本年度比島產糖及其の輸出豫想
Sugar Loss Big Despite Output. (P. H. Apr. 29, '25. P. 1.)

蘭領東印度・濠洲・其他

一九二四年バタビヤ港對米輸出貿易

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那執政職永續の努力
Effort to Perpetuate Dictatorship in China. By Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXXII. May 2, '25. P. 242.)

支那に於けるセメント製造
Cement Manufacturing in China. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 9. May 2, '25. P. 251.)

一九二五年正二、三月中支那の對米輸出
Exports From China to U. S. During Jan.-Feb.-Mar.-1925. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 9. May. 2, '25. P. 258.)

馬來半島

護謨協會近況
Rubber Association: A Statisfactory Year. (S. F. P. Apr. 1, '25. P. 9.)

馬來半島に於ける採錫業
Landmarks in the Tin-Mining Industry. By T. R. A. Windeatt. (F. E. R. No. 4, Apr. '25. P. 181.)

新嘉坡根據地問題時言
The Times on Singapore. (S. F. P. Apr. 6, '25. P. 4.)

英領馬來に於けるダマール•ピナク
British Malaya: Malayan Damar Penak. (S. F. P. Apr. 17, '25. P. 4.)

暹羅及英領印度

二十世紀の進歩と歩調を伴にする暹羅
Siam Keeps Step With Twenteth Century Progress. (C. H. No. 5, Feb. '25. P. 728.)

印度の通過豫算
Indian Budget Passed. (E. No. 4256, Mar. 21, '25. P. 536.)

印度鐵•鋼に對する特惠
Bounties on Indian Iron and Steel. (E. No. 4257, Mar. 28, '25. P. 592.)

一九二五/二六年の印度豫算
The Indian Budget of 1925-26. (A. R. No. 66, Apr. '25. P. 209.)

ガンヂーと其人格
Mahatma Gandhi. A Remarkable Personality. (S. F. P. Apr. 9, '25. P. 3.)

ベンガルに於ける政治事情
Political Situation in Bengal. (S. F. P. Apr. 9, '25. P. 5.)

英印及緬甸に於ける阿片問題
The Opium Question. (S. F. P. Apr. 13, '25. P. 6.)

南洋諸島

比律賓

一九二四年度比島財政
P. I. Finances Improve. (P. H. Apr. 1, '25. P. 1.)

比島選擧人の增加
Voters in Islands Increase. (P. H. Apr. 1, '25. P. 1.)

比島ラヂオ認證獲得
P. I. Radis Gets Grant. (P. H. Apr. 1, '25. P. 2.)

大藏省長官代理エム•ウンソン氏會計檢査官ライト氏を駁擊す
M. Nuson Scores Ben. F. Wright. (P. H. Apr. 2, '25. P. 1.)

比島葉卷組合國際共進會に於て賞讃を博す
P. I. Cigars Praised at International Fair. (P. H. Apr. 2, '25. P. 2.)

比島刺繡業の脅威
P. I. Laces Threatened. (P. H. Apr. 2, '25. P. 2.)

比島タピオカ業の擴張
Company Invests in Tapioca. (P. H. Apr. 2, '25. P. 2.)

比島セメント業の前途好望
Cement Prospect is Bright. (P. H. Apr. 3, '25. P. 1.)

供給局の大收入
Supply Has Big Income. (P. H. Apr. 3, '25. P. 1.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新太平洋海底電線の必要
The Need for a New Pacific Cable. By J. J. Underwood. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 5, Apr. 4, 25. P. 128.)

本年二月中支那對米輸出貿易
China's Exports to U. S. During February. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 5, Apr. 4, '25. P. 130.)

烈婦殿
The Temple of Dutiful Widowhood. By. P. Shkurkin. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 5, Apr. 4, '25 P. 132.)

北支那に於ける農業教育
Agricultural Education in North China. By Chunjen C. Chen. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 5, Apr. 4, '25. P. 135.)

上海童工と市の職責
Shanghai Child Labor and Civic Responsibility (R. F. E. Vol. XXXII. No. 6, Apr. 11, '25. P. 154.)

北京に於ける敵對擬裝者と無關係なる發案者
"Camouftagers and Alibiniventors" in Peking. By Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 6, Apr. 11, '25. P. 157.)

支那に於ける混亂中のジヤイルス博士
Professor Giles on Chaos in China. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 6, Apr. 11, '25. P. 159.)

永久不變の支那
China the Eternal. By Pearl S. Buck. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 6, Apr. 11, '25. P. 162.)

支那に對する農業政策
An Agricultural Policy for China. By Dr. C. Y. Tang. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 6, Apr. 11, 25. P. 168.)

周朝時代の青銅
Bronzes of the Chou Dynasty. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18662, Apr. 17, '25. P. 7.)

支那に於ける鴉片矯正者
Opium Reformers in China. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18663, Apr. 18, '25. P. 6.)

國民黨の總理
Leadership of the Kuomintang. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18665. Apr. 21, '25. P. 6.)

廣東製絲女子のストライキ
Canton Filsture Girls' Strike. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18665, Apr. 21, '25. P. 7.)

支那に於ける外資
Foreign Capital in China. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18666, Apr. 22, '25. P. 2.)

松花江航行問題
Sungari Navigation Question. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18666, Apr. 22, '25. P. 3.)

西藏境上に於ける米國傳道團の旅行
American Missionaries' Journey on Borders of Tibet. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18666. Apr. 22, '25. P. 7.)

北京に於ける果物の收穫
Fruit Cultivation in Peking. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18666, Apr. 22, '25. P. 7.)

藏西の喇嘛及商賈を管束す
Squeezing Tibetan Lamas and Merchants. (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18668, Apr. 23, '25. P. 7.)

植民家馮玉祥
Feng Yu-hsiong : Colonist. By Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 8, Apr. 25, '25. P. 212.)

支那と今日の列強：政策は如何
China and the Powers To-day: What Policy? By Stanley K. Hornbeck. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 8, Apr. 25, '25. P. 213.)

新揚子江偵察船
The New Yangtsze Patrol Boats. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 8, Apr. 25, '25. P. 220.)

姜登選小傳
General Chiang Teng-sien. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 8, Apr. 25, '25. P. 222.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南支那及南洋其他
海外重要記事

臺灣總督官房調査課

新聞雜誌略號一覽表

A. R.	Asiatic Review.
B. I. I.	Bulletin of the Imperial Institute.
B. N. B.	British North Borneo Herald.
C. H.	Current History.
Com. R.	Commerce Reports. (U. S.)
E.	Economist.
F. E. R.	Far Eastern Review.
N. C. D. N.	North China Daily News.
Ol.	Outlook.
P. H.	Philippines Herald, Daily.
R. F. E.	Review of Far East, Weekly.
S.	Statist.
S. F. P.	Singapore Free Press Daily.

世界

一般

一九二四年世界羊毛產況
World's Wool Production in 1924. (Com. R. No. 11, Mar. 16, '25. P. 634.)

白金の市價
The Platinum Position. (S. No. 2456, Mar. 21, '25. P. 464.)

獨逸の提起せる五大強國盟約
The Five Power Pact. (S. No. 2457, Mar. 28, '25. P. 489.)

大陸商況
Continental Trade Competition. (S. No. 2457, Mar. 28, '25. P. 490.)

最近世界に於ける卵及同製品取引情勢
World Trade in Eggs and Egg Products. By M. A. Wulfert. (Com. R. No. 14, Apr. 6, '25. P. 20.)

太平洋の謎は未だ未解決(科學者說)
"Riddle of Pacific" Still Unsolved Says, Scientist. (P. H. Apr. 12, '25. P. 14.)

世界の海軍
World's Navies. (2,000 Ships Among Seven Powers) (N. C. D. N. Vol. CXII. No. 18661, Apr. 16, '25. P. 11.)

ゼネヴアの鴉片會議
The Geneva Opium Conferences. By Dr. Laoke Alfred Sze. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 8. P. 218.)

太平洋に於ける凶兆
Portents in the Pacific. By Sir Herbert Russell, K. B. E. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 9, May 2, '25. P. 246.)

亞細亞

一般

極東に於けるラヂイオの展況
Radio Progress in The Far East. By E. D. Dahl. (Com. R. No. 15, Apr. 13, '25. P. 81.)

日本

南米に於ける日本の直面せる大問題
Acute Japanese Problem in South America. (C. H. No. 5, Feb. '25. P. 735.)

呈一言日本
A Word for Japan. By John Oxendon. (A. R No. 66, Apr. '25. P. 206.)

一九二四年の日本貿易
Japan's Trade in 1924. (E. No. 4258, Apr. 4, '25. P. 650.)

支那

吳佩孚近狀
What About Wu Pei-fu ? By Peter S. Jowe. (R. F. E. Vol. XXXII. No. 5, Apr. 4, '25. P. 126.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN